

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	5
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	6
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	7
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	8
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	9
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	10	
2年					
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	11	
2年					
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	12	
2年					
共同体と身体 PHR210F 閉講	1学期	2	2		
2年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	13	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 日高 京子 他	1学期	2	2	14
		2年			
	情報社会を読む INF200F 浅羽 修丈	1学期	2	2	15
		2年			
	地域資源管理論 ENV200F 廣川 祐司	2学期	2	2	16
		2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I GES101F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	教養基礎演習II GES102F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	教養演習AI (防衛セミナー) GES201F 休講	1学期	2	2	
		2年			
	教養演習AI (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	17
		2年			
	教養演習AI GES201F 小林 道彦	1学期	2	2	18
		2年			
	教養演習AI GES201F 稲月 正	1学期	2	2	19
		2年			
	教養演習AI GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	20
		2年			
	教養演習AII (文化論セミナー) GES202F 神原 ゆうこ	2学期	2	2	21
		2年			
教養演習AII (防衛セミナー) GES202F 休講	集中	2	2		
	2年				
教養演習AII GES202F 小林 道彦	2学期	2	2	22	
	2年				
教養演習AII GES202F 稲月 正	2学期	2	2	23	
	2年				
教養演習AII GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	24	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BⅠ(防衛セミナー) GES301F 休講	1学期	3	2	25
	3年				
	教養演習BⅠ GES301F 石川 敬之	1学期	3	2	26
	3年				
	教養演習BⅡ(防衛セミナー) GES302F 休講	集中	3	2	27
	3年				
	教養演習BⅡ GES302F 石川 敬之	2学期	3	2	28
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	27
	1年				
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	28
	1年				
	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	29
	1年				
	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	30
	1年				
	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期	1	2	31
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	32
	1年				
人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	33	
1年					
環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	34	
1年					
未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	35	
1年					
私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期	1	2	36	
1年					
思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	37	
1年					

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文化と表象 MCC001F 閉講	1学期	1	2	34
		1年			
	言語とコミュニケーション LIN001F 閉講	2学期	1	2	34
		1年			
	芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期	1	2	34
		1年			
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	34
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	35
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	36
		1年			
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	37
		1年			
	政治のなかの文化 ANT001F 閉講	2学期	1	2	38
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	38
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	39
		1年			
障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	40	
	1年				
共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	41	
	1年				
法律の読み方 LAW002F 中村 英樹 他	2学期	1	2	41	
	1年				
社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	42	
	1年				
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	42	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	企業と社会 BUS001F 山下 剛	2学期	1	2	43
		1年			
	現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	44
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	45
		1年 (2015年度以降入学生)			
	現代の国際情勢 IRL003F 大平 剛 他	1学期	1	2	46
		1年			
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	47
		1年			
	テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	48
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
国際社会と日本 IRL004F 阿部 容子 他	2学期	1	2	49	
	1年				
韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期	1	2	50	
	1年				
エスニシティと多文化社会 IRL001F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2		
	1年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	51
		1年			
	戦後の日本経済 ECN002F 土井 徹平	2学期	1	2	51
		1年			
	ものと人間の歴史 HIS003F 閉講	1学期	1	2	51
		1年			
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	51	
	1年				
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 未定		2学期	1	2	52
		1年			
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀 康士	2学期	1	2	53
		1年			
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	54
		1年			
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	55
		1年			
	人文地理学 GEO110F 外柙保 大介	2学期	1	2	56
		1年			
	土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	57
		1年			
	地誌学 GEO112F 外柙保 大介	1学期	1	2	58
		1年			
	日本国憲法 LAW120F 中村 英樹	2学期	1	2	59
		1年			
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	60
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期	1	2	60
	1年				
フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎		1学期	1	2	61
		1年			

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	62
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	63
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	64
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	65
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	66
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	67
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 休講	1学期	1	1	
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	68
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 休講	1学期	1	1	
		1年			
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 梨羽 茂	1学期	1	1	69	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	70	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 下釜 純子	1学期	1	1	71	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	72	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	73	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	74
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボー HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	75
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	76
	1年				
フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) HSS082F 松田 晃二郎	2学期	1	1	77	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	78	
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	79
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	80
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	81
		1年			
	コミュニケーション実践 CAR111F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	82
		2年			
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	83
	2年				
地域の達人 CAR212F 眞鍋 和博	2学期	2	2	84	
	2年				
サービ斯拉ーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	85	
	1年				
サービ斯拉ーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	86	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロジェクト演習I CAR280F 閉講	1学期	2	2	
	2年				
	プロジェクト演習II CAR281F 閉講	2学期	2	2	
	2年				
	プロジェクト演習III CAR380F 閉講	1学期	3	2	
	3年				
	プロジェクト演習IV CAR381F 閉講	2学期	3	2	
	3年				
■教養特講	教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) SPL001F 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介	2学期	1	2	87
	1年				
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) SPL002F 大平 剛	1学期	1	2	88
	1年				
	教養特講III SPL003F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	教養特講IV SPL004F 休講	2学期	1	2	
	1年				
■地域科目	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	89
	1年 (2016年度以降入学生)				
	地域の社会と経済 ECN170F 柳 永珍	1学期	1	2	90
	1年 (2016年度以降入学生)				
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	2	2	91
	2年 (2016年度以降入学生)				
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	92
	2年 (2016年度以降入学生)				
	まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	93
	2年 (2016年度以降入学生)				
まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	94	
3年 (2016年度以降入学生)					
■情報教育科目	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	
	2年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報メディア演習 INF330F 浅羽 修丈	2学期	3	2	95
	3年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (比人1-F) ENG101F 相原 信彦	1学期	1	1	96
	比人1-F				
	英語I (比人1-G) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	97
	比人1-G				
	英語II (比人1-F) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	98
	比人1-F				
	英語II (比人1-G) ENG111F 村田 希巳子	2学期	1	1	99
	比人1-G				
	英語III (比人1-F) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	100
	比人1-F				
	英語III (比人1-G) ENG102F ジェイムス・ヒックス	1学期	1	1	101
	比人1-G				
	英語IV (比人1-F) ENG112F マイケル・バーグ	2学期	1	1	102
	比人1-F				
	英語IV (比人1-G) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	103
	比人1-G				
	英語V (比人2-C) ENG201F 下條 かおり	1学期	2	1	104
	比人2-C				
	英語V (比人2-D) ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	105
	比人2-D				
英語VI (比人2-C) ENG211F 安丸 雅子	2学期	2	1	106	
比人2-C					
英語VI (比人2-D) ENG211F 木梨 安子	2学期	2	1	107	
比人2-D					
英語VII (比人2-C) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	108	
比人2-C					
英語VII (比人2-D) ENG202F マーニー・セイディ	1学期	2	1	109	
比人2-D					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語VIII (比人 2-C) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	110
		比人 2 - C			
	英語VIII (比人 2-D) ENG212F 安丸 雅子	2学期	2	1	111
		比人 2 - D			
	英語IX (英中国済営比人律政 3年) ENG301F 休講	1学期	3	1	
		英中国済営比人律政 3年			
	英語X (英中国済営比人律政 3年) ENG311F 杉山 智子	2学期	3	1	112
		英中国済営比人律政 3年			
	英語XI (英中国済営比人律政 3年) ENG302F 休講	1学期	3	1	
		英中国済営比人律政 3年			
	英語XII (英中国済営比人律政 3年) ENG312F ダニー・ミン	2学期	3	1	113
		英中国済営比人律政 3年			
■第二外国語	中国語I CHN101F 板谷 秀子	1学期	1	1	114
		比 1 年 (学籍番号 偶数)			
	中国語I CHN101F 小椋 吾郎	1学期	1	1	115
		比 1 年 (学籍番号 奇数)			
	中国語II CHN111F 板谷 秀子	2学期	1	1	116
		比 1 年 (学籍番号 偶数)			
	中国語II CHN111F 小椋 吾郎	2学期	1	1	117
		比 1 年 (学籍番号 奇数)			
	中国語III CHN102F 陳 青鳳	1学期	1	1	118
		比 1 年 (学籍番号 偶数)			
	中国語III CHN102F 王 晨	1学期	1	1	119
		比 1 年 (学籍番号 奇数)			
中国語IV CHN112F 陳 青鳳	2学期	1	1	120	
	比 1 年 (学籍番号 偶数)				
中国語IV CHN112F 王 晨	2学期	1	1	121	
	比 1 年 (学籍番号 奇数)				
中国語V CHN201F 小椋 吾郎	1学期	2	1	122	
	比 2 年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語VI CHN211F 小椋 吾郎	2学期	2	1	123
		比2年			
	中国語VII CHN202F ホウ ラメイ (彭腊梅)	1学期	2	1	124
		比2年			
	中国語VIII CHN212F ホウ ラメイ (彭腊梅)	2学期	2	1	125
		比2年			
	上級中国語I CHN301F 唐 雋	1学期	3	1	126
		英国济営比人3年			
	上級中国語II CHN311F 唐 雋	2学期	3	1	127
		英国济営比人3年			
	上級中国語III CHN302F 王 晨	1学期	3	1	128
		英国济営比人3年			
	上級中国語IV CHN312F 王 晨	2学期	3	1	129
		英国济営比人3年			
	朝鮮語I (1 - d) KRN101F 金 光子	1学期	1	1	130
		英中比人1年			
	朝鮮語II (1 - d) KRN111F 金 光子	2学期	1	1	131
		英中比人1年			
	朝鮮語III (1 - d) KRN102F 金 光子	1学期	1	1	132
		英中比人1年			
朝鮮語IV (1 - d) KRN112F 金 光子	2学期	1	1	133	
	英中比人1年				
朝鮮語V KRN201F 安 滯珠	1学期	2	1	134	
	済営比人律政群2年				
朝鮮語VI KRN211F 安 滯珠	2学期	2	1	135	
	済営比人律政群2年				
朝鮮語VII KRN202F 安 滯珠	1学期	2	1	136	
	済営比人律政群2年				
朝鮮語VIII KRN212F 安 滯珠	2学期	2	1	137	
	済営比人律政群2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	上級朝鮮語I KRN301F 安 滯珠	1学期	3	1	138
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語II KRN311F 安 滯珠	2学期	3	1	139
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語III KRN302F 金 貞愛	1学期	3	1	140
		英中国済営比人3年			
	上級朝鮮語IV KRN312F 金 貞愛	2学期	3	1	141
		英中国済営比人3年			
	ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	142
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	143
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	1	1	144
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	1	1	145
		英中国済営比人律政1年			
	ロシア語V RUS201F 芳之内 雄二	1学期	2	1	146
		英中国済営比人律政2年			
	ロシア語VI RUS211F 芳之内 雄二	2学期	2	1	147
		英中国済営比人律政2年			
ロシア語VII RUS202F ナタリア・シエスタコーワ	1学期	2	1	148	
	英中国済営比人律政2年				
ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シエスタコーワ	2学期	2	1	149	
	英中国済営比人律政2年				
ドイツ語I GRM101F 山下 哲雄	1学期	1	1	150	
	比1年				
ドイツ語II GRM111F 山下 哲雄	2学期	1	1	151	
	比1年				
ドイツ語III GRM102F 梶原 将志	1学期	1	1	152	
	比1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語Ⅳ GRM112F 梶原 将志	2学期	1	1	153
		比1年			
	ドイツ語Ⅴ GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	154
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語Ⅵ GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	155
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語Ⅶ GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	156
		英中国済営比人律政2年			
	ドイツ語Ⅷ GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	157
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語Ⅰ FRN101F 中山 俊	1学期	1	1	158
		比1年			
	フランス語Ⅱ FRN111F 中山 俊	2学期	1	1	159
		比1年			
	フランス語Ⅲ FRN102F コモン ティエリ	1学期	1	1	160
		比1年			
	フランス語Ⅳ FRN112F コモン ティエリ	2学期	1	1	161
		比1年			
	フランス語Ⅴ FRN201F 坂田 由紀	1学期	2	1	162
		英中国済営比人律政2年			
フランス語Ⅵ FRN211F 坂田 由紀	2学期	2	1	163	
	英中国済営比人律政2年				
フランス語Ⅶ FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	164	
	英中国済営比人律政2年				
フランス語Ⅷ FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	165	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語Ⅰ SPN101F 富田 広樹	1学期	1	1	166	
	中国済営比人律政1年				
スペイン語Ⅱ SPN111F 富田 広樹	2学期	1	1	167	
	中国済営比人律政1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語III SPN102F ミヨコ・フジヨシ	1学期	1	1	168
		比1年			
	スペイン語IV SPN112F ミヨコ・フジヨシ	2学期	1	1	169
		比1年			
	スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	170
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	171
		英中国済営比人律政2年			
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	172	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	173	
	英中国済営比人律政2年				
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	174
		留学生1年			
	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	175
		留学生1年			
	日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	176
		留学生1年			
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	177
		留学生1年			
	日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	178
		留学生1年			
日本語VI JSL113F 金 元正	2学期	1	1	179	
	留学生1年				
日本語VII JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	180	
	留学生2年				
日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	181	
	留学生2年				
日本事情(人文)A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	182	
	留学生1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情 (人文) B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	183
		留学生 1年			
	日本事情 (社会) A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	184
		留学生 1年			
	日本事情 (社会) B JPS104F 小林 浩明	2学期	1	2	185
		留学生 1年			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化 (領域系) 科目	比較民族学 ANT213M 成木 繁郎	1学期	2	2	186
		2年			
	人類学概論 ANT100M 竹川 大介	2学期	1	2	187
		1年			
	比較宗教・思想 PHR211M 新村 昭雄	1学期	2	2	188
		2年			
	比較歴史・文化 HIS200M 寺田 由美	2学期	2	2	189
		2年			
	日米文化比較 ARE260M 十時 康	2学期	2	2	190
		2年			
	日英文化比較 ARE261M 高山 智樹	1学期	2	2	191
		2年			
	日仏文化比較 ARE262M 中山 俊	2学期	2	2	192
		2年			
	日中文化比較 ARE264M 張 景珊	1学期	2	2	193
		2年			
	比較中国思想 ARE310M 榑崎 洋一郎	2学期	2	2	194
		2年			
	比較東洋美術 PHR212M 五月女 晴恵	1学期	2	2	195
		2年			
比較映像・文化 MCC211M 前田 譲治	1学期	2	2	196	
	2年				
比較表象文化 MCC210M 真鍋 昌賢	1学期	2	2	197	
	2年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(領域系)科目	比較日本文学(近現代)	2学期	2	2	198
	LIT225M 生住 昌大	2年			
	比較日本文学(古典)	2学期	2	2	199
	LIT226M 渡瀬 淳子	2年			
	比較広域文学	2学期	2	2	200
	LIT200M 梶原 将志	2年			
	比較ジェンダー論	2学期	2	2	201
	GEN210M 力武 由美	2年			
	比較社会意識	2学期	2	2	202
	SOC210M 入江 恵子	2年			
	比較社会文化	1学期	2	2	203
	SOC211M 阪井 俊文	2年			
	近現代美術	1学期	2	2	204
	PHR213M 真武 真喜子	2年			
情報社会論	1学期	2	2	205	
SOC213M 濱野 健	2年				
消費社会論	2学期	2	2	206	
SOC214M 濱野 健	2年				
理論社会学	集中	2	2		
SOC212M 休講	2年				
フィールドワーク論	1学期	2	2	207	
ANT212M 大津留 香織	2年				
人間性の進化	2学期	2	2	208	
ANT211M 大津留 香織	2年				
アジアの中の日本文化	2学期	2	2	209	
JPS291M 山口 裕子	2年				
■比較文化(地域系)科目	日本の宗教文化	1学期	2	2	210
	PHR214M 佐藤 真人	2年			
	日本の近代思想	2学期	2	2	211
PHR217M クラマー スベン	2年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	日本の生活文化 JPS211M 八百 啓介	2学期	2	2	212
		2年			
	日本の歴史と社会 HIS210M 八百 啓介	1学期	2	2	213
		2年			
	日本文学史(古典) LIT223M 渡瀬 淳子	1学期	2	2	214
		2年			
	日本文学史(近現代) LIT224M 河内 重雄	2学期	2	2	215
		2年			
	日本語学概論I LIN220M 堀尾 香代子	1学期	1	2	216
		1年			
	日本語学概論II LIN221M 堀尾 香代子	2学期	1	2	217
		1年			
	日本の古典文学 LIT220M 渡瀬 淳子	1学期	2	2	218
		2年			
	日本の近代文学 LIT221M 生住 昌大	1学期	2	2	219
		2年			
	日本の現代文学 LIT222M 河内 重雄	1学期	2	2	220
		2年			
	日本の芸能文化 JPS210M 佐藤 真人	2学期	2	2	221
		2年			
日本の美術 PHR215M 五月女 晴恵	1学期	2	2	222	
	2年				
日本の宗教と美術 PHR216M 五月女 晴恵	1学期	2	2	223	
	2年				
日本の大衆文化 JPS212M 真鍋 昌賢	2学期	2	2	224	
	2年				
日本の都市文化 JPS213M クラーマー スベン	2学期	2	2	225	
	2年				
日本文学概論 LIT213M 生住 昌大 他	2学期	1	2	226	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	現代日本語学 LIN222M 岡田 美穂	1学期	2	2	227
		2年			
	日本語表現法 LIN223M 岡田 美穂	1学期	2	2	228
		2年			
	日本語音声学 LIN224M 矢野 準	2学期	2	2	229
		2年			
	漢文学 LIT250M 榑崎 洋一郎	1学期	2	2	230
		2年			
	日本語教育学概論 LIN240M 小林 浩明	1学期	2	2	231
		2年			
	異文化間コミュニケーション概論 MCC212M 山崎 和夫	2学期	2	2	232
		2年			
	アメリカの社会と文化 ARE222M 前田 譲治	1学期	2	2	233
		2年			
	アメリカ文化論 ARE223M アーノルド・ウエイン	2学期	2	2	234
		2年			
	アメリカ文学概論 LIT230M 前田 譲治	2学期	1	2	235
		1年			
	アメリカの現代文学 LIT232M 江頭 理江	2学期	2	2	236
		2年			
アメリカの18-19世紀文学 LIT233M 江頭 理江	1学期	2	2	237	
	2年				
アメリカの大衆文化 ARE221M 前田 譲治	2学期	2	2	238	
	2年				
アメリカの都市文化 ARE224M 寺田 由美 他	1学期	2	2	239	
	2年				
英語学概論 LIN232M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	240	
	2年				
英語史 LIN330M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	2	2	241	
	2年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	英文法I LIN230M 廣田 恵美	1学期	2	2	242
		2年			
	英文法II LIN231M 廣田 恵美	2学期	2	2	243
		2年			
	英語音声学 LIN233M ホロウェイ グレゴリー キース	1学期	2	2	244
		2年			
	イギリスの社会と文化 ARE232M 高山 智樹	1学期	2	2	245
		2年			
	イギリス文化論 ARE234M 木原 謙一	1学期	2	2	246
		2年			
	ドイツ文化論 ARE241M 梶原 将志	1学期	2	2	247
		2年			
	イギリス文学概論 LIT231M 田部井 世志子	1学期	1	2	248
		1年			
	イギリスの現代文学 LIT234M 田部井 世志子	2学期	2	2	249
		2年			
	イギリスの18-19世紀文学 LIT235M 今川 京子	2学期	2	2	250
		2年			
イギリスの大衆文化 ARE231M 高山 智樹	2学期	2	2	251	
	2年				
フランス文化論 ARE240M 中山 俊	1学期	2	2	252	
	2年				
西洋美術史 PHR218M 門田 彩	1学期	2	2	253	
	2年				
アメリカ文化史 ARE227M 寺田 由美	1学期	2	2	254	
	2年				
イギリスの生活 ARE235M 水井 万里子	1学期	2	2	255	
	2年				
イギリス文化史 ARE233M 久木 尚志	1学期	2	2	256	
	2年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■選択科目 ■比較文化(地域系)科目	環大西洋の社会史 HIS230M 寺田 由美	2学期	2	2	257
		2年			
	ロシア歴史文化論 HIS231M 芳之内 雄二	1学期	2	2	258
		2年			
	ユーラシアの多文化世界 ARE265M 芳之内 雄二	2学期	2	2	259
		2年			
	社会言語学 LIN310M 平野 圭子	2学期	2	2	260
		2年			
	スペイン語圏文化論 ARE242M 富田 広樹	1学期	2	2	261
		2年			
スペイン語圏地域論 ARE243M 富田 広樹	2学期	2	2	262	
	2年				
中国の社会と文化 ARE210M 榑崎 洋一郎	1学期	2	2	263	
	2年				
アジアの歴史と社会 ANT214M 山口 裕子	2学期	2	2	264	
	2年				
アジア文化論 ARE211M 山口 裕子	1学期	2	2	265	
	2年				
■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 1 ENG171M アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	266
		1年(1-a)			
	英会話・英作文 1 ENG171M アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	267
		1年(1-b)			
	英会話・英作文 1 ENG171M デニス・ジョーンズ	1学期	1	1	268
		1年(1-c)			
	英会話・英作文 1 ENG171M ポール・ガラフ・ステイール	1学期	1	1	269
	1年(1-d)				
英会話・英作文 1 ENG171M ポール・ガラフ・ステイール	1学期	1	1	270	
	1年(1-e)				
英会話・英作文 1 ENG171M アンデリユー・ジッツマン	1学期	1	1	271	
	1年(1-f)				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 1 ENG171M ホセ・クルーズ	1学期	1	1	272
		1年(1-g)			
	英会話・英作文 1 ENG171M ホセ・クルーズ	1学期	1	1	273
		1年(1-h)			
	英会話・英作文 2 ENG172M アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	274
		1年(1-a)			
	英会話・英作文 2 ENG172M アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	275
		1年(1-b)			
	英会話・英作文 2 ENG172M デニス・ジョーンズ	2学期	1	1	276
		1年(1-c)			
	英会話・英作文 2 ENG172M ポール・ガラフ・ステイール	2学期	1	1	277
		1年(1-d)			
	英会話・英作文 2 ENG172M ポール・ガラフ・ステイール	2学期	1	1	278
		1年(1-e)			
	英会話・英作文 2 ENG172M アンデリユー・ジッツマン	2学期	1	1	279
		1年(1-f)			
	英会話・英作文 2 ENG172M ホセ・クルーズ	2学期	1	1	280
		1年(1-g)			
	英会話・英作文 2 ENG172M ホセ・クルーズ	2学期	1	1	281
		1年(1-h)			
英会話・英作文 3 ENG271M ドロークス ダニエル	1学期	2	1	282	
	2年(AES1)				
英会話・英作文 3 ENG271M クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	283	
	2年(AES2)				
英会話・英作文 3 ENG271M ポール・ガラフ・ステイール	1学期	2	1	284	
	2年(2-a)				
英会話・英作文 3 ENG271M クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	285	
	2年(2-b)				
英会話・英作文 3 ENG271M クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	286	
	2年(2-c)				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 3 ENG271M マーニー・セイデイ	1学期	2	1	287
		2年(2-d)			
	英会話・英作文 4 ENG272M ドロークス ダニエル	2学期	2	1	288
		2年(AES1)			
	英会話・英作文 4 ENG272M クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	289
		2年(AES2)			
	英会話・英作文 4 ENG272M ポール・ガラフ・スティール	2学期	2	1	290
		2年(2-a)			
	英会話・英作文 4 ENG272M クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	291
		2年(2-b)			
	英会話・英作文 4 ENG272M クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	292
		2年(2-c)			
	英会話・英作文 4 ENG272M マーニー・セイデイ	2学期	2	1	293
		2年(2-d)			
	英会話・英作文 5 ENG273M ドロークス ダニエル	1学期	2	1	294
		2年(AES1)			
	英会話・英作文 5 ENG273M クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	295
		2年(AES2)			
	英会話・英作文 6 ENG274M ドロークス ダニエル	2学期	2	1	296
		2年(AES1)			
英会話・英作文 6 ENG274M クリストファー・オサリバン	2学期	2	1	297	
	2年(AES2)				
英会話・英作文 7 ENG371M 三宅 啓子	1学期	3	1	298	
	3年				
英会話・英作文 7 ENG371M マーニー・セイデイ	1学期	3	1	299	
	3年				
英会話・英作文 7 ENG371M ポール・ガラフ・スティール	1学期	3	1	300	
	3年				
英会話・英作文 7 ENG371M クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	301	
	3年(AES)				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 8 ENG372M 三宅 啓子	2学期	3	1	302
		3年			
	英会話・英作文 8 ENG372M マーニー・セイデイ	2学期	3	1	303
		3年			
	英会話・英作文 8 ENG372M ポール・ガラフ・スティール	2学期	3	1	304
		3年			
	英会話・英作文 8 ENG372M クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	305
		3年 (A E S)			
	英会話・英作文 9 ENG373M デニス・ジョーンズ	1学期	4	1	306
		4年			
	英会話・英作文 1 0 ENG374M デニス・ジョーンズ	2学期	4	1	307
		4年			
	アメリカ文化講読 ARE220M 新村 昭雄	2学期	1	2	308
		1年 (1 - 2・1 - 3)			
	アメリカ文化講読 ARE220M 吉津 京平	1学期	1	2	309
		1年 (1 - 1)			
	日本文化文献講読 A LIT210M 生住 昌大	1学期	1	2	310
		1年			
	日本文化文献講読 B LIT211M 堀尾 香代子	2学期	2	2	311
		2年			
イギリス文化講読 ARE230M 吉津 京平	2学期	1	2	312	
	1年 (1 - 1・1 - 3)				
イギリス文化講読 ARE230M 今川 京子	2学期	1	2	313	
	1年 (1 - 2)				
日本文化英文講読 JPS290M 吉津 京平	1学期	1	2	314	
	1年 (1 - 1・1 - 2)				
日本文化英文講読 JPS290M 田部井 世志子	2学期	1	2	315	
	1年 (1 - 3)				
日本文化文献講読 C LIT212M 佐藤 真人	1学期	2	2	316	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	フランス文化講読 ARE340M 中山 俊	1学期	3	2	317
	3年				
	ドイツ文化講読 ARE341M 梶原 将志	2学期	3	2	318
	3年				
	ロシア文化講読 ARE350M 芳之内 雄二	2学期	3	2	319
	3年				
	Advanced English I ENG353M デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	320
	4年				
	Advanced English I ENG353M デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	321
	4年				
	Advanced English I ENG353M デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	322
	4年				
	Advanced English I ENG353M デニス・ジョーンズ	1学期	4	2	323
	4年				
	Advanced English II ENG354M デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	324
4年					
Advanced English II ENG354M デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	325	
4年					
Advanced English II ENG354M デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	326	
4年					
Advanced English II ENG354M デニス・ジョーンズ	2学期	4	2	327	
4年					
スペイン語圏文化講読 HIS330M 富田 広樹	1学期	3	2	328	
3年					
■演習・卒論科目	演習 A - 1 SEM311M 梶原 将志	1学期	3	2	329
	3年				
	演習 A - 1 SEM311M 五月女 晴恵	1学期	3	2	330
	3年				
	演習 A - 1 SEM311M 八百 啓介	1学期	3	2	331
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 1 SEM311M 佐藤 真人	1学期	3	2	332
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 真鍋 昌賢	1学期	3	2	333
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 渡瀬 淳子	1学期	3	2	334
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 河内 重雄	1学期	3	2	335
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 休講	1学期	3	2	
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 堀尾 香代子	1学期	3	2	336
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 小林 浩明	1学期	3	2	337
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 田部井 世志子	1学期	3	2	338
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 前田 譲治	1学期	3	2	339
		3年			
	演習 A - 1 SEM311M 高山 智樹	1学期	3	2	340
		3年			
演習 A - 1 SEM311M 中山 俊	1学期	3	2	341	
	3年				
演習 A - 1 SEM311M 寺田 由美	1学期	3	2	342	
	3年				
演習 A - 1 SEM311M 富田 広樹	1学期	3	2	343	
	3年				
演習 A - 1 SEM311M 門田 彩	1学期	3	2	344	
	3年				
演習 A - 1 SEM311M 山口 裕子	1学期	3	2	345	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 1 SEM311M 生住 昌大	1学期	3	2	346
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 梶原 将志	2学期	3	2	347
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 五月女 晴恵	1学期	3	2	348
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 八百 啓介	2学期	3	2	349
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 佐藤 真人	2学期	3	2	350
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 真鍋 昌賢	2学期	3	2	351
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 渡瀬 淳子	2学期	3	2	352
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 河内 重雄	2学期	3	2	353
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 休講	2学期	3	2	
		3年			
演習 A - 2 SEM312M 堀尾 香代子	2学期	3	2	354	
	3年				
演習 A - 2 SEM312M 小林 浩明	2学期	3	2	355	
	3年				
演習 A - 2 SEM312M 田部井 世志子	2学期	3	2	356	
	3年				
演習 A - 2 SEM312M 前田 譲治	2学期	3	2	357	
	3年				
演習 A - 2 SEM312M 高山 智樹	2学期	3	2	358	
	3年				
演習 A - 2 SEM312M 中山 俊	2学期	3	2	359	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 2 SEM312M 寺田 由美	2学期	3	2	360
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 富田 広樹	2学期	3	2	361
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 山口 裕子	2学期	3	2	362
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 生住 昌大	2学期	3	2	363
		3年			
	演習 A - 2 SEM312M 門田 彩	2学期	3	2	364
		3年			
	演習 B - 1 SEM313M 梶原 将志	1学期	4	2	365
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 高山 智樹	1学期	4	2	366
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 五月女 晴恵	1学期	4	2	367
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 八百 啓介	1学期	4	2	368
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 佐藤 真人	1学期	4	2	369
		4年			
演習 B - 1 SEM313M 真鍋 昌賢	1学期	4	2	370	
	4年				
演習 B - 1 SEM313M 渡瀬 淳子	1学期	4	2	371	
	4年				
演習 B - 1 SEM313M 生住 昌大	1学期	4	2	372	
	4年				
演習 B - 1 SEM313M 堀尾 香代子	1学期	4	2	373	
	4年				
演習 B - 1 SEM313M 小林 浩明	1学期	4	2	374	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 B - 1 SEM313M 田部井 世志子	1学期	4	2	375
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 前田 譲治	1学期	4	2	376
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 中山 俊	1学期	4	2	377
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 寺田 由美	1学期	4	2	378
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 富田 広樹	1学期	4	2	379
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 河内 重雄	1学期	4	2	380
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 門田 彩	1学期	4	2	381
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 休講	1学期	4	2	
		4年			
	演習 B - 1 SEM313M 山口 裕子	1学期	4	2	382
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 梶原 将志	2学期	4	2	383
		4年			
演習 B - 2 SEM314M 高山 智樹	2学期	4	2	384	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 五月女 晴恵	1学期	4	2	385	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 八百 啓介	2学期	4	2	386	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 佐藤 真人	2学期	4	2	387	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 真鍋 昌賢	2学期	4	2	388	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 B - 2 SEM314M 渡瀬 淳子	2学期	4	2	389
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 生住 昌大	2学期	4	2	390
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 堀尾 香代子	2学期	4	2	391
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 小林 浩明	2学期	4	2	392
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 田部井 世志子	2学期	4	2	393
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 前田 譲治	2学期	4	2	394
		4年			
	演習 B - 2 SEM314M 中山 俊	2学期	4	2	395
		4年			
演習 B - 2 SEM314M 寺田 由美	2学期	4	2	396	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 富田 広樹	2学期	4	2	397	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 河内 重雄	2学期	4	2	398	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 休講	2学期	4	2		
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 山口 裕子	2学期	4	2	399	
	4年				
演習 B - 2 SEM314M 門田 彩	2学期	4	2	400	
	4年				
■専門基礎教育科目 ■入門科目	比較文化入門 1 (日本) SEM111M 門田 彩 他	1学期	1	2	401
		1年			
	比較文化入門 2 (欧米) SEM112M 真鍋 昌賢 他	2学期	1	2	402
		1年			

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門基礎教育科目 ■概論科目	欧米文化概論 ARE161M 高山 智樹 他	2学期	1	2	403
		1年			
	比較文学概論 LIT100M 田部井 世志子	1学期	1	2	404
		1年			
	日本文化概論 JPS110M 河内 重雄 他	2学期	1	2	405
		1年			
	文化交流史 HIS100M 八百 啓介	2学期	1	2	406
		1年			
世界の文化遺産 ARE190M 門田 彩 他	1学期	1	2	407	
	1年				
比較文化概論 ARE160M 高山 智樹 他	2学期	1	2	408	
	1年				
メディア文化概論 MCC110M 真鍋 昌賢	2学期	1	2	409	
	1年				
■自由科目	書道 MCC220M 大森 アユミ	1学期 (ペア)	2	2	410
		2年			
	第二言語習得論 LIN241M 小林 浩明	2学期	2	2	411
		2年			
	日本語教育カリキュラム論 LIN340M 家根橋 伸子	1学期	3	2	412
		3年			
	日本語教授法 LIN341M 矢野 花織	2学期	3	2	413
		3年			
	異文化間教育 LIN342M 小林 浩明	1学期	3	2	414
		3年			
日本語教育方法論 LIN343M 清水 順子	2学期	3	2	415	
	3年				
日本語教育実習 LIN380M 小林 浩明	1学期	4	1	416	
	4年				
日本語教育実習 LIN380M 小林 浩明	2学期	4	1	417	
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	生涯学習学	1学期	2	2	
	EDU220M 休講	2年			
	博物館概論	1学期	2	2	418
	MUS200M 門田 彩	2年			
	博物館経営論	2学期	2	2	419
	MUS210M 永尾 正剛	2年			
	博物館情報・メディア論	1学期	2	2	420
	MUS212M 那須 孝幸	2年			
	博物館展示論	2学期	2	2	421
	MUS213M 門田 彩	2年			
	博物館資料保存論	2学期	2	2	422
	MUS214M 佐藤 浩司	2年			
	博物館教育論	1学期	2	2	423
	MUS215M 岩本 史緒	2年			
博物館資料論	2学期	2	2	424	
MUS211M 門田 彩	2年				
博物館実習I	2学期(ペア)	3	2	425	
MUS280M 門田 彩 他	3年				
博物館実習II	1学期(ペア)	4	1	426	
MUS380M 門田 彩 他	4年				
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	427
	EDU111M 楠 凡之	1年			
	教育原理	1学期	1	2	428
	EDU110M 見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	429
	PSY222M 税田 慶昭	2年			
教育制度論	1学期	3	2		
EDU227M 休講	3年				
教育課程論	2学期	3	2	430	
EDU360M 見玉 弥生	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	英語科教育法 A	1学期	3	2	431
	EDU250C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 B	2学期	3	2	432
	EDU251C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 C	1学期	3	2	433
	EDU252C 雪丸 尚美	3年			
	英語科教育法 D	2学期	3	2	434
	EDU253C 雪丸 尚美	3年			
	国語科教育法 A	1学期	3	2	435
	EDU230C 坂東 智子	3年			
	国語科教育法 B	2学期	3	2	436
	EDU231C 坂東 智子	3年			
	国語科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU232C 休講	3年			
	国語科教育法 D	2学期	3	2	
	EDU233C 休講	3年			
	道徳教育指導論	2学期	2	2	437
	EDU262M 船原 将太	2年			
	特別活動論	2学期	2	2	
	EDU263M 休講	2年			
教育方法学	2学期	2	2		
EDU260M 休講	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2		
EDU261M 休講	2年				
教育相談	1学期	2	2	438	
EDU264M 山下 智也	2年				
教育実習 1	2学期	3	2		
EDU380C 休講	3年				
教育実習 2	1学期	4	2		
EDU480C 休講	4年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 3	1学期	4	2	
	EDU481C 休講	4年			
	教職実践演習(中・高)	2学期	4	2	
	EDU490C 休講	4年			
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	439
	PSY220M 山下 智也	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	PSY223M 休講	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	440
	EDU225M 恒吉 紀寿	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	441
	EDU228M 河嶋 静代	2年			
	教育工学	2学期	2	2	
	EDU265M 閉講	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	442
		1年			
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	443
		1年			
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	444
		1年			
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	445
		1年			
	生活世界の哲学 PHR110F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	446
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	447
		1年			
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	448	
	1年				
環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	449	
	1年				
可能性としての歴史 HIS200F 小林 道彦	2学期	2	2	450	
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 休講	2学期	2	2		
	2年				
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	451	
	2年				
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	452	
	2年				
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	453
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	454
		1年			
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	455
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	人権論 SOC004F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	障がい学 SOW001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	456
		1年			
企業と社会 BUS001F 休講	2学期	1	2		
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代の国際情勢 IRL003F 休講	1学期	1	2		
	1年				
開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	457	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2018年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	458
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	458
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	458
		1年			
	歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	458
		1年			
	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	458
		1年			
	人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	458
		1年			
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 未定	2学期	1	2	459	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	460
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 寺田 千栄子	2学期	1	2	461
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本 浩二	1学期	1	2	462
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期	1	2	462
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 閉講	1学期	1	1	462	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 山本 浩二	2学期	1	1	463	
	1年				
■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾 泰士	1学期	1	2	464
		1年			
	情報表現 INF230F 閉講	1学期	2	2	464
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■自由科目	生涯学習学	1学期	2	2	465
	EDU220M 恒吉 紀寿	2年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	466
	EDU111M 楠 凡之	1年			
	教育原理	1学期	1	2	467
	EDU110M 見玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	468
	PSY222M 税田 慶昭	2年			
	教育制度論	1学期	3	2	469
	EDU227M 見玉 弥生	3年			
	教育課程論	2学期	3	2	470
	EDU360M 見玉 弥生	3年			
	英語科教育法 A	1学期	3	2	471
	EDU250C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 B	2学期	3	2	472
	EDU251C 森 千鶴	3年			
	英語科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU252C 休講	3年			
英語科教育法 D	2学期	3	2		
EDU253C 休講	3年				
国語科教育法 A	1学期	3	2		
EDU230C 休講	3年				
国語科教育法 B	2学期	3	2		
EDU231C 休講	3年				
国語科教育法 C	1学期	3	2		
EDU232C 休講	3年				
国語科教育法 D	2学期	3	2		
EDU233C 休講	3年				
道徳教育指導論	2学期	2	2	473	
EDU262M 船原 将太	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■教職に関する科目 ■必修科目	特別活動論	2学期	2	2	474
	EDU263M 楠 凡之	2年			
	教育方法学	2学期	2	2	475
	EDU260M 下地 貴樹	2年			
	生徒・進路指導論	2学期	2	2	476
	EDU261M 楠 凡之	2年			
	教育相談	1学期	2	2	477
	EDU264M 山下 智也	2年			
	教育実習 1	2学期	3	2	478
	EDU380C 児玉 弥生 他	3年			
教育実習 2	1学期	4	2	479	
EDU480C 恒吉 紀寿 他	4年				
教育実習 3	1学期	4	2	480	
EDU481C 恒吉 紀寿 他	4年				
教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2	481	
EDU490C 楠 凡之 他	4年				
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	482
	PSY220M 山下 智也	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	483
	PSY223M 税田 慶昭	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	484
	EDU225M 恒吉 紀寿	2年			
人権教育論	1学期	2	2		
EDU228M 休講	2年				
教育工学	2学期	2	2		
EDU265M 閉講	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1,300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

歴史と政治【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など 40%、期末テスト 60% を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要な時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
			ことばの科学 LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生まだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて世界 (地球) 特講 (テロリズム論) を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- ・ 生命と環境に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、表現できる。
- ・ 身近な課題に関して積極的に調べ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。

事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナシップ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑩山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する小レポート：30%
最終試験：70%

環境問題概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 到達目標 /Class クラス 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていただろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【ホロコースト】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所を目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。
ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

可能性としての歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を買う必要はありません。また、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化を「知る」とはどういうことか？

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 分類の不明瞭さ①：国籍・人種

第9回 分類の不明瞭さ②：移動する人々

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 中間テストの解説

第15回 癒しの多様性

※出張や学生大会などで休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールは初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題40%、期末テスト60%

そのほか講義中に課したコメントカードなども平常点として適宜評価に加える。受講人数によってはテストをレポートに変更することもある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
- ・ Moodleで適宜課題を課します。締め切りまでに提出してください。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。第一回目の講義を欠席しても履修はできるかもしれませんが、不利になることは覚悟してください。
- ・ 講義に出席していても、テスト(またはレポート)の評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義に真剣に取り組んでください。
- ・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題における不正、授業態度が目には余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		
		言語と認知	LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。
まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)

- 第1回 序・講義の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 ヒューマンエラー(松田)
- 第8回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第9回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(木山)
- 第12回 比喩は文学表現か(メタファー)(木山)
- 第13回 文は語彙の足し算か(構文文法論)(木山)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者によるパネル・ディスカッション(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% レポート 16% x 5 = 80%
(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)

言語と認知【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げながら、この問題に迫っていききたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命科学と社会 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の進歩およびその社会との関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の中の生命科学に関する課題について総合的に分析し、自らがとるべき行動を客観的に判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中の生命科学に関する課題を自ら発見し、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命科学と社会
			BI0200F

授業の概要 /Course Description

遺伝情報であるDNAの構造が決定され、それから半世紀の間、生命科学は大きく進歩し、医療、食生活や健康など我々の社会に深く浸透している。生命科学は我々の生活をこれまでにどのように変えてきたか、これからどのように変えるのだろうか。そこで本講義では、(1)生命科学の基礎や考え方について学ぶとともに、(2)DNAや遺伝子を調べることで何がわかり、どのように役に立つのか、(3)食や健康を考える上で我々が知っておくべきことは何か、(4)遺伝子や生命を操作するとは具体的にはどのようなことであり、どこまで許されることなのかなど、人間の社会や他の生物との関わりから生命科学を捉えることを目指し、そのための知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 3024円 羊土社 (2015年)
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 1890円 数研出版 (2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 生命科学の基礎 (1) 遺伝子の概念 【DNA二重らせん】
- 3回 生命科学の基礎 (2) 生命活動の実行役 【タンパク質】
- 4回 生命科学の基礎 (3) ゲノム 【ヒトゲノム計画】
- 5回 DNAでわかること (1) 遺伝と疾患 【メンデル遺伝】
- 6回 DNAでわかること (2) 個性と体質 【遺伝子検査】
- 7回 DNAでわかること (3) DNA鑑定 【多型】
- 8回 安心・安全とは (1) 食品と医薬品 【健康食品】
- 9回 安心・安全とは (2) 遺伝子組換え作物 【カルタヘナ法】
- 10回 安心・安全とは (3) 人体と放射線 【確率の影響】 【がん】
- 11回 生命の倫理 (1) 生命と遺伝子操作1 【再生医療】 【iPS細胞】
- 12回 生命の倫理 (2) 生命と遺伝子操作2 【ゲノム編集】
- 13回 生命の倫理 (3) 生命科学と家族 【遺伝的つながり】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答・まとめ

* タイトルとスケジュールは変更になることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加 (毎回の課題提出を含む) 100%

生命科学と社会 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) により提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

さまざまな角度から生命と社会の問題を取り上げたいと思います。ニュースで扱われるような話題を自分で理解し、考える力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

情報社会を読む【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会の現在、及び、未来についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会を読む
			INF200F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、最新のICTやそれを応用したサービスについての理解を深めることで、現在の情報社会について概観し、その先の未来で待ち受けている情報社会の課題や可能性について考える力を身に付けることである。具体的には、以下のような項目について理解することを目指す。

- 情報社会を構成している最新のICTに関する基礎知識
- 最新のICTを応用したサービスと人間との関係性
- 未来の情報社会で起こりうる課題とその解決策
- 未来の情報社会で期待できるサービスの可能性

本授業では、講義（教員が教壇に立って説明することが中心）と演習（学生が与えられた課題に沿って主体的に学習活動することが中心）とを組み合わせながら進めていく。ときには、グループディスカッションを行いながら課題に取り組んでもらう。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 身の回りにあるICTと情報社会 【ガイダンス】 【ICT活用サービスの光と影】
- 2回 位置情報を利用したサービス 【ジオメディア】 【GPS】
- 3回 グループワーク1：位置情報を利用した未来のサービスを読む
- 4回 コンピュータは持ち歩くから着る時代へ 【ウェアラブルコンピュータ】
- 5回 近未来の入力装置 【モーション操作】
- 6回 グループワーク2：ウェアラブルコンピュータ・モーション操作を利用した未来のサービスを読む
- 7回 画像認識の仕組み 【画像処理】 【ドット】 【解像度】
- 8回 顔画像認識の応用と危険性 【マーケティング】 【個人情報】
- 9回 画像認識技術はどこまで人間に近づけるか 【形状認識】 【機械学習】
- 10回 グループワーク3：画像認識を利用した未来のサービスを読む
- 11回 IoT【センサー】 【クラウドコンピューティング】
- 12回 グループワーク4：IoTを利用した未来のサービスを読む
- 13回 自律型ロボットと人工知能【AI】 【ディープラーニング】 【技術的特異点】
- 14回 人工知能が人間社会に及ぼす影響【雇用問題】 【法整備】
- 15回 グループワーク5：人工知能の発展とこれから求められる能力

情報社会を読む【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する個人課題・・・ 60%、授業中に実施するグループワーク課題・・・ 30%、レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、普段の生活において、どのようなICT活用サービスがあれば生活が豊かになるかを常に思考しておくこと。そうすることで、授業中に提示する課題に取り組みやすくなる。

事後学習として、授業中に説明した内容に関する未来のICTサービスを提案する課題を提示することがある。積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」を先に受講して、情報社会に関連する知識や技術のある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

分からないところがある場合は、積極的に質問してもらいたい。授業中に実施する演習において、グループディスカッションを求めることもあるので、その時は積極的に議論に参加してもらいたい。また、この科目は、専門用語を覚えることに重点を置くのではなく、情報社会の未来はどうなるのかという発想やアイデアに重点を置くので、「未知のことについて考える力」を磨くことにチャレンジしてもらいたい。

キーワード /Keywords

情報社会の未来、ICT活用サービス、ICTと人間

地域資源管理論【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	「地域資源の管理」に関わる総合的な理解と、持続可能な社会づくりに関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域資源を管理しようとする際の根本的かつ総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する地域社会において、地域資源との望ましい関わり方を自ら発見し、持続可能な社会づくりのための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		地域資源管理論	
		ENV200F	

授業の概要 /Course Description

本授業では、地域資源を住民が主体となって管理していくための手法について、詳細に解説する。

本授業で扱う事例は大きく分けて、以下の3点である。

①漁業権（漁業法）・草地環境（入会権）の維持に向けた住民主体の地域資源管理手法について。

※SDGs（持続可能な開発目標）で言うと、「SDGs 14.海の豊かさを守ろう」、「SDGs 15.陸の豊かさを守ろう」、「SDGs 8.働きがいも経済成長も」に関係します。

②地域資源を有効に活用する手法 - フットパス事業に見る住民主体の地域資源管理 -

※SDGs（持続可能な開発目標）で言うと、「SDGs 3.すべての人に健康と福祉を」、「SDGs 17.パートナーシップで目標を達成しよう」に関係します。

③まちづくり会社（TMO）の役割と権利の集約 - 滋賀県長浜市における黒壁スクエア事業と問題提起としての国立マンション訴訟について -

※SDGs（持続可能な開発目標）で言うと、「SDGs 11.住み続けられるまちづくりを」、「SDGs 12.（まちを）つくる責任つかう責任」に関係します。

上記の事例を、いくつかの紛争事例・裁判事例を検証することで、地域資源を管理する、活用するための具体的手法について、法社会学の知見を活かし、分析する。

法社会学における基礎的な専門知識の習得とともに、地域住民が共同で地域資源を管理していくために必要な具体的知識を習得することを目的としている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○鈴木龍也, 富野暉一郎編著 (2006) 『コモンズ論再考』晃洋書房

角谷 嘉則著 (2009) 『株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神』創成社

神谷由紀子編著 (2014) 『フットパスによるまちづくり - 地域の小径を楽しみながら歩く - 』水曜社

地域資源管理論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 地域資源の考え方
- 第3回 行き過ぎた市場主義経済の弊害
- 第4回 生業とは何か？
- 第5回 適応した共助の仕組み
- 第6回 静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み① - 日本の伝統的な茅資源の利用方法について-
- 第7回 静岡県伊東市池区の草地景観管理の仕組み② - 株式会社制度を利用した現代的な地域資源の共同管理システム-
- 第8回 地域資源の過少利用問題を越えて
- 第9回 地域資源を活用したまちづくりの実践 - フットパスとは何か？ -
- 第10回 外部講師の講演 「フットパスはどうやって創るのか？」
- 第11回 フットパスのまとめ
- 第12回 地域資源としての都市環境 - 景観問題の観点から -
- 第13回 都市の特徴と管理組織
- 第14回 総括と復習
- 第15回 おわりに

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に複数回実施する小レポートの出来：20%
最終試験：80%（持ち込み不可）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業の成績評価方法は、期末に実施する試験のウエイトがかなり高い。
また、持ち込み不可のために、授業中担当教員の発言などをメモを取り、事後学習として深く復習する作業が必要となる。また、授業中に使用するスライド資料は学習支援フォルダに掲載しているため、それを活用して事前学習も必要となる。そうしなければ、流れについてこれず、授業を理解できない可能性が高い。深い理解を得なければ、単位修得ができないと推察されるため、授業時間以外で学習することのできる人の履修を求む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、法社会学の基礎的な知見の習得を目指す。そのため、裁判の話（判例）や法律の話に言及する機会が多々ある。
平易な説明や解説を試みるため、あらかじめ必要な知識はないが、基礎的な法的思考能力を鍛える必要があるため、その旨、履修する者は理解してほしい。

キーワード /Keywords

SDGs（持続可能な開発目標）で言うと、「SDGs14.海の豊かさを守ろう」、「SDGs15.陸の豊かさを守ろう」、「SDGs8.働きがいも経済成長も」、「SDGs3.すべての人に健康と福祉を」、「SDGs17.パートナーシップで目標を達成しよう」、「SDGs11.住み続けられるまちづくりを」、「SDGs12.（まちを）つくる責任つかう責任」に関連する授業内容となります。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史的変遷【歴史的変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本（1）障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本（2）構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本（3）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析学的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本（4）行動問題への対応【行動問題、氷山モデル】
- 第12回：支援の基本（5）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本（6）余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。
課題への対応70%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることながらインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。

「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジュメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助にしたいと思います。「レジュメ」とは、わかりやすく言うと、この場合には本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で、一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。
- 2～14回 文献の輪読（明治期を中心に読んでいきます）。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%報告・レジュメの内容...50%
無断欠席やレジュメの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジュメを作成すること。
「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを読むこと。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が合計11名以上の場合には、受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

なお、調査実習を行う可能性もある。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

教養演習 AI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3回 「問い」を立てる
 - 第4回 論証戦略を考える（方法を検討する）
 - 第5回 情報を集める1 - 北九大図書館
 - 第6回 情報を集める2 - CiNii, 国立国会図書館（NDL-OPAC）、日本社会学会文献データベース、政府統計の総合窓口（e-Stat）、電子政府の総合窓口（e-Gov）
 - 第7回 論文検討会1
 - 第8回 文献レビュー（テキスト批評）1
 - 第9回 文献レビュー（テキスト批評）2
 - 第10回 文献レビュー（テキスト批評）3
 - 第11回 文献レビュー（テキスト批評）4
 - 第12回 文献レビュー（テキスト批評）5
 - 第13回 文献レビュー（テキスト批評）6
 - 第14回 文献レビュー（テキスト批評）7
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、（1）文献概要、（2）内容要約、（3）論点整理、（4）議論等を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回
オリエンテーション

第 2 回～第 1 4 回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第 1 5 回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (1 0 0 %)

教養演習 A1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II (文化論セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 /Credits 2単位 /Semester 2学期 / 2学期 /Class Format 演習 / クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

文化と社会について学びながらレポートの書き方を向上させる：
本演習では、世界の文化と社会に関する文献を入り口として、そこから各自の関心に応じて「自分でテーマを設定し、学びを深め、レポートを書く」ということを目指します。コミュニケーション能力のうち、建設的に議論する能力と、自分の主張を説得的に文章で表現する能力を伸ばします。今学期は、「あたりまえを疑う」ことをテーマに最近の文化研究の成果に関して知識を深めつつ、勉強の仕方も学ぶことを目指します。

教科書 /Textbooks

松村圭一郎ほか編 2019 『文化人類学の思考法』世界思想社 (1800円+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐渡島紗織2015『レポート・論文をよくする「書き直し」ガイド』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学における本の読みかた・探し方
- 第2回 議論のしかた
- 第3回 論点の広げ方
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論④
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を変更することもある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業における取りこみ50%
ただし、報告者の無断欠席や課題の未提出は厳しく減点します

教養演習 AII (文化論セミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成、レポートの執筆にはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は第1回から出席してください。受講者数調整がなければ修正申告終了までは履修登録できますが、欠席分の授業内容を自習する努力が必要となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当者の講義(「異文化理解の基礎」「現代社会の文化」)や「アカデミック・スキルズ2」を履修したことがあると、理解が深まります。
- ・ 文献のタイトルには「文化人類学」とありますが、思考を柔軟にしながら世界について考えたい学生は、学部を問わず歓迎します。

キーワード /Keywords

文化、文化人類学

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

明治憲法体制における軍部とはいかなる存在だったのか？なぜ、昭和になると軍部は台頭したのか？日本近代史最大の問題点についてみんなで議論していきましょう。
「演習」方式の授業なので、文献読解能力を訓練し、レジユメ（梗概）の作り方、報告の仕方などを実際に学んでいきます。あわせて、日本近代史に対する理解を深め、国際化時代に相応しい教養を涵養する一助としたいと思います。「レジユメ」とは、わかりやすく言うと、この場合は本の内容の要約です。受講者数にもよりますが、毎回2名程度の受講生に報告してもらいます。15回の演習で一冊完読をめざします。

教科書 /Textbooks

小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、税別1300円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2 - 14回 『近代日本の軍部 1868 - 1945』の輪読（昭和史を中心に読んでいきます）。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%、報告とレジユメの内容...50%
無断欠席やレジユメの未提出は1回でも「D」評価となりますので注意して下さい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、テキストの該当ページを全員読んでおくこと。担当者はレジユメを作成すること。
「演習」終了後は議論の内容を念頭に置きながら、再度テキストを再読すること。

履修上の注意 /Remarks

受講希望者が11名以上の場合には受講者数調整をかけます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学教員生活最後の「演習」です。最新の研究成果を用いてみなさんと楽しく議論できればと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この演習では、各自が自分の関心に従って、社会的な視点・方法・調査によって論文（レポート）を書くことをめざす。具体的には、以下のことを身につけることを目指す。

- (1) 自らの関心に沿った「問い」の立て方
- (2) 論証戦略（実証方法の道筋）の設定
- (3) 情報収集の方法
- (4) 文献レビューの方法（レジユメの作り方）
- (5) 論文（レポート）の書き方

その上で、自らが書く論文について関連する文献のリストを作成し、テキスト批評を行う。報告と質疑応答を中心とする演習形式をとるため、原則として受講者の最大数は10人程度とする（それを越える場合、受講者数調整をかけることがある）。

教科書 /Textbooks

指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポート・論文の書き方入門』、河野哲也、慶応義塾大学出版会、2018年、¥1080
 - 『よくわかる質的社会調査 - 技法編』、谷富夫・芦田徹郎編著、ミネルヴァ書房、2009年、¥2700
- その他、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 「テーマ」について考える
 - 第3～4回 「問い」を立てる
 - 第5～6回 情報を集める1
 - 第7～10回 文献レビュー
 - 第11回～14回 質的調査の方法
 - 第15回 まとめ
- なお、順番・内容は変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...40% レポート...60%
(総合的に判断する。)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

文献レビューの際、報告者は、(1) 文献概要、(2) 内容要約、(3) 論点整理、(4) 議論等を記したレジюмеを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フィールドワークを通して論文を書く楽しさを感じてください。卒論執筆の準備作業にもなると思います。

キーワード /Keywords

社会調査、フィールドワーク

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回
オリエンテーション

第 2 回～第 1 4 回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第 1 5 回
振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (1 0 0 %)

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B I
			GES301F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BI【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 B II
			GES302F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センター内、および地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加し、他の運営スタッフや地域の方々と協働しながら、その実践的活動を通じて様々な知識やスキルの獲得を目指します。また、実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ① 学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ② 地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③ 週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④ 短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤ 上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り研修

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

教養演習BⅡ【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は、地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田未寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、ぜひ受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

動物にかんする知識を深め、自然環境に関する知見を広げることが到達目標となる

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらし)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然史へのいざない【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19 ~)
野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科, 柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			自然史へのいざない	BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- ・ 自然史・歴史のテーマに関連して基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

自然史へのいざない【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。()内は担当者。【 】はキーワード

1回 ガイダンス(日高・柳川)

博物館1日目

2回 北九州市周辺の地質と化石の多様性について(太田)【化石】【ジオパーク】

3回 生命の起源を探る(柳川)【極限環境】【微生物】

4回 館内見学(1回目)

5回 多様性生物学と進化(蓑島)【進化】【生物多様性】

6回 海産無脊椎動物の行動生態学(竹下)【無脊椎動物】

博物館2日目

7回 植物を鍵とした生物間相互作用(真鍋)【共生】【食物連鎖】

8回 博物館を楽しむ:いのちのたびで知る脊椎動物進化(大橋)【恐竜】【脊椎動物】

9回 館内見学(2回目)

10回 鳥類の生態と進化(中原)【適応放散】【進化的軍拡競走】

11回 人新世におけるヒトと植物の関係(河野)【人新世】【科学史】

博物館3日目

12回 フィールドの地学と歴史を楽しむ(野井)【地学と歴史のかかわり】

13回 歴史に関するトピック①

14回 歴史に関するトピック②

15回 まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 積極的な授業への参加(授業ごとのMoodle課題提出) 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習: 授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回目(ガイダンス)に欠席した場合は受講を認めない。ひびきのキャンパスでは10月2日に予定しているので掲示物に注意すること。
- ・ 第2回～第15回の授業は10月17日(土)、10月31日(土)、11月14日(土)の3回に分けて博物館で行う予定(いずれも終日)。
- ・ 博物館までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連:

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田中 信利 / 人間関係学科
松本 亜紀 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。	
	コミュニケーション力			
			現代人のこころ	PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 脳とこころ1【脳とこころの関係】
- 第12回 脳とこころ2【心身の発達と脳】
- 第13回 脳とこころ3【薬物の影響】
- 第14回 脳とこころ4【睡眠の影響】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(複数の小テストまたはレポート)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

現代人のこころ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- ・ 生命科学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連テーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子発現	【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【胚】
8回	細胞の社会(1)細胞の増殖	【細胞周期】【細胞死】
9回	細胞の社会(2)シグナル伝達	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【染色体】【テロメア】
12回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
13回	体を守るしくみ(3)私たちと細菌	【細菌】【腸内細菌】
14回	関連ビデオ鑑賞	
15回	質疑応答・まとめ	

人間と生命【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（毎回のMoodle課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		
		環境都市としての北九州	
		ENW001F	

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

授業のねらいは以下のとおり。

- ・ 環境問題全体を把握するための最低限の知識を身につけている
- ・ 北九州市の環境問題に対するこれまでの取り組みを理解している。
- ・ 持続可能な社会に向けての考え方を理解し、自分自身の行動につなげることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円(税込み)
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(法学部・三宅)
- 3回 北九州の自然と環境(村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 6回 環境ビジネスとエコタウン事業(マネジメント研究科・松永)
- 7回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 8回 環境問題とソーシャルビジネス(外部講師)
- 9回 施設見学・環境ミュージアム
- 10回 環境首都検定に向けて(外部講師)
- 11回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 12回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 13回 環境問題と学生の取り組み(未定)
- 14回 特別講演(未定)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績(40%)、小テストおよび授業中の課題(60%)

環境都市としての北九州【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。

事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアム）は原則として必須とする。スケジュールは変更となる場合があるので、第1回ガイダンスに必ず出席すること。

- ・ 環境ミュージアム見学は11月23日（月）午前または午後の予定。参加できない場合は後日各自で見学すること。
- ・ 環境首都検定は12月6日（日）の予定。

*授業スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。

*環境ミュージアム、首都検定会場までの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。	
	コミュニケーション力			
			未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。
具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、北九州市のエネルギー政策
- 第2回：再生可能エネルギーに関する世界の潮流
- 第3回：世界における風力発電
- 第4回：日本における風力発電（その1）
- 第5回：日本における風力発電（その2）
- 第6回：日本における風力発電（その3）
- 第7回：再生可能エネルギーの産業（風力発電）
- 第8回：再生可能エネルギーの産業（エネルギーマネジメント）
- 第9回：都市の環境とエネルギー（経済学からのアプローチ）
- 第10回：都市の環境とエネルギー（機械工学からのアプローチ）
- 第11回：都市の環境とエネルギー（情報学からのアプローチ）
- 第12回：都市の環境とエネルギー（建築学からのアプローチ）
- 第13回：都市の環境とエネルギー（環境工学からのアプローチ）
- 第14回：都市の環境とエネルギー（化学・生物工学からのアプローチ）
- 第15回：まとめ

「日本における風力発電」では、外部講師による集中講義や北九州市の風力発電施設の見学を予定しています。

未来を創る環境技術 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって拡がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒテキ アートダイバー 2014
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ポルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つける
3. ジャン・デュビュッフエ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 中平卓馬 なぜ植物図鑑か
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭介 原発に抗する
12. 奈良美智 コドモの領分
13. ヤノベケンジ 失われた遊園地
14. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻込むプロジェクト
15. 会田誠 道程

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 2回 50%
レポート(学期末) 40%
日常の取組(出欠など) 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したが、また、展開させたいか、を問うものである。

近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、プロジェクト

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず、社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間において適切な集会的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波新書
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中公新書
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波新書
- シュンペーター, J. (大野訳 2016) 『資本主義, 社会主義, 民主主義』日経BP
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波文庫
- 杉田敦 (2001) 『デモクラシーの論じ方-論争の政治』筑摩書房
- 久保慶一, 末近浩太, 高橋百合子 (2016) 『比較政治学の考え方』有斐閣

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカー-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての直接民主主義論や人民民主主義論・ポピュリズム(と後者がはらむ危険性)について知る。民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。V-dem指標を知り、たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。
4. 民主主義という意思決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうることを把握し、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただしCJTに対しては批判も存在し、オルタナティブとして結果の不確実性に伴う「支配の最小化」こそが重要だとする議論を紹介する。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また、現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. ここまでの授業の整理として第1-7回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。
9. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として第9 - 13回の授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので、それらについては事前予習してくる事。
さらに、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

【重要】2019年度より本科目の担当者が代わっております。履修に際しては本シラバスの情報のみを参考にしてください。また、本シラバスをご覧になった学生諸君は、本科目の履修を検討している学友とも本情報の共有に努めてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません(それがない人を想定して授業を行います)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史、中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので、各自で能力を維持してください。

キーワード /Keywords

SDG 5. ジェンダー平等 SDGs 16. 平和と公正

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。そのため、以下の2点について講義する。
(1) 社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。
(2) 現代の社会問題を社会的に考えていく。とりあげる問題としては「大衆社会とファシズム」「社会的排除と貧困」などを予定している。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な要因による説明とは
- 第4回 個人と社会をつなぐ1 - デュルケム1【自殺論 - 集合意識と行為】
- 第5回 個人と社会をつなぐ2 - デュルケム2【自己本位的自殺】
- 第6回 個人と社会をつなぐ3 - デュルケム3【アノミー的自殺】
- 第7回 個人と社会をつなぐ4 - ウェーバー1【理解社会学】
- 第8回 個人と社会をつなぐ5 - ウェーバー2【プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神】
- 第9回 機能主義とシンボリック相互作用論
- 第10回 現代の社会的解読1 - ファシズム1【社会的性格とファシズム】
- 第11回 現代の社会的解読2 - ファシズム2【デモクラシーと大衆社会】
- 第12回 現代の社会的解読3 - 社会的排除と貧困1【社会的排除と生活困窮の現状】
- 第13回 現代の社会的解読4 - 社会的排除と貧困2【生活困窮化のメカニズム】
- 第14回 現代の社会的解読5 - 社会的排除と貧困3【社会的な支援のあり方】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題... 15% 期末試験... 85%
(総合的に判断する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

社会学的思考 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、フ
アシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1 貧困をなくそう、SDG s 3 健康と福祉を

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

目標

1. 人権とは何かについての基本的な概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深める。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社) 福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|--|
| 1 「自分にとっての人権課題」 | オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。 |
| 2 「人権とは何か」 | 人権とは何かについて解説する。 |
| 3 「人権獲得の歴史」 | 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。 |
| 4 「世界人権宣言と人権条約」 | 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。 |
| 5 「平和と人権」 | 戦争・平和についての解説。 |
| 6 「ハンセン病について」 | ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。 |
| 7 「教育と人権～識字問題」 | 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。 |
| 8 「教育と人権～夜間中学」 | 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。 |
| 9 「部落問題について」 | 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。 |
| 10 「部落問題について」 | 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。 |
| 11 「在日外国人と人権課題」 | 在日外国人の現状と人権課題を解説する。 |
| 12 「在日コリアンについて」 | 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。 |
| 13 「障害者と人権」 | 障害者の立場からみる人権課題を知る。 |
| 14 「アジアの人権状況」 | アジアの人権問題を事例を交えて解説する。 |
| 15 「まとめ」 | 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。 |

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
- ・教科書及び配布資料は熟読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率7割を満した学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor カ武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を理解し、使えるようになることを目標にする。また、社会や文化に潜むジェンダーを可視化するツールとしての統計を分析する方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『改訂版 ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017）2,640円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンを愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のみまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている章を読み、それに関連した日常生活でみられる事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、期末課題の作成に向けて、資料等を探して読み、レポートの構想を練るなど、準備を進めること。

履修上の注意 /Remarks

- (1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておくこと。
- (2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プレゼンにはパワーポイント使用のためPPT資料作成スキルズを身につけておくこと。

キーワード /Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ、ディスカッションも含む【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科, 石塚 壮太郎 / ISHIZUKA, Sotaro / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。	
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			法律の読み方	LAW002F

授業の概要 /Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 なぜ憲法を改正できないのか？ - 憲法改正の位相
- 第3回 民泊は違法？ - 法律と条例の関係
- 第4回 肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか？ - ヴェニスの証人に見る同意
- 第5回 少年犯罪は増えている？ - 少年犯罪と近年の動向
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか？ - AIと法
- 第7回 電気は「物」か？ - 物に関する法
- 第8回 女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているのはなぜか？ - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
- 第9回 タヌキはゴルフ場開発を止められるか - 令和ぼんぼこ狸合戦 - 当事者能力
- 第10回 会社の経営について決定権を持つのは誰か？
- 第11回 年金って私たちはもらえないんでしょ？ - 公的年金の役割
- 第12回 受信料は払わなければいけない？ - 放送と法
- 第13回 自分の臓器を売る自由？ - 自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

法律の読み方 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の＜萌芽＞② - 市民
 - 7回 市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の＜再生＞② - 市民
 - 9回 市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の＜広がり＞② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 20%
期末試験... 80%

市民活動論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業観の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・70% レポート・・・30%

企業と社会 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、レポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの視点から分析する枠組みや手法を紹介する。「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個人々での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域 1 : 地域概念: 『地域』とは何か?
- 3回 地域 2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域 3 : 地域開発とは
- 5回 地域 4 : 地域間という視点
- 6回 地域 5 : 地域を分析する
- 7回 地域 6 : 地域事例 (L Qによる分析)
- 8回 地域 7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市 1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市 2 : 都市の理論
- 11回 都市 3 : 都市の構造
- 12回 都市 4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市 5 : 都市を分析する
- 14回 都市 6 : 都市事例
- 15回 都市 7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

クイズ (合計) ... 30% 授業内貢献... 20% 最終クイズ (2回合計) ... 50%

都市と地域【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨んで下さい。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を考えて下さい。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、不定期・複数の(Moodleによる)クイズへの回答、および2回の最終クイズへの回答が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を評価します。発言の無いもしくは回答のない学生は授業貢献の点数が芳しくなくなるので、活発に発言をしてください。

また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になります。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年 (2015年度 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class 以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
			地域防災への招待
			SSS001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。講義の中で避難所運営などのワークショップを行い、手を動かし、北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：南・加藤）
- 2 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 3 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7-8 避難所運営訓練HUG（北九州市危機管理室）
- 9 防災が地域を変える、社会を変える（外部講師、北九大：村江）
- 10 地域協働によるまちづくり（外部講師）
- 11 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 12 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 13 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 14 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 15 学生にもできる防災：災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）

なお、7-10回は、合同スクーリングとして5/16(土)に西小倉周辺の会場で実施予定。市役所による防災公開講座と合同実施。

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加 30%
レポートおよび小テスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習しておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業終了時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
通常の授業は、北方 - ひびきの間での遠隔講義となるため、受講人数制限あり。
合同スクーリングの交通費・昼食代は、受講者の負担となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

- - - - -

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業
SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科, 松田 智 / Matsuda, Satoshi / 英米学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 大平 変容するアジア情勢(1) 中国とインドの台頭
- 第3回 大平 変容するアジア情勢(2) 日本の防衛力強化
- 第4回 大平 変容するアジア情勢(3) 開発協力における熾烈な争い
- 第5回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(1) 概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第6回 北 日系アメリカ人の歴史と今日(2) 現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第7回 下野 台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
- 第8回 松田 日本総合商社と海外インフラプロジェクト組成【総合商社】【世銀保証】【IFC-Bローン】【プロジェクトファイナンス】
- 第9回 松田 日本企業の特質と異文化マネジメント【ホフステッド】【複数の資本主義】
- 第10回 久木 2010年代後半のイギリス【国民投票】【総選挙】
- 第11回 篠崎 東南アジアを知ろう【地理】【宗教】【自律史観】
- 第12回 白石 中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回 柳 朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回 柳 北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回 まとめ

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少8回、最大14回)100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード /Keywords

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション – グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間とテロリズムとの関係性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	テロリズムについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			テロリズム論	PLS001F

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

テロリズム論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テロリズムとは何か(1)
定義が困難な理由について
①「自由の戦士」という問題（祖国解放のための暴力使用はテロか？）
②テロの犯罪性の問題（佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか？）
③テロの政治性の問題（テロリストが身代金目的で行った誘拐事件はテロか？）
- 3回 テロリズムとは何か(2)
テロリズムの定義
①911の特殊性と国土安全保障の考え方
②アメリカ国内でのテロの定義の統一化
③テロリズムの定義
- 4回 テロリズムとは何か(3)
テロリズムの特徴 ①テロの目的 ②テロの標的 ③テロの主体
テロと犯罪のグレーゾーンについて
- 5回 テロの歴史(1)
テロの起源、19世紀のテロとアナキズム
- 6回 テロの歴史(2)
ナショナリズムとテロ（国粋主義、民族解放）
- 7回 現代テロ(1)
国際テロの登場（1968年エルアル機ハイジャック、スカイマーシャル）
反米テロの登場（TWA機ハイジャック）
補論（ハイジャックとは何か）
- 8回 現代テロ(2)
無差別・自爆テロの登場（日本赤軍、ロッド空港事件）
劇場型テロの登場（ミュンヘンオリンピック事件とGSG9、ダッカ事件とSAT）
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回 無差別大量殺戮テロ(1)
「大量」殺戮テロの始まり
化学テロと生物テロ
化学兵器の特徴
- 11回 無差別大量殺戮テロ(2)
地下鉄サリン事件の概要
サリンについて
- 12回 無差別大量殺戮テロ(3)
地下鉄サリン事件の動機
- 13回 911米国同時多発テロ(1)
911の特異性
911の概要と計画性
- 14回 911米国同時多発テロ(2)
ビンラディンのプロファイル
アルカイダとテロ、米国の対応
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

この授業では、現代の国際社会における日本や日本社会の国際化について、政治・外交、経済・企業それぞれの枠組みで整理した上で、その相互作用の帰結について学ぶ。具体的な内容は以下のとおりである。(1) 戦後、めまぐるしく変動する国際環境の中で日本が選んできた外交的選択と国造りの道程を構造的かつ歴史的に理解する。(2) アメリカが中心となって形成した戦後の国際経済秩序とその変容の過程で、日本経済がどのように発展してきたのかを考える。

教科書 /Textbooks

関連資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口悠紀雄著『戦後日本経済史』(新潮社、2008年)
- 橋本寿朗 編『現代日本経済 第3版』(有斐閣アルマ、2011年)
- 三和 良一 編『近現代日本経済史要覧』(東京大学出版会、2010年)
- 五百旗頭真 編『戦後日本外交史 第3版補訂版』(有斐閣アルマ、2014)
- その他、関連文献は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 戦後日本外交とは何か【平和主義】【基地国家論】【冷戦】
3. 占領下日本の「外交」【占領政治経済】【日米関係】【逆コース】
4. サンフランシスコ講和条約と戦後体制の成立【講和条約】【戦後秩序】
5. 日本の戦後処理(賠償)【賠償】【請求権】【経済協力】
6. 日米同盟の成立とHub and Spoke体制の展開【安全保障】【日米同盟】【沖縄問題】
7. 日韓国交への道程 / 日中国交への道程【脱植民地化】【テタント】【台湾問題】
8. 冷戦後の日本外交【価値観外交】【New Normal】【米中関係】
9. 世界経済の発展と日本の位置づけ【グローバリゼーション】【数字で見る日本経済】
10. 戦後復興と冷戦構造【封じ込め戦略】【ブレトン・ウッズ体制】【日本の経済復興】【ドッジ・ライン】
11. 日本型雇用慣行の形成と高度経済成長のメカニズム【日本型経営】【高度経済成長】【資本の自由化】
12. 戦後秩序の変容と石油危機【ニクソン・ショック】【経済の政治化】【石油危機】
13. 日本企業の多国籍化の変遷と特徴【海外直接投資】【日米経済摩擦】【生産ネットワーク】
14. グローバル化の進展と日本型企業システムの転換【規制緩和】【ICT革命】
15. 地域統合の進展と国家【広域FTA】【安全保障政策】【経済主権】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% (担当者ごと、計2回) テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考書をもとに、事前学習として予習をすること。
事後学習として、復習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

関連文献を自主的によむこと。

キーワード /Keywords

東アジア 安全保障政策 冷戦 戦後復興 グローバリゼーション

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	
		韓国の社会と文化
		ARE010F

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象に向き合うための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、Moodleを利用した日韓の歴史についても学習を深める。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 日韓若者のお互いに対する意識
- 3 韓国のいろは①【韓国ってどんな国？】
- 4 韓国のいろは②【ハングルの仕組みなど】
- 5 グローバル化するK-POP
- 6 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 7 韓国(人)にとって日本(人)とは？
- 8 日本(人)にとって韓国(人)とは？
- 9 韓国における日本大衆文化の受け入れ
- 10 日本における「韓流」史
- 11 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 12 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 13 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 14 日韓の食文化について考える
- 15 まとめ

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (出席レポートや討論への参加) 40%

小レポート20%

期末レポート40%

韓国の社会と文化【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、予め毎回のテーマについて調べ、授業終了後には内容を整理し、各自の「考え」をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ Moodleを利用した小レポート(5回ほど)を必ず提出すること
- ・ 授業開始のチャイムが鳴るまでに着席していること。
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 異文化理解

戦後の日本経済【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	戦後の日本経済の発展過程と特徴を理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本経済が抱える問題を発見し、分析する能力を身に付ける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	日本経済が抱える問題を認識し、解決のための学習を継続する意欲を持つことができる。
	コミュニケーション力		
			戦後の日本経済
			ECN002 F

授業の概要 /Course Description

私たちの思考や行動は、私達が暮らす社会のあり方によって規定されています。そして社会のあり方は、時代とともにこれまで大きく変化してきました。

特に社会のあり方に大きな影響を与えてきたのが「経済」です。

「経済」とは、私達が生きていくために何か価値あるものを作り、それを他者と交換することで生活の糧を得ることを意味します。つまり「経済」とは、働き収入を得て消費するという、日常の暮らしそのものを指しています。

こうした人々の暮らしが大きく変化する度、社会のあり方が変わり、その結果、人々の思考や行動も変化してきました。

この講義では、この事実を、実際の「経済」の歴史を通じて理解していただきます。

そのうえで、特にここでは、「現代人」の社会、暮らし、思考や行動のあり方に極めて大きな影響を及ぼした「高度経済成長期」（1950年代後半から1970年代前半）に注目します。

そしてここで、人々がどのような暮らしを手にし、いかなる思考や行動をするようになったのかを考えます。

また、「高度経済成長」以後の暮らしの変化にも着目することで、現代に生きる私たちが「当たり前」と思い抱いている価値観や行動様式が、いつどのような経緯で浸透していくこととなったのか、その歴史についても、「経済」を通して考えてみたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

戦後の日本経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 I. 現代社会の理想と現実
 - 1. 現代の若者の就職と結婚
- 第3回 2. キャリア形成を巡る理想と現実
- 第4回 II. 戦後文化の担い手
 - 1. 「高度経済成長」とは何か
- 第5回 2. 文化的主体としての「団塊の世代」
- 第6回 III. 「高度経済成長」への道程
 - 1. 戦後の人口問題と経済成長の蓋然性
- 第7回 2. 「高度経済成長」と「人口ボーナス」
- 第8回 3. 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 IV. 戦後家族モデルの成立
 - 1. 「豊かさ」の象徴
- 第10回 2. 「上昇志向」の時代と日本人の生活意識
- 第11回 3. 日本人の理想とモデル - 「ミッチーブーム」と「象徴天皇」 -
- 第12回 V. 「ロストジェネレーション」
 - 1. 「幸せモデル」の確立
- 第13回 2. 「高度経済成長」の終焉と「団塊ジュニア」
- 第14回 3. 「失われた20年」と「ロストジェネレーション」
- 第15回 VI. 価値観・ライフスタイルの変化

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジユメを配布します。配布済みのレジユメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジユメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 高度経済成長 団塊の世代

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

近代では倫理は「倫理学」として独立した分野になっていますが、洋の東西を問わず、倫理・道徳は宗教（聖）、政治的共同体と密接な関係をもっています。また西欧においては、道徳的なものは美をもつとされ、「美しき魂」「美しき国家」の理想がとくにドイツ思想において重視されてきました。

この講義では、倫理・道徳と宗教（聖）、倫理・道徳と自然法、倫理・道徳と美（芸術作品）との分裂や融合のせめぎ合いの歴史を、近代の思想をたどることによって、明らかにします。そのことによって、現代において、法や社会を見る目が涵養され、自分がどのように行動し、判断すればよいかの「判断力」を養成する一助となることをめざします。

教科書 /Textbooks

各講義でレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN：カール・シュミットと「中立性の時代」
- 第2講 第1部 聖と善の分離
 - (1) ルター：宗教の内面化
- 第3講 (2) ホッブズ：宗教と国家の分離、「暗黒の王国」と宗教的権威に変わる「主権」=「可死の神」
- 第4講 (3) スピノザ：民衆の道徳としての宗教、『神学・政治論』
- 第5講 (4) カント：理論論を超える理性宗教、『理性の限界内における宗教』
- 第6講 (5) フィヒテ：理性宗教の確立「生きた道徳法則が宗教」

- 第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい
 - (1) ルソー：自律道徳のための法としての『社会契約論』
- 第8講 (2) カント：自由と法、「理論と実践」
- 第9講 (3) フィヒテ：フランス革命の哲学と『自然法の基礎』
- 第10講 (4) カール・シュミット：主権の不可侵性、「政治神学」

- 第11講 第3部 美と人倫、「美しき共同体」を求めて
 - (1) カント：美と目的論、『判断力批判』
- 第12講 (2) シラー：美と人倫、『カリアス書簡』と『美的教育書簡』
- 第13講 (3) ヘルダーリン：精神の詩学、『ヒュペーリオン』と『エンペドクレス』
- 第14講 (4) マルクス：物象化とコミュニケーション主義としてのコミュニズム
- 第15講 (5) ウィリアム・モリス：美と工芸のコミュニズム

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート60パーセント。講義の中でのリフレクション・カード40パーセント。

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、参考文献を挙げるので、取捨選択して読んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

交通機関の遅れなどやむをえない場合（要証明書）を除いて、30分を超えての遅刻入室は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい授業を心がけます。質問、議論を歓迎します。

キーワード /Keywords

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 康士 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本史
			HIS110F

授業の概要 /Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？ それは単に過去の出来事を暗記するだけのことで、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。

この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？ —過去・史料・歴史家—
- 第3回：ヒトはどこから来たのか？ —人類の拡散と日本列島—
- 第4回 狩猟採集経済と農耕経済 —気候変動と縄文・弥生人—
- 第5回：前方後円墳とヤマト王権 —初期国家の成立—
- 第6回：古代国家と天皇 —東アジアの律令国家—
- 第7回：日本の中世国家 —分権化する国家と社会—
- 第8回：越境するヒトとモノ —銭貨・倭寇・鉄砲—
- 第9回：世界史のなかの「近世」 —東アジアにおける伝統社会の形成—
- 第10回：歴史人口学の世界
- 第11回：結婚と離婚 —歴史のなかの男と女—
- 第12回：貨幣からみる近世社会
- 第13回：日本の「近代」
- 第14回：「日本人」と戦争
- 第15回：まとめ —「歴史」を学ぶということ—

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（50%、小レポートなどを含む）、期末試験（50%）によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、西暦1～3世紀の中国、すなわち新・後漢時代から三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦漢史概説(1) -「皇帝」の誕生-
 - 4回 秦漢史概説(2) -前漢の盛衰-
 - 5回 新の王莽
 - 6回 後漢前期(1) -光武帝-
 - 7回 後漢前期(2) -明帝-
 - 8回 後漢前期(3) -章帝・和帝-
 - 9回 後漢後期(1) -安帝・順帝-
 - 10回 後漢後期(2) -桓帝・靈帝-
 - 11回 後漢分裂と「三世紀の危機」 -『三国志』の虚実-
 - 12回 魏の曹操
 - 13回 蜀の劉備と呉の孫権
 - 14回 三国鼎立と邪馬台国の外交
 - 15回 まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・80% 日常の授業への取り組み・・・20%

*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

東洋史 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、授業を集中して聞き、適宜ノートを取る。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。定期試験の際にはノートや配付資料の持ち込みは認めないので、意欲のある学生の受講を期待する。

講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 嶋谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人文地理学の基礎(1) 地理学の体系
- 第2回 人文地理学の基礎(2) 地理学の歴史、地域概念と重力モデル、環境決定論と環境可能論
- 第3回 人文地理学の基礎(3) 様々な距離、時間地理学、空間認識
- 第4回 社会・文化と地域(1) 言語と地域
- 第5回 社会・文化と地域(2) 町並み保存
- 第6回 経済発展と人口移動(1) 近世・近代日本の都市発展
- 第7回 経済発展と人口移動(2) 現代日本の都市発展
- 第8回 都市構造と都市システム(1) 世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
- 第9回 都市構造と都市システム(2) 都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
- 第10回 都市構造と都市システム(3) 都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
- 第11回 都市構造と都市システム(4) 都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
- 第12回 産業立地と集積(1) チェーンストアの配送と立地
- 第13回 産業立地と集積(2) 産業集積、企業城下町
- 第14回 産業立地と集積(3) コンテンツ産業の集積
- 第15回 産業立地と集積(4) 空間分業

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(80%)、ミニレポート(20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

土地地理学【昼】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を示すための地図が必要になってきます。この科目では、地理学の言語ともいわれる地図を通じて、基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観 【地図を読む楽しみ】
- 7回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 8回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 9回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 10回 地形図を利用して景観を読みとる1(実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる2(実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 12回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 13回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 14回 衛星データを利用して地表の環境を調べる
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor 外戸保 大介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

グローバル化と情報化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。本年度は、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松原 宏編 『先進国経済の地域構造』 東京大学出版会 2003年 4,800円
平岡昭利編 『地図で読み解く日本の地域変貌』 海青社 2008年 3048円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 欧米地誌(1) ヨーロッパ総論(1) : ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
- 第3回 欧米地誌(2) ヨーロッパ総論(2) : ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
- 第4回 欧米地誌(3) イギリス地誌
- 第5回 欧米地誌(4) ドイツ地誌
- 第6回 欧米地誌(5) スペイン・フランス地誌
- 第7回 欧米地誌(6) イタリア・北欧地誌
- 第8回 欧米地誌(7) ベネルクス・スイス地誌
- 第9回 欧米地誌(8) アメリカ合衆国地誌
- 第10回 日本地誌(1) 近世城下町の変容 : 島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
- 第11回 日本地誌(2) 干拓地域の変容 : 山口県防府市、県庁所在地の変容 : 宮崎県宮崎市
- 第12回 日本地誌(3) 軍事都市の変容 : 広島県呉市、熊本県熊本市
- 第13回 日本地誌(4) 鉱業地域の変容 : 福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
- 第14回 日本地誌(5) 港湾都市の変容 : 山口県下関市
- 第15回 日本地誌(6) 工業都市の変容 : 福岡県北九州市

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の前後に適宜予習復習を行うこと。
高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本国憲法の意義を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	憲法的事象について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	主権者たる市民として必要とされる責任を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	憲法に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本国憲法
			LAW120F

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法に関する基本的な考え方を学ぶ。
受講対象者を考慮して、日本国憲法全体を通観するのではなく、いくつかの重要テーマを取り上げて講義する中で、憲法学の基本的な考え方や社会との関係などを学べるように努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
適宜、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 駒村圭吾編『プレステップ憲法 第2版』(弘文堂、2018年)
- 斎藤一久・堀口悟郎編『図録 日本国憲法』(弘文堂、2018年)
- 芦部信喜『憲法 第7版』(岩波書店、2019年)
- 長谷部恭男『憲法 第7版』(新世社、2018年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か①-国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②-民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①-平和主義と「正しい」戦争
- 第4回 平和主義②-日本国憲法の平和主義
- 第5回 表現の自由とその限界①-表現の自由の保障根拠
- 第6回 表現の自由とその限界②-規制の根拠と手段の妥当性
- 第7回 自己決定権とは何か①-憲法上の根拠と内容
- 第8回 自己決定権とは何か②-生命の自己決定?
- 第9回 自己決定権とは何か③-安楽死・尊厳死法制化の是非
- 第10回 議院内閣制①-国会と内閣の関係
- 第11回 議院内閣制②-国会の制度と運営
- 第12回 議院内閣制③-国会と選挙制度
- 第13回 憲法と死刑制度①-日本国憲法と死刑制度
- 第14回 憲法と死刑制度②-立法政策上の諸課題
- 第15回 全体まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による(100%)。

日本国憲法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記参考書をはじめ、授業内容の理解に有益な読書を行ったり、講義内容を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 立憲主義 基本的人権 統治機構

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 メンタルヘルスに関する基礎知識(2)【問題の種類、よくある誤解】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第5回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【大人】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第7回 精神と行動の異変(2)【精神疾患】
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

メンタル・ヘルスI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションを Moodle 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健学

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。

スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウエイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 50%
レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は文献等で再度復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義・実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身体活動をととして理論と実践を学びます。
積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

健康・安全・衛生

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルス I	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 ソフトバレーボール(実習)【主体性】
- 4回 ストレッチの理論(講義)
- 5回 ストレッチの実際、ゲーム(実習)
- 6回 生活習慣病の予防と対策(講義)【体脂肪】
- 7回 生活習慣病の予防と対策(実習)
- 8回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 9回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 10回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン、ショートテニス)(実習)【スポーツマンシップ】
- 11回 これからの運動①(心臓の予備力、体力の変化)(講義)
- 12回 これからの運動②(体力の維持・向上、継続性)(講義)
- 13回 スポーツ実施の心理的効果(講義)
- 14回 スポーツ実施の心理的効果(実習)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらう。それらの講義を聴講して、以下の3点の習得を目指す。

- ・生活に必要な考え方や自己管理に関する学びを具体的に表現することができる。
- ・今後の人生に必要な考え方を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- ・授業に参加して感じた疑問点を表明することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 社会人のマナー
- 3回 選挙・まちづくり
- 4回 災害への備え
- 5回 犯罪防止
- 6回 自転車の交通安全
- 7回 消費者トラブル
- 8回 大学生とお金
- 9回 身体の健康
- 10回 心の健康
- 11回 ハラスメント防止
- 12回 消防と救急
- 13回 薬物乱用
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ほぼ毎回実施する課題レポート ... 70%
授業中に行う質疑応答 ... 10%
まとめレポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて学習し、提出用のレポートを準備しておくこと。業終了後には、授業中に学んだことを振り返り、課題レポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

授業の開始前と終了後に出席確認を行うので、ICカード学生証を毎回忘れずに持参し、指示に従って正しく読み取り操作を行うこと。また、入学式で配布される資料や北九州市立大学Webサイト上の「学生生活・就職」のページを参照すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。このため、以下の注意点に留意すること。

- ① 第1回目の授業に出席すること。受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、第1回目の授業中に説明する。
- ② 遅刻することなく、毎回授業に出席すること。授業計画や授業内容等は、外部講師の都合により、変更になる可能性がある。その場合は、その都度授業中に説明する。
- ③ 質問や相談等は、指定する担当教員に行うこと。多くの外部講師が担当する授業になるため、担当教員が代表して窓口となる。毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～13回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 14回 スキル獲得テスト②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
 - 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
 - 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
 - 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
 - 6回 サッカー(パスの基礎練習)
 - 7回 サッカー(シュート・連携)
 - 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
 - 9回 サッカー(ゲーム②)
 - 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
 - 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
 - 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
 - 13回 ソフトボール(ゲーム①)
 - 14回 ソフトボール(ゲーム②)
 - 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
 授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 梨羽 茂
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ゲーム法の解説
- 9回～14回 ゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 下釜 純子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
フィジカル・エクササイズ I HSS081F			

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体作り運動
- 3回 体幹トレーニング
- 4回 体のバランスを意識した運動 (ストレッチ・バランスボール)
- 5回 ヨガ
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 10回 バasketボール (1) ドリブル、パス、シュートの基礎練習
- 11回 バasketボール (2) ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【トレーニング】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動 (走る (ラン)・跳ぶ (ジャンプ)・投げる (スロー))
- 3回 ボールに慣れる (ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習 (レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習 (2対1)
- 6回 応用練習 (3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフense・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ (ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ (速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム (1) ゾーンディフェンス (2 - 3)
- 12回 ゲーム (2) ゾーンディフェンス (2 - 1 - 2)
- 13回 ゲーム (3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム (4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 1単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 実技
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 松田 晃二郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、ラケット種目の実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 テニスの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 サーブ・ボレー練習
- 4回 テニスゲーム①
- 5回 テニスゲーム②・スキル獲得テスト
- 6回 バドミントン基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー・ドロップ)
- 7回 バドミントンルール説明・ゲーム①
- 8回 バドミントンゲーム②
- 9回 バドミントンゲーム③
- 10回 スキル確認テスト
- 11回 卓球基本練習 (サーブ・ラリー継続)
- 12回 卓球ルール説明・ゲーム①
- 13回 卓球ゲーム②
- 14回 スキル獲得テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ラケット種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。
テニスは基本的グラウンドで実施します。雨の日は室内で実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

また、フェアプレーも学びます。

教科書 /Textbooks

授業時間に必要な資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

時速400キロ・フェアプレー

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生生活をより充実させるための授業です。その為に、自己理解やコミュニケーションスキルの向上が必要と考えます。また、大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ① 様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ② 将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③ コミュニケーションをとることに慣れる
- ④ 社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤ 自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 全体ガイダンス 【講師紹介、全体計画、授業形式紹介等】
- ② キャリアデザインがなぜ必要なのか? 【トークセッション】
- ③ SDGs 【これからの社会のキーワードSDGsの本質】
- ④ わたしのキャリアI 【企業で働く】
- ⑤ わたしのキャリアII 【個人で働く】
- ⑥ わたしのキャリアIII 【自分で事業を興す】
- ⑦ これからの日本社会をとりまく環境 【このままだと日本はどうなる】
- ⑧ 自分の頭で考えよう 【言われたことをやるだけの時代ではない】
- ⑨ 見える資産・見えない資産 【自分ブランディング】
- ⑩ ビジネスについて知ろう 【ビジネスとは何か】
- ⑪ キャリアの転機とエンプロイアビリティ 【社会が求める人物とは】
- ⑫ リーダーシップの重要性 【全員がリーダーシップを発揮する】
- ⑬ 自分の価値観を知ろう 【自分の強み、弱みなど】
- ⑭ 将来のキャリアを考えよう 【自己分析と未来分析】
- ⑮ 全体まとめ、ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下を守ってください。

①遅刻厳禁②飲食禁止③作業時間は守る④授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑤グループワークでは積極的に発言する⑥周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑦分からないことは聞く⑧授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 充実した大学生活（新生活）のためのリスクマネジメント
- 3回 大学の「使い方」
- 4回 「理想」の大学生活・・・なんてあるの？
- 5回 ゲストスピーカーによるご講演（世界の果てで子どもを救う）
- 6回 大学での勉強、どうする？
- 7回 健康的な大学生活（セルフカウンセリングについて）
- 8回 自分の可能性を広げるために
- 9回 「自分」はだれか？
- 10回 かわいい子には「旅」をさせる・・・べき？
- 11回 ゲストスピーカーによるご講演（国際キャリアのつくりかた）
- 12回 変わりつつある世界の中でどう生きるか
- 13回 ゲストスピーカーによるご講演（他者のために生きる人生）
- 14回 ようこそ先輩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業内レポート50% 課題レポート50%

キャリア・デザイン 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後は、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・。具体的には大学生の本分である学びの深掘、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

< 進め方 >

まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしてください。

< 目標 >

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決力などを身に付け、社会が必要とする創造力を発揮できる基礎を身につけること。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜資料をMoodleにアップしますので、印刷して精読し、持参してください。特に事前課題が含まれる時には、その課題をこなしていないと授業に参加できませんので注意してください。

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
 - 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
 - 大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
 - 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
 - モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
 - エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
 - 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
 - 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
 - 香取一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
 - 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
 - J.D.克蘭ボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
 - スブツニ子!『はみだすカ』宝島社
 - アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
 - リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
 - リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
 - 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
 - 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・社会で求められる力
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 幅広い視野・柔軟性を身につけるには(先輩登壇)
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 働くということ(社会人登壇)
- 8回 新しい仕事を創る(ジョブスタ)
- 9回 ケーススタディワーク(酒造メーカーの改革)
- 10回 自分らしい就職活動をするには(卒業生・内定者登壇)
- 11回 企業団体研究(面白い企業団体を知る)
- 12回 計画された偶発性(幸運は準備とチャンスの交差点)
- 13回 ロールモデルインタビュー(社会人を取材する)
- 14回 ロールモデルインタビュー(先輩を取材する)
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(予習・復習・メンバーからの相互評価)・・・78%
インタビューレポート・・・13%
最終レポート・・・9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> Moodleに予習・相互評価・復習を掲示しますので毎週締め切りまでに行ってください。
<インタビューレポート> 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

- 【基本事項】**
 ※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
 ※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
 ※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。
- 【履修者調整について】**
 ※グループワークの質を維持するために、受講人数の上限は160名とします。もし、上限を超える時は、1年生を優先とします。ただし、160名以内であれば2年生以上も受講できます。また、160名を超えた場合は、1年生であっても受講者数調整の対象になります。
 ※第1回の授業で受講人数を確認します。よって、第1回の授業に欠席した学生は履修できません(私のコマの中であれば、160名を超えない限り移動は可能です)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティア活動などが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。よって、できるだけ早くそれらに挑戦してほしいのですが、そもそも「何がやりたいのか?」がわからなければ、探すことも選ぶこともできません。ゆえに、

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代に寝食を忘れて取り組むテーマを見出してもらう仕組みと、そのために必要な力が獲得できるように設計しました。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全

実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
			プロフェッショナルの仕事 I
			CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1. 企業団体の概要（現在および今後の方向性について）
2. 仕事の概要（大卒の1年目、3年目、そして5年目の社員・職員が就く仕事内容と、仕事のやりがい）
3. 大学時代にすべきこと・してほしいこと
4. 学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

<進め方> 講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。原則、当日企業団体のパンフレットを配布します（用意できない時もあります）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です(敬称略・順不同)。

<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグヴ・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

<2018年度> ファミリア、日本航空(JAL)、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構(JAXA)

<2017年度> サニーサイドアップ、ジンス(JINS)、JR九州エージェンシー、全日本空輸(ANA)、日本放送協会(NHK)、キャメル珈琲(カルディ・コーヒーファーム)、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス(モスバーガー)、日本たばこ産業(JT)、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州

<2016年度> 電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス(一風堂)、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造(獺祭)

<2015年度> ムーンスター、日本放送協会(NHK)、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構(JAXA)、九州旅客鉄道(JR九州)、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空(JAL)、ニトリ、北九州市

<2014年度> ストライプインターナショナル(earth music & ecologyなど)、北九州市、ジンス(JINS)、東急ハンズ、ハウステンボス、朝日新聞社、日本アクセス、東京海上日動火災保険、JTB九州、アイ・ケイ・ケイ、伊藤忠エネクス、山口フィナンシャルグループ(山口銀行・北九州銀行・もみじ銀行)、再春館製薬所、全日本空輸(ANA)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習...91%
最終レポート...9%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習(予習)を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り(復習)を提出すること。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数の確認を行いますので必ず第1回は出席するようにしてください。
やむを得ない事由で欠席する場合はメールで事前にお知らせください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話いただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。なお、旧授業名は「プロフェッショナルの仕事2」。

<進め方> 以下の流れで企業団体（3団体）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1. 企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2. 提示された課題についての解決プランを作成します。
3. 企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4. フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5. 企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- 大嶋祥誉『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- スブツニ子!『はみだすカ』宝島社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンスと課題解決のノウハウ(その1)
- 第02回 【団体A】課題の提示とチームビルディング
- 第03回 【団体B】課題の提示とチームビルディング
- 第04回 【団体C】課題の提示とチームビルディング
- 第05回 クリエイティブシンキングのノウハウ
- 第06回 相談日
- 第07回 【団体A】中間発表とフィードバック
- 第08回 【団体B】中間発表とフィードバック
- 第09回 【団体C】中間発表とフィードバック
- 第10回 課題解決のノウハウ(その2) ※各班の発表を題材に
- 第11回 プレゼンテーションのノウハウ
- 第12回 相談日
- 第13回 【団体A】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第14回 【団体B】最終発表と総合評価、フィードバック
- 第15回 【団体C】最終発表と総合評価、フィードバック

※参考

<2019年度の企業団体と課題>

■TOTOインフォム株式会社

社員が安心して働ける職場を実現するには?

■アイ・ケイ・ケイ株式会社

今までにない感動を体感できるウェディングとは?

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

<2018年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

毎日見なくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには?

■株式会社タカギ

タカギの資産を利用した新提案

■株式会社スターフライヤー

新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(リフレクション)・・・56%

最終発表に対する評価(企業団体からの評価と相互評価)・・・30%

最終レポート・・・14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意 /Remarks

※第1回で履修人数を確認しますので、必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員(mitate@kitakyu-u.ac.jp)までメールで連絡をしてください。

※第2~4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み(授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など)による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員(職員)からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

プロフェッショナルの仕事II【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません(受け入れ企業団体が少ないため)。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

地域の達人【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	社会人からキャリアを構築するための思考様式、行動様式について学ぶ。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し実践し続けることができる。
	コミュニケーション力		
		地域の達人	CAR212F

授業の概要 /Course Description

この授業のコンセプトは、「もうひとつの名刺を持つ」

- ・ 会社組織やNPO法人などで、仕事として社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 仕事以外で社会貢献・地域貢献活動を行っている方
- ・ 雇われないで個人として仕事をしている方
- ・ 会社やお店を営んでいる方

このような社会人をお招きし、以下の点についてお話していただきます。

- ①どんな活動をしているのか
- ②活動のねらい、社会的意義、成果
- ③活動するときに乗り越えた壁
- ④人、組織をどう動かすのか
- ⑤将来ビジョン

企業に雇われて働くというキャリアが唯一のキャリアではありません。
また、パラレルワークや副業など、様々な働き方が広がってきています。
この授業ではサラリーマン以外の道を歩まれている方から、
自分でやること、社会や地域のためにやるべきこと、リーダーシップなどを学びます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

地域の達人【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回～13回 地域の達人によるお話
第14回 達人を振り返る
第15回 まとめ

【これまでの登壇者】

海外ボランティアNPO法人代表、ソーシャル大学学長、公務員、ボーカリスト、障がい者自立団体代表、銀行員兼産学連携コーディネーター、照明デザイナー、物流・運送会社社長、総合交通産業社長、サラリーマン兼ギタリスト、IT企業起業家、不動産会社社長、まりづくりプロデューサー、教育NPO代表、といった方に登壇いただきました。どの「達人」も仕事かどうかにかかわらず、「社会に役立つこと」を考え、強い想いの下に実践をされている方ばかりでした、今回も昨年度と同様に「熱い達人」たちをゲストにお招きする予定です。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に話者について調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分のキャリアや将来展望にどのような影響があったのかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

外部から講師をお招きします。遅刻や授業途中の入退室はしないでください。
授業開始前までに予告された情報をもとに、登壇者について事前に調べておいてください。授業終了後にはお話をお聞きする中で生じた疑問について各自で調べ、疑問を解消するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

facebookに『地域の達人』ページを開設しています。予告とアーカイブを掲載していますので、確認しながら授業を受講してください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、働く意味や意義について理解してもらうための授業を企画する。また、ゲスト講師が自らの地域でのキャリアについて語ることで、学生のキャリア意識を醸成する。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、地域貢献、社会貢献、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネス、会社経営、起業、キャリア、まちづくり、個人事業主、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「11. まちづくり」

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。

- ・ サービスラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービスラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス 講義の目的、受講に当たっての留意事項の説明、レポート課題の説明
- 第2回目 サービスラーニング概論①(サービスラーニングという概念と考え方)
- 第3回目 サービスラーニング概論②(サービスラーニングの理論と実践)
- 第4回目 地域活動概論①(地域活動の紹介)
- 第5回目 地域活動概論②(コミュニティワークの紹介と応用)
- 第6回目 地域活動参加学生とのワークショップ①
- 第7回目 地域活動参加学生とのワークショップ②
- 第8回目 サービスラーニング活動の紹介
- 第9回目 サービスラーニングに向けて①(マナー・ルール・手続き等について)
- 第10回目 サービスラーニングに向けて②(サービスラーニングを通じた学びへの姿勢)
- 第11回目 実践報告①
- 第12回目 実践報告②
- 第13回目 実践報告③
- 第14回目 実践報告④
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

サービスラーニング入門I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加を前提としています。したがって受講生は、自ら「サービス・ラーニング」を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉と了解を得、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義は受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、この科目の履修するにあたっての思いや学びに向けた考えなどを「事前レポート」（1500字程度）を書いてもらい、それを第二回目の講義の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。本講義は、こうした課題などに積極的にコミットする受講生を求めています。さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。	
			サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきをえられることを期待します。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- 3 サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- 4 サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- 5 サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- 6 サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- 7 サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 8 計画発表会①
- 9 計画発表会②
- 10 実践報告①
- 11 実践報告②
- 12 実践報告③
- 13 実践報告④
- 14 受講生による振り返り
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55点) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45点) = 合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

サービスラーニング入門II【昼】

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

担当者名 /Instructor 読売新聞西部本社、基盤教育センター 永末 康介

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講 I
			SPL001 F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズに身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

この授業では、社会を映す鏡として生きた教材になる新聞を活用し、将来の就職活動や社会人生活に役立つ「読む力」「書く力」「話す(伝える)力」とともに、時事問題の知識や教養を身につけます。グループワークも実施し、物事を深く考えて企画する力も身につけられるようアシストします。様々な学部の学生が集まり、共に学ぶことができる講座です。

新聞を活用した演習やクイズを実施して、文章添削も行う予定です。

教科書 /Textbooks

教材として授業時に新聞を配布します(教材費は1,000円以内の予定)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

図書館にある読売新聞以外の新聞なども活用する予定です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 新聞の基本的な読み方とまわしよみ新聞の作り方、グループ分け
- 第2回 新聞のちから①まわしよみ新聞を基にテーマを選択
- 第3回 新聞のちから②テーマと疑問点を詰める
- 第4回 新聞のちから③文章の書き方(基礎編)
- 第5回 新聞のちから④文章の書き方(応用編)
- 第6回 新聞のちから⑤模擬取材体験
- 第7回 新聞のちから⑥取材結果をまとめる
- 第8回 新聞のちから⑦発表と講評
- 第9回 社会人基礎力養成①深く考える力を高める新聞の読み方
- 第10回 社会人基礎力養成②課題解決へ思考を深める
- 第11回 社会人基礎力養成③課題解決へ思考を深める
- 第12回 社会人基礎力養成④課題解決へ思考を深める
- 第13回 社会人基礎力養成⑤就活突破と新聞活用術
- 第14回 まとめ①「わたしたちの新聞」作成
- 第15回 まとめ②「わたしたちの新聞」発表と講評

教養特講I (教養を磨く『新聞のちから』) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に関する作業の取り組みの度合いで総合的に判断します (100%)。
詳しくは 1 回目の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

新聞を活用します。
就職活動に役立ちそうな簡単な演習などを課題として出題する予定です。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や講義の進捗に応じて授業計画等が変わる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新聞社、大学、若い皆さんが力を合わせ、楽しみながら社会に通用する実践力を身につける講座にしたいと考えています。
新聞報道の現場経験者が、その経験を活かしながら「読む力」「書く力」「話す力」「考える力」を向上させる授業を担当する。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、新聞、メディア、現代社会、情報リテラシー、就職活動、社会人基礎力、実務経験のある教員による授業

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			教養特講II
			SPL002 F

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないが、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そこで、「フェアトレード」「ファスト・ファッションとエシカル・ファッション」「紛争鉱物とエシカル・スマホ」「使い捨てプラスチック」「100円ショップ」「フードロス」「アニマルウェルフェア」を具体的な事例として取り上げ、倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機としたい。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。

- 子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
- アジア太平洋資料センター編『徹底解剖100円ショップ』コモンズ、2004年。
- 末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か?
- 第2回 【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)前半の鑑賞
- 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』(DVD)後半の鑑賞、論点整理
- 第4回 ファッション、綿花栽培に関するディスカッション
- 第5回 【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第6回 『Food Inc.』(DVD)前半の鑑賞
- 第7回 『Food Inc.』(DVD)後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第8回 【フードロス】『0円キッチン』(DVD)の観賞
- 第9回 【プラスチック】ペットボトル、マイクロプラスチック、論点整理、ディスカッション
- 第10回 【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD)の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第11回 【100円ショップ】『徹底解剖!100円ショップ』の鑑賞、論点整理、ディスカッション
- 第12回 【フェアトレード】『もっと!フェアトレード』(DVD)の鑑賞
- 第13回 フェアトレードの展開、役割、課題
- 第14回 【動物の権利保護(アニマルウェルフェア)】
- 第15回 まとめ

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

7回のレポート(70%)、エッセイ(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、DVDを観賞した後は必ずレポート(A4一枚程度)を課しますので、振り返りをしてください。また、学んだことを実生活で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」

「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」

「SDGs 17. パートナーシップ」

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の文化と歴史を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の文化と歴史を知ることを通じ、地域の特長・課題を分析・考察できるようにする。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	北九州・下関地域など、自ら関わる地域の文化や歴史に対して継続的に関心を持つ意欲を涵養する。
			地域の文化と歴史
			HIS170F

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の文化と歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》原始の地域
- 第 4 回： 《歴史》古代の地域
- 第 5 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 6 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 7 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 8 回： 《歴史》戦前・戦中・戦後復興期の地域
- 第 9 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇
- 第 12 回： 《文化》地域の文学① 【総論】
- 第 13 回： 《文化》地域の文学② 【各論】
- 第 14 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 15 回： 《文化》地域の文化財

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：前年度のゲストの所属組織等（今年度も概ね同様の予定）（順不同）

《北九州市文化企画課、北九州市世界遺産課、北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市立松本清張記念館、下関市教育委員会文化財保護課、下関市立土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム、下関市立歴史博物館》

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み（授業中に課すミニレポート等）： 30%
- 中間レポート： 35%
- 期末レポート： 35%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べたり、北九州・下関地域の各種ミュージアム等を実際に見学したりして理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。
中間・期末レポートの提出には原則としてMoodleを使用する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域の社会と経済【昼】

担当者名 /Instructor 柳 永珍 / RYU Young-Jin / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域の社会と経済
			ECN170F

授業の概要 /Course Description

地域活性化や地域再生が日本における重要なキーワードになっている中、皆さんにおいて「地元」という言葉はどのように響くのか。1つの地域に愛情を持って、真剣に学習してみることは、自分の地元を考える良いきっかけとなる。この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自らの意思で考えることを目指している。本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストスピーカーとして招き、北九州・下関地域出身者、地域外出身の双方にとって学びとなるお話をいただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：北九州の産業・社会
- 第3回：北九州市政と市民
- 第4回：人口でみる北九州地域の概況
- 第5回：下関地域の概況と北九州との関係
- 第6回：人口でみる北九州地域の産業構造・経済
- 第7回：データでみる北九州地域の社会・生活
- 第8回：地域の企業① 【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の企業② 【地元企業関係者等による説明】
- 第10回：地域の企業③ 【地元企業関係者等による説明】
- 第11回：地域の起業環境 【NPO等の専門家による説明】
- 第12回：地域社会とのつながり 【関連活動に参加している団体との座談会】
- 第13回：地域社会を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第14回：地域を新しく考えるための思考 【NPO等の専門家による説明】
- 第15回：まとめ・住みたいまちのために

※講義のテーマ、順番、講師陣については若干の変更があることをご承知おきください。

成績評価の方法 /Assessment Method

九州・下関地域の社会的・経済的特性に対して理解し説明ができること。さらに地域に関する多様な課題について、独自の思考で提言ができること。

・各講義ごとのシヨートレポート(14回)：100%

地域の社会と経済【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って情報収集に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 遅刻、私語は他の受講生やゲストスピーカーの方の迷惑になるため、厳禁とします。
- ・ ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合があります。
- ・ 授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化、
SDGs 8 . 働きがい・経済成長、SDGs11 . まちづくり

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年(2016年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解し、地域に対する愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関する課題を現状に則して把握・分析し、課題解決に向けた方策の検討を行える力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域のにぎわいづくり RDE270F

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、それを踏まえた「にぎわいづくりプラン」を自ら立案すること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2020年度授業の1～12回(予定)は、「スタジアムをいかした地域活性化(にぎわいづくり)」の観点から、日本における先駆的な「まちなかスタジアム」であるミクニワールドスタジアム北九州(愛称:ミクスタ)を題材とし、小倉駅周辺の活性化を視野に入れた「ミクスタ集客プラン」をグループワークで作成する。作成に際し、有識者によるゲスト講話やフィールドワークも実施する。13回以降(予定)は、MICE誘致や観光などのにぎわいづくり政策全般の意義や課題等について事例を中心に学んでいく。

本授業は、北九州市役所、およびギラヴァンツ北九州等の協力のもとで実施する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

・九州経済調査協会『2019年版九州経済白書 ～スポーツの成長産業化と九州経済～』
その他、授業中に適宜紹介する。

地域のにぎわいづくり【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 にぎわいづくり政策の意義①【スポーツツーリズム】
- 第 3回 にぎわいづくりとスタジアム
- 第 4回 Jリーグ・ギラヴァンツ北九州の社会的存在意義と集客戦略、課題
- 第 5回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦①【各種イベントや飲食店舗等の状況視察】
- 第 6回 フィールドワーク ギラヴァンツ北九州試合観戦②【来場者動向等の状況視察】
- 第 7回 プラン作成①【現状分析、課題抽出】
- 第 8回 プラン作成②【アイデア検討】
- 第 9回 プラン作成③【アイデア検討の深化】
- 第 10回 プラン作成④【プランとりまとめ】
- 第 11回 プラン作成⑤【成果物の作成、発表練習】
- 第 12回 集客プラン発表会
- 第 13回 にぎわいづくり政策の意義②【MICE誘致】
- 第 14回 にぎわいづくり政策の意義③【観光振興】
- 第 15回 にぎわいづくり政策に起因する課題への対応等

※ 受講者数、Jリーグの日程、ゲストのスケジュール、天候の状況等に応じ、授業計画を一部変更する場合がある。特に、フィールドワークについては別の手段に変更する可能性がある。変更がある場合、第1回授業において説明する。

※ 第5～6回のフィールドワークは同一日に実施する。日程は10月25日(日)を予定する。その日に欠席する受講者は11月8日(日)に参加すること。いずれかに参加することが原則として必須である。フィールドワークの場所は、ミクニワールドスタジアム北九州(小倉駅から徒歩7分程度)とし、スタジアムまでの交通費、および試合観戦料(500～2,000円程度)は受講者の自己負担となる。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の授業への取り組み(グループワークへの取り組み姿勢等)： 30%
- 集客プランの内容に対する評価： 40%
- 期末レポート： 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

集客プラン作成に関しては、講義時間以外において各自による情報収集(他地域の事例など)・考察や、必要に応じた受講者間の意見交換やとりまとめ作業等が必要となる。メンバーで協議の上、事前・事後学習に計画的に取り組むこと。

また、休日等に小倉駅周辺を散策するなどして、にぎわいづくりのあり方を考えることも事前・事後学習の一助となる。

履修上の注意 /Remarks

原則としてフィールドワークへの参加を必須とする。日程は10月25日(日)を予定する。その日に欠席する受講者は11月8日(日)に参加すること。詳細は第1回授業において説明する。

フィールドワークでは試合観戦料(500～2,000円程度)および小倉駅までの交通費が必要となり、受講者の自己負担となる。

フィールドワークに参加する学生は「学生教育研究災害傷害保険」への加入が必須であり、未加入の学生は各自で必要な手続きを事前に行っておくこと。

グループワークを行う班の分け方については、教員から指定する。

※ 北方・ひびきのキャンパスの一方が休講日として指定予定の11月6日(金)、1月15日(金)については、北方・ひびきの連携である本授業は実施しない予定である。詳細は第1回授業において説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し、現実に即した政策を学ぶことに加え、学生自身が「にぎわいづくりプラン」(2020年度はミクニワールドスタジアム北九州集客プラン)をグループワークで主体的に検討することにより、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や経験を得ることができる授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域企業や行政職員等をゲストに招くとともに北九州市内でのフィールドワーク、グループワークを実施・指導し、実践的・主体的に学生が「にぎわいづくりプラン」作成等に取り組む。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スタジアム、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

北九州市の都市政策【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州市の都市政策全般についての知識を習得し、分野ごとの個別政策について理解を深めることで、地域への愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州市の都市政策を知り、地域の政策課題を見極めることで、課題解決に向けた総合的な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	北九州市の都市政策を知り、現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高めることで、社会的責任と倫理観を持って行動することができる素養を身につける。
	生涯学習力 コミュニケーション力		
			北九州市の都市政策
			PLC270F

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第3回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第4回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第5回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第6回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第7回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第8回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第9回 北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
- 第10回 北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州工コタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の授業レポート：30%
- ・ 期末レポート：70%

北九州市の都市政策 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業特性や現況を認識し、地域企業の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の課題を認識し、論理的に考察・分析を行い、課題解決を図る基礎力を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことを自己認識し、目的意識をもって主体的に行動する力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			まなびと企業研究 I
			CAR270F

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」(3年次)の準備講座としての役割も果たしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステナブル・カンパニー入門:ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック:まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事:未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク!グッドライフ!新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとぴあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2~15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
質疑応答、議論・・・10%

まなびと企業研究I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、こういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 3年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
								○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業実習を通して企業特性や現況を実践的に捉え、地域企業(現場)の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の事象から問題を見抜き、課題を発見し、論理的に考察・分析を行い、解決策を表現することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことに目的意識をもち、主体的に行動することで、成果に結びつく力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域や社会の情勢に関心を抱き、的確に捉え、課題解決のための学びを持続することができる。
	コミュニケーション力	●	自己の考えを他者に分かりやすく説明する意欲を高め、積極的に相互関係を築く力を身に付ける。
		まなびと企業研究II	
		CAR370F	

まなびと企業研究II【昼】

授業の概要 /Course Description

<目的>

北九州市や下関市の企業団体と連携しながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。

2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。これは同時に今までの「就活」が終焉し、それに対応していた従来の「キャリア教育」もゼロリセットされたと考えていいでしょう。従来の就職支援は、3年生は業界研究を皮切りに、夏のインターンシップ、秋からの就職ガイダンス、自己分析、企業研究、エントリーシートや面接対策、そして3年生3月の合説解禁からの選考といった流れでした。しかし、自由化になった以上、いつ、何をするかは、大学や企業団体に決められたルールに乗る必要はもうありません。リクルートキャリア「就職白書2019」によると、「プレエントリー受付」以外は2018年卒を下回る一方で、2018年度のインターンシップ実施率は95.9%となり、2017年度よりも11.3ポイント増加しています。つまり、夏から始まるインターンシップ経由での採用が増えたことを意味しています。また「キャリアタス就活2020 学生モニター調査」(3月1日)によると、エントリーシート提出者は52.0%で、筆記試験受験者は54.6%、面接試験受験者は46.4%と、いずれも前年同期から10ポイント以上増えています。さらに「キャリアタス就活2020 学生モニター調査」(4月1日)によると、2020年春卒業予定の大学生・大学院生の4月1日時点の内定率(内々定を含む)が26.4%と発表。3月1日時点(13.9%)に比べて12.5ポイント、昨年度同時期(18.8%)に比べ7.6ポイント上回りました。これは学生優位の売り手市場が鮮明となるなか、企業の採用活動の前倒しがさらに進んだことを意味します。

以上のように、従来の就職活動より早まっている中、少なくとも5月から始まるインターンシップ募集までに、今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用し、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手(企業団体)を知る」、さらに夏のインターンシップに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方>

形式は問題基盤型学習(Problem-based-Learning)です。履修人数にも寄りますが、グループ単位で授業を進めます。

【個人課題】動画セッション

あらかじめ視聴する動画を指示しますので、各自以下の2点についてまとめておいてください。

1. 動画から学んだこと、
2. その学びを就職活動にどう活かすか? 期間は1週間です。

【グループ課題】シナリオセッション

課題に対し、グループで問題解決のストーリーを考え、役割分担をします。

役割は、1. 文献収集、2. 物語を練る、3. パワポ作成、4. 発表練習も含めた管理など。

授業でパワーポイントを使ってプレゼンします。発表は全員で行ってください。期間は2週間です。

【フィールドワーク課題】フィールドワークセッション

最終プレゼンテーションの課題です。北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、

取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。期間は3カ月です。

※2019年度の例: 不動産中央情報センター、エイチ・アイ・エス、ベンシル、レベルファイブ、西部毎日広告社、田村ビルズなど。

<目標>

1. 自分を知る(自己分析)
2. 相手を知る(企業団体研究)
3. 就職活動のプランを創る

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

課題を解く時の参考にしてください。

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社
- 中原淳・長岡健『ダイアログ対話する組織』ダイヤモンド社
- 高尾隆・中原淳『Learning×Performance インプロ化する組織 予定調和を超え、日常をゆさぶる』三省堂
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房
- デイヴィッド A.プライス『メイキング・オブ・ピクサー 創造力をつくった人々』早川書房
- 本田由紀『教育の職業的意義-若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房
- J.D.クランボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- 赤尾勝己『生涯学習理論を学ぶ人のために-欧米の成人教育理論、生涯学習の理論と方法』世界思想社
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン

まなびと企業研究II 【昼】

参考書(図書館蔵書には) /References (Available in the library:)

- 田尾雅夫『モチベーション入門』日本経済新聞社
- 山崎亮『コミュニティデザイン：人がつながるしくみをつくる』学芸出版社
- スプツニ子『はみだすカ』宝島社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット) -人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュー スコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 中原淳、見館好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 動画セッション① 「時間は限りあるもの」
- 3回 シナリオセッション① アイデンティティ (自分を知る)
- 4回 動画セッション② 「やる気に関する驚きの科学」
- 5回 シナリオセッション② 計画された偶発性
- 6回 動画セッション③ 「成功のカギは、やり抜く力」
- 7回 シナリオセッション③ インターンシップの意義や目的
- 8回 動画セッション④ 「自動化で人間の仕事はなくなるのか？」
- 9回 シナリオセッション④ アイデアの作り方
- 10回 動画セッション⑤ 「将来に備えるために今できること」
- 11回 動画セッション⑥ 「未来を語る (前編・後編)」
- 12回 シナリオセッション⑤ 本気の企業団体研究 (相手を知る)
- 13回 動画セッション⑦ 「社会で働く上で必要なこと」
- 14回 シナリオセッション⑥ 新しい大学生の就職活動
- 15回 最終プレゼンテーション：フィールドワークで何を学んだのか？

※期間中、フィールドリサーチを実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 毎回の授業のプレゼンテーション...75% 最終プレゼンテーション...20% 最終レポート...5%
- ※プレゼンテーションと最終レポートは必須です。
- ※授業および、授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチの参加が必須となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【動画セッション】については、事前に指定する動画を閲覧し、ワークシートを仕上げてください。
- 【シナリオセッション】については、事前に提示する課題をもとに、参考文献の収集およびグループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。
- 【フィールドワーク課題】については、フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。
- なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

- ※第1回目の授業でグループを決めますので、第1回目は必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 本学の学生は、将来のキャリアプランについていろいろ悩んでいると思います。本授業ではその悩みを払拭し、就職活動への見通しを立て、自信をもって本番を迎えられるようになります。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。
- ※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

- キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習
- SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
- 実務経験のある教員による授業

情報メディア演習【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	書籍やインターネット、新聞・雑誌、テレビ・ラジオといったメディアの特性を理解し、そこから得た情報を活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	直面する課題を発見し、分析・解決・表現を自立的に行った結果に対して、省察を行うことができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報メディア演習 INF330F	

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、情報を伝達する媒介・媒質としての情報メディアの特性を概観し、情報メディアが人間社会に与える影響について考える力を身に付けることである。特に、本授業ではソーシャルメディアに着目し、その成り立ちや技術、社会的な課題を学ぶことで、一人ひとりがメディアへの関わり方を考え、人や社会とのつながりを再設計することで、新たなメディア環境を生きていくための力（メディア・リテラシー）を身に付けることを目的としている。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- ソーシャルメディアの歴史
- ソーシャルメディアの現在
- ソーシャルメディアの未来
- メディア・リテラシー
- ソーシャルメディアに対する思考力

本授業では、チューター方式を用いる。すなわち、受講学生が与えられたテーマについて事前に調べ、その内容を授業の中の一部で発表・問題提起する方式である。発表・問題提起された内容を中心に、教員と受講学生とが議論を深めていく。

教科書 /Textbooks

藤代裕之 編著：ソーシャルメディア論 改訂版 - つながり再設計する -、青弓社、2019年、1,800円（税抜）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

情報メディア演習【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：情報メディアとは何か【ガイダンス】【情報メディア】
- 2回目：ソーシャルメディアの登場による影響と問題点【SNS】【マスメディア】【メディア・リテラシー】
- 3回目：思考力向上のためのスキル1【批判的な読み方】
- 4回目：ソーシャルメディアの歴史を知る1【歴史】
- 5回目：ソーシャルメディアの歴史を知る2【技術】
- 6回目：ソーシャルメディアの歴史を知る3【法】
- 7回目：ソーシャルメディアの現在を知る1【ニュース】
- 8回目：ソーシャルメディアの現在を知る2【広告】
- 9回目：思考力向上のためのスキル2【視座図と視点図】
- 10回目：ソーシャルメディアの現在を知る3【政治】【キャンペーン】
- 11回目：ソーシャルメディアの現在を知る4【都市】【コンテンツ】
- 12回目：ソーシャルメディアの現在を知る5【モノ】
- 13回目：ソーシャルメディアの未来を考える1【地域】【共同規制】
- 14回目：ソーシャルメディアの未来を考える2【システム】
- 15回目：ソーシャルメディアの未来を考える3【教育】【人】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題・・・40%、レポート・・・30%、授業への参加態度・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに教科書を読んで、次の授業の内容を必ず理解しておくこと。また、チューター方式で授業を行うので、与えられたテーマについては授業時間外を含めて積極的に学習し、チューターとしての準備をしっかりと行うこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、チューターが終わったあとは、そこから学んだことをレポートとしてまとめること。

履修上の注意 /Remarks

「情報社会への招待」や「情報社会を読む」を受講して、情報社会に関連する知識や技術、情報社会の未来に関する内容をある程度把握していると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、受講生の皆さんの意見や課題の結論等を発表、共有する場面が多くある。積極的に発言してもらいたい。

キーワード /Keywords

ソーシャルメディア、メディア・リテラシー、思考力、アクティブラーニング

英語I (比人1-F) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人1-F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&Rテストの演習を取り込みます。

教科書 /Textbooks

Across Cultures (SANSHUSHA)
(1,700円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方と成績評価について説明
- 第2回 Whose English?
- 第3回 "My mother Isn't Well, Sir."
- 第4回 Your Variety Is Better Than Mine.
- 第5回 Saying Hello
- 第6回 What is the Culture of English?
- 第7回 Where Should I Go to Learn English?
- 第8回 Writing Extremely Short Stories
- 第9回 Who Makes the Best English Teachers?
- 第10回 English Is an Asian Language!
- 第11回 What Is My First Language?
- 第12回 What Does It Mean to Be Bilingual?
- 第13回 When Should We Learn English?
- 第14回 "You Said So!" "No, We Didn't."
- 第15回 What Do People Talk About?

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

(注) 平常点は30%であるが、4回以上欠席した場合、定期試験の受験資格はありません。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

英語I (比人 1-F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は必須条件。予習していない場合は欠席と見なします。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

Chizuko Tsumatori 他著 「First Time Trainer for the TOEIC TEST, Revised Edition」 センゲージ 2200円
TEX 加藤 著 「TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ」朝日新聞出版 890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&基礎力確認テスト
- 第2回 Unit 1 / 文と文型 1
- 第3回 Unit 2 / 文と文型 2
- 第4回 Unit 3 / 文と文型 3
- 第5回 Unit 4 / 時制 1
- 第6回 Unit 5 / 時制 2
- 第7回 Unit 6 / 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Unit 7 / 能動態と受動態
- 第10回 Unit 8 / 現在分詞と過去分詞
- 第11回 Unit 9 / 動名詞
- 第12回 Unit 10 / 不定詞
- 第13回 Unit 11 / 関係詞 1
- 第14回 Unit 12 / 関係詞 2
- 第15回 Unit 13 / 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込む場合があります。

教科書 /Textbooks

北尾泰幸 他著 「一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3」 朝日出版社 ￥1836

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&基礎力確認テスト
- 第2回 Unit 1 Eating Out / 文と文型 1
- 第3回 Unit 2 Travel / 文と文型 2
- 第4回 Unit 3 Amusement / 文と文型 3
- 第5回 Unit 4 Meetings / 時制 1
- 第6回 Unit 5 Personnel / 時制 2
- 第7回 Unit 6 Shopping / 時制 3
- 第8回 中間テスト (2 ~ 7 回までの学習内容の理解度確認)
- 第9回 Unit 7 Advertisement / 能動態と受動態
- 第10回 Unit 8 Daily Life / 現在分詞と過去分詞
- 第11回 Unit 9 Office Work / 動名詞
- 第12回 Unit 10 Business / 不定詞
- 第13回 Unit 11 Traffic / 関係詞 1
- 第14回 Unit 12 Finance and Banking / 関係詞 2
- 第15回 Unit 13 Media / 関係詞 3

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 40% + 期末テスト 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/ リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説と練習問題及び読解問題のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

使用テキスト及びプリントに記載されている英文は、くまなく速読で読めるように、またリスニングであれば、その英文を一度聞いて、正確に意味を把握し書き取れるようになることを学習の到達目標にしてください。それが次の学習ステップにつながってきます。

キーワード /Keywords

英語II (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力、（リスニング力）の向上を目指します。また授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの演習などを取り込む場合があります。後半は物語を味わう。

教科書 /Textbooks

Step-up Skills for the ToEIC Listening and Reading test 2 Yasuyuki Kitao Asahi Press (1700円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1. 単語のテスト
2. Listeningの問題の答え合わせ。
3. リーディングの訳を行う
4. 物語を読む

1回 オリエンテーション

2回 単語のテスト Unit 1 Part 1~7

3回 単語のテスト Unit 2 Part 1~7

4回 単語のテスト Unit 3 Part 1~7

5回 単語のテスト Unit 4 Part 1~7

6回 単語のテスト Unit 5 Part 1~7

7回 単語のテスト Unit 6 Part 1~7

8回 単語のテスト Unit 7 Part 1~7

9回 単語のテスト Unit 8 Part 1~7

10回 単語のテスト Unit 9 Part 1~7

11回 単語のテスト Wicked and Shuddering Tales Chapter 5

12回 Wicked and Shuddering Tales Chapter 8

13回 Wicked and Shuddering Tales Chapter 9

14回 Wicked and Shuddering Tales Chapter 復習

15回 Wicked and Shuddering Tales Chapter 5

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト 25% 宿題 14パーセント 試験 61%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にTOEICスコアが反映される。

反映方法は、オリエンテーションの時に文書を配布し説明する。

英語II (比人 1-G) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、丁寧に予習を行って、出席してください。リスニングは、必ずディクテーションを行い、読解は、訳ができるようになるまで、丁寧に単語を調べてくること。授業の最初に、前週の復習が出来ているのか、質問を行います。

履修上の注意 /Remarks

単語のテストの準備。CDを聞いてDictationをし、必ず予習をしてくる。後半の物語は単語を調べておく。
基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC〈TOEFL〉を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

オリエンテーションの時に指定席を決めます。必ず出席してください。

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor: ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication as well as further develop their skills in line with the demands of purposeful communication tasks. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

英語III (比人 1-F) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムス・ヒックス

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a low-intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

Pathways 1A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56255-3

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Topic 2 – Expansion
- 7回 Topic 2 Presentation Preparation
- 8回 Topic 2 Presentation
- 9回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 10回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 15回 Topic 5 Presentation Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 20%, Homework 15%, Presentations 40%

英語III (比人 1-G) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV (比人 1-F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
20% Powerpoint Presentation
30% Final mini-test
15% Project work
20% Class participation

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

英語V (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC（R）L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

教科書 /Textbooks

Educational Testing Service、公式TOEIC Listening & Reading 問題集 5、国際ビジネスコミュニケーション協会、3,300円、ISBN: 9784906033577

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急銀のフレーズ、朝日新聞出版、979円、ISBN: 9784023316843
TEX加藤、TOEIC L & R TEST 出る単特急金のフレーズ、朝日新聞出版、979円、ISBN: 9784023315686

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction
Week 2: Part 1, Part 2 (1)
Week 3: Part 2 (2)
Week 4: Part 5 (1)
Week 5: Part 5 (2)
Week 6: Part 6
Week 7: Part 7 (1)
Week 8: Part 7 (2)
Week 9: Part 3 (1)
Week 10: Part 3 (2)
Week 11: Part 4 (1)
Week 12: Part 4 (2)
Week 13: Part 4 (3)
Week 14: Listening Section Review
Week 15: Reading Section Review

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%) 及び期末試験 (50%) に基づいて行う。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画欄の各回の授業内容に記載されている教科書の該当ページを、授業前に必ず解答し、学習してくる。この予習を行うことを前提として授業を進めることを了解した上で、授業に臨むこと。教科書の音声は無料でダウンロードすることができますので、必ず予習・復習に活用してください。語彙テストに際しては、計画的に学習すること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。
第1回の授業の前に必ず生協で教科書を購入すること。使用済みの教科書・教科書のコピーは容認されません。
必ず辞書を授業に持参すること。発音を確認するために電子辞書が望ましい。携帯電話を辞書として使用することはできません。
理由なく4回欠席した場合は、単位は取れません。正当な欠席の理由がある場合は、理由を証明する文書 (病院の領収書など) を見せてください。
遅刻3回で、欠席1回の扱いとします。30分以上遅刻した場合は、欠席とみなします。公共交通機関が遅れて遅刻した場合は、必ず遅延証明書を貰ってきて見せてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (比人 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ￥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purshasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

英語V (比人 2-D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1単位 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

- ①PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—「TOEIC L&R TEST パーフェクト演習—改訂新版—」 石井隆之 他著 成美堂 ¥2420(税込)
- ②TOEIC L&R TEST出る単特急金のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Studying Abroad
- 3回 Unit 2 International Conference
- 4回 Unit 3 Holidays
- 5回 Unit 4 Leisure
- 6回 Unit 5 Restaurant
- 7回 Unit 6 Online Shopping
- 8回 Unit 7 Global Warming
- 9回 Unit 8 Web Sites
- 10回 Unit 9 Workplace
- 11回 Unit 10 Nursing Care
- 12回 Unit 11 Global Trading
- 13回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
- 14回 Unit 13 Business Trips
- 15回 Unit 14 Hybrid Cars

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

英語VI (比人 2-C) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI (比人 2-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L&R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。今学期のTOEICスコア目標は、550点以上です。

教科書 /Textbooks

石井隆之他著 Perfect Practice for the TOEIC L&R TEST 成美堂 2200円(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 part 1 & part 5
- 第3回 part 2 & part 6
- 第4回 part 3 & part 7
- 第5回 part 3 & part 7
- 第6回 part 4 & part 7
- 第7回 part 4 & part 7
- 第8回 中間テスト
- 第9回 part 1 & part 5
- 第10回 part 2 & part 6
- 第11回 part 3 & part 7
- 第12回 part 3 & part 7
- 第13回 part 4 & part 7
- 第14回 part 4 & part 7
- 第15回 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20% + 中間テスト 30% + 期末テスト 40% + 日常の授業への取り組み 10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
中間テストはTOEIC問題を出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎日の自己学習は、文法・語法/リーディング/リスニングの3本柱で取り組んでください。毎週、次の授業までにしておく事前の学習範囲は各授業で告知しますが、意識的に時間を作って、授業で学習した箇所の復習(事後学習)にも力を入れてください。また、各授業において、テキストに加えて文法・語法解説のプリントを配布します。授業で精読し意味を確認した後は、事後学習として音読を取り入れた速読練習をしてください。その学習成果が英語力の向上に結びついてきます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業では、これから1学期間の学習方針及び学習計画、成績付けに関わる説明をしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2,420円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1
- 第3回：Education 2
- 第4回：Personal Stories 1
- 第5回：Personal Stories 2
- 第6回：Presentation 1
- 第7回：Style and Fashion 1
- 第8回：Style and Fashion 2
- 第9回：Interesting Lives 1
- 第10回：Interesting Lives 2
- 第11回：Presentation 2
- 第12回：Our World 1
- 第13回：Our World 2
- 第14回：Organizing your time
- 第15回：Presentation 3

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

英語VII (比人 2 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 比人 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力 ●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	その他の言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力 ●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。		
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in one on one debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will allow them to express their opinions and influence others through logical, reasoned discussion.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class. Curriculum is based on class handouts and student generated materials

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Critical Thinking Skills: Agreeing / Disagreeing / Giving Reasons
- 3回 Discussion skills: Starting a Discussion / Matching Ideas / Ending a Discussion
- 4回 Debate Level 1: Stating the Positives in a Pro vs. Pro Debate
- 5回 Debate 1 Presentation
- 6回 Spontaneous Debate Challenge
- 7回 Debate Level 2: Pro / Con Idea Matching & Persuading
- 8回 Structuring a Pro / Con Debate
- 9回 Debate Topic 2 Presentation
- 10回 Spontaneous Debate Challenge
- 11回 Debate Level 3: A Well Informed Debate / Fact vs. Opinion
- 12回 Structuring a Fact Based Debate: Information & Statistics
- 13回 Debate Topic 3 Presentation
- 14回 Final Test Review & Preparation
- 15回 Final Test Review & Preparation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

英語VII (比人 2-D) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to have regular attendance and take part fully in class writing and speaking exercises. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be working closely with group members and will have to fulfill many tasks together. As student absence will affect pair and group success, all students are required to be present and active at all times.

キーワード /Keywords

英語VIII (比人 2 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

現代社会の様々なトピック、例えば、「自然と健康」、「観光公害」、「職場での男女平等」などについて書かれた英文を読みながら、英文法の基礎を復習し、本文の内容理解問題、文法練習問題、ダイアログなど豊富な練習問題に取り組みます。最後は自分で意見を述べられる力をつけていくことを目指します。

教科書 /Textbooks

"Changing Times, Changing Worlds"
Joan McConnell & Kiyoshi Yamauchi 著
成美堂 2020年 2,090円
ISBN: 9784791972074

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』
その他、適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 11回 Chapter 11 All the Lonely People
- 12回 Chapter 12 Think before You Talk, Text, or Tweet
- 13回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 14回 Chapter 14 Helping People with Disabilities
- 15回 Chapter 15 A Special Message まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、出席状況や授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と課題・小テスト・・・35% 期末試験・・・65%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳細については第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ① 指定された課題は必ず提出しましょう。
- ② 音声ファイルをダウンロードして活用しましょう。
- ③ 指定された範囲の予習をして授業に臨みましょう。
- ④ 授業の後は必ず復習をしましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業以外にも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう

キーワード /Keywords

英語VIII (比人 2-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

教科書 /Textbooks

- ① Insights 2020 「世界を読むメディア英語入門2020」 村尾純子 他著 金星堂 ￥2090(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Chapter1 Books! Bring a Bright Future to Children
- 3回 Chapter2 Brew Sake with Fresh Ideas!
- 4回 Chapter3 A Unique Tour Guide
- 5回 Chapter4 A Banana with an Edible Peel
- 6回 Chapter5 Too Crowded to Carry it on our Backs!
- 7回 Chapter6 Monitoring Kid's Phone Use
- 8回 Chapter7 Learn about your Pet Dog at the Museum
- 9回 Chapter8 Dream of Space Tourism Comes True
- 10回 Chapter9 Save the World from Garbage!
- 11回 Chapter10 Manga Featuring the Elderly
- 12回 Chapter11 Why Not Go to Kyoto?
- 13回 Chapter12 To Be More Eco-friendly
- 14回 Chapter13 A Pleasant Night's Sleep at a Capsule Hotel
- 15回 Chapter14 Healthy Lifestyles Discount Premium

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)で本単位の成績を評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席すること。
- ・ 受講に際しては、テキストと辞書を持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

TOEIC 5分間ドリル リスニング3 (マクミラン・ランゲージハウス) ISBN978-4-7773-6258-5 1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|-----------------------|--------------------------|
| 1回 | はじめに 英語を学ぶということ | |
| 2回 | 聴解 (単語と文法の力をつける①) | 読解 (単語と文法の力をつける①) |
| 3回 | 聴解 (単語と文法の力をつける②) | 読解 (単語と文法の力をつける②) |
| 4回 | 聴解 (単語と文法の力をつける③) | 読解 (単語と文法の力をつける③) |
| 5回 | 聴解 (単語と文法の力をつける④) | 読解 (文脈を考える①) |
| 6回 | 聴解 (英語の音に注目する①) | 読解 (文脈を考える②) |
| 7回 | 聴解 (英語の音に注目する②) | 読解 (文脈を考える③) |
| 8回 | 聴解 (英語の音に注目する③) | 読解 (言語外の知識を利用する①) |
| 9回 | 聴解 (英語の音に注目する④) | 読解 (言語外の知識を利用する②) |
| 10回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する①) | 読解 (言語外の知識を利用する③) |
| 11回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する②) | 読解 (言外の意味を捉える①) |
| 12回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する③) | 読解 (言外の意味を捉える②) |
| 13回 | 聴解 (多様なアクセントに注目する④) | 読解 (言外の意味を捉える③) |
| 14回 | 聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ) | 読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ) |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

英語X (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XII (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語ⅩⅡ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school and university. We will cover a variety of topics while we improve your English ability. The course will be quite demanding as it will require a large amount of reading, writing, speaking, and listening. While it may be relatively demanding, another goal for the course is that it will be intellectually stimulating for students.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the class, getting acquainted
- 2回 Conversation strategies, note-taking
- 3回 Assignment 1
- 4回 Discussion 1
- 5回 Assignment 2
- 6回 Discussion 2
- 7回 Assignment 3
- 8回 Discussion 3
- 9回 Assignment 4
- 10回 Discussion 4
- 11回 Assignment 5
- 12回 Discussion 5
- 13回 Assignment 6
- 14回 Discussion 6
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比1年(学籍番号)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
- (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 (学籍番号 /Class 奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅰ	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比1年(学籍番号)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)课文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』(日本語版)中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること!

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 (学籍番号 /Class 奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 - (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
 - (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 60% 小テスト・ 20% 日常の授業への取り組み・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 比1年(学籍番号)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・ 40% 暗誦・ 30% 日常の授業への取り組み・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること!

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年(学籍番号奇数) /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比1年(学籍番号
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 (学籍番号 /Class 奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112F

授業の概要 /Course Description

- 中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
 - (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
 - (3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
 - (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。

(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。

(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。

皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor: ホウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 比2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ホウ ラメイ (彭腊梅) / ラメイ ホウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 比2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			中国語VIII	CHN212 F

授業の概要 /Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。

(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意 /Remarks

CDを聞いたり、単語を調べること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語 I	CHN301 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語Iは、中国語初・中級をひとつと終えた学習者のために、さらに一步上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。
世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期

- 第1回 授業説明、基礎復習
- 第2回 第1課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第3回 第1課② 会話、リスニング、作文練習
- 第4回 第2課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第5回 第2課② 会話、リスニング、作文練習
- 第6回 第3課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第7回 第3課② 会話、リスニング、作文練習
- 第8回 場面の体験1
- 第9回 第4課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第10回 第4課② 会話、リスニング、作文練習
- 第11回 第5課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第12回 第5課② 会話、リスニング、作文練習
- 第13回 第6課① 文法、翻訳、聴解練習
- 第14回 第6課② 読む、会話、作文練習
- 第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCI初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、 翻訳力 作文力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語II	CHN311 F

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひとつおりのり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることを目標とする。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCT初級テスト）の内容も同時に指導する。

教科書 /Textbooks

前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第2学期
- 第1回 第7課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第2回 第7課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第3回 第8課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第4回 第8課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第5回 場面の体験1
 - 第6回 第9課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第7回 第9課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第8回 第10課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第9回 第10課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第10回 場面の体験2
 - 第11回 第11課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第12回 第11課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第13回 第12課① 文法、翻訳、聴解練習
 - 第14回 第12課② 会話、リスニング、作文練習
 - 第15回 場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BC T初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、考え力、ビジネス文章

上級中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級中国語Ⅲ	CHN302 F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。
グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著 北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版)中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社
『新コミュニケーション』中国語Level1、Level2都文堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 第1課 「认识一下」新出単語 本文会話1 2
- 2回目 第2課 「吃点儿什么」新出単語 本文会話1 2
- 3回目 第1課、第2課会話練習
- 4回目 第3課「在校园里」新出単語 注釈 本文会話1
- 5回目 第3課「在校园里」注釈 本文会話2
- 6回目 第4課「住的麻烦」新出単語 注釈 本文会話1
- 7回目 第4課「住的麻烦」注釈 本文会話2
- 8回目 中間復習
- 9回目 第5課「做客」新出単語 注釈 本文会話1
- 10回目 第5課「做客」注釈 本文会話2
- 11回目 第6課「旅行计划」新出単語 注釈 本文会話1
- 12回目 第6課「旅行计划」注釈 本文会話2
- 13回目 第7課「生活服务」新出単語 注釈 本文会話1
- 14回目 第7課「生活服务」注釈 本文会話2
- 15回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

上級中国語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級中国語Ⅳ	CHN312F

授業の概要 /Course Description

授業は中国語と日本語、混合で行う。
グループワークを課し、全員がプレゼンテーションする機会を設け、話す力および聞く力の磨きを通じて、さまざまな場面における中国語会話を向上させる。

教科書 /Textbooks

プリント配布
(『中国語口語速成 基礎編』第二版 馬箭飛 主編 李徳君、成文 編著北京言語大学出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『精彩漢語 遊走中国』(日本語版)中国・高等教育出版社
『遊学中国語 東遊記』中国・華語教学出版社
『新コミュニケーションタイプ』中国語Level1、Level2都文堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

一回目 第11課「购物」新出単語 注釈 本文会話1
二回目 第11課「购物」注釈 本文会話2
三回目 第12課「谈论朋友」新出単語 注釈 本文会話1
四回目 第12課「谈论朋友」注釈 本文会話2
五回目 第14課「体育健身」新出単語 注釈 本文会話1
六回目 第14課「体育健身」注釈 本文会話2
七回目 中間復習
八回目 第15課「各有所爱」新出単語 注釈 本文会話1
九回目 第15課「各有所爱」注釈 本文会話2
十回目 第16課「理想的职业」新出単語 注釈 本文会話1
十一回目 第16課「理想的职业」注釈 本文会話2
十二回目 第17課「业余爱好」新出単語 注釈 本文会話1
十三回目 第17課「业余爱好」注釈 本文会話2
十四回目 第18課「中国家庭」新出単語 注釈 本文会話1
十五回目 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点60% (授業時の応答や取り組み、予習、復習、小テストなど)
定期試験40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ず新出単語、および本文会話にわからない単語を調べ、発音と日本語意味を覚えておくこと。
毎回学習した単元の単語・本文会話等を復習する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習は必ず行ってから授業に参加ください。また、授業中の学生の積極的な発言、参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語のみの授業を目指しましょう。

キーワード /Keywords

中国語 コミュニケーション 会話 リスニング

朝鮮語Ⅰ (1 - d) 【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中比人 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅰ	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【母音】【基本挨拶表現①】
- 3回 文字と発音【子音①】【基本表現②】
- 4回 文字と発音【子音②】【基本表現③】
- 5回 文字と発音【子音③】【合成母音①】【基本表現④】
- 6回 文字と発音【激音】【合成母音②】
- 7回 文字と発音【濃音】【合成母音③】
- 8回 発音の規則【終声・パッチム】
- 9回 発音の規則【連音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【濃音化】【流音化】【その他】
- 11回 文字と発音の復習【日本語のハングル表記】
- 12回 指定詞の丁寧形【～は～です】
- 13回 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 語彙と文型の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅰで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅰの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語II (1 - d) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - d) 【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 英中比人 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】【何日ですか？】【何曜日ですか？】
- 5回 助詞と疑問詞のまとめ【～から～まで】
- 6回 動詞と形容詞の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【いつ～しますか？】
- 7回 動詞と形容詞の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形③【一週間の予定】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 動詞と形容詞の否定形【～しません、～ありません】
- 11回 好みの表現【～が好きです】【変則活用①】
- 12回 目的表現【～に～しに行きます】【丁寧形の変則活用】
- 13回 動詞と形容詞の過去形①【～ました、でした】
- 14回 動詞と形容詞の過去形②【変則活用】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅳ(1 - d) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語Ⅰ・Ⅱ』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 ㄹ 변則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 ㄹ 변則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/ㄹ 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【ㄹ 거예요】、~しに・~ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와、可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄱ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回．第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状態説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ！韓国語（改訂版）』白水社 2017年。2400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-를 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 がしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語 I	KRN301 F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．授業概要、オリエンテーション (韓国語で自己紹介を含む)
- 2回．読解【私の新年計画、韓国で人気のある職業】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-가/이 되다, -(으)려고, -는 동안(에)】
- 4回．作文発表【夢と将来の計画について】
- 5回．読解【韓国社会人の悩み、進路についての悩み】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-는 건 어때요?/-는 게 좋겠다/-때문에】
- 7回．作文発表【悩みについて】
- 8回．読解【大衆文化、韓国映画】
- 9回．韓国映画鑑賞
- 10回．聞き取り、会話・文型練習【-기 위해서/ -거나/-(으)면 좋겠다】
- 11回．作文発表【自分の願望のために現在やっていること】
- 12回．読解【韓国の住居環境、部屋探し】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-보다/-지요/-중에서】
- 14回．作文発表【自分が今住んでいる家と将来住みたい家】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語II 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語II	KRN311 F

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．読解【電子製品。機械、携帯電話】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)ㄹ 줄 알다/모르다, -(이)나, -뿐이다.-뿐만 아니라】
- 4回．作文発表【自分が持っている電子製品を紹介】
- 5回．読解【宿泊先の予約】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-기 때문에, -(으)로, -밖에】
- 7回．作文発表【宿泊先に予約のメールを送る】
- 8回．韓国の観光事情について話し合う
- 9回．読解【インターネットバンキング、銀行事情】
- 10回．聞き取り、会話・文型練習【-고 나서, -(으)려면, -에다가】
- 11回．作文発表【銀行取引申請書を作成】
- 12回．読解【韓国の交通手段、道路標識】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)로 해서, -(으)니까요?, -(으)ㄹ 것 같다】
- 14回．作文発表【韓国の道路標識紹介】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み発・課題・小テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

課題提出の締め切りをしっかりと守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		上級朝鮮語Ⅲ	KRN302 F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 (必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 『朝鮮語V/VI』の復習
- 第3回目 学校生活【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 学校生活【文法、練習問題】
- 第5回目 アルバイト【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 アルバイト【文法、練習問題】
- 第7回目 私の一日【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 私の一日【文法、練習問題】
- 第9回目 プレゼント【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 プレゼント【文法、練習問題】
- 第11回目 風邪【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 風邪【文法、練習問題】
- 第13回目 休日【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 休日約束【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎および応用を含むレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			上級朝鮮語Ⅳ	KRN312F

授業の概要 /Course Description

初級・中級まで学習してきたことを定着、さらに発展させて自信と実践力をつける。また、韓国の社会や文化など、韓国事情に触れることで異文化理解も深めたい。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』(小学館、8,000円)、『韓国語上級表現ノート』(前田、明石書店、1890円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 オリエンテーション
- 第2回目 前期の復習
- 第3回目 夏休み【スキットを読んでみよう】
- 第4回目 夏休み【文法、練習問題】
- 第5回目 趣味【スキットを読んでみよう】
- 第6回目 趣味【文法、練習問題】
- 第7回目 大学祭【スキットを読んでみよう】
- 第8回目 大学祭【文法、練習問題】
- 第9回目 仕事【スキットを読んでみよう】
- 第10回目 仕事【文法、練習問題】
- 第11回目 日記【スキットを読んでみよう】
- 第12回目 日記【文法、練習問題】
- 第13回目 外国語の勉強【スキットを読んでみよう】
- 第14回目 外国語の勉強【文法、練習問題】
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までにその日の授業内容を確認し、知らない単語などを調べること。
また、授業後は学習内容の理解や暗記を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅰ	RUS101 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語概論、アルファベット
- 2回 文字と発音：母音、子音(1)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(1)
- 3回 子音(2)、疑問詞のある疑問文と答え方(2)、硬子音と軟子音、名詞の性
- 4回 所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(3)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
- 5回 硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
- 6回 50音のロシア文字表記法
- 7回 一課前半 テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
- 8回 一課後半 テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
- 9回 二課前半 テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
- 10回 二課後半 テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
- 11回 三課前半 テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
- 12回 三課後半 テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
- 13回 四課前半 テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
- 14回 四課後半 テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況...20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

履修上の注意 /Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

ロシア語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅱ	RUS111 F

授業の概要 /Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「1年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編 白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編 白水社、1994年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 一学期に習ったことの復習(1)
- 2回 一学期に習ったことの復習(2)
- 3回 五課前半 テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(1)、曜日
- 4回 五課後半 テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
- 5回 六課前半 テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
- 6回 六課後半 テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
- 7回 七課前半 テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
- 8回 七課後半 テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
- 9回 八課前半 テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(1)(2)
- 10回 八課後半 テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(3)、和文露訳
- 11回 九課前半 テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
- 12回 九課後半 テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
- 13回 十課前半 テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
- 14回 十課後半 テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・和文露訳課題 ... 20% 予習復習状況 ... 20%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor: ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 英中国済営比人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅲ	RUS102 F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
- 2回 ロシア語のアルファベット【交際】
- 3回 短文のイントネーション 【これは誰ですか】、【これは何ですか】
- 4回 簡単な問いと答え 【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
- 5回 第1課① 【挨拶】、【紹介】
- 6回 第1課② 【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
- 7回 第1課③ 会話
- 8回 第2課① 【教室でロシア語】
- 9回 第2課② 【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
- 10回 第2課③ 【趣味】、【私はロシア語を話します】
- 11回 第3課① 【家族の紹介】
- 12回 第3課② 【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
- 13回 第3課③ 【形容詞】、【これは新しい車です】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習 60分、復習 60分です。)

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅳ【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 英中国済営比人律
/Class 政1年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要 /Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ￥1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第4課① 【一日の生活】、【過去の表現】
- 2回 第4課② 【時間表現】
- 3回 第4課③ 【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
- 4回 第4課④ 【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしてみましたか】
- 5回 第5課① 【休日】、【動詞の未来】
- 6回 第5課② 【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
- 7回 第5課③ 【名詞の造格】、【命令形】
- 8回 第5課④ 【どうぞ、午後私に電話してください】
- 9回 第6課① 【交通】、【運動の動詞】
- 10回 第6課② 【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
- 11回 第6課③ 【電話】、【出発と到着の表現】
- 12回 第6課④ 【あなたはどこから来ましたか】
- 13回 会話 【どこへ】、【どこに】、【どこから】
- 14回 復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 10% 宿題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

ロシア語Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語Ⅴ	RUS201 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の用法・派生、運動の動詞など、より複雑な文法の学習を行う。到達目標は、文章語の読解力を養うこと。

教科書 /Textbooks

学習用プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○ブリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 定動詞・不定動詞(1)、完了体・不完了体
- 2回 関係代名詞(1)、形容詞・副詞の比較級と最上級
- 3回 個数詞と名詞句の結合、年齢表現、値段表現
- 4回 時間表現、不定使用法、不規則変化動詞
- 5回 不定人称文、仮定法(1)、複文(1)
- 6回 移動動詞の派生、曜日表現
- 7回 関係副詞、関係代名詞(2)、勧誘法表現、年月日表現
- 8回 相互代名詞、述語生格、仮定法(2)、普遍人称文
- 9回 無人称動詞、定動詞・不定動詞(2)、再帰所有代名詞、「春の祝日について」
- 10回 副動詞、形動詞現在
- 11回 完了動詞・不完了動詞の派生、祝辞表現
- 12回 時刻表現、概数、姓の格変化
- 13回 複文(2)、存在状態を表す動詞と動作動詞(「横たわっている」と「横になる・横たわせる」)
- 14回 形動詞過去、間接命令法
- 15回 定代名詞、特殊変化動詞、「呼格について」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 ... 60% 小テスト・課題・学習状況 ... 40%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は、学期末試験を受けることはできない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には、テキストの読み、練習問題の課題を課すので準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語V【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ロシア語の参考書、学習教材は図書館に相当点数（数十冊以上）あるので利用してください。

キーワード /Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 /北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ロシア語VI	RUS211F

授業の概要 /Course Description

外国人用のロシア語テキストの読解、および会話テキストの聞き取り読解・訳、練習問題をこなすことで、ロシア語運用力の向上を目指す。到達目標は、書き言葉の文章読解力を向上させること、およびノーマルなスピードのやさしい会話ができるようになること。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安藤厚ほか編「ロシア語ミニ辞典」白水社、1997年
中村建之介著「自習ロシア語問題集」白水社、2014年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ГОСТИНИЦА その1	読み、訳、練習問題	Скоро первое сентября
2回	ГОСТИНИЦА その2	読み、訳、練習問題	Мама и футбол
3回	СТОЛОВАЯ その1	読み、訳、練習問題	Мать
4回	СТОЛОВАЯ その2	読み、訳、練習問題	Салют
5回	ГАСТРОНОМ	読み、訳、練習問題	Гипноз
6回	УНИВЕРМАГ	読み、訳、練習問題	Важный разговор
7回	ТРАНСПОРТ	読み、訳、練習問題	Трудный экзамен
8回	ПОЧТА	読み、訳、練習問題	Дом отдыха
9回	ТЕЛЕФОН	読み、訳、練習問題	Бабушка и Вовка
10回	ВОКЗАЛ	読み、訳、練習問題	Вторая молодость
11回	ПОЛИКЛИНИКА	読み、訳、練習問題	О чём думает марабу?
12回	ПАРИКМАХЕРСКАЯ	読み、訳、練習問題	Как я встречал новый год
13回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その1	読み、訳、練習問題	Любимый праздник
14回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その2	読み、訳、練習問題	Это случилось в воздухе
15回	ТЕКСТЫ ДЛЯ ЧТЕНИЯ その3	読み、訳、練習問題	Мои друзья

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 50%、授業での発表 50%
(全授業回数の三分の一以上の欠席者は期末試験の受験資格はありません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」「ロシア語II」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名
/Instructor

ナタリア・シェスタコワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 /Credits

1単位

学期 /Semester

2学期

授業形態 /Class Format

講義

クラス /Class

英中国済営比人律
政 2年

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ロシア語Ⅷ	RUS212 F

授業の概要 /Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練習しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

教科書 /Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著 白水社 ¥ 1,400
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚編 白水社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 第9課① 【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】 物】、【値段】	2回 第9課② 【買い物】、【値段】
3回 第9課③ 会話練習	
4回 ビデオ学習① 【В ГОСТЯХ】	
5回 ビデオ学習② 会話練習【В ГОСТЯХ】	
6回 ビデオ学習③ 作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ】	
7回 第10課① 【モスクワの町】	
8回 第10課② 【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】	
9回 第10課③ 【モスクワの町】、【単文と複文】	
10回 第10課④ 【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】	
11回 読み物①	12回 読み物②
13回 読み物③	
14回 練習	
15回 まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 60% 平常の学習状況(小テスト含む)... 10% 宿題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語Ⅲ」「ロシア語Ⅳ」を履修してください。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぶつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をするのでしょ。【未来形】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun(発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

ドイツ語I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じることに。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょうに。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

目標

- ドイツ語の基礎文法を学びます。「1年後には、辞書や教科書を参照しながら、独力で簡単なドイツ語の文章を読み書きし、情報を取得・発信できるようになること」を目標とします。読み書きの能力を養った延長上で、聞き話す能力も付いてきます。

方針

- 語学には暗記が不可避です。英語と違い、ドイツ語では、さまざまな変化表を覚える必要があります。しかし、単元ごとに記憶の定着を待つのでは、「文法をとりあえず一通り終えて、全体をざっと理解する」までに至らず、途中で挫折しがちです。そのような半端な事態は避けたいので、「まだ完璧には覚えていなくても、辞書・教科書を参照して思い出しながらなら、ドイツ語を使える」というレベルへまずたどり着くことを優先しましょう。

ドイツ語選択のメリット

- みなさんにとって既習である英語の知識を土台に、近道をして習得できる言語です。
- ドイツ語文法を英文法と比較してみると、英語に関する理解が深まります。また、英語という、現在世界中で支配的な言語を、相対化して見ることもできるようになります。
- 分野によっては、重要な一次情報をドイツ語文献・メディアから得ることが、大きな強み・利点です。英語や日本語に翻訳、紹介されるまでのタイムラグにこそ、ドイツ語習得者の利益が生まれます。

教科書 /Textbooks

- 荻原耕平 / 山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法』（改訂版・CD付き）白水社、2019年、2400円
- 独和辞典（ポケットサイズの簡易辞書は、文法的な解説が乏しいので、薦めません。紙媒体の辞書には、見開き全体を一覧できる視覚的メリットがありますが、重さを理由に持つて来るのが億劫になりがちなので、それなら始めから電子辞書を選択した方が賢明でしょう。スマートフォンの辞書アプリは、辞書持ち込み可形式のテストのときに（スマートフォン自体が）使用不可となるため、注意してください。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

独検受験希望者へ

- 矢羽々崇ほか『独検5級合格講座 入門ドイツ語スタート・ダッシュ』三修社、2018年、2170円
- 2000語前後の単語帳（単語の発音とアクセントが明記されており、例文が豊富なものをお勧めします。）

ドイツ語III 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ドイツとドイツ語について ドイツ語のABC (アー・ペー・ツェー)
- 第2回 挨拶：グーテンターク！ ドイツ語の発音
- 第3回 動詞の使い方：主語によって動詞の形がコロコロ変わる
- 第4回 名詞の性と格：「自然」は女性で、「机」は男性？
- 第5回 名詞の複数形：-sでは済まない？！
- 第6回 冠詞（英a/the）：冠詞の形がコロコロ変わる
- 第7回 否定文とnicht（英not）の位置
- 第8回 人称代名詞（私・君・彼女・それ…）
- 第9回 不規則動詞：原則を無視して変化する動詞
- 第10回 分離動詞：動詞の頭が文末に飛んで行く
- 第11回 現在完了形（1）【過去分詞の作り方】
- 第12回 現在完了形（2）【文の組み立て方】
- 第13回 助動詞（1）【助動詞の意味一覧】
- 第14回 助動詞（2）【助動詞を使ってみる】
- 第15回 テスト前の総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験…70% 日常の授業への取り組み…30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書に出てきた単語や変化表をそのつど着実に覚えていくのが理想で、そのために予習・復習の時間を取って欲しいとは思いますが、それよりもまず、「教科書や辞書のどこに、何が書いてあり、その情報をどういうときに、どう使うのか」の把握を優先してください。つまり、教科書を読み込み、付箋や書き込みなどでカスタマイズし、必要な場所を必要ときにさっと開けるような馴染みの道具に仕上げてください。

履修上の注意 /Remarks

- 2学期のドイツ語IVとセットで、ようやく文法の全体を網羅できる構成です。IVの継続受講をお勧めします。
- 独検受験者は、きっちりと「暗記」しておくべき項目があるので、その旨を随時指示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「1年後にはドイツ語を使っている自分」を具体的にありありと想像するようにしてください。あの本を原書で読みたい、卒業旅行や新婚旅行でドイツに行きたい、ドイツ人サッカー選手のSNSに書き込みがしたい、ドイツ系企業に就職したい…など。使う当てのない道具を1年かけて磨くのは苦痛であり、虚しいものですから。

キーワード /Keywords

外国語 ドイツ語 ゲルマン諸語 ドイツ オーストリア スイス 文法

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112 F

授業の概要 /Course Description

目標

- ドイツ語の基礎文法（後半）を学び、ドイツ語を使って未知の情報を得られるレベルを目指します。学期の最後には、実際にドイツ語のテキストを読んでみましょう。（テキストは学期の前半に配布しておきます。）

方針

- 少くない時間を費やしてドイツ語を学んできた以上、ドイツ語を「使ってみる」ところまで、ご案内します。ここまで来たからには、「ドイツ語がいったい何の役に立つのか」といままら受け身に問うのではなく、「せっかく学んだドイツ語を今後どう工夫して活かしていくか、元を取ってやるか」という創造的な学習計画・人生設計に、発想を転換してください。

教科書 /Textbooks

- 荻原耕平 / 山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法』（改訂版・CD付き）白水社、2019年、2400円
- 独和辞典

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

独検受験希望者へ

- 矢羽々崇ほか『独検5級合格講座 入門ドイツ語スタート・ダッシュ』三修社、2018年、2170円
- 矢羽々崇ほか『新独検4級合格講座 入門ドイツ語ステップ・イン』三修社、2004年、2808円
- 2000語前後の単語帳（単語の発音とアクセントが明記されており、例文が豊富なものをお勧めします。）

ドイツ語Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 前学期の復習
- 第2回 過去形
- 第3回 命令形：「起きろ！」・「起きてください！」
- 第4回 接続詞：「そして・しかし・なぜなら・にもかかわらず…」
- 第5回 受動文：過去分詞+werden(～される)
- 第6回 形容詞：形容詞の語尾がコロコロ変わる
- 第7回 比較と最大級：「～より大きい」・「最も大きい」
- 第8回 再帰代名詞：「彼は彼自身を紹介する」=「彼は自己紹介する」
- 第9回 zu不定詞：英語のto不定詞と何が違うのか
- 第10回 関係代名詞：冠詞のように形がコロコロ変わる関係代名詞
- 第11回 指示代名詞：「これ・それ・あれ」
- 第12回 接続法(1)：ひとの発言を引用するI式
- 第13回 接続法(2)：現実ではないことを表現するII式
- 第14回 ドイツ語で読んでみる(1)
- 第15回 ドイツ語で読んでみる(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験…70% 日常の授業への取り組み…30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1学期にさまざまな文法事項を学びました。必要があるたびに、教科書をめくりながら、情報を取り出し思い出す作業も繰り返してきました。同じように、後半戦でも、「教科書のどこに何が書いてあり、どういうときにどう使うのか」を見失わないように努めてください。そのためには、教科書との接触時間をできるだけ増やし、なおかつ、自分が参照しやすいように付箋や書き込みなどで「教科書を作り上げていく」必要があります。予習・復習はその時間に当ててください。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語Ⅲの続きです。ドイツ語Ⅲの受講を前提にしています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

言語は道具であって、鑑賞品ではありません。日々の授業で手にした道具を「どう使うのか」に想像力を動員して、挫けそうな自分を励ましてください。

キーワード /Keywords

外国語 ドイツ語 ゲンマン諸語 ドイツ オーストリア スイス 文法

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン 2 場面学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

ドイツ語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン 2 場面学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト (50%) 学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律 政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫言て話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞かるとき
- 8回 綴りを聞かるとき、英語の分る人を探さるとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞かるとき、道順・方向を聞かるとき、距離を聞かるとき
- 11回 時刻を聞かるとき、時間を聞かるとき、曜日を聞かるとき、日付を聞かるとき
- 12回 値段を聞かるとき、数量を聞かるとき、方法を聞かるとき、理由を聞かるとき
- 13回 目的を聞かるとき、住所を聞かるとき、出身地を聞かるとき、生年月日を聞かるとき
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞かるとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞かるとき、相手の感想を聞かるとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞かるとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞かるとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞かるとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

本授業のテーマは、基礎的なフランス語文法の習得です。授業中は、文法を解説するだけでなく、なるべくフランスを身近に感じてもらうために、長年の留学経験で得た生のフランスについて時々お話しする予定です。時間があれば、映画、テレビ番組、CDなどを用いて、習った表現の聞き取りも行いたいと思います。

教科書 /Textbooks

小野ゆり子、村松マリ＝エマニュエル『マ・グラメール(三訂版)』白水社、2018年。2300円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典(紙媒体、電子辞書)
無料の辞書アプリは、信憑性に欠けるものがあるので、使用しないで下さい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Leçon 1 授業の進め方、成績評価方法、フランス語の文字、音、つづり字の読み方
- 2回 Leçon 2 名詞の性と数、冠詞、Voici, Voilà、基数(1-10)
- 3回 Leçon 3-1, 2 主語人称代名詞、êtreの直接法現在
- 4回 Leçon 3-3, 4 avoirの直接法現在、c'est, ce sont, il y a、基数(11-20)
- 5回 Leçon 4 第1・2群規則動詞の直接法現在、形容詞の性と数・位置
- 6回 Leçon 5 基本文型、否定形、不規則活用動詞attendre, partir
- 7回 Civilisation I フランスを知る、復習
- 8回 Leçon 6 疑問形、Oui, Non, Si、所有形容詞、不規則活用動詞prendre, faire
- 9回 Leçon 7 指示形容詞、名詞と形容詞の女性形・複数形の特殊な形、不規則活用動詞acheter, préférer
- 10回 Leçon 8 aller, venir、近接未来、近接過去、冠詞の縮約、不規則活用動詞vouloir, pouvoir
- 11回 Leçon 9-1 疑問代名詞、Civilisation II 世界の中のフランスとフランス語、復習
- 12回 Leçon 9-2 疑問副詞、不規則活用動詞savoir, connaître
- 13回 Leçon 10 疑問形容詞、形容詞と副詞の比較級・最上級、不規則活用動詞voir, commencer
- 14回 Leçon 11 命令法、非人称構文、不規則活用動詞manger, dire
- 15回 まとめと復習

以上は予定であり、受講者の理解度に応じて変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業での積極性、宿題の出来)・・・30%、期末試験・・・70%。
なお、各回の終わりに授業の感想や質問を書いてもらい、良い質問が出れば授業で紹介し共有します。内容によっては、加点することもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

宿題が出されない場合でも、授業の後は必ず復習して下さい。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語の文法は覚えることが多いですが、英語と共通する部分もたくさんあります。分かりやすく丁寧に解説するつもりですし、よく言われるほど難しくないかもしれません。理解できればあなたの世界は広がります。

キーワード /Keywords

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語II	FRN111F

授業の概要 /Course Description

本授業は、「フランス語I」の続編です。引き続き、基礎的なフランス語文法の習得を目標とします。この授業でも、長年の留学経験で得た生のフランスについてお話しし、時間があれば、映画、テレビ番組、CDなどを用いて、習った表現の聞き取りを行う予定です。

教科書 /Textbooks

小野ゆり子、村松マリ＝エマニュエル『マ・グラメール(三訂版)』白水社、2018年。2300円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典(紙媒体、電子辞書)
無料の辞書アプリは、信憑性に欠けるものがあるので、使用しないで下さい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Leçon 12 過去分詞、直説法複合過去
- 2回 Leçon 13 人称代名詞の目的補語形、人称代名詞の強勢形
- 3回 Leçon 14 複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞のまとめ
- 4回 Leçon 15-1 関係代名詞
- 5回 Leçon 15-2, 3 強調構文、指示代名詞
- 6回 Civilisation III フランスの成り立ち、復習
- 7回 Leçon 16 代名動詞の活用・用法、不規則活用動詞s'appeler
- 8回 Leçon 17 直説法単純未来、中世代名詞le, en, y、不規則活用動詞devoir
- 9回 Leçon 18 直説法半過去の活用・用法
- 10回 Leçon 19-2, 3 現在分詞、ジェロンディフ
- 11回 Leçon 19-1 受動態、Civilisation IV さまざまな言葉、復習
- 12回 Leçon 20 条件法の活用・用法
- 13回 Leçon 21 接続法現在の活用・用法
- 14回 Appendice (補遺)
- 15回 まとめと復習

以上は予定であり、受講者の理解度に応じて変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業での積極性、宿題の出来)・・・30%、期末試験・・・70%。
なお、各回の終わりに授業の感想や質問を書いてもらい、良い質問が出れば授業で紹介し共有します。内容によっては、加点することもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

宿題が出されない場合でも、授業の後は必ず復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語の文法は覚えることが多いですが、英語と共通する部分もたくさんあります。分かりやすく丁寧に解説するつもりですし、よく言われるほど難しくないかもしれません。理解できればあなたの世界は広がります。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor: コモン テイエリ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 比1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では、フランス語の理解に不可欠な基礎知識を一年間でほぼフォローすることを目指します。平易な文章を読みこなせるようになることだけでなく、基本的な聞き取り能力や会話能力を身につけることによって、生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知ってもらうことがこの授業の目的です。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『マ・グラメール (Ma grammaire) 』 (白水社、2,300円 + 税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- 初対面 / 自己紹介
- 2- 自己紹介(2) / 子音と母音 / 子音の役割 / 音節とは
- 3- フランス語の成り立ち / アルファベット / "w" と "y"
- 4- アルファベットの書き方 / フランス語の母音 / 挨拶
- 5- フランスという国 / フランス語の子音 / 数字 : 0~20
- 6- 名詞の性 / 文章の基本構成 / プリント(動詞/単語) / AVOIR / 指示形容詞
- 7- ETRE / ALLER / ~から~まで / VENIR
- 8- ここ、そこ、あそこ / 否定形
- 9- 中間試験(20分) / FAIRE / 天気表現
- 10- 形容詞 : 位置と変化
- 11- SAVOIR / CONNAITRE / COMPRENDRE / とても / たくさん
- 12- 冠詞 (不定/定/部分) / VOULOIR / POUVOIR
- 13- ETRE と IL Y A / 数字 : 21以上
- 14- 所有形容詞 / 現在形 (-er 動詞 [1])
- 15- まとめ / 試験準備

成績評価の方法 /Assessment Method

前期の中間・期末試験の合計60%以上を合格とする。前期中間試験・前期末試験の比率は30% / 70%とする。
ただし、授業への積極的な態度に欠ける場合、減点の可能性あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の内容を元にした仏作文をワードファイルにして、担当講師に送ることをお勧めします。必ず確認、訂正等して、返信します。

履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ありませんが、復習は必ず行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor コモン テイエリ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

この授業では、フランス語の理解に不可欠な基礎知識を一年間でほぼフォローすることを目指します。平易な文章を読みこなせるようになることだけでなく、基本的な聞き取り能力や会話能力を身につけることによって、生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知ってもらうことがこの授業の目的です。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配付)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『マ・グラメール (Ma grammaire)』 (白水社、2,300円 + 税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- 前学期の復習 / 前学期定期試験の内容について
- 2- 現在形 (-er 動詞 [2]) / フランス語特殊文字の入力 (パソコン)
- 3- 現在形 (-er 動詞以外) [1]
- 4- 現在形 (-er 動詞以外) [2]
- 5- 日付けの言い方 / 色の形容詞
- 6- 現在形 (代名動詞) / 疑問文 [1] / 疑問詞
- 7- 疑問文 [2]
- 8- 否定形と直接目的語の冠詞 / 直接目的語の代名詞化
- 9- 強調形 / 近接過去 / 近接未来
- 10- 中間試験(20分) / 代名詞 CEとCA / 前置詞 EN
- 11- 複合過去: AVOIR助動詞の場合 / 男性と女性の名前
- 12- 複合過去: ETRE助動詞の場合 / 過去分詞の変化 [1]
- 13- 過去分詞の変化 [2] / 命令形
- 14- 現在分詞 / ジェロンティフ
- 15- 後学期定期試験準備

成績評価の方法 /Assessment Method

後期の中間・期末試験の合計60%以上を合格とする。後期中間試験・後期末試験の比率は30% / 70%とする。
ただし、授業への積極的な態度に欠ける場合、減点の可能性あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の内容を元にした仏作文をワードファイルにして、担当講師に送ることをお勧めします。必ず確認、訂正等して、返信します。

履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ありませんが、復習は必ず行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

初級で学んだ文法で特にむづかしかった時制や代名詞などの事項を会話文、アクティビテ、練習問題を通して復習し、知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

『クワワッサン2 もっと知りたいフランス語』松村博史 著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『フラ語入門 わかりやすいにもホドがある』清岡智比古著 白水社
『ケータイ万能 フランス語文法』久松健一著 駿河台出版社
『中級をめざす人のフランス語文法』杉山利恵子著 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 アルファベ 数字 綴り字と発音のルールの復習
- 2回目 動詞の現在形と複合過去の復習
- 3回目 dialogueの練習と頻度に関する表現 (1課終了)
- 4回目 直接・間接目的語と強勢形の代名詞の復習
- 5回目 dialogueの練習と人称代名詞の位置について(2課終了)
- 6回目 代名動詞と過去分詞の性数一致について
- 7回目 代名動詞の複合過去形 (3課終了)
- 8回目 dialogueの練習と中性代名詞
- 9回目 指示代名詞について (4課終了)
- 10回目 単純未来と近接未来
- 11回目 dialogue の練習 (5課終了)
- 12回目 現在分詞
- 13回目 現在分詞とジェロンディフ
- 14回目 lecture (6課終了)
- 15回目 受動態と所有代名詞 (補足)

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト：40% 定期試験：60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてはテキストに目を通してあらかじめ学ぶ文法項目を確認しておくこと。また会話文の発音練習をしておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語帳と日本語・フランス語による例文リストを作成し、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 坂田 由紀 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き既習の文法を復習しながら、複文を構成する叙法等を学んで、表現力のレベルアップを目標とします。

教科書 /Textbooks

『クロワッサン2 もっと知りたいフランス語』 松村博史著 2017年 朝日出版社 2300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中級フランス語 叙法の謎を解く』 渡邊淳也著 2018年 白水社
『中級をめざす人のフランス語文法』 杉山利恵子著 2012年 NHK出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 1学期の復習
- 2回目 半過去
- 3回目 大過去
- 4回目 代過去のおさらいと時・理由・条件を表す接続詞 (7課終了)
- 5回目 dialogueの練習と接続詞を使う練習 (8課終了)
- 6回目 条件法のはなし
- 7回目 条件法現在の形と用法
- 8回目 条件法過去について
- 9回目 dialogueの練習とactivites (9課終了)
- 10回目 関係代名詞 que と qui
- 11回目 関係代名詞 ce que と ce qui
- 12回目 関係代名詞 ou と dont
- 13回目 強調構文と接続法について (10課終了)
- 14回目 接続法の練習 (11課終了)
- 15回目 lecture (12課終了)

成績評価の方法 /Assessment Method

オラル・ペーパーの小テスト40%、定期試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備としては、テキストに目を通してあらかじめ何を学ぶかを確認しておくこと。事後学習としては、専用ノートに文法項目を整理し、単語、例文を日本語・フランス語でリストアップして、書いたり発音して暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1 : 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1 : 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1 : 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2 : 質問する (前半)
- 5) unité 2 : 質問する (後半)
- 6) unité 2 : 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3 : 買い物をする (前半)
- 8) unité 3 : 買い物をする (後半)
- 9) unité 3 : 買い物をする (総括)
- 10) unité 4 : いつ (前半)
- 11) unité 4 : いつ (後半)
- 12) unité 4 : いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5 : どこ (前半)
- 14) unité 5 : どこ (後半)
- 15) unité 5 : どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (2回)・・・ 40%
期末テスト・・・ 40%
授業中の取り組み・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取り、読解の力をつけることを目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版 2017年 税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰 (前半)
 - 2) unité 6：誰 (後半)
 - 3) unité 6：誰 (総括)、リスニング
 - 4) unité 7：何 (前半)
 - 5) unité 7：何 (後半)
 - 6) unité 7：何 (総括)、小テスト
 - 7) unité 8：どのように (前半)
 - 8) unité 8：どのように (後半)
 - 9) unité 8：どのように (総括)、読解
 - 10) unité 9：過去について (前半)
 - 11) unité 9：過去について (後半)
 - 12) unité 9：過去について (総括)、小テスト
 - 13) unité 10：仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10：仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・ 20%
小テスト(2回)・・・ 40%
プレゼンテーション・・・ 20%
レポート・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語I【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 中国済営比人律政
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずですが、どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)
- 『クラウン西和辞典』(三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 アルファベット、発音
- 第3回 音節の分け方、アクセント
- 第4回 名詞の性と数
- 第5回 冠詞
- 第6回 形容詞
- 第7回 動詞
- 第8回 現在形(規則活用)
- 第9回 疑問詞、接続詞
- 第10回 指示詞
- 第11回 所有詞
- 第12回 動詞estar
- 第13回 動詞ser
- 第14回 現在形(不規則活用)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

スペイン語I【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第二外国語

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 中国済営比人律政
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずですが、どこが違うか、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 全音声DL版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 直接目的格人称代名詞
- 第3回 間接疑問文
- 第4回 時間の表現
- 第5回 現在形不規則動詞
- 第6回 間接目的格人称代名詞
- 第7回 現在形不規則動詞(完全に不規則)
- 第8回 前置詞格人称代名詞
- 第9回 gustar型動詞
- 第10回 不定語・否定語
- 第11回 天候表現
- 第12回 比較表現
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 再帰動詞のその他の用法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業は、アルファベットと発音の対応から始め、スペイン語の基礎的文法の確実な習得を目指す。また、現在形を用いながら基本的な会話(自己紹介、など)、を修得するとともに、スペイン語圏の文化習慣等も併せて学習する。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの19カ国の人々やアメリカ合衆国に在住のヒスパニックの人々等を含む4億人以上の人々が母語として使っている言語である。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会うきっかけになることを期待している。

教科書 /Textbooks

山道佳子、Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

スペイン語Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(直接法現在形)

- 第1回 ガイダンス
授業の目標と進め方。基本的な挨拶。
- 第2回 発音
アルファベット・発音・アクセントの位置。
- 第3回 名詞の作り方
男性名詞、女性名詞、単数名詞、複数名詞。
冠詞+名詞+形容詞
- 第4回 名詞 (2)
指示・所有、形容詞・代名詞
- 第5回 つなぎのSER動詞、
自己紹介、国籍、職業等。物や人物の描写
- 第6回 つなぎのESTAR動詞
健康状態、場所の説明。0～15の基数。
- 第7回 HAY動詞、
SER/ESTAR/HAY動詞の使い分け
- 第8回 規則活用動詞
～AR、～ER、～IR動詞の活用、重要な表現。
- 第9回 前置詞、疑問詞
前置詞の意味、使い方。
- 第10回 不規則動詞変化形 1 (e→ie)
～したい、～する予定、～し始める。
16～100の基数。
- 第11回 不規則動詞変化形 2 (o→ue)
～できる、～かもしれない。
時刻の表現。予定を言う。
- 第12回 不規則動詞変化形 3 (e→i)
頼み方、依頼するための表現、
101～億の基数。曜日、月日、季節。
- 第13回 不規則動詞変化形 4 (1人称単数だけ)
～しなければならない。～できる。
- 第14回 不規則動詞変化形 5
近い未来の表現。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲに引き続き、直接法現在形の基礎文法、過去形や未来形などの時制も学びます。 現在形の動詞を用いた基本的な会話を基礎として、さらにスペイン語圏でサバイバルできる程度の会話能力を身につけることを目指します。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの人々やアメリカ合衆国在住のヒスパニックの人々等をなど4億人以上の人々が母語として使っている言語であり、第2言語や第1外国語として使う人も入れるとさらに多くの人々が使っている。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会おうきっかけになることを期待している。

また授業終了後も、サッカーなどスポーツのスペイン語中継や様々な分野のスペイン語でのインタビューなどへの興味を維持し、自主的にスペイン語学習を継続してスペイン語を使う国々や人々の理解へつながることを期待している。

教科書 /Textbooks

山道佳子、 Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

スペイン語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
スペイン語Ⅲの復習。
- 第2回 直接目的格人称代名詞
[~を]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第3回 間接目的格人称代名詞
[~に]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第4回 GUSTAR形 動詞
~が好きだ、~と思う、~が痛い。
- 第5回 再帰動詞
他動詞の自動詞化、~し合う。
無人称・受身の表現
- 第6回 時刻表現と天候の表現。
- 第7回 比較級、絶対最上級
- 第8回 点過去形
過去の出来事を説明する。
- 第9回 線過去形
過去の習慣、祭り、など。
- 第10回 点過去形と線過去形比較対照
- 第11回 現在完了形
完了、経験、継続を表す。
- 第12回 現在進行形
~している。~してきた。~し続ける。
- 第13回 命令形
~してください。~しなさい。
- 第14回 未来形
~しようと思う。未来の計画について話す。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの続きをしますが、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、テキストの例文を学習します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVEスペイン語辞典（小学館）
 級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 再帰動詞、無人称文など(1)
- 5 再帰動詞、無人称文など(2)
- 6 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 8 点過去、現在完了の用法(1)
- 9 同上(2)
- 10 同上(3)
- 11 線過去の用法(1)
- 12 同上(2)
- 13 同上(3)
- 14 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)
- 15 同上(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないなど)は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記テキストに対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

教科書 /Textbooks

初級スペイン語文法（和佐敦子著、朝日出版）昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、テキストの例文を学習します。
最後にスペイン語版「となりのトトロ」を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 未来形とその関連時制の用法 (1)
- 2 同上 (2)
- 3 前期を含め、様々な構文のまとめ (受け身、使役、放任、比較など) (1)
- 4 同上 (2)
- 5 過去完了と時制の一致
- 6 受け身文、無人称文 (1)
- 7 同上 (2)
- 8 接続法の活用全般について
- 9 接続法の用法 (1)
- 10 接続法の用法 (2)
- 11 スペイン語版トトロを理解する (1)
- 12 スペイン語版トトロを理解する (2)
- 13 スペイン語版トトロを理解する (3)
- 14 スペイン語版トトロを理解する (4)
- 15 まとめ

授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価 (小テスト、口頭での答え、作文など) も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普通の教室でのやりとり (読む、書くなど) や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合 (例えば小テストを受けていないなど) は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験 100% + 授業中評価20% = 120% で60%を超えていれば単位を認定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう (30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール : faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳ（会話表現）を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を読み暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を使いクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 自己紹介 seの無主語文
- 2回 1課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 2課 カフェテリアで 趣味の話など 再帰動詞
- 4回 2課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 3課 花見 直説法現在完了
- 6回 3課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 4課 買い物 目的格人称代名詞
- 8回 4課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 5課 回転寿司 現在分詞
- 10回 5課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 6課 サッカー 直説法点過去・線過去・過去完了
- 12回 6課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 7課 電車にて 3人称複数無主語文
- 14回 7課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリピートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き教科書を使用しながら会話表現を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を使いクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

教科書 /Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020（1学期と同じ）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 8課 旅館で 直説法未来・過去未来
- 2回 8課 リピーティング・シャドウイング
- 3回 9課 明治神宮 受身表現
- 4回 9課 リピーティング・シャドウイング
- 5回 10課 パルで gustar型構文
- 6回 10課 リピーティング・シャドウイング
- 7回 11課 オリンピック秘話 接続法現在
- 8回 11課 リピーティング・シャドウイング
- 9回 12課 新幹線 quizáを使った接続法、比較級
- 10回 12課 リピーティング・シャドウイング
- 11回 13課 銀座への行き方 命令文
- 12回 13課 リピーティング・シャドウイング
- 13回 14課 通訳依頼の電話 条件文
- 14回 14課 リピーティング・シャドウイング
- 15回 15課 浅草寺で 接続法過去・過去完了 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリポートしていく、またスペイン語の速度に合わせてシャドウイングを行う。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級 (I・II・III・IV) の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。

また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (スペイン国営放送 TVE)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の一月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 30 %
ポートフォリオ評価 ... 70 % (学習者評価30%/ピア評価20%/実習生評価20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 問い合わせる【PCメール】
- 4回 伝言する【メモ】
- 5回 誘う【携帯メール】
- 6回 誘われる【携帯メール】
- 7回 依頼する【PCメール】
- 8回 依頼される【PCメール】
- 9回 謝る【PCメール】
- 10回 お礼を言う【PCメール】
- 11回 報告する【PCメール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 募集する【チラシ】【掲示】
- 14回 アドバイスを求める【PCメール】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、提示された課題をメールで送ること。
事後学習として、授業内容を踏まえた応用課題をメールで送ること。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

SNSが発展しているけれども、大学や社会においては、Eメールがいまだに重要なコミュニケーション・ツールとなっています。キャンパス・ジャパニーズの基本となるEメールの書き方を中心に、書き言葉でのコミュニケーション能力を身につけましょう。

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コソのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...30%
ポートフォリオ評価 ...70%(自己評価 30% ピア評価 20% 実習生評価 20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Ⅴでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

『大学・大学院留学生のためのやさしい論理的思考トレーニング』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)チームで力を発揮する	論理的思考力(1)リストアップする・マッピングする
3回	スタディスキル(2)テーマを決めよう①	論理的思考力(2)イラスト・文章・表の内容を読み取る
4回	スタディスキル(3)テーマを決めよう②	論理的思考力(3)マッピングをして読む
5回	スタディスキル(4)資料を探そう	論理的思考力(4)登場人物になったつもりで読む
6回	スタディスキル(5)インターネットで情報を探そう	論理的思考力(5)どちらがいいか考えながら読む
7回	スタディスキル(6)図解で考える	論理的思考力(6)理由を考えながら読む
8回	スタディスキル(7)表・グラフを描いてみる	論理的思考力(7)意味を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの特徴	論理的思考力(8)順序を考えて書いてみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成する	論理的思考力(9)理由を考えて書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本	論理的思考力(10)論理的に考えて書いてみる
12回	スタディスキル(11)パソコンを使ったプレゼン(テーマ決め・準備)	
13回	スタディスキル(12)パソコンを使ったプレゼン(発表)	
14回	スタディスキル(13)パソコンを使ったプレゼン(発表と自己評価)	
15回	総括	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておいてください。事後学習としては、授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ何が足りていないかをふりかえり、どうしたら目標を達成できるかなどについて考えるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語Ⅳと日本語Ⅴと日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ピジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語（ライフ・ジャパニーズ）」「大学生活日本語（キャンパス・ジャパニーズ）」「大学日本語（アカデミック・ジャパニーズ）」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学で必要なクリティカル・リーディング（批判的な読み）ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらおう。

教科書 /Textbooks

『読む力（中上級）』（奥田純子他、くろしお出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（館岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の多様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み（課題を含む）...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進めます。事後学習として、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

キーワード /Keywords

「クリティカル・リーディング」「批判的読み」「メタ・コンテンツ」「全体把握」「言語タスク」「認知タスク」

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 留学生 2年 /Class 留学生 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジユメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておいてください。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めていくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、「多様性」「多文化共生とは何か」「多文化共生社会に向けて何をすればいいのか」について考えていく。テキストのトピックやテーマについて主体的に考え、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書 /Textbooks

『多文化社会で多様性を考えるワークブック』(有田佳代子他編著、研究社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異なりを考える」【異文化間ソーシャルスキル】
- 3回 「異なりを考える」【寛容性】
- 4回 「異なりを考える」【アサーション・トレーニング】
- 5回 「異なりを考える」【「日本人」・「外国人」】
- 6回 「差別とその感情を考える」【マイノリティとマジョリティ】
- 7回 「差別とその感情を考える」【自分の家の近くはだめ?】
- 8回 「差別とその感情を考える」【ステレオタイプ】
- 10回 「言語間の平等を考える」【国境を超える子どもの言語獲得】
- 11回 「言語間の平等を考える」【やさしい日本語】
- 12回 「多文化共生社会」について考える【私の考える「多文化共生」とは】
- 13回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実現のために】
- 14回 「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実践】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 授業への取り組み(課題や授業中の発表を含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にトピックについての情報を調べ、自分の考えをまとめてきてください。事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ですが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいってください。

キーワード /Keywords

多文化共生 社会 多様性

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジヨナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1)日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2)留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1)自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2)自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1)論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2)共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

日本事情 (社会) B 【昼】

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

比較民族学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 成末 繁郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民族学に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	民族学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民族学に関連する課題を見出し、自らの視点に基づいて解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	民族学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較民族学

ANT213M

授業の概要 /Course Description

民族学や文化人類学がこれまで開発してきた「異文化理解」の戦略を、相対主義的な(対象地域の人々に寄り添った)解釈と普遍主義的な(近代合理主義的)解釈との対立を軸に、基本的で定評ある民族誌に依拠しながら解説していく。講師は文化相対主義かつ象徴人類学の立場に立つが、普遍主義的な解釈を完全に否定することはしない。時には相対主義的解釈よりもはるかに説得力を持つ場合もあることも認識しており、その点もあわせて解説するつもりである。また、理論的且つある意味で古典的な文化人類学の学説をトピックごとに解説する方式をとるので(往々にして、「今でもそのようなことが行なわれているのですか」という質問をうけてしまうことが多い)、「グローバル化」とか「ポスト・コロナル」等の用語で言及されている状況(まさに現在の世界の実情)が手薄になるが、この点については議論のあるところなので、映像資料を随時鑑賞することで実態への理解を深めることを目指している。さらにジェンダーに関する映像資料の上映会をトピックの区切りごとに3回ほど予定している。今このときの世界に対する理解も含めて、出来るだけ相対主義的に考えていくdispositionを身につけることがこの講義の狙いである。尚、今回はジェンダーに関するトピックを中心に進める。

教科書 /Textbooks

テキストは特になし。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジュディス・バトラー 1999年 『ジェンダー・トラブル フェミニズムとアイデンティティの攪乱』(竹村和子 訳) 青土社。○
Marilyn Strathern 1988 The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press
Jane Fishburne Collier and Sylvia Junko Yanagisako ed. 1987 Gender and Kinship Essays Toward a Unified Analysis. Standord University Press.
Thomas A. Gregor and Donald Tuzin(ed.) 2001 Gender in Amazonia and Melanesia An Exploration of the Comparative Method UNIVERSITY OF CALIFORNIA PRESS
Berkeley Los Angeles London.
Sarah Franklin & Suzan McKinnon ed. RELATIVE VALUES Reconfiguring Kinship Studies. DUKE UNIVERSITY PRESS, 2001.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義全体に関するガイダンス
- 2回 象徴論から見た文化の概念の解説【シンボル】
- 3回 シンボルとジェンダーの概念の解説【ジェンダー】【バックラッシュ】
- 4回 ジェンダーに関する映像資料の鑑賞(未定)【ジェンダー】
- 5回 ジェンダー研究の批判的検討 Yanagisakoらの主張を中心に 01【家父長制】【フェミニズム】
- 6回 ジェンダー研究の批判的検討 02 【生物学的基盤主義】【身体】
- 7回 ジェンダー研究の批判的検討 03 【社会構築主義】
- 8回 ジェンダーに関する映像資料の鑑賞 未定
- 9回 ジェンダー(性役割やSexuality)の多様性をめぐって-具体的な事例の検討 ニューギニア・東南アジア編【文化と自然】
- 10回 ジェンダー(性役割やSexuality)の多様性をめぐって-具体的な事例の検討 アフリカ編【パフォーマンスとしての性別】
- 11回 ジェンダー(性役割やSexuality)の多様性をめぐって-具体的な事例の検討 イスラム諸国編 【男尊女卑】
- 12回 ジェンダーに関する映像資料の鑑賞(未定)【グローバル化】【ローカル化】
- 13回 今日のジェンダー：ポストコロナル・フェミニズム【反反対主義】
- 14回 今日のジェンダー：ポスト構造主義フェミニズム【パフォーマンスティブ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(98%)、レポート(2%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義で取り上げる諸民族に関する映像資料を動画サイトなどで視聴しておくことと講義を立体的に理解できる。

履修上の注意 /Remarks

文化人類学や社会学を同時に履修すると理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

気軽に質問・異論・反論してください。歓迎します。

キーワード /Keywords

ジェンダー、パフォーマンスティブ・アクト、クィア、フェミニズム、ポスト・コロナル

人類学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人類学に関する専門的な知識の獲得。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	文化相対主義と人類の生物的普遍性について理解する。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人類学概論

ANT100M

授業の概要 /Course Description

今までに「自己」と「他者」について深く考えてみたことはあるだろうか。他人とともに生きていくため人間関係を理解するには、なにが必要だろうか。たとえ「心」や「社会」の仕組みがわかって、人間関係は理解できない。人間関係はつねに変わっていく「なまもの」だから。時代や地域や育った環境によって異なる価値観をもとに、それぞれの人は他人と交渉し合意をはかり意思決定をする。そうした倫理や判断基準の背景になっているのが「文化」である。

自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感したり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。口では「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生きられるのは、考えてみればとても不思議なことだ。

人類学では、理解できるはずのない他人にフィールドワークという手法をつかって近づいていく。内容はちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうしたたくさんの経験を通して、「他人を知ることは自分を知ることである」という、もっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。

人間と自然と社会の相互作用に関する専門的な知識を身につけると同時に、主体的に学ぶ方法論を実践することがこの講義の達成目標となる。

教科書 /Textbooks

講義中にたくさんの本と映画を紹介する。
そのうちで最低でも5つくらいは最終講義までに読み終えておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「人間らしさとはなにが？ 人間のユニークさを明かす科学の最前線」マイケル・S・ガザニガ
- 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」フランス・ドゥ・ヴァール
- 以下はほんの一部である
- 「完全な人間を目指さなくてもよい理由 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理」マイケル・J・サンデル
- 「日常人類学宣言！ 生活世界の深層へ / から」松田 素二
- 「熊から王へ」中沢新一
- 「人類大図鑑」ロバート・ウィンストン 小笠原景子
- 「フィールドワークへの挑戦〈実践〉人類学入門」菅原和孝
- 「身体の零度」三浦雅士
- 「自由を耐え忍ぶ」テッサ・モリス・スズキ 辛島理人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5講 交換とはなにか 入門編
- 第6講 交換とはなにか 応用編
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 国家とはなにか
- 第9講 信じるとはなにか 入門編
- 第10講 信じるとはなにか 応用編
- 第11講 自然とはなにか 入門編
- 第12講 自然とはなにか 応用編
- 第13講 わかるとはなにか 入門編
- 第14講 わかるとはなにか 応用編
- 第15講 すべてのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義で紹介するさまざまな活動に参加する	...	20%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える	...	20%
講義に関連して提示されるさまざまな議論に参加する...	...	20%
講義の内容と上記の活動を踏まえた上で小論を提出	...	40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専用のウェブ掲示板または北方Moodleを用いて、双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこなう。主体的でインタラクティブな学びを意識してほしい。

履修上の注意 /Remarks

「人間ってなんだろう」「生きるってなんだろう」みたいなことについて、ふだんからよく考えており、すでに大人の心の準備ができている人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の講義は教えられることよりも、自分で考える事が大切です。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

比較宗教・思想【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本及び欧米の宗教、思想の特徴について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本と欧米の双方に軸足を置きながら、宗教、思想を比較する研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本と欧米文化の宗教、思想に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文化と欧米文化の宗教、思想に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較宗教・思想

PHR211M

授業の概要 /Course Description

日本の宗教の特徴は、古代からの我が国固有の神への信仰【神道】と、インドから中国または朝鮮半島を経て我が国に渡来した【仏教】への信仰とを融合させた【神仏習合】である。仏教は紀元前5世紀頃に誕生し、紀元前後に中国に伝わったといわれるが、中国には紀元前6世紀頃より【儒教】があり、紀元前2世紀には漢が儒教を国教として以来、儒教は東アジアの宗教思想の中核となった。さらに西洋に目を向ければ、紀元前後にはギリシャとローマで、アポロ神など神々への信仰がある一方では、中東ではさらに古くからペルシャやユダヤの特異な宗教であるゾロアスター教や【ユダヤ教】のような一神教があった。ユダヤ教は紀元前4年頃誕生したイエスによって【キリスト教】へと発展して、紀元4世紀初期にローマ帝国が国教として以降、西洋で大きな勢力をもった。さらに又、紀元6世紀にムハンマドが誕生し、【イスラム教】を布教するようになると、イスラム教は中東のみならず世界的な宗教へと発展した。これら世界の主要な宗教である仏教、キリスト教、儒教、イスラム教そして日本古来の神道の宗教・思想を比較しながら、日本人の生き方と中国人の生き方、中東の人々の生き方、そして西洋人の生き方を学んでいきたい。そして、できたらそれぞれの国々の異なる文化を学ぶ一助になれることを願う。

教科書 /Textbooks

テキスト 資料はプリント教材を毎回配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(参考書)

- 鎌田東二：『神道とは何か』（PHP新書）
- 松前 健：『日本の神々』（中公新書）
- 三枝 みつよし：『仏教入門』（岩波新書）
- ウィリアム・M・ギャロット：『新約聖書』（角川文庫）
- 加地 伸行：『儒教とは何か』（中公新書）
- 桑原武夫：『論語』（ちくま文庫）
- 小杉 泰：『イスラームとは何か』（講談社現代新書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日米宗教比較--「日本人は無宗教か？信仰心が篤いのか！」
- 第2回 中東の宗教思想--ユダヤ教とキリスト教【一神教】
- 第3回 ユダヤ・キリスト教と西洋民主主義思想【民主主義と人権思想】
- 第4回 仏教誕生前夜【キリスト教と古代インド宗教哲学（ウパニシャッド）】
- 第5回 仏教伝来【インドの仏教⇒中国の仏教⇒日本への仏教伝来】
- 第6回 仏教【日本における展開（神道との衝突・習合）】
- 第7回 縄文人の古代信仰【アニミズムとシャーマニズム】
- 第8回 神道の形成【禊ぎと祓え】
- 第9回 アイヌや沖縄などの縄文信仰＋弥生信仰⇒神道成立⇒明治期の復古神道（伊勢神宮・靖国神社）
- 第10回 イスラム教【ムハンマド誕生】
- 第11回 イスラム教【ユダヤ教とキリスト教 vs. イスラム教】
- 第12回 儒教【孔子誕生・道教】
- 第13回 儒教【古い価値感からの脱皮】
- 第14回 儒教【現代的意味】
- 第15回 比較宗教・思想 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と期末試験（全体のレポート、30%）によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

世界の5大宗教に関する参考書を読み、さらに講義の後図書館で調べる。

履修上の注意 /Remarks

授業前に、指示された神道・仏教・キリスト教・イスラム教・儒教に関する参考書等を読んでおくこと。授業後には、配付資料やノートを見直し復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【日米宗教比較】【日本：神道（神仏習合）】【中東：ユダヤ教・キリスト教・イスラム教】【インド：ヒンズー教・仏教】【東アジア：儒教文化圏】【中東・アフリカ・東南アジア：イスラーム】

比較歴史・文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	欧米を中心とした社会の歴史・文化に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	欧米を中心とした社会の歴史・文化の比較的理解に関わる資料を活用した研究能力を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	欧米を中心とした社会の歴史・文化に関する諸問題について、発見・分析できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	欧米を中心とした社会の歴史・文化に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較歴史・文化

HIS200M

授業の概要 /Course Description

近藤和彦の言葉を借りると、歴史学とは、「過去という異文化を考察し、甦らせる営み」である。あるいはE・H・カーに言わせれば、歴史とは、「現在と過去の間の尽きることをしらぬ対話」である。本講義では、主として18世紀以降の大西洋を挟んだふたつの国、イギリスとアメリカ合衆国における民衆の広い意味での「抗議行動」を学ぶことを通して、そうした国や地域の歴史に関する知識を修得し、何故人びとに制裁や抗議という行動を選択させたのか、またその行動は彼らが生きた社会の中でどのような意味をもっていたのかを考え、的確に表現する力を養成する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料等は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス：【比較の手法】【歴史とは何か】
- 2回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代イギリスにおける女房売り
- 3回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代イギリスにおけるスキミントン
- 4回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代ヨーロッパにおける魔女狩り(1)【宗教改革・ルネサンス】
- 5回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代ヨーロッパにおける魔女狩り(2)【共同体解体の危機】
- 6回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代アメリカ合衆国における魔女狩り(1)【ピューリタニズム】
- 7回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代アメリカ合衆国における魔女狩り(2)【ジェンダー】
- 8回 【異議申立て】とコミュニティ：近代イギリスにおける食糧暴動(1)【18世紀英国社会】
- 9回 【異議申立て】とコミュニティ：近代イギリスにおける食糧暴動(2)【民衆による価格設定】
- 10回 【異議申立て】とコミュニティ：アメリカ合衆国における食糧暴動(1)【20世紀初頭の米国】
- 11回 【異議申立て】とコミュニティ：アメリカ合衆国における食糧暴動(2)【コウシャール肉暴動】
- 12回 【異議申立て】とコミュニティ：【モラル・エコノミー】とは何か
- 13回 【異議申立て】とコミュニティ：サッチャー政権下イギリスの新自由主義
- 14回 【異議申立て】とコミュニティ：レーガン政権下アメリカ合衆国の新自由主義
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連するものを中心にニュースに目を通す。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日米文化比較 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文化とアメリカ文化の差異に関する専門的理解を深める。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化とアメリカ文化の差異を分析する際の研究方法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本文化とアメリカ文化の差異について、自らの視点に基いて発見・分析できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文化とアメリカ文化の差異について関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日米文化比較

ARE260M

授業の概要 /Course Description

本コースでは日本文化とアメリカ文化の比較分析をしていきます。自分の文化は当時にはかえって見えづらいものです。それは自分の姿が自分では客観的に見えないのと同じです。自分の姿がたちを把握するには鏡が必要です。本コースではアメリカ文化を「鏡」として比較することで日本文化の「姿かたち」を探ることが目的です。

コース前半では比較文化の基礎知識を共有するために文化の定義の変遷、比較することの営みの変遷を見ていきます。そこでは文化人類学や文化社会学の議論を参照することになるでしょう。中盤では近代社会論、ジェンダー、近代家族論、異文化間コミュニケーション論の視点で日本映画『Shall We ダンス?』とそのリメイク版である『Shall We Dance?』を比較分析します。

また日本人の「無宗教」言説についての分析を行います。その起源とそれを支える心性についての考察です。

コースの後半は、野球とベースボールの誕生期および発展期の比較、ジャーナルと日記の比較、若者文化論として戦後の世代論および新しいライフスタイルであるミニマリズムについて検討していきます。

教科書 /Textbooks

使用しません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『族の系譜学』（難波功士）、青弓社
- 『Making America : the society and culture of the United States』（Luedtke, Luther S. ）、U.S. Information Agency, Division for the Study of the United States, 1987
- 『近代家族の成立と終焉』（上野千鶴子）、岩波書店、1994.
- 『近代とはいかなる時代か?』（アンソニー・ギデンズ）、而立書房、1993.
- 『日米文化の特質：価値観の変容をめぐって』（松本青也）、研究者、2014.
- 『日常生活の探求：ライフスタイルの社会学』（大久保孝治）、放送大学叢書、2013.

日米文化比較【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.イントロダクション: 授業の進め方、成績判定方法などの詳細
- 2.比較文化の基礎知識の確認: 文化の定義の変遷
- 3.比較文化の基礎知識の確認: 文化を比較するという営み
- 4.日米の映画比較(1)【家族の視点】
- 5.日米の映画比較(2)【ジェンダーの視点】
- 6.日米の映画比較(3)【近代家族論、サードプレイスの視点】
- 7.日米の映画比較(4)【異文化間コミュニケーション論、身体表象の視点】
- 8.日米の映画比較(5) アクティブラーニングを用いた対話授業: 【ワールドカフェ】
- 9.日米の宗教文化(1)【「無宗教」と無神論の違い】
- 10.日米の宗教文化(2)【日本の「無宗教」の起源】
- 11.日米の宗教文化(3)【日米の政教分離の比較】
- 12.日米のスポーツ【ベースボール受容史】
- 13.日米の記録文化【日記とジャーナルの比較】
- 14.日米の若者文化【カウンターカルチャー以降の世代論とミニマリズム】
- 15.授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート: 20%
映画分析ワークシート: 30%
期末試験: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後は講義内容を復習しておくこと。
また返却されたミニレポートを読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では講義形式をとっていますが、その中でも受講生が積極的に学習内容にかかわっていくための活動を行います。ペアワークをして講義内容を復習する「教え合い」活動などをします。

キーワード /Keywords

日本文化、アメリカ文化、比較文化、ジェンダー、近代社会論、文化社会学、異文化間コミュニケーション論、無宗教、ミニマリズム、ジャーナル、日記

日英文化比較【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日英双方の文化について、比較文化的な観点から見た際の知識を深める。
技能	専門分野のスキル	●	文化を比較するにあたっての基本的な方法を習得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日英双方の文化について、それぞれ比較文化的な観点から問題点を発見する能力を習得する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	日本との比較を通じてイギリス文化に対する理解を深める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日英文化比較

ARE261M

授業の概要 /Course Description

私たちは普段、「もっと大人になりなよ」とか「そんな子どもみたいなことはするな」と、「大人」と「子ども」という言葉をよく使っています。けれども、「大人」とはどういう人のことなのかを、はっきりと答えられる人はそれほどいないのではないでしょうか。また自分が「大人」とすると自信を持って言える人は少ない筈です。

これはそれほど不思議なことではありません。なぜなら、私たちはどうすれば「子ども」から「大人」になるのかというのは、決して古くから存在する問いではないからです。例えばイギリスでも日本でも、「若者」について考えるようになってから100年少ししか経っていません。もっと言えば、それ以前には「若者」は存在すらしていなかったのです。つまり私たちは、つい最近になってから、「子どもから大人になる」というのはどういうことか」について考えるようになったのです。

本講義では、その「大人になるとはどういうことか」という問いについて、イギリスと日本の比較を通じて考えていきたいと思います。一例を挙げれば、イギリスと日本では、選挙で投票できるようになる年齢も、アルコールを飲めるようになる年齢も異なります。これは何を意味するのでしょうか。両国の歴史と文化に深く分け入って、社会のあり方そのものの比較に至るような授業を目指します。

教科書 /Textbooks

特になし(毎回、レジユメを配布します)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回: イントロダクション「大人になる」とはどういうことか
- 第二回: 「子ども」の発見〜イギリス編
- 第三回: 「子ども」の発見〜日本編
- 第四回: 「若者」の発見〜イギリス編
- 第五回: 「若者」の発見〜日本編
- 第六回: 「成長」とはどういうことか〜イギリス編
- 第七回: 「成長」とはどういうことか〜日本編
- 第八回: 「若者文化」の発見〜イギリス編
- 第九回: 「若者文化」の発展〜イギリス編
- 第十回: 「若者文化」の発見〜日本編
- 第十一回: 「若者文化」の発展〜日本編
- 第十二回: 「成長」の変容〜イギリス編・1【移行期の困難】
- 第十三回: 「成長」の変容〜イギリス編・2【新しい「大人」のかたち】
- 第十四回: 「成長」の変容〜日本編・1【周縁化する「若者」たち】
- 第十五回: 「成長」の変容〜日本編・2【定まらない「成人」】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト100%。ただし、授業態度などの平常点を加味する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習用・復習用のテキストを配布することがありますので、配布された際には指示に従ってテキストを自己学習の時間で読むようにしてください。また授業で配布するプリントも、当該授業の復習として、また次回授業の予習として何度も読み返してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一昨年度から内容をリニューアルしたまだ発展中の講義ですので、一緒に考えながら授業を作っていきます。

キーワード /Keywords

若者文化、青年政策、成人年齢

日仏文化比較 【昼】

担当者名 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本及びフランスの文化について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本と欧米の双方に軸足を置きながら、文化の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本及びフランスの文化に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本文化とフランスの文化に関する差異と類似、相互の影響関係について関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日仏文化比較

ARE262M

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会学、人類学、歴史学などの研究の知見を用いて、様々な角度から日本とフランスの食について考察する。目的は、現在及び過去の日本とフランスで見られる、食材や食事方法に関する知識を取得しつつ、両国の食文化の特徴、さらには両国の文化と社会が有する特殊性及び普遍性を把握することである。

食は、日常的で身近な行為であるため、多くの学生は食についてよく考えたことがないかもしれない。しかし、普段何気なく食べている料理を深く掘り下げていけば、多種多様な事実を発見できる。この授業を受けた後は、自分の普段食べているものや食べ方が、食文化に規定されており、自分自身の趣味・嗜好に基づいて「選んだ」ものというよりもむしろ、単に国や地域の食文化によって無意識のうちに「選ばされた」ものである場合が多いことを理解できるようになるはずである。また、食事が一層興味深いものになるだけでなく、食に限らず普段あまり意識の向かない様々な物事について考える癖が身につく問題点に気づくようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし。毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 奥村彪生 『日本料理とは何か：和食文化の源流と展開』 農山漁村文化協会、2016年 (○)。
- ・ 北山晴一 『フランス』 (世界の食文化〈16〉) 農山漁村文化協会、2008年 (○)。
- ・ エイミー・グブテイル、デニス・コプルトン、ベツツイ・ルーカル 『食の社会学-パラドクスから考える』 (伊藤茂訳) NTT出版、2016年 (○)。
- ・ 鈴木謙一 『フランス美食の世界』 世界文化社、2006年 (○)。
- ・ 日仏料理協会編 『フランス食の事典 (普及版)』 白水社、2007年 (○)。
- ・ エドモンド・ネランク、ジャン＝ピエール・プーラン 『よくわかるフランス料理の歴史』 (藤井達巳、藤原節訳) 同朋舎出版、1994年 (○)。
- ・ 原田信男 『和食と日本文化：日本料理の社会史』 小学館、2005年 (○)。
- ・ ジャン＝ロベール・ピット 『美食のフランス：歴史と風土』 (千石玲子訳) 白水社、1996年。

上記以外の参考文献については、授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針の説明と基礎的な知識の確認
- 2回 食とアイデンティティ
- 3回 日本の食事様式
- 4回 フランスの食事様式
- 5回 日仏の穀物
- 6回 日仏の発酵食品
- 7回 日仏の菓子
- 8回 日本における食のタブー
- 9回 フランスにおける食のタブー
- 10回 料理の日仏交流
- 11回 日仏における食の政治
- 12回 日仏における食育 スローフードも
- 13回 日仏における外食産業
- 14回 日仏におけるフードツーリズム
- 15回 まとめと復習

以上は予定であり、変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度 (授業中の発言や受講後に提出するコメント用紙) . . . 30%、期末試験 (論述式の試験) または期末レポート . . . 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業に関連するテーマの新聞記事等を配布することがあるので、その場合は事前に読んでおくこと。受講後は必ず復習し、次回の授業に備えること

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の受講に際し、特別な知識は必要ない。高校で世界史、日本史、地理のいずれがしか履修していない学生も歓迎する。
また、本授業は、基本的に講義形式で行われるが、映画などの映像資料の視聴や、ペアワークないしグループワークを伴う。特にこれらのワークにおいては、話しやすい雰囲気を作るよう心がけるので、間違いを恐れず積極的に発言してほしい。

キーワード /Keywords

食、食文化、和食、フランス料理、美食、ガストロノミー、宗教、健康、ツーリズム

日中文化比較【昼】

担当者名 張 景珊 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本と中国の文化の特色および共通点と差異について理解する。
技能	専門分野のスキル	●	日中の文化を比較する方法論を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日中文化の比較から課題を見出し、自ら分析・解決することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	中国文化への認識を深め、学びを継続する能力を身につける。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日中文化比較

ARE264M

授業の概要 /Course Description

日中比較の視点から、日中文化の共通点と相違点を捉えながら、多文化・異文化に対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

プリント材料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

臨時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 概説
- 第二回 中国文明とは
- 第三回 中国の少数民族(多民族文化)
- 第四回 中国東北三省の過去と現在
- 第五回 中国近現代史と日本
- 第六回 中国女性解放史と日本
- 第七回 中国近現代文学と日本
- 第八回 映画でつなぐ日本と中国
- 第九回 在日中国人の過去と現在
- 第十回 中国の食の思想
- 第十一回 日中食文化の比較①【主食について】
- 第十二回 日中食文化の比較②【副食について】
- 第十三回 日中喫茶文化の比較①【中国茶について】
- 第十四回 日中喫茶文化の比較②【茶館、茶菓子について】
- 第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況60%、期末レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に指示されたキーワードをよく調べる。授業後に復習して関連知識を更に調べる。

履修上の注意 /Remarks

授業中によくメモすること。
授業は日本語で行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

興味、関心を持つこと。もっと知りたいという学習意欲。

キーワード /Keywords

比較中国思想 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 中国思想の比較的理解に関する専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	● 中国思想の比較的理解に関わり、中国語文献資料を活用した分析・考察能力を身につける。
	中国語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 中国思想の比較的理解に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 中国思想の比較的理解に対する関心を深めることができる。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※中国学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較中国思想

ARE310M

授業の概要 /Course Description

中国思想の歴史は、中国の歴史そのものと同じほどに長く、かつその内容も多様である。それは日本人の「思想」に対しても、特に前近代においては、きわめて強い影響を及ぼしていた。西洋の思想を受容して「近代化」をとげた今日でも、それは時として意外な形ではあるが、依然われわれ日本人の考え方を規定している。このような中国の思想を、歴史の流れに沿って概観しながら、日本思想・西洋思想等との比較や、相互の影響関係の検討を通じて、複眼的に理解していくことが、この授業の課題である。また、日本人は「漢文訓読」という、世界的にも珍しい中国語テキストの読解方法によって、中国思想を理解してきたのであるから、授業の中では、この「訓読」による思想資料の解釈を再現的に行いつつ、「訓読」による伝統的な中国理解の問題点にも光をあてることにしたい。総じて言えば、今日までの日本における中国思想の影響がいかに広く、深かったかをあらためて認識しつつ、その中の誤解や「理想化」といった面に批判を加え、「他者」の文化としての中国思想をより正確にとらえられるようになることが、本授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

適宜プリント等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

湯浅邦弘編著『概説中国思想史』（ミネルヴァ書房）○
森三樹三郎『中国思想史』（第三文明社、レグルス文庫）○
島田虔二『朱子学と陽明学』（岩波書店、岩波新書）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国思想の原点 【天命】【徳】【易姓革命】【詩経】【書経】
- 2回 孔子の思想 【論語】【仁】【礼】
- 3回 墨子の思想 【兼愛】【非攻】
- 4回 孟子の思想 【性善説】【四端説】【仁義礼智】【王道思想】
- 5回 荀子の思想 【性悪説】【礼】
- 6回 道家の思想（1） 【老子】【荘子】【無為自然】【柔弱謙下】【万物斉同】
- 7回 道家の思想（2） 【老子】【荘子】【無為自然】【柔弱謙下】【万物斉同】
- 8回 法家の思想 【韓非子】【信賞必罰】【法治主義】
- 9回 その他の諸子百家たち 【名家】【陰陽家】【雑家】
- 10回 漢代の思想 【儒教の国教化】【皇帝支配と儒教】
- 11回 六朝期の思想 【清談】【玄学】【老荘】【竹林の七賢】
- 12回 中国仏教の思想 【格義仏教】【翻訳仏典】【禪】【浄土】
- 13回 新儒教の誕生 【朱子学】【陽明学】
- 14回 「異端」の中国思想家たち 【農家】【抱朴子】【李卓悟】
- 15回 まとめ

比較中国思想 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(レポートなど) ... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較東洋美術 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 絵画を中心とする日本美術と中国美術の基礎知識を身に付ける。
技能	専門分野のスキル	● 中国絵画等との比較の視点から日本絵画を考察している代表的な先行研究を理解する。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 比較の視点から日本絵画を考察する研究方法を理解する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 日本美術と中国美術に対する興味関心を高める。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較東洋美術

PHR212M

授業の概要 /Course Description

日本絵画史においては、古くから「やまと絵」と「唐絵」という対概念が存在したが、これらの概念の意味するところは時代によって変化して来た。本講義では、各時代において、「やまと絵」「唐絵（漢画）」という言葉が、どのような絵画を指し示していたかを、具体的な作品を提示しながら確認して行く。また、それによって、日本絵画は中国絵画から、どのような影響を受け、どのように自家築籠中のものとしていったかを確認する。

昨年度は、室町時代から江戸時代の絵画を取り上げたので、今年度は、平安時代から鎌倉時代までを概観する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「やまと絵」の誕生
- 2回 教王護国寺旧蔵「山水屏風」と隋・唐の絵画
- 3回 教王護国寺旧蔵「山水屏風」と男絵系絵巻
- 4回 神護寺所蔵「山水屏風」の画面内容・主題
- 5回 神護寺所蔵「山水屏風」と女絵系絵巻
- 6回 「華嚴宗祖師絵伝」内「義湘絵」の内容
- 7回 「華嚴宗祖師絵伝」内「義湘絵」と南宋絵画-花鳥動物図・草虫図・羅漢図-
- 8回 「華嚴宗祖師絵伝」内「元暁絵」の内容
- 9回 「華嚴宗祖師絵伝」内「元暁絵」と南宋山水画・歌仙絵
- 10回 「華嚴宗祖師絵伝」と明恵上人
- 11回 「一遍上人絵伝」の内容
- 12回 「一遍上人絵伝」と北宋山水画
- 13回 「一遍上人絵伝」と南宋山水画・藻魚図
- 14回 「一遍上人絵伝」と聖衆来迎寺所蔵「六道絵」・平安絵巻
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(場合によっては学期末テスト)・・・70%
コメントカード・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、レジユメに挙げた参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較映像・文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 映像文化の比較を行う際に必要となる専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 映像文化の比較を行う際に必要な基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 映像文化の比較に関する課題を見出し、自らの視点に基いて解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 映像文化の比較研究に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較映像・文化

MCC211M

授業の概要 /Course Description

題材たる映像として、本講義では誰もがなじみの深いハリウッド映画を用いる。比較は、映画と映画、また、映画と小説の組み合わせの形態で、編集した映画の一場面を鑑賞しつつ行う。このような形で映像の比較作業を行なうことによって、今まで見えていなかった、どのような文化の特質が明らかになるのかを明らかにしたい。同時に、比較という作業が、文化を研究するにあたって、有効な研究手段であることを理解してもらいたい。併せて、アメリカと日本、アメリカとイギリス、ユダヤ系と非ユダヤ系の間に存在する、感性や世界観の違いに関する理解も深めてもらいたい。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じてレジュメ等の資料を配布する。参考図書も適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

入門・現代ハリウッド映画講義	藤井仁子	人文書院
時計じかけのハリウッド映画	芦刈いずみ	角川 S C C 新書
大人のための『ローマの休日』講義	北野圭介	平凡社新書
カーチェイス映画の文化論	長谷川功一	リム出版新社
映画の構造分析	内田樹	晶文社
「戦争映画」が教えてくれる現代史の読み方	福井次郎	彩流社
シネマの宗教美学		フィルムアート社
家族の幻影	伊藤淑子	大正大学出版会
ハリウッド100年のアラブ	村上由見子	朝日選書
映画で読む21世紀	長坂寿久	明石書店
イエローフェイス	村上由見子	朝日選書
映画の中のアメリカ	藤原帰一	朝日選書
(大半が図書館蔵書です。)		

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方の説明、参考図書の紹介
- 2回 アメリカ版ゴジラ（1998年）の分析
- 3回 日本版ゴジラ（1954年）の分析
- 4回 日米のゴジラの比較分析
- 5回 ゴジラの違いが日米の文化の差とどのように連なっているかの考察
- 6回 日米の映画タイトルの比較
- 7回 『シンドラーのリスト』と『ライフ・イズ・ビューティフル』を比較
- 8回 上記二作品の映画製作者の意図の差異を分析
- 9回 ユダヤ人と非ユダヤ人の感性の比較
- 10回 日米の映画に見られる語りのあり方の違いを分析
- 11回 日米の映画に見られる語りのあり方の違いと、文化との関係を分析
- 12回 映画『ハリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリーの活躍の度合いの違い
- 13回 映画『ハリー・ポッター賢者』と原作とを比較：ハリーのキャラクターの違い
- 14回 『ハリー・ポッター賢者』の原作と映画との比較によって明らかになる、英米の文化の違い
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100% 持ち込みは不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、指定されたテーマの視点から、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。
講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。
授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較表象文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	表象を論じるための専門的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	表象を比較して論じるための専門的な方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	表象文化として論じるべき課題を発見し、分析・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	表象の比較を通して文化を見つめなおそうとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較表象文化

MCC210M

授業の概要 /Course Description

本講義では「表象」という概念の基礎を理解・習得し、そのうえで人間の様々な表象行為を比較検討して考察することを目的としている。人間のコミュニケーションの根本を理解し、そこから文化社会を見つめなおす訓練をつんでいきたい。表象は視覚のみならず聴覚にもかかわる。声・身体といった人間の最も身近なメディアにも注目していく。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象とは何か① 導入
- 第3回 表象とは何か② 出来事から表象へ
- 第4回 表象とは何か③ 比較の必要性
- 第5回 声と身体① 発語の重層性・落語
- 第6回 声と身体② 身体の一部としての声
- 第7回 声と身体③ 語りと想像力
- 第8回 演じる身体① 男らしさ / 女らしさ
- 第9回 演じる身体② 語り物・歌謡曲
- 第10回 戦争の表象② 先行研究の紹介
- 第11回 戦争の表象③ 事例の紹介
- 第12回 小説から映画へ① 導入
- 第13回 小説から映画へ② 鑑賞
- 第14回 小説から映画へ③ 比較
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（コメントカード、課題、授業態度など）...約20% 学期末レポート約80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：告知した事例について調べておく
事後：授業内容でわからないところがないか復習しておく。とりあげられた比較の視点がどのように応用できるか考えてみる。

履修上の注意 /Remarks

授業時間外においては、毎回授業内容についてのノートを確認し、コメントカード執筆にそなえること。

比較表象文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較日本文学(近現代)【昼】

担当者名
/Instructor

生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の近現代文学について、多様な比較の方法および考え方について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本の近現代文学に軸足を置きながら、文学的研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の近現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	日本の近現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較日本文学(近現代)

LIT225M

授業の概要 /Course Description

本講義は、多様な〈比較〉の視点とその方法の獲得を目的とする。
具体的には、日本の近現代文学作品を〈比較〉という観点から分析することによって、一作品と向き合うだけでは成しえない〈読み〉の深化を試みる。
あらゆるモノは、その他のモノとの関係性の中で初めて明確にそのカタチを現す。そうした関係論的世界において、〈比較〉は欠かせない視点である。

教科書 /Textbooks

取り上げる作品は、「青空文庫」などで入手できるものが多い。事前に適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近世文学と近代文学の比較【近世文学概観】
- 第3回 明治開化期の文学と新聞記事との比較【文学の種としての新聞記事】
- 第4回 前近代の詩歌と近代の詩歌との比較(1)【前近代の詩歌】
- 第5回 前近代の詩歌と近代の詩歌との比較(2)【近代詩の試み】
- 第6回 前近代の詩歌と近代の詩歌との比較(3)【近代詩の誕生】
- 第7回 一作家の新旧作品の比較
- 第8回 小説内世界と現実世界との比較
- 第9回 男性研究者と女性研究者の「読み」の比較
- 第10回 作家論・作品論とテキスト論の比較(1)【作家論・作品論的立場から小説を読む】
- 第11回 作家論・作品論とテキスト論の比較(2)【テキスト論的立場から小説を読む】
- 第12回 典拠となった日本古典作品との比較
- 第13回 典拠となった外国文学作品との比較
- 第14回 国語教材の比較
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験...80% リアクション・ペーパーの評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品については事前に紹介するので、読んだ上で講義に参加すること。講義後は、講義内容の復習を行うこと。

比較日本文学 (近現代) 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (領域系) 科目

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は慎むように。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主に短編小説を取り上げる予定です。小説を読んでから講義に参加してください。学びは俄然深まるはずです。

キーワード /Keywords

日本近代文学、日本現代文学

比較日本文学(古典)【昼】

担当者名 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の古典文学を中心に、それに関わる多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本の古典文学を軸として、時代や地域を横断する多様な文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本古典文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本の古典文学を中心として、それに関わる異文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較日本文学(古典)

LIT226M

授業の概要 /Course Description

日本文学が、どのように外国文化を学び受け入れてきたかを、漢文との関わりを通して学ぶ。
漢文学の受容を通して日本文学の特質を考える。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメ、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 羽衣と白鳥処女伝説
- 3回 異界訪問譚と時間【仙界と時間の流れ】
- 4回 異界訪問譚と時間【浦島太郎】
- 5回 眉間尺【孝子伝と捜神記】
- 6回 眉間尺【日本における眉間尺譚】
- 7回 楊貴妃【長恨歌と長恨歌伝】
- 8回 楊貴妃【「長恨歌」と『源氏物語』】
- 9回 楊貴妃【日本の楊貴妃伝説】
- 10回 原典と翻案【中国小説の受容：白話小説の流行と日本文学】
- 11回 原典と翻案【中国小説の受容：近世前期の文学と白話小説】
- 12回 原典と翻案【中国小説の受容：雨月物語①序盤】
- 13回 原典と翻案【中国小説の受容：雨月物語②中盤】
- 14回 原典と翻案【中国小説の受容：雨月物語③終盤】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験90%
平常の学習状況10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で取り扱う作品については、事前に読んでおくこと。
授業で指示された参考文献には、事前に目を通して授業に臨むこと。

比較日本文学 (古典) 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (領域系) 科目

履修上の注意 /Remarks

受講人数、受講者の興味関心によって、扱う作品を一部変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較広域文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class 2年 /

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本及び欧米をはじめとする広域文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	広域文学を比較する研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	広域文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用し、複眼的視野に立って考察し、解決することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本及び欧米をはじめとする広域文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較広域文学

LIT200M

授業の概要 /Course Description

一つのテーマに沿って、各国の文学作品を渉猟し、幅広い知識を身につけるとともに、精読で得た発見を自分の言葉にして表現する力を養いましょう。

今回は、マゾヒズムとサディズムというテーマを設定します。

教科書 /Textbooks

なし（そのつど資料を配布します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①マゾッホ『毛皮を着たヴィーナス』1【書かれたマゾヒズム】
- ②マゾッホ『毛皮を着たヴィーナス』2【書くことのマゾヒズム】
- ③ポランスキー監督映画『毛皮を着たヴィーナス』
- ④マゾッホ『風紀委員会』
- ⑤谷崎潤一郎『鍵』
- ⑥岡田和人『すんどめ』
- ⑦小まとめ
- ⑧サド『悪徳の栄え』1【書かれたサディズム】
- ⑨サド『悪徳の栄え』2【書くことサディズム】
- ⑩カミュ『カリギュラ』
- ⑪三島由紀夫『サド侯爵夫人』
- ⑫フロイト
- ⑬ドゥルーズ『マゾッホとサド』
- ⑭ジジエク『否定的なもののもとへの滞留』・『快樂の転移』など
- ⑮総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回授業末の演習50% + レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た思考の切り口や思考回路を、自分の身のまわりのものに適用してみるという実践を、意識的に積んでください。「こういう点を疑ってかかれば、ステレオタイプが剥がれて、考えが深まっていく」というコツをつかんで、自在に扱えるようになるには、日々の訓練が不可欠です。

比較広域文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学 マソヒズム サディズム テクスト読解 批評

比較ジェンダー論【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本及び欧米をはじめとする地域のジェンダーの問題について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本と欧米のいずれかに軸足を置きながら、ジェンダーの領域の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本及び欧米におけるジェンダーに関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本と欧米をはじめとする異文化のジェンダーの領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較ジェンダー論

GEN210M

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進展するなか、ナショナルとグローバルのせめぎあいのなかで変容する表象文化に焦点を当て、そこに潜むジェンダー・ポリティクスを、国際比較というツールを用いて、歴史的 / 地域横断的に読み解く視点と理論を身につける。

教科書 /Textbooks

事前にレジュメと資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『象徴としての女性像-ジェンダー史から見た家父長制社会における女性表象』（若桑 みどり著）筑摩書房 4,500円
- 『視線と差異-フェミニズムで読む美術史』（グリゼルダ・ポロック 著）新水社 4,515円
- 『女性・ネイティブ・他者-ポストコロニアリズムとフェミニズム』（トリンティ・ミンハ著）岩波書店 3,675円
- 『岩波女性学辞典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編）岩波書店 4,830円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 絵画のなかの家族・子ども
- 2回 絵画のなかの妻・娼婦
- 3回 絵画のなかのオリエンタリズム
- 4回 モダンガール・東アジア・植民地的近代
- 5回 対ソ戦略韓国 - 沖縄 - 台湾 - フィリピン防衛ラインにおける米軍基地文化と暴力
- 6回 小説・戯曲・宝塚にみる異装性
- 7回 広告・映画のなかのジェンダー、人種 / エスニシティ、階級とポストコロニアリズム
- 8回 広告・映画のなかのマッチョ文化
- 9回 デイズニー映画と帝国主義
- 10回 映画のなかの「レイディース・ファースト」
- 11回 絵画・映画・小説のなかの美女と死
- 12回 ファッション雑誌がつくる「美」と美容整形
- 13回 越境する日本のマンガ・アニメ、コスプレ、ライトノベル
- 14回 アメリカ大統領家族と日本天皇家家族の肖像とナショナリズム
- 15回 セックス / ジェンダー / セクシュアリティの境界を侵犯する表象文化とその展望

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、事前に配布される授業の資料を授業開始前までに読んで、内容に類似した作品が他にないか情報検索をしてみることに。
事後学習として、また期末課題の準備作業として、日頃から表象文化に関心を向け、授業の各回の主題に関連した表象文化の認識・分析に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバル化が進展する状況下でのメディア表象に日頃から関心を向け、ジェンダーの視点で問い直す作業を行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

オリエンタリズム、階級、グローバルゼーション、コロニアリズム、セックス / ジェンダー / セクシュアリティ、人種 / 民族、多文化主義、ナショナリズム、表象文化、ポストコロニアリズム、ポリティクス、眼差し

比較社会意識 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の意識の変容を、社会変動から理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身と社会の関係性について、客観的に捉え直し、その成立の背景を資料を用いて考察する。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	社会変動に伴い、自身の思考のあり方がどのように変容した（する）のかを適切に把握することができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人間) 社会意識論	SOC210M
(比文) 比較社会意識	SOC210M

授業の概要 /Course Description

わたしたちの生活に密接なものひとつに「男」「女」という性別があります。ジェンダーとは、そうした男・女といった身体の違いに、例えば「男らしさ」「女らしさ」などの様々な意味をつけたもの、または意味をつけることを指します。この授業では、ジェンダー概念と女性学との関係と歴史、ジェンダーに関する諸問題について考察します。授業はグループ毎のディスカッションやプレゼンテーションなど、積極的な授業参加によって成り立ちます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。随時、必要な文献や資料を紹介、あるいはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤文香監修(2019)『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』明石書店
- 荻野美穂(2014)『女のからだ：フェミニズム以後』岩波新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ジェンダーとは
ジェンダー概念の説明と整理。コース全体を貫くテーマについて。
2. 女性学とジェンダー研究—その1
その起源と発展を社会背景から考察する。
3. 女性学とジェンダー研究—その2
日本におけるフェミニズムと基本文献の読解。
4. 男性学とは
男性学の歴史、理論と現在の状況。
5. 生殖とジェンダー—その1
日本における産児調節運動について。
6. 生殖とジェンダー—その2
生殖技術の発展をめぐる諸問題について。
7. 多様なセクシュアリティ
異性愛も含めたさまざまなセクシュアリティとカテゴリーについて。
8. セクシュアリティと社会運動
「LGBT」、「クエア」をめぐる社会運動の興隆と傾向について。
9. メディア文化におけるジェンダー表象
ジェンダーメディア分析の方法と実践。
10. 教育とジェンダー
文系・理系におけるジェンダー差、隠れたカリキュラム、女子大学の存在意義について。
11. 就労とジェンダー
ワークライフバランス、M字型就労、ガラスの天井について。
12. 貧困とジェンダー
女性をめぐる貧困の構造と支援について。
- 13、14. グループ発表
15. 授業の総括
これまでの授業内容をふまえた上で、今後のジェンダー研究の課題について議論する。

暦に沿って講義の順番が前後したり、内容が変更になることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内発表 / コメントシート (40%)、定期試験 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布するプリント類に事前に目を通してから授業に臨むこと。また、授業後は書籍や新聞をはじめとしたメディアに当たり、授業で扱ったテーマの理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較社会文化【昼】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における文化について、多角的な視点から理解する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	興味関心のある文化現象を、経済や政治といった社会的な側面から分析し、その問題点を批判的に捉える。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)			
	生涯学習力	●	自分自身が文化生産者としてどのような活動ができるのかを把握し、さらにそのことが社会に与える影響について学ぶことができる。	
	コミュニケーション力			

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(人関)文化社会学	SOC211M
(比文)比較社会文化	SOC211M

授業の概要 /Course Description

社会学が「文化」として捉える事象は幅広い。本科目では、音楽や観光、コンビニ、ゲーム、ファッション、恋愛など、学生にとって身近なトピックと思われるものを題材として取り上げ、社会学の諸理論を用いて考察する。身近な事柄を客観的、批判的に読み解くことで、社会的な視点を感覚的に理解できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

井上俊・長谷正人(編)「文化社会学入門」ミネルヴァ書房 2010年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回: イントロダクション
- 第2回: 文化社会学と近接領域
- 第3回: 文化と階級・階層
- 第4回: 文化と権力
- 第5回: 文化とメディア
- 第6回: 文化とジェンダー
- 第7回: 文化と消費
- 第8回: 都市の文化(コンビニ、カフェ、オタクなど)
- 第9回: アートの文化(音楽、マンガなど)
- 第10回: 身体の文化(スポーツ、ファッション、フィットネスなど)
- 第11回: 娯楽の文化(観光、ゲーム、テーマパークなど)
- 第12回: 暮らしの文化(食生活、住まい、出産・育児など)
- 第13回: 人間関係の文化(恋愛、友だち、職場など)
- 第14回: 儀礼の文化(結婚式、クリスマス、祭りなど)
- 第15回: まとめとレポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

講義の中で実施する小レポート(20%)と期末レポート(80%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の指定箇所を読んで予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近現代美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	近現代美術の基礎知識を身に付ける。
技能	専門分野のスキル	●	近現代美術の研究方法を理解する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	近現代美術を考察する力を身に付ける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	近現代美術に対する興味関心を高める。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

近現代美術

PHR213M

授業の概要 /Course Description

20世紀前半に現れた数々の集団的な運動体による冒険と実験、変革としての前衛美術の動向が、20世紀末から21世紀の美術表現にどのように受け継がれ検証され、今日の状況があるのかを探る。20世紀末、すなわち1980年代以降今日までは、前述のような集団的な動きやまとまった主義主張は現れなくなった。むしろ個人的であったり、逆に汎国際的な動向を示す文化表象を一つずつ点検し、それら相互の関連を探っていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「コンセプチュアル・アート」 著・トニー・ゴドフリー 岩波書店 2001
- 「アート：“芸術”が終わった後の“アート”(カルチャー・スタディーズ)」著・松井みどり 朝日出版社 2002
- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「アートとは何か: 芸術の存在論と目的論」著;アーサー.C.ダントー 人文書院 2018

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. マルセル・デュシャン「泉」から100年、デュシャンは21世紀までも抜群の影響
2. 第1次世界大戦期に生まれたダダ運動とその継承、1950~60年代のネオ・ダダ、そして現代
3. シュルレアリスムの魔力、ヨーロッパからアメリカ大陸、日本へ
4. アール・ブリュット 生の芸術
5. 身体・環境・日常
6. ポップ・アートのクールな兄弟姉妹 ミニマル・アートとその膨張
7. アートとは何か?、コンセプチュアル・アートの探求は続く
8. 限定のない展示空間、非芸術的空間から野外まで
9. 大衆消費社会から高度資本主義社会へ、経済を反映したアートの表現
10. 写真が重要なメディアに
11. 映像も重要なメディアに
12. ジェンダー、エコノミー、ポリティクス コンセプチュアル・アートからの展開
13. 国際美術展の興隆
14. 芸術に中心はなく グローバリズムと多民族主義のアートI アジア、オセアニア
15. グローバリズムと多民族主義のアートII 南米、アフリカ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト(2回)・ 50%
- 日常の授業への取り組み・ 10%
- レポート・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2) 随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

ダダ シュルレアリスム アール・ブリュット コンセプチュアル・アート以後 グローバリズムと地域性

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会におけるメディアの重要性について理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代に固有のメディアが、社会や個人意識の変化にもたらす影響を、具体的な事例を使いながら分析することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	メディアと社会の関わりについて、批判的な視点を持つことができる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報社会論

SOC213M

授業の概要 /Course Description

私たちの日常生活にありふれた様々な「メディア」を通じ、社会学的な視点からの理論と方法論を身につける。人と社会との関係において、このような「メディア」が人と人、そして人ともを結びつける上でいかなる役割を果たしているのかを理解する。

教科書 /Textbooks

なし。ただし、必要に応じリーディングを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

池田理知子・松本健太郎, 2010, 「メディア・コミュニケーション論」ナカニシヤ出版。
辻泉(他), 2018, 「メディア社会論」有斐閣ストウディア。
藤田真文(編), 2016, 「メディアの卒論-テーマ・方法・実際 [第二版]」ミネルヴァ書房。
吉見俊哉, 2013, 「メディア文化論-メディアを學人のための15話 改訂版」有斐閣。
吉見俊哉(編), 2001, 「メディア・スタディーズ」せりか書房。
また、必要に応じてリーディングリストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【注】ゲスト講師による特別講義を含む。講義計画は変更することがある。
第1回：オリエンテーション：「メディア」とは何か。本講義について。
第2回：メディア史-そのスナップショット：モダンとポストモダン
第3回：メディア研究の方法①：記号論の基礎
第4回：メディア研究の方法②：広告の研究
第5回：メディア研究の方法③：オーディエンス研究
第6回：メディアと権力①：国民国家の神話・メディアの政治的役割
第7回：メディアと権力②：テクノロジーと監視のネットワーク
第8回：メディアとジェンダー：岡崎京子作品に見る「消費する女性たち」
第9回：メディアとセクシュアリティ：BL作品とその批評の再読解
第10回：メディアと人種・エスニシティ：再生産と異種混雑性
第11回：メディアと新しい連帯：情動・公共圏・民主主義
第12回：メディアと変容する身体：機械と人、そして「アトラクション」
第13回：メディアと社会理論：コミュニケーションが構成するネットワーク
第14回：メディアから世界を捉え直す：メディア論の視座
第15回：まとめ：社会を理解するためのメディア研究

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート(2000文字程度)・・・50%、期末レポート(4000文字程度)・・・60%
※いずれも参考文献の引用を含む。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle等で事前にリーディングや資料が配布された場合、必ず一読して授業に臨むこと(60分程度)。また、講義後は配布資料と自作の講義ノートを用い課題に向けた復習を実施しておくこと(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

社会学的な視点からの講義となるため内容を深く理解する上で、関連する基礎教育科目や専門科目を履修しておくことが望ましい。図書館に設置された「社会学がわかる」コーナーに配架された文献に主体的に目を通しておくことで、講義の理解も深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習や卒業論文でメディアに関連する研究を取り上げたいと考えている場合、専攻の如何を問わず積極的に履修してください。

キーワード /Keywords

消費社会論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（領域系）科目

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代社会における個人の消費行動と社会の関わりについて理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	消費行動を、経済行動に加え社会的な行動として捉え、具体的な事例をもとに分析することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	消費行動について、批判的な視点を獲得し、行動できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

消費社会論

SOC214M

授業の概要 /Course Description

社会における「モビリティ」の拡大をキー概念とし、今日の観光と人の移動をめぐる様々な事象を横断的にとりあげ、そこから現代社会の成り立ちとその変動を社会的に考察することを目的とする。観光の成り立ちとその展開を社会の中に位置づけ、観光という事象とそれを取り巻く諸々の社会的組織や制度との関わりを分析することから、移動に基礎を置く社会がいかにして構成されつつあるかを検証する。講義では国内外様々な事例を取り上げるとともに、こうした事例を分析するための社会理論や文化理論を多岐にわたり紹介する。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適時資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適時紹介。
※本講義内容に即したリーディングリストを講義の中で配布予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 オリエンテーション：移動する社会【モビリティ】
 - 2回 観光の誕生【近代化】【産業化】
 - 3回 消費社会と観光①：理論編【記号論】【再魔術化】
 - 4回 消費社会と観光②：事例編【テーマパーク】
 - 5回 媒介としての観光【メディア】
 - 6回 観光者の誕生【ポスト・ツーリスト】【パフォーマンス】
 - 7回 社会の観光①：ポピュラー・カルチャーと観光【コンテンツ・ツーリズム】
 - 8回 社会の観光②：負の遺産の観光化【ダークツーリズム】
 - 9回 観光の政治学①：観光と文化の再編成【ポスト・コロナリズム】
 - 10回 観光の政治学②：観光と地域コミュニティの再編【文化研究】
 - 11回 観光と地域文化①：世界遺産と観光【文化遺産】
 - 12回 観光と地域文化②：世界遺産化と国民遺産【ナショナルリズム】
 - 13回 移動と観光の間で【ライフスタイル移住】
 - 14回 観光と地域の再編成【コミュニティ】【観光公害(オーバーツーリズム)】
 - 15回 まとめ：モビリティからみる「社会の観光」

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート 100%
※期末レポート課題については、履修者の観光体験に基づく現地調査に基づくものとする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle等での配付資料には事前に目を通すこと。
レポートに備え、配付資料や講義ノートをもとに講義内容をよく復讐しておくこと。
講義で紹介した関連書籍について図書館等で確認しておくこと。
講義で紹介した事例について関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

社会現象に対する社会学的な理解を要求するので、同時に開講されている社会学専門科目と併せて履修することが望ましい。
事前資料が配付された場合、必ず目を通してから講義に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シラバスに掲載した授業計画は一部変更されることがある。
定期的に観光地に足を運び、自身の観光者としての経験を積み重ねておくことが望ましい。

キーワード /Keywords

フィールドワーク論 【昼】

担当者名 /Instructor 大津留 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	フィールドワークに関する、さまざまな技能を学習する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	対人的な質的調査にもとづく事例の分析から問題点を抽出し、考察を行う。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	フィールドワークの技法を社会的なさまざまな実践に応用する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

フィールドワーク論

ANT212M

授業の概要 /Course Description

本講義では、学生自らが野に出て研究活動することを前提に、多様なフィールドワークの事例をとりあげ、フィールドワークのエッセンスを学ぶことを目的としています。本講義におけるフィールドワークとは、対象や地域を直接見て、聞いて、それを伝えることを指し、学生自身がどのように行動するかを考えながら、紹介する専門家たちの仕事に触れていきます。

インターネットをはじめとした各種のメディアを通じて手に入る情報と、自分自身の身体的・状況的情報を得るフィールドワークはどのように異なるでしょうか。バーチャルな情報が氾濫するなかで、自らのリアリティをどのように確立し、他者を理解し、他者に適切に伝えていくのは、フィールドワークの大きな課題です。

自らの専門性のなかで、フィールドワークという手法を活用するイメージを持ち、直接対象と出会い、自らの体験を通して考えが変容していくプロセスをたどること、そのなかで「わかる」ことの重要性を説明できるようになることを、本講義の達成目標とします。

教科書 /Textbooks

なし

参考書を講義中に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』 2006 菅原和孝
- 『調査されるといふ迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』 2008 宮本常一・安溪遊地
- 『ヤシガラ碗の外へ』 2009 ベネディクト・アンダーソン
- 『フィールドワークの絶望と愉悦 山野や村を歩く』 2015 篠原徹
- 『飯場へ: 暮らしと仕事を記録する』 2017 渡辺拓也

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション ー講師紹介とフィールドワークの歴史
- 第2回 他者理解としてのフィールドワーク1
- 第3回 他者理解としてのフィールドワーク2
- 第4回 フィールドワークの成果 ー研究
- 第5回 フィールドワークの成果 ーアート
- 第6回 普遍主義と相対主義
- 第7回 フィールドワークとプロパガンダ1
- 第8回 フィールドワークとプロパガンダ2
- 第9回 フィールドワークの計画
- 第10回 身体のフィールドワーク
- 第11回 思考のフィールドワーク
- 第12回 経験主義と客観主義
- 第13回 フィールドワークと認識論
- 第14回 フィールドで生きる1
- 第15回 フィールドで生きる2

内容と進行は、適宜変わることがあります。

フィールドワーク論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート20%
期末レポート80%
このほか、適宜フィールドワークに関連する課題を示します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義では、大学や慣れ親しんだ日常から離れ、地域の活動やイベントに参加することを奨励します。
日常的な体験を通して、フィールドワークの意義を考えてください。

履修上の注意 /Remarks

この講義は、学生自身がフィールドワークを用いた研究や活動をすることを前提としています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィールドワーク、参与観察、他者理解、相対主義、共感

人間性の進化 【昼】

担当者名 /Instructor 大津留 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 進化論的な視点から人間性の獲得に至るプロセスを理解する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 進化論的な視点から現代社会との相関を考える。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 生物学的な特性に視野をひろげ、人間とはなにかを探究する。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間性の進化

ANT211M

授業の概要 /Course Description

本授業では、ヒトの「人間性」について進化人類学の視点から学習し、進化論的な視点から現代社会の出来事について考える能力を身に付けることを目指します。

人間性やモラルは、時代や地域、文化や環境によって、さまざまに変化します。しかし、ヒトという種を多様な生物のバリエーションのひとつとして見たとき、長い進化の過程で身に着けた、共通する「人間性」があることがわかります。文化や教育を超えた共通する「人間性」を客観的に明らかにすることは簡単なことではありませんが、他の動物との比較、特に類人猿と呼ばれる遺伝的にヒトと近いサルたちの観察によって、これまで大きな発見もたらされてきました。

授業の前半では、進化論の概論と、類人猿たちを中心とする動物行動学のデータを取り上げ、進化論からみた「人間性」について概論を講義します。後半では進化論を背景として、社会学や人類学における協力や葛藤、正義についてのデータを取り上げ、人間が持つ普遍的な正義や道徳について講義します。

教科書 /Textbooks

指定の教科書はありません。
 適宜レジュメの配布や参考文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル.S.ガザニカ (著) 2010 『人間らしさとはなにか?』 インターシフト
- 西田正規 (他編) 2003 『人間性の起源と進化』 昭和田

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: イン트로ダクション
- 2: 人間の脳
- 3: 人間とチンパンジー
- 4: 人間と社会
- 5: 人間の道徳1
- 6: 人間の道徳2
- 7: 人間の情動
- 8: 人間の芸術
- 9: 人間の意識
- 10: 人間の肉体
- 11: 人間と動物
- 12: 人間の男女
- 13: 人間と葛藤
- 14: 人間と葛藤解決
- 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 中間レポート (50%)
- 学期末試験 (50%)

人間性の進化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(領域系)科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回キーワードや疑問を紹介するので、自分なりの答えや新たな疑問を考えておいてください。
興味のある、または関連する項目について、授業の前後で自分なりに調べ、理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間性、道徳、協力、心の理論、普遍性

アジアの中の日本文化【昼】

担当者名 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジアでの日本文化の流通・展開を多様な文化領域に留意して総合的に理解する。
技能	専門分野のスキル	●	アジアという視点から日本の多様な文化領域を相対化する研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アジアとの関係性における日本社会の諸課題に気づき、適切な研究方法を選択して多角的に考察し、実践的に解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アジアにおける日本文化の存在様態への着目によって、自文化と異文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジアの中の日本文化

JPS291M

授業の概要 /Course Description

本講義では、日本とアジアをとりまくマクロな政治経済動向を踏まえつつ、アジアを舞台に展開される人間のミクロの生活世界に分け入っていく。日本と深く関わる人、もの、情報の、ダイナミックで多様なフローに対して歴史的パースペクティブを踏まえて接近する。具体的には、政府の移民政策の記録には残らないような東南アジアに渡った日本人、アジアにおける日本の食やポップカルチャーなど「日本文化」の流通と消費、技術の越境と文化変容、「和食」やイスラーム圏に逆輸入される「国産」ハラル食品などの「文化の越境」、オリエンタリズムと日本イメージの変遷などについて考究していく。

「アジア」とは何か。日本にとってアジアは自己なのかエキゾチックな他者なのか……。改めて問われると明確な回答が難しい「アジア」への多角的なアプローチを通して、本講義全体としては、アジアを学び、他者との関係を構築する上で不可欠な「自己」への理解も深化させたい。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 アジアとは何か・1: その内的多様性
- 第2回 アジアとは何か・2: 誕生の歴史と日本の位置づけ
- 第3回 オリエンタリズムと日本イメージの変遷・1: 客体から主体へ
- 第4回 オリエンタリズムと日本イメージの変遷・2: テクノオリエンタリズムから他者の複数化
- 第5回 アジアの中の日本文化・1: 納豆と照葉樹林文化圏
- 第6回 アジアの中の日本文化・2: 照葉樹林文化圏と生活文化
- 第7回 アジアの中の日本文化・3: 「日本文化の起源」論
- 第8回 技術の越境と文化変容・1: 自動販売機、イチゴ、銭湯
- 第9回 技術の越境と文化変容・2: 物流、ETC、ご当地戦隊ヒーロー
- 第10回 寿司からSushiへ: 「和食」の遺産化と消費
- 第11回 イスラーム圏に逆輸入される「メイドインジャパンのハラル食品」
- 第12回 宗教と世界観: 環太平洋の『日本神話』
- 第13回 消費される日本文化と世界の工場
- 第14回 二つのオリエンタリズム
- 第15回 新たな関係性に向けて(総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内での学習状況(小テスト、ワークシート、小レポート含む)40%、試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回事前に参考資料を指示するので目を通してから出席すること。受講後は、各講義で指示された参考文献などを活用して理解の深化に努め、講義内で出された課題にも積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから実社会で生起する事象に広く関心を持ち、講義で学んだこととリンクさせて理解を深めてほしいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義では頻繁に皆さんに問いかけをして、そのリアクションを基に授業をさらに展開させていきます。
主体的かつ積極的な受講態度で臨んでください。
アジアについて、そして日本について、小さな(再)発見をともにしながら探求したいと思います。

キーワード /Keywords

日本の宗教文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の宗教文化に関する知識・理解を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	日本の宗教文化に関する資料の読解力や研究方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の宗教文化について適切な研究方法にもとづき考察できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	日本の宗教文化への認識を深め、学びを継続する能力を身につける。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の宗教文化

PHR214M

授業の概要 /Course Description

テーマ：神道の成立と展開

初詣やお祭りやお祓いなど、日本人の宗教生活に密着した宗教である神道については、義務教育や高校教育では詳しく触れられることがない。学界においても、戦前戦後を通じて本格的に考究されることがなかった。近年になってようやく研究が進展しはじめた。最近はパワースポット詣でやスピリチュアルブームでもてはやされているところがあるが、そうした関連書籍に目を通して、ずいぶん誤解されているところが見受けられる。

神道という宗教は日本の民族宗教として原始時代から成立していたと考えられがちである。また民俗宗教として社会の中で自然発生的に形をなしてきた宗教という見方もなされることもある。あるいは、神道は土俗的信仰が仏教に取り込まれる中で、仏教の一つの部門・形態として形成されてきたとする議論もある。しかしながら本当にそうだろうか。

神道という宗教は、稲作漁労文化を基盤としているが、それが自然に発展を遂げて今日に至ったものではなく、古代東アジアの国際関係・文化交流・宗教交流の中の様々な力学によって形作られていったと考えられる。

神道は奈良時代に仏教との関係を深めていく。律令国家が神道と仏教を国家の宗教の二本柱と位置付ける中で、神を仏との関係をどう位置付けるか、その思想は政治的要因も絡んで大きく揺らいでいく。今日に続く神道と仏教という二つの宗教の共存のあり方は平安時代まで試行錯誤が続いていくのである。こうした古代の宗教史は今日の日本人の宗教生活や文化のありがたとも密接に関わってくる問題だろう。古代のみならず中世から現代までの日本宗教の流れにも触れながら講義を進めていきたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡田莊司編『日本神道史』(吉川弘文館)
- 井上光貞『日本古代の王権と祭祀』(東京大学出版会)
- 高取正男『神道の成立』(平凡社)
- 村山修一『本地垂迹』(吉川弘文館)
- 吉田孝『日本の誕生』(岩波新書)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 「神道」の成立をめぐる諸学説
- 3回 律令制以前の「神道」
- 4回 神社の成立と古代の神信仰
- 5回 神祇令の成立
- 6回 中国の皇帝祭祀と神道(1) 皇帝祭祀とは
- 7回 中国の皇帝祭祀と神道(2) その共通点と相違点
- 8回 儒教・道教の受容をめぐる
- 9回 神仏習合思想の発生
- 10回 神仏習合と東アジア宗教
- 11回 奈良時代の神仏隔離
- 12回 平安時代の神仏隔離
- 13回 本地垂迹説の形成と展開
- 14回 神仏習合と近代の神仏分離
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書をよく読んでおくと、授業への理解が深まりますので読み進めて下さい。
授業で分からない点があったら、授業終了後に時間を設けるので質問をコメントカードに記入すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校レベルの日本古代史(飛鳥時代~平安時代)について高校時代の教科書や図書館の日本史概説書で復習しておいてください。

キーワード /Keywords

神道、神社、神祇令、皇帝祭祀、律令制、神仏習合、本地垂迹説、神仏隔離

日本の近代思想【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor クラマー スペン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	明治期の民権運動から大正期のデモクラシー運動に至る日本近代の社会思想の流れとその意味を正しく理解する。
技能	専門分野のスキル	●	研究史における論点を理解し、史料から事実を読み取ることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	近代国家の構造・運用・機能などから、その背後にある思想を読み解くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の近代思想

PHR217M

授業の概要 /Course Description

明治憲法(大日本帝国憲法)が作られる過程を通して明治前期の政治史を理解するとともに、憲法に関する当時の様々な議論に触れ、今日の憲法をめぐる政治的課題を、過去との比較から考える視座を学ぶことを目標とする。
講義は主に講義形式で進め、毎回レジュメないし必要なテキスト・史料を配布する。授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらう。

教科書 /Textbooks

必要に応じて次回講義につかうテキスト・史料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

鳥海靖『日本近代史講義』東京大学出版会、1988年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 近世日本の秩序と国際環境
3. 「公儀」から「公議」へ
4. 新秩序の模索と戊辰戦争
5. 揺籃期の明治(1): 新政府の樹立と立憲政治の理念
6. 揺籃期の明治(2): 明治6年の政変と西南戦争
7. 立憲国家への道程(1): 自由民権運動と憲法草案
8. 立憲国家への道程(2): 政府内の意見対立と明治14年の政変
9. 立憲国家への道程(3): 自由党と立憲改進黨
10. 立憲国家への道程(4): 憲法調査と草案の検討
11. 華族制度・内閣制度の確立
12. 明治憲法とはどのような憲法だったか?(1): 天皇の地位と権限
13. 明治憲法とはどのような憲法だったか?(2): 帝国議会の地位と権限
14. 明治立憲制の運用と問題点
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(平常点)20%、ペーパーテスト80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布されたテキスト・史料に事前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「授業態度(平常点)」は総合成績の20%だけ占めるが、15回目までに60点以上を取らない受講生はペーパーテストが受験できないので、授業に積極的な出席が不可欠である。「授業態度(平常点)」の評価方法は出欠の把握と「出席カード兼リアクションペーパー」(毎週の授業に配付)に書いてあるコメントである。なお、授業態度の観点から問題と見なせる行為(私語、居眠り、長時間の携帯電話・スマートホンいじりなど)は発見次第減点の理由になる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の生活文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	衣食住における伝統的な生活文化の基礎的な知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	文献資料から生活文化の歴史を読み取ることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	身の回りの生活習慣の歴史的意味を理解することができる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の生活文化

JPS211M

授業の概要 / Course Description

前半は日本人の生活の中心である衣食住の歴史を先史時代にさかのぼるとともに、日本文化の確立期である江戸時代の食文化、衣服、化粧を見ていきます。
後半は北部九州の菓子の歴史の背景にある社会の歴史を外来文化や政治的・経済的背景を中心に見ていきたいと思えます。

教科書 / Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) / References (Available in the library: ○)

- 永原慶二『苧麻・絹・木綿の歴史』(吉川弘文館2004年)
- 柳田國男『木綿以前の事』(岩波文庫1979年)
- 丸田薫『江戸の卵は1個400円』(中公新書2011年)
- 原田信男『江戸の料理史-料理本と料理文化-』(中公新書1989年)
- 原田信男編『江戸の料理と食生活』(小学館2004年)
- 八百啓介『砂糖の通った道-菓子から見た社会史-』(弦書房2011年)

授業計画・内容 / Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 江戸時代における衣食住の成立
- 3回 生活文化の東日本と西日本
- 4回 照葉樹林文化の食文化と発酵食品
- 5回 江戸時代の食文化
- 6回 肉食と鶏卵食
- 7回 木綿の歴史
- 8回 近世の国産木綿と輸入木綿
- 9回 古代・中世における外来菓子と宗教
- 10回 長崎貿易と輸入砂糖
- 11回 長崎警備と南蛮菓子
- 12回 南蛮菓子のルーツ
- 13回 飴の歴史
- 14回 藩政改革と菓子 城下町小倉と菓子
- 15回 福岡県の近代産業社会と菓子

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・教科書・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回目の授業で受講上の重要事項の説明と注意を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の歴史と社会【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教科書の限界を踏まえて新しい視点から江戸時代という時代を見ることができる。
技能	専門分野のスキル	●	研究史の論点を理解する技能を育て、史料の主観性を批判する「規範」と「実態」という複眼的視野から歴史的事実を認識できる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	与えられた文章の表面的な理解にとどまらず「行間」を読むことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の歴史と社会

HIS210M

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。江戸時代は260年間続きましたが、その間変化がなかったわけではありません。18世紀の中頃の社会の変化によって、その前半と後半は一つの時代とはいえないほど大きく社会と経済が変化をしています。また同じ時代でも武士と町人や農民の庶民では身分が違えば社会や言葉も違っています。それはまだ「日本」や「日本人」という近代の概念が成立する以前の社会なのです。ここでは女性の地位や農村の社会を中心に「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 脇田晴子編『日本女性史3 近世』(吉川弘文館1982年)
- 近世女性史研究会編『論集近世女性史』(吉川弘文館1986年)
- 脇田晴子編『ジェンダーの日本史 下』(東京大学出版会1995年)
- 高木侃『三下り半-江戸時代の離婚と女性たち-』(平凡社1987年)
- 高木侃『三下り半と縁切寺』(講談社現代新書1992年)
- 網野善彦『無縁・公界・楽』(平凡社1978年)
- 山本英二『慶安の触書は出されたか』(山川出版社日本史リブレット)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子訓』①作者と成立時期
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子訓』②貝原益軒と女子教育
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①荘園制と太閤検地
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②幕藩領主財政と幕政・藩政の改革
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③榎本宗次説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④「百姓身持書」と丸山雍成説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤神崎直美・木崎弘美論争
- 15回 【慶安御触書】を読み直す⑥山本英二説

日本の歴史と社会【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートの整理をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回の授業で受講上の重要事項の説明と注意を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学史 (古典) 【昼】

専門教育科目
 選択科目
 比較文化 (地域系) 科目
 日本

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力 (学生が卒業時に身に付ける能力) 」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 前近代における日本の文学を中心に、多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	● 前近代の日本文化に軸足を置きながら、関連する文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力	
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 古典文学に関わる課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 日本の古典文学とそれに関わる文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文学史 (古典)

LIT223M

授業の概要 /Course Description

古典文学の生成、発展という大まかな流れを理解する。
 現在、「古典」として扱われている作品は、いかにして「古典」となったのか、「古典」とはどのようなカテゴリーなのかを追求することを通して、「古典」の意味を考える。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 「古典」とは何か
- 2 回 文学の曙：神話
- 3 回 和歌と権威
- 4 回 物語の誕生
- 5 回 物語の展開
- 6 回 古典と学問【漢籍】
- 7 回 古典と学問【和歌・物語】
- 8 回 古典と中世の注釈
- 9 回 古典となった芸能、なれなかつた芸能
- 10 回 近世の出版と古典【古活字版と「準古典」】
- 11 回 近世の出版と古典【物語と作者】
- 12 回 近世の出版と古典【江戸の思想史と古典形成】
- 13 回 明治維新と古典【国家のアイデンティティと古典形成】
- 14 回 明治維新と古典【演劇の近代化と歌舞伎】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 80 %
 平常の学習状況 20 %

日本文学史 (古典) 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目
日本

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は特に必要としないが、授業後に授業内容を整理し理解しておくこと。
参考文献などの指示があった場合は目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

文学史年表を暗記するのではなく、自分なりに文学史の流れを組み立てられるよう、自ら考える姿勢で臨むこと。
受講者数や参加者の希望に応じて、一部内容を変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学史 (近現代) 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目
日本

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力 (学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の近現代文学の歴史について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本の近現代文学に軸足を置きながら、文学を歴史的に研究する視点を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の近現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力 (チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	日本の近現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文学史 (近現代)

LIT224M

授業の概要 /Course Description

この授業は教職科目です。ですから、まずは高校で現代文・文学史を教える上で必要な、基礎的な知識の習得を目標とします。その上で、文学研究に関わる専門的な話もしていきます。
文学作品は、それ以前に書かれた作品とのつながり、同時代における様々な関心事や文化との関わりの中から生まれます。表現や思想を流れとして把握し、同時に、各作家とその作品を取りまく状況 (コンテクスト) を学ぶことで、作品の理解・解釈は、これまでとは違ったものになります。
高校までとは一味違う、文学を研究する魅力を、知っていただければと思います。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 矢野龍溪 (政治小説)
- 3回 坪内逍遙・二葉亭四迷
- 4回 尾崎紅葉・幸田露伴
- 5回 島崎藤村 (自然主義・前夜)
- 6回 田山花袋 (自然主義)
- 7回 夏目漱石
- 8回 森鷗外
- 9回 ここまでのまとめと小テスト
- 10回 宮沢賢治 (大正期の童話)
- 11回 芥川龍之介 (新思潮派)
- 12回 横光利一 (新感覚派)
- 13回 太宰治 (無頼派)
- 14回 三島由紀夫 (戦後派)
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (40%)、レポート (60%) により評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】

授業前に講義で扱う作家について文学史の本等で学習しておいてください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

日本文学史（近現代）【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
日本

履修上の注意 /Remarks

私語や教室の出入りなど、講義の邪魔になるようなことは慎んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文学史は、高校では手薄になりがちでしょうから、なるべく基本的な話を心がけます。

キーワード /Keywords

日本近・現代文学史

日本語学概論I 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本語学の諸領域における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	日本語における諸現象の背後に潜む原理を理解する。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	身の回りの言語現象への認識と関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本語学概論I

LIN220M

授業の概要 /Course Description

我々が普段何気なく使用している日本語を、音声・音韻・文字などの観点より観察することを通して、日本語の特色について考える。その中で、日本語学の基礎理論を学ぶとともに、過去の日本語と現代日本語とのかかわりについても、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本語学と国語学
- 第2回 音声学と音韻論
- 第3回 音韻論と文字・五十音図とのかかわり
- 第4回 音節と単音・音素表記
- 第5回 シラブルと撥音・促音・拗音・長音 特殊音と表記の関連
- 第6回 音声器官の構造と役割
- 第7回 有声音と無声音
- 第8回 国際音声記号 母音の無声化
- 第9回 調音点と調音法
- 第10回 硬口蓋化現象と拗音との関連
- 第11回 ガ行鼻濁音にみる地域差と年齢差 連濁現象
- 第12回 四つ仮名の混同
- 第13回 八行子音の歴史的変遷と八行転呼音
- 第14回 ラ行音と自由異音 撥音と促音にみる逆行同化現象と条件異音
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の事後には、ノートをもとに内容を整理し、復習を行うとともに、授業中に指示された課題にも取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に「日本語学概論II」を受講すれば、より多角的な観点から日本語の諸現象を理解することができます。

日本語学概論I 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学概論II 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本語学の諸領域における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	日本語における諸現象の背後に潜む原理を理解する。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	ことばと文化的歴史的背景との関わりへの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本語学概論II

LIN221M

授業の概要 /Course Description

普段何気なく使用している日本語を語彙・文字・文法・方言などの観点から観察することを通して、日本語の特色について考える。そのなかで日本語学の各分野における基礎理論について、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。とくに、知識の習得に終始するのではなく、各分野における様々な問題点について自ら考える力を養っていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本語学と日本語史
- 第2回 標準語と共通語と方言と俚言 方言を生む作用
- 第3回 方言圏論と方言区画論
- 第4回 アクセントの類型
- 第5回 語彙の分類と体系 基本語と基礎語
- 第6回 語彙の量的考察 理解語彙と使用語彙
- 第7回 日本語の語種 語構成 敬語の種々相
- 第8回 語種と品詞の関連 単語の文法的な性質
- 第9回 漢語の伝来と受容 日本の漢字音
- 第10回 翻訳漢語と疑似漢語
- 第11回 外来語の受容と定着
- 第12回 表意文字と表音文字 漢字の成り立ち
- 第13回 万葉仮名と上代特殊仮名遣い
- 第14回 草仮名と片仮名の成立 異体字と変体仮名 現代日本語の表記
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の事後には、ノートをもとに内容を整理し、復習を行うとともに、授業中に指示された課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の古典文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の古典文学に関わる多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本に軸足を置きながら、古典文学を中心とした文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の古典文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	日本の古典文学を中心に、それに関わる文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の古典文学

LIT220M

授業の概要 /Course Description

中世の文学作品を取り上げ、読解を通して、内容を鑑賞するとともに、現代にも通じるテーマを探し出す。関連する作品との比較対照を通して古典文学の思考法、特徴などを理解する。

教科書 /Textbooks

大津雄一・平藤幸『平家物語 覚一本 全改訂版』武蔵野書院 2014年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 市古貞次訳注『平家物語』新編日本古典文学全集 小学館
- 『平家物語』一～四 完訳日本の古典 小学館
- 『平家物語』角川ソフィア文庫ビギナーズクラシック
- 大津雄一『『平家物語』の再誕』NHKブックス
- 佐伯真『戦場の精神史-武士道という幻影』NHKブックス
- 佐伯真『建礼門院という悲劇』角川選書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション-平家物語とは?-
- 2回 平家物語の享受史と諸本
- 3回 祇園精舎・殿上の闘闘【平家の栄華】
- 4回 西光被斬【鹿の谷事件とその後】
- 5回 橋合戦【高倉宮の謀反】
- 6回 入道逝去【清盛の死】
- 7回 実盛
- 8回 宇治川【板東の武士団】
- 9回 木曾最期
- 10回 敦盛最期
- 11回 小宰相【中世的女性像】
- 12回 那須与一
- 13回 先帝御入水
- 14回 能登殿最期
- 15回 大原御幸【平家の鎮魂と建礼門院】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 90%
平常の学習状況 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱いきれない部分についても現代語訳などを読み、内容を理解して参加することが望ましい。
授業で扱った章段については、登場人物の関係や物語の流れについて、物語の内容を整理し理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講人数、受講者の興味関心によって、取り扱う章段を変更する場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の近代文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の近代文学に関する基礎的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本の近代文学研究に必要な、調査方法や分析方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の近代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	日本の近代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の近代文学

LIT221M

授業の概要 /Course Description

本講義では、明治時代以降の近代文学作品を取り上げ、文学研究の基礎を学びながら、研究対象としての文学作品との向き合い方を学びます。
具体的には、太宰治の短編小説を取り上げ、そこで用いられている数々の小説技法を解説します。その上で、研究対象として文学作品を〈読む〉ということはどのようなことなのか、どのようにして〈読む〉のかなど、趣味読書と文学研究の違いを学びます。

教科書 /Textbooks

適宜、配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○花田俊典『太宰治のレクチュール』(双文社出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文学研究のイメージと実際①【作家論】
- 第3回 文学研究のイメージと実際②【作品論】
- 第4回 文学研究のイメージと実際③【テキスト論】
- 第5回 太宰治と『晩年』
- 第6回 「魚服記」第一章①【小説のタイトルと冒頭の関係】
- 第7回 「魚服記」第一章②【小説の語り手に着目する】
- 第8回 「魚服記」第二章①【登場人物の設定を読む】
- 第9回 「魚服記」第二章②【登場人物の変貌を読む】
- 第10回 「魚服記」第二章③【登場人物の心情を読む】
- 第11回 「魚服記」第三章①【登場人物の無意識を読む】
- 第12回 「魚服記」第三章②【小説の空白を読む】
- 第13回 「魚服記」第四章【小説の結末を読む】
- 第14回 「魚服記」まとめ
- 第15回 本講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験=80% 日常の授業への取り組み=20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に作品を読んで講義に参加し、事後には講義内容を踏まえて再読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3年時に日本近代文学ゼミを考えている人は、本講義をぜひ受講してみてください。また本講義は、文学研究についての知識を持たない受講生を想定して、講義内容を設定しています。これまで日本の近代文学作品に触れることのなかった学生の受講を大いに歓迎します。

キーワード /Keywords

日本近代文学、太宰治

日本の現代文学【昼】

専門教育科目
 選択科目
 比較文化(地域系)科目
 日本

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の現代文学に関する基礎的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本の現代文学研究に必要な、調査方法や分析方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	日本の現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の現代文学

LIT222M

授業の概要 /Course Description

この講義では、第二次大戦以後(1945~)の文学作品を扱います。戦後の文学作品を複数とりあげ、文学研究の手つきを示すとともに、戦後文学が抱え込んだ問題等について話します。文学研究の方法を学び、戦後文学に関する幅広い知識を習得することが、講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

使用しません。授業中に扱う作品のコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(1)作家・坂口安吾について
- 3回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(2)先行研究および作品の特徴概観
- 4回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(3)解釈 主人公の山賊の男について
- 5回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(4)解釈 都の女の設定について
- 6回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(5)解釈 満開の花の下について
- 7回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(6)小テスト
- 8回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(1)作家・三島由紀夫について
- 9回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(2)作品の中心テーマについて
- 10回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(3)解釈 「白痴」の君江について
- 11回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(4)解釈 勝造について
- 12回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(5)解釈 照茂について
- 13回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(6)解釈 見るといふ行為について
- 14回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(7)小テスト
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(30%)、レポート(70%)により評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】

授業前に講義で扱う作家の作品を読んでおいてください。
 授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

日本の現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

履修上の注意 /Remarks

私語や教室の出入りなど、講義の邪魔になるようなことは慎んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

扱う作品数は少ないですが、講義中にそれぞれの作家の他の作品についても話します。
1つ1つの作品をじっくり、丁寧に解釈していきたいと思います。

キーワード /Keywords

日本現代文学、坂口安吾、「桜の森の満開の下」(作品)、三島由紀夫、「月澹荘綺譚」

日本の芸能文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の芸能文化に関する正しい知識・理解を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	芸能文化に関する資料を扱うスキルを身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸能文化に課する課題を自ら設定し、考察したことを的確に表現できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	芸能文化の学習を通じて日本文化を理解し、持続的な関心を高める。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の芸能文化

JPS210M

授業の概要 /Course Description

テーマ：日本芸能史 古代から中世への展開

日本の芸能の古代から中世にかけての歴史的な流れを講義する。

日本古代において芸能と宗教は密接不可分の関係にあった。芸能は神や人霊や稲霊などの靈魂に働きかけ、コントロールする技法であった。今日の我々は芸能を娯楽や芸術として理解しているが、本来宗教的な性格を持つものであったことを理解してもらいたい。

古代日本が中国隋唐の文化を積極的に受容する段階になって、世俗的芸能である雅楽が貴族社会に定着することとなる。実は中国と日本では「雅楽」と称される芸能の中身が異なっている。中国において「雅楽」とは儒教の祭典楽であった。それに対して日本に「雅楽」として受容された芸能は、宮廷の饗宴の場で演じられる世俗的芸能であった。なぜ中国の雅楽は日本に受容されなかったのか。そこには日中の宗教文化の差異が背景にあった。

古代芸能の持つ宗教的性格はそのまま日本社会に引き継がれていき、雅楽などの渡来芸能の影響を受けながら中世に新たな展開をとげる。今日能楽と呼ばれる猿楽の形成もその一つであった。

日常あまり接する機会のない伝統芸能をテーマとして取り上げるため、視聴覚教材を使って芸能に対する理解を深めることに努めるが、古典芸能や民間芸能にじかに触れる機会を持ってもらいたい。そのため伝統芸能の鑑賞・見学レポートを提出してもらう。

授業は必ずしも芸能というジャンル・通念のみにとらわれず、古代中世の文化のあり方を講義していくつもりである。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 藝能史研究会編 『日本芸能史』 (法政大学出版)
- 藝能史研究会編 『日本の古典芸能』 全10巻 (平凡社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要とレポートについて
- 2回 「芸能」とはなにか(1)「芸能」の特質と中国の「芸能」
- 3回 「芸能」とはなにか(2)日本における「芸能」の語義
- 4回 先史時代の芸能-琴・笛・銅鐸
- 5回 靈魂と芸能-神楽・歌垣・田植踊り
- 6回 神祭りとはなにか-記紀・風土記に見る芸能
- 7回 政治と芸能-國魂と服属儀礼
- 8回 大陸芸能の伝来①伎楽
- 9回 大陸芸能の伝来②中国の雅楽
- 10回 大陸芸能の伝来③日本の雅楽
- 11回 中国の散楽と日本の猿楽
- 12回 猿楽(『新猿楽記』を読む①)
- 13回 猿楽(『新猿楽記』を読む②)
- 14回 田楽(『洛陽田楽記』を読む)
- 15回 まとめ

日本の芸能文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 70%
伝統芸能見学・鑑賞レポート 30% (ただしレポートを提出しない場合は、単位を認めません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布するプリントを読んでおくこと。
なるべく生の伝統芸能に触れる機会を持つこと。
授業内容でわからない点があったら事後に積極的に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

初回の授業で、成績評価についての説明やレポートに関する諸注意をお話します。よく聞いておいてください。
レポートの提出期限は厳守すること。遅延は一切認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

芸能はビデオや画像で見ても本当の面白さがわかりません。
伝統芸能を生で見てもらいたいため見学レポートを課しています。

キーワード /Keywords

神楽・霊魂・祭り・雅楽・能・狂言・田楽

日本の美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	絵巻を中心とした日本美術の基礎知識を身に付ける。
技能	専門分野のスキル	●	絵巻を中心とした日本美術の代表的な先行研究を理解する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	絵巻を中心とした日本美術の研究方法を理解する。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本美術に対する興味関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのキャリアマップで確認してください。

日本の美術

PHR215M

授業の概要 /Course Description

辻惟雄・著『岩波 日本美術の流れ 7 日本美術の見方』に基づきながら、日本美術を概観する。日本美術の概説書と言うと時代順に美術作品が列記されているものを想像する人が多いかと思うが、本書の章立ては「美しい自然」「飾る喜び」「飾らない美意識」「遊戯する心」「聖なるもの、縄文的なるもの」となっている。つまり、特質毎にまとめられており、日本美術の様々な側面を的確に把握することが可能となっていると言えよう。また、本書では、日本美術ならではの特質をわかりやすく紹介するために、適宜、中国美術との比較が行われている。

本講義では、日本美術史の多様性を理解することを目指したい。尚、時代順の概説も学習したい者は、本書と合わせて、『岩波 日本美術の流れ』の1~6に目を通すと良いであろう。

さらには、本講義の12~15回では、絵巻の基礎を学習する。段落式絵巻と連続式絵巻とは何か、段落式絵巻と連続式絵巻との画面構成の違い、時間表現の違いなどを確認する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 辻惟雄『岩波 日本美術の流れ 7 日本美術の見方』について
- 2回 飾る喜び-縄文土器、装飾古墳、平等院鳳凰堂
- 3回 飾る喜び-西本願寺「三十六人歌集」、巖島神社「平家納経」
- 4回 飾る喜び-座敷飾り、唐物、「日月花鳥図屏風」
- 5回 飾る喜び-桃山建築、変わり兜、岩佐又兵衛「豊国祭礼図屏風」
- 6回 飾る喜び-葛飾北斎「男浪・女浪図」、尾形光琳「紅白梅図屏風」
- 7回 飾らない美意識-金地院「秋冬山水図」、長谷川等伯「松林図屏風」
- 8回 遊戯する心-笑う埴輪、正倉院文書落書き
- 9回 遊戯する心-「をこ絵」「地獄草紙」「鳥獣人物戯画」
- 10回 遊戯する心-「蝦蟇・鉄拐図」「枯木猿猴図」
- 11回 遊戯する心-伊藤若冲「野菜涅槃図」、長澤芦雪「白象黒牛図屏風」
- 12回 絵巻入門-段落式絵巻・連続式絵巻、国宝「源氏物語絵巻」の概要
- 13回 絵巻入門-「源氏物語絵巻」内「蓬生」「関谷」「柏木(一)」「柏木(二)」「柏木(三)」等
- 14回 絵巻入門-「源氏物語絵巻」内「鈴虫(二)」「夕霧」「御法」「宿木(二)」「宿木(三)」等
- 15回 絵巻入門-平安時代から鎌倉時代の段落式絵巻の異時同図法

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(場合によっては学期末テスト)・・・70%
コメントカード・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、レジユメに挙げた参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教と美術【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	仏画を中心とした日本の宗教美術の基礎知識を身に付ける。
技能	専門分野のスキル	●	仏画を中心とした日本の宗教美術の代表的な先行研究を理解する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	仏画を中心とした日本の宗教美術の研究方法を理解する。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本の宗教美術に対する興味関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の宗教と美術

PHR216M

授業の概要 /Course Description

平安時代は、美術品制作に関して技術・美意識ともに一つの頂点を迎えた時期とも言われ、数多の仏画の名品が生まれ出された時代としても知られる。本講義では、平安時代から鎌倉時代前半までの仏画の名品を取り上げながら、仏画の基本(尊像名・描法・修法など)を概観したいと思う。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の導入-平安仏画・鎌倉仏画
- 2回 仏画概説(如来・菩薩)
- 3回 仏画概説(明王・天部)
- 4回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって【鉄線描・肥瘦線】
- 5回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって【絵仏師・宮廷絵師】
- 6回 京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって【後七日御修法・疎荒】
- 7回 京都国立博物館所蔵「十二天像」をめぐって【十天形像図像・十二天図屏風】
- 8回 奈良国立博物館所蔵「十一面観音菩薩像」をめぐって【東大寺戒壇院】
- 9回 奈良国立博物館所蔵「十一面観音菩薩像」をめぐって【法隆寺金堂壁画】
- 10回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【四方四季・悉皆金色】
- 11回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【迎講・四天王寺西門信仰】
- 12回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【重源・臨終儀礼】
- 13回 聖衆来迎寺「六道絵」をめぐって
- 14回 「僻邪絵」「地獄草紙」「餓鬼草紙」をめぐって
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(場合によっては学期末試験)・・・70%
コメントカード(小テスト)・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、レジュメに挙げた参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって」の回は色鉛筆を持参して下さい。

日本の宗教と美術【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の大衆文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 2年次 /Year 単位 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Class クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の大衆文化についての専門的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	日本の大衆文化についての専門的な研究方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本の大衆文化として論じるべき課題を発見し、分析・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本の大衆文化について知識を得て考察しようとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の大衆文化

JPS212M

授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。現在の大衆文化のトピックをとりあげながら、問題意識を共有し、歴史的事象の紹介や事例分析をおこなっていく。とりあげる素材は、人間が生み出す物語あるいは芸が中心となる。現在を照らし返すきっかけを提供するという目的のもとに、近世・近代・現代に目配せをして事象の紹介をしていく。本講義の目標のひとつは、物語・場・受け手という焦点のあて方を知るなかで大衆文化研究のテーマを学ぶことにある。受講者は、そのテーマに基づき自らの問題意識を醸成していくことを求められる。ふたつには、日本の大衆文化史についての歴史的な知識をできるだけ増やしていくことにある。つまり、どの事象を扱ううえでも、必ず歴史的・社会的なコンテクストへの関心を深めていくことが求められる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 講義のデザイン
- 第2回 問題発見の焦点①物語論への招待
- 第3回 物語へのアプローチ【ヒットドラマ】
- 第4回 物語へのアプローチ【異人】【構造】
- 第5回 物語へのアプローチ【共同体】
- 第6回 受容へのアプローチ【意味の生産】
- 第7回 受容へのアプローチ【メディア】
- 第8回 問題発見の焦点②上演空間への招待
- 第9回 上演空間へのアプローチ【祝祭性】
- 第10回 上演空間へのアプローチ【演者/客の関係性】
- 第11回 上演空間へのアプローチ【歌舞伎】
- 第12回 受容へのアプローチ【客という役割】【仮設小屋】【寄席】【劇場】
- 第13回 受容へのアプローチ【メディア】
- 第14回 まとめ
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、課題など)...約20%
学期末レポート...約80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前:告知された内容については各自調べておく
事後:コメント記述のために講義内容を復習しておく

履修上の注意 /Remarks

準備は特に必要ないが、各回の講義の内容は、以降の講義につねに関連していくことになる。したがって、講義内容を各自自主的に見直し、なおかつ情報収集をまめに心がけていく必要がある。見直す中でコメントカードへの記述内容の工夫を繰り返し、意識してほしい。本講義の主眼は、歴史的な事象をとりあげるなかで現在を捉え返すことにある。したがって現代的な事象が中心的にとりあげられるわけではないので、受講者はそれを理解したうえで受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大衆文化というテーマは、誰にでも親しみやすいものである一方で意識をとぎすまさない、問題が見えてこないということもまた確かです。コメントカードにも自分が授業を聞いて考えたことを積極的に記述することを求める。

キーワード /Keywords

メディア、物語、芸、歴史

日本の都市文化【昼】

専門教育科目
 選択科目
 比較文化(地域系)科目
 日本

担当者名 /Instructor クラマー スペン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 明治・大正期の都市の文化に関する基礎的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	● 明治・大正期の近代社会をモダニズムという視点から捉えることができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 自動車・写真・映画といった「もの」からモダニズムを説明することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	生涯学習力	● 身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の都市文化

JPS213M

授業の概要 /Course Description

都市の形成・発展を通して歴史的視点や考え方を習得するとともに、福岡県の歴史を知り、今日の地方が抱える課題を過去との比較から考える視座を学ぶことを目標とする。

教科書 /Textbooks

必要に応じて次回講義につかうテキスト・史料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤森照信『明治の東京計画』岩波現代文庫、2004年
 鈴木博之『都市へ』日本の近代10 中央公論社、1999年
 マーク・ペンダーグラスト; 樋口幸子訳『コーヒーの歴史』(河出書房新社、2002年)
 松沢裕作『町村合併から生まれた日本近代』講談社選書メチエ563 講談社、2013年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 都市、都市史と近代日本の地方制度
3. 近代日本と都市計画 東京① 江戸から東京へ
4. 近代日本と都市計画 東京② 関東大震災と復興
5. 近代日本と都市計画 福岡① 福岡市
6. 近代日本と都市計画 福岡② 久留米市
7. 近代日本と都市計画 福岡③ 北九州市
8. 市町村合併と都市① 近代日本の市町村合併
9. 市町村合併と都市② 福岡県都市部の自治体再編
10. 市町村合併と都市③ 福岡と博多の合併
11. 市町村合併と都市④ 「昭和の大合併」と北九州市の誕生
12. 都市と文化 サロンとカフェ① お茶とコーヒーの世界史
13. 都市と文化 サロンとカフェ② サロン文化の誕生と政治
14. 都市と文化 サロンとカフェ③ 大衆化と都市のカフェ
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(平常点)20%、ペーパーテスト80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布されたテキスト・史料に事前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「授業態度(平常点)」は総合成績の20%だけ占めるが、15回目までに60点以上を取らない受講生はペーパーテストが受験できないので、授業に積極的な出席が不可欠である。「授業態度(平常点)」の評価方法は出欠の把握と「出席カード兼リアクションペーパー」(毎週の授業に配付)に書いてあるコメントである。なお、授業態度の観点から問題と見なせる行為(私語、居眠り、長時間の携帯電話・スマートホンいじりなど)は発見次第減点の理由になる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文学についての基礎的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文学研究に必要な基礎的な調査方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文学概論

LIT213M

授業の概要 /Course Description

本講義は、受講生が培ってきた読書慣習や教科「国語」を通じての知識を、日本文学研究のための専門知識へと、レベルアップすることを目的とする。

具体的には、今、日本文学を学ぶ者として知っておくべき基礎知識や概念について概説し、同時に代表的な作家や作品、文学史的な事象について講義する。これにより、人や時代の動的な営みのなかで文学を捉えることの可能性を考えていく。

最終的には、日本文学とは何か、日本文学を「今」学ぶとは何か、についてぜひ受講者それぞれに考えてもらいたい。

教科書 /Textbooks

授業時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○各種、日本文学史。
他は授業内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス - 日本文学のイメージ -
- 第 2 回 現代文学における「作者」
- 第 3 回 現代文学における「作品」
- 第 4 回 現代文学における「読者」
- 第 5 回 現代文学における「メディア」
- 第 6 回 近代文学における「作者」
- 第 7 回 近代文学における「作品」
- 第 8 回 近代文学における「読者」
- 第 9 回 近代文学における「メディア」
- 第 10 回 古典文学における「作者」
- 第 11 回 古典文学における「作品」
- 第 12 回 古典文学における「読者」
- 第 13 回 古典文学における「メディア」
- 第 14 回 日本文学特論
- 第 15 回 おわりに - まとめと課題 -

成績評価の方法 /Assessment Method

担当者ごとの課題(レポートもしくはテスト)による・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に作品を指定、もしくは複写資料を配布する場合があるので、その予習・復習を行うこと。

日本文学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等についての質問は今年度主担当の教員まで。
講義内容については、各担当教員に問い合わせてください。

キーワード /Keywords

日本文学・日本古典文学・日本近代文学・日本現代文学

現代日本語学 【昼】

専門教育科目
 選択科目
 比較文化(地域系)科目
 日本

担当者名 岡田 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代日本語学における基礎的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	日本語を文法的に分析する力を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本語における諸現象を複眼的視野に立って分析・考察できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	言語現象と思考方法との関わりへの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代日本語学

LIN222M

授業の概要 /Course Description

日本語非母語話者による誤りの表現や身近でふしぎな日本語の現象について考えることで、文法研究のおもしろさを味わい、文法的な分析力・応用力を養う。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ふしぎ発見!日本語文法』(名古屋大学日本語研究会GA6著、三弥井書店刊)
- 『はじめての人の日本語文法』(野田尚久著、くろしお出版)
- 『よくわかる文法』(藤原雅憲著、アルク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。日本語クイズ。
- 2回 身近な文法。日本語の語順
- 3回 外国人はどうやって品詞を区別する?
- 4回 何が格助詞を決めるの?
- 5回 述語と項(「大学を出る」と「*大学をえる」)。
- 6回 活用の法則はどのくらい覚えなければならないの?
- 7回 ボイス(盗難にあったとき、なぜ「自転車ごとられた」と受動文を使うの?)。
- 8回 テンス(過去のことなのに「*日本へ来た前に両替した」はなぜ変なの?)。
- 9回 アスペクト。動詞分類。
- 10回 一語とは。アクセント。
- 11回 コソア・ダイクシス。
- 12回 補語と名詞修飾。
- 13回 つなぐ言葉と条件表現。
- 14回 ら抜き・レタス・さ入れ。数量詞。
- 15回 「は」と「が」にまつわる話。いろいろな「タ」。

・但し、授業内容は授業の進行状況により変わることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト80%、日常の授業への取り組み20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には授業中に配布した資料や自分が取ったノートを読み返すこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語表現法 【昼】

担当者名 岡田 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	言語表現についての知識と認識を深める。	
技能	専門分野のスキル	●	ことばを適切に運用する言語表現技術を身に付ける。	
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	言語表現をめぐる今日の問題を発見し、その背景を考察できる。	
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)			
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	ことばによる表現力と社会生活との関わりへの関心を高める。	
	コミュニケーション力			

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本語表現法

LIN223M

授業の概要 /Course Description

本授業は自分の考えを相手の的確に伝える力を養うこと、および、論文の展開パターンを用いて文章を書く力をつけることを目的としている。そのためには、第1回～第9回では、主語の成分と述語の成分が呼応した文を書く、的確で過不足のない要約をする、伝える内容は同じでも相手に合わせて表現や話し方を変えろといった練習を行い、第10回～第15回では、レポートや論文によく使われる構成要素・展開パターンを用いて文章を書くという練習を行う。

教科書 /Textbooks

資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションのときに知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。日本語カテスト
- 2回 基本構文力・ねじれない文
- 3回 単語(単語を的確に使おう)
- 4回 要約してみよう
- 5回 パラグラフ(主題文と支持文)
- 6回 言葉の時間感覚
- 7回 凶化・文章化の往復運動(基本練習)
- 8回 凶化・文章化の往復運動(応用練習)
- 9回 相手に合わせた表現。日本語の理解と表現力
- 10回 文体と表現。参考文献の書き方。論文の構成
- 11回 序論の構成要素(課題の提示)
- 12回 序論の構成要素(目的の提示)
- 13回 本論の構成要素(原因の考察)
- 14回 本論の構成要素(列挙)
- 15回 本論の構成要素(帰結)・結論の構成要素(結論の提示)

・授業の内容は進度によって変わることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト80%・授業への取り組み20%

日本語表現法 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には授業中に行った練習をもう一度やってみること。授業で配布した資料を読み返すこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語音声学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本語の音声・音韻に関する基礎的専門的知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	日本語の音声・音韻の諸特徴について共時的・通時的観点から考察できる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本語の音声・音韻上の諸特徴を発見し、歴史的推移との関連を分析する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	音声言語への認識と関心を深める。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本語音声学

LIN224M

授業の概要 /Course Description

- ① 学習の理解を助けるために、適宜、音声教材を取り入れながら、国語教育的な観点を意識しつつ日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。
- ② 共時的観点から、日本語の音(含アクセント)について、聴き取りを含め、母音や子音などの現代日本語の有り様を講ずる。また、通時的観点から音韻やアクセントの歴史についても、簡単に触れる。
- ③ 音と表記との関連も踏まえ、国語教育に反映させる得るような知識の修得を支援する。
- ④ 日本語の音の面から、日本語教育に有用な基礎知識の修得を支援する。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、ハンドアウト(レジュメ)を事前に配布して、講ずる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川原繁人『ビジュアル音声学』三省堂刊(2018.7)、竹内京子・木村琢也『たのしい音声学』くろしお出版(2019.4)など種々有るが、ハンドアウト(レジュメ)に記載するなどして、講義時間中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに【言語音】【調音器官】【音声学と音韻論】【学習指導要領】【日本語教育能力検定試験】
- 2回 言語音①【音声・音韻の単位】【異音】【最小対】【音声字母表】
- 3回 言語音②【母音と子音】【共鳴音と阻害音】
- 4回 日本語の音①【日本語の音数】【音節と拍】【日本語の母音】
- 5回 日本語の音②【日本語の子音 力行～ダ行】
- 6回 日本語の音③【日本語の子音 ナ行～ワ行】
- 7回 日本語の音④【同化と異化】【音声と五十音】
- 8回 日本語音韻の歴史【変化の様相(音韻の増減/音価の変化/用法変化)】
- 9回 日本語のアクセント①【日本語アクセントの特徴】【アクセント核と滝】【共通語アクセント規則】【式と型】
- 10回 日本語のアクセント②【機能】【名詞のアクセント】【動詞のアクセント】【形容詞のアクセント】
- 11回 日本語のアクセント③【平板化】【地域差】
- 12回 日本語のイントネーションとプロミネンス【アクセントとイントネーション】【プロミネンスとフォーカス】
- 13回 日本語アクセントの歴史【変化の様相】【歴史研究の方法】
- 14回 音と表記【表音記号としての文字】【歴史的仮名遣い】【現代仮名遣い】
- 15回 おわりに【まとめと補足】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 75% 日常の授業への取り組み... 25%
(5回以上欠席した者は、学期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業前に、ハンドアウトの該当部分に通しておくこと(目安は60分)。
授業後には、講義内容を整理要約すること(目安は60分)。
時に、課題を課すことがあるので、その場合には次の授業前までにその課題を行っておくこと。
また、必要に応じて、音声映像などをサイトや関連書籍から入手し視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

遅刻厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

科目の性格上、声を出して確認してもらいたい場合もあるので、積極的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

日本語の音 母音 子音 五十音図 アクセント

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国を中心とした地域の文学、言語、歴史といった多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化に軸足を置きながら、中国の古典を中心とした文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	漢文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本文化と中国文化をはじめとする異文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

漢文学

LIT250M

授業の概要 /Course Description

「漢文」とは、中国古代の「文語文」で書かれた、あらゆる文章を指す。それは二十世紀初頭まで、中国で正式の文章語として、二千年にわたって使用されてきた。また、日本・朝鮮半島・ベトナム等においても、知識人の使用する共通書記言語として、西洋におけるラテン語と同じように普及していた。日本人が最初に接触し、かつ使用した文字は漢字であり、最初に目に触れた「文章」は、「漢文」であった。それゆえ「漢文」を学ぶことは、中国の歴史や文化への理解を深めるだけではなく、日本人にとっては、自らの文化形成の原初のプロセスを「追体験」することでもある。この授業では「日本人にとっての漢文」ということで、まず中国から日本にもたらされ、かつての日本人によって広く読まれ、血肉と化していた文章を取り上げる。日本における「訓点」の発明や、仮名と漢字の関係、などについても理解を深める。さらに、日本人によって書かれた「漢文」作品を読んでいく。こうした作業によって、日本と中国をはじめとする異文化の諸領域の交流に対する関心を高め、また相互の比較研究によって、自国の文化に対してさらに理解を深めていくことをねらいとする。

教科書 /Textbooks

適宜プリント等を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

金文京著『漢文と東アジア-訓読の文化圏-』(岩波書店、岩波新書)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【日本人にとって「漢文」とは何か?】
- 2回 儒教(1)【孔子の生涯】【論語】【映画から見る現代中国の孔子像】
- 3回 儒教(2)【孔子の生涯】【論語】【映画から見る現代中国の孔子像】
- 4回 儒教(3)【孔子の生涯】【論語】【孟子】【儒学】【儒教】
- 5回 諸子百家(1)【百家争鳴の時代】【道家】
- 6回 諸子百家(2)【百家争鳴の時代】【法家】
- 7回 諸子百家(3)【百家争鳴の時代】【墨家】
- 8回 仏教漢文【インド思想と中国人】【格義仏教】【音訳】
- 9回 中国漢文の中の日本・日本人【魏志倭人伝】
- 10回 漢字・漢文の伝来【訓点】【日本語と漢文】【万葉仮名】
- 11回 日本漢詩文(1)【飛鳥・奈良~室町】【十七条憲法】【日本書紀】
- 12回 日本漢詩文(2)【奈良~室町】【懐風藻】【菅原道真】【五山文学】
- 13回 日本漢詩文(3)【江戸時代】【菅茶山】【頼山陽】
- 14回 近代日本文学者と漢詩文【夏目漱石】【森鷗外】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(レポートなど)...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

漢和辞典を準備して授業に臨むことが望ましい。
授業前には、あらかじめ指示もしくは配布された参考資料などを読んでおくこと。
授業後には、配布プリントやノートを再読し、内容を各自まとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語教育学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
日本

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本語教育学の基礎的な知識を理解する。
技能	専門分野のスキル	●	外国語教育学として日本語教育学を研究する視点を持つ。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本語教育学の課題を自らの外国語学習経験から設定し、複眼的視野に立って考察し、自らの解決策を提案する。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	日本語教育学を出発点として、外国語教育及び学校教育、そして地域社会や国際社会について幅広く関心を持つ。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本語教育学概論

LIN240M

授業の概要 /Course Description

日本語教育とは何か？

日本語教育に限らず、広く第2言語(外国語)教育における複雑で多様な要素に気づくことを第一のねらいとします。「教師」「学習者」「授業」「教えること」「学ぶこと」等の意味を問い直しながら、自らの経験を振り返ることを通して、日本語教育の現状を知ります。そのことについて自分自身がどのように関わるかを考え、行動できるようになることを期待します。
そのため、授業では、クラス内の人間関係作り(構成的グループエンカウンター)や他者との互恵的な学習方法(協同学習)について、体験学習を行います。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本語教育が複合的な領域であることを理解する。
- ②日本語教育について知るための方法を身につける。
- ③日本語教育の課題と暫定的なコースデザインの関係を考えることができる。
- ④日本語教育がグローバル化した社会の人々にとって共通課題であることに関心が持てる。

教科書 /Textbooks

『日本語教育の理論と実際 - 学習支援システムの開発』(田中望・齊藤里美、大修館書店)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本語教育学を学ぶ人のために』(青木直子他、世界思想社)
- 『自律を目指すことばの学習 - さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)
- 『構成的ブルーペンカウンター事典』(國分康孝他編、図書文化)
- 『先生のためのアイデアブック - 協同学習の基本原則とテクニック - 』(ジョージ・ジェイコブズ他、日本協同教育学会)
- 『LTD話し合い学習法』(安永悟他、ナカニシヤ出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【日本語教育】【日本語教育学】
- 2回 日本語教育の課題【多様性】【パラダイムシフト】【学習者オートノミー】
- 3回 暫定的なコースデザイン【コースデザイン】【ニーズ分析】【レディネス分析】【シラバス】
- 4回 学習者による学習目標の意識化【ニーズ】【日本語のレディネス】
- 5回 学習者による学習過程の意識化(1)【学習環境】【リソース】
- 6回 学習者による学習過程の意識化(2)【学習ストラテジー】
- 7回 学習の評価とそのフィードバック(1)【評価の目的】【評価の方法】【学習過程の分析】
- 8回 学習の評価とそのフィードバック(2)【内省】【学習記録】
- 9回 学習者の個人カリキュラム【コースカリキュラム】【個人カリキュラム】
- 10回 チュートリアル【個人カリキュラム】
- 11回 学習の評価とそのフィードバック(3)【個人カリキュラムの評価】【総括的評価】
- 12回 自律学習に適した学習【セルフアクセス・センター】【CALL】【ピア学習】【プロジェクトワーク】
- 13回 自律学習に適した学習について学ぶ【相互学習】【タンデム学習】
- 14回 学習者の自律的なカリキュラム・デザインとその運営
- 15回 総括【リフレクション】【自己評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度 ... 50 % 課題 ... 30 % 自己評価 ... 20 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、課題の予習を前提として行います。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存して、復習に繋げましょう。
 ポートフォリオをもとにして、学期末に自己評価を行います。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育に関する予備知識は必要ありませんが、世の中の動きを知る努力をしましょう。
 日本語教師養成課程の履修希望者は、必ず履修してください。
 授業は、課題の予習を前提として行います。ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本語教育は、異文化が接触する場面の連続です。
 日本語教育は、「教育」です。皆さんのこれまでの経験が生きてきます。

キーワード /Keywords

コースデザイン パラダイムシフト 学習者オートノミー 個人カリキュラム 自己評価

異文化間コミュニケーション概論【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	●	英語を駆使して、異文化に関わっていく態度を身につけている。
	社会的責任・倫理観	●	市民としてふさわしい良識と倫理観を有し、主体的に行動することができる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	組織や集団全体を見渡す広い視野を持ち、意見を積極的に提案することができる。

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

異文化間コミュニケーション概論 MCC212M

授業の概要 /Course Description

日本と主にアメリカを例に取り、異文化接触に伴うコミュニケーション(非言語も含む)の衝突、摩擦の事例を考察し、そのメカニズムを言語的、社会的、文化的要因に分解しながら解明していく。その中で異文化コミュニケーションの関する実践的方法論などにも触れる。

教科書 /Textbooks

授業最初のコースワークの説明の時に知らせる。また必要な資料は授業において適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

チャールズ・プリブル『科学としての異文化コミュニケーション』ナカニシヤ出版
 ヘレン・スペンサー＝オアティー編著『異文化理解の語用論』
 古田暁(監修)『異文化コミュニケーション』有斐閣選書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースワークの説明
- 第2回 文化とは何か、コミュニケーションとは何か
- 第3回 異文化コミュニケーションの諸相
- 第4回 ことばと文化とコミュニケーション(言語相対性論仮説を含む)
- 第5回 日本語と英語の構造に起因するコミュニケーション・ギャップ
- 第6回 事例観察 各事例とその基となる日米文化の差異(直感的な観察)
- 第7回 ハイコンテキスト、ローコンテキストに基づく分析
- 第8回 日本人の謝罪文化
- 第9回 事例研究 『欧米人が沈黙するとき』聞き取り調査に基づく分析
 『日米コミュニケーション・ギャップ』統計的処理の実例
- 第10回 事例研究 実践方法(バーランド)の手順(「私的自己、公的自己」「防御の方策」)
- 第11回 非言語コミュニケーション(Proxemics, Kinesics)
- 第12回 広告、翻訳に見る異文化コミュニケーション
- 第13回 異文化適応、カルチュラル・アシミレーター
- 第14回 研究領域、日韓行動の差異
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での活動(課題を含む)40% 期末試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前)「文化とコミュニケーション」に関する総括的な文献に目を通しておくこと。
- (事後)グローバル社会におけるコミュニケーションのあり方を各自確認すること。

異文化間コミュニケーション概論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの社会と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの社会・文化の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの社会・文化の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの社会・文化に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカの社会・文化の特質に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの社会と文化	ARE222M
------------	---------

授業の概要 /Course Description

身近なアメリカ文化であるハリウッド映画を題材として取りあげ、アメリカ社会の特質や文化が、いかなる形で映画に投映されているかを考察する。具体的には、編集したハリウッド映画の重要な箇所をビデオで見ながら、映画の全体的構造を背後で支配しているアメリカ人特有の感覚について考察する。その過程を通して、映画とアメリカの社会、文化との相互関連性に対する理解を深めてもらう。アメリカの社会と文化のイメージを、映画を通して可能な限り具体的に把握してもらえよう工夫したい。その結果として、アメリカ人の国民性の独自性、アメリカ文化の特質に対する理解も深めてもらうことができると思っている。さらに、ハリウッド映画を文化的な文脈の下で分析的に鑑賞する視点を講義を通して体得してもらえたら幸いである。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じてレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講座・アメリカの文化(全6巻、別巻2) 南雲堂
総合研究アメリカ(全7巻) 研究社
文明としてのアメリカ(全5巻) 日本経済新聞社
アメリカ古典文庫(全23巻) 研究社
アメリカンヒーローの系譜 亀井俊介 研究社
荒野のアメリカ 亀井俊介 南雲堂
サーカスが来た 亀井俊介 東京大学出版会
読んで旅する世界の歴史と文化 アメリカ 新潮社
物語 アメリカの歴史 猿谷要 中公新書
エスニックアメリカ 明石紀雄 有斐閣選書
新書アメリカ合衆国史 大陸国家の夢 講談社現代新書
アメリカの20世(上・下) 有賀夏紀 中公新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『フォレスト・ガンプ』、『デイライト』とアメリカ人にとってのキリスト教
- 3回 『タイタニック』とアメリカ人にとってのキリスト教
- 4回 『トイ・ストーリー』とアメリカ人にとってのキリスト教
- 5回 『モンスターズ・インク』とアメリカの多様性
- 6回 『猿の惑星(2014)』とアメリカの多様性
- 7回 『ロード・オブ・ザ・リング』とアメリカの多様性
- 8回 『ホビット』とアメリカのほら話
- 9回 『スター・ウォーズ』とアメリカのほら話
- 10回 『アラダを着た悪魔』とアメリカ人の個人観
- 11回 『アルマゲドン』とアメリカ人の個人観
- 12回 『マトリックス』とアメリカ人の機械観
- 13回 『ターミネーター2』とアメリカ人の機械観
- 14回 『チャーリーとチョコレート工場』とアメリカ人の機械観
- 15回 全体の総括、補足説明

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100% 持ち込みは一切不可とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化論【昼】

担当者名 アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な知識を得ることによってアメリカ文化を理解することができる。	
技能	専門分野のスキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカと関連する問題を正しく分析し、解決することができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	学生が興味をもつゆえ、生涯にわたりアメリカに対して関心を示すこと。	
	コミュニケーション力			

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) アメリカ研究	MCC218M
(比文) アメリカ文化論	ARE223M

授業の概要 /Course Description

American Studies will look at American culture from various historical perspectives. The course is designed to follow trends in American history and how specific events helped shape and change American culture. We will start with the early settlers in the New Land and move through important periods. One of the goals of the course will be to make the events in America's past relevant to present day issues.

This lecture course examines American culture from various perspectives. The story of the United States can be traced through many historical materials, such as The Declaration of Independence and important political speeches. We will examine the path the United States has taken and the significance of these events in present day America. Through this course, students will gain applicable knowledge about the United States and acquire the ability to analyze noteworthy trends.

The objective is to broaden your understanding of how the United States has been transforming over the last 400 years. Through learning about these events, you will better understand how America works as a country as well as comprehend why certain events still impact present-day United States.

In this course, students will:

- Learn about the origins of American political thought
- Better understand how America's past has lasting impact into present-day life
- Advance your understanding of American culture and regional differences
- Learn new vocabulary related to historical, political, social, and cultural topics

Major requirements:

- Regular attendance, including bringing a question each week about the topic
- Six minor quizzes, of which the lowest grade will be dropped; there are no make-up quizzes (unless you have a university-approved reason for being absent)
- Homework readings, including answering the questions at the end of the textbook reading
- A final three-page essay on any three topics we discussed (you choose which topics interest you the most)

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

Additionally, there will be a weekly news/history article that you will need to read online.

There will be TWO readings every week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Information regarding required reading will be provided on the course syllabus given to you on the first day of class.

Please do NOT miss the first day of class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 The Civil War and the Civil Rights Movement
- 8回 The US System of Government
- 9回 The Second World War
- 10回 The 1960's Counterculture
- 11回 Economic Values
- 12回 Lifestyle
- 13回 Popular Culture
- 14回 Continuing Immigration
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Six minor quizzes: 40%; Final written report (3 pages): 30%; Weekly question on that week's class topic/theme, written on the question sheet I give you: 10%; Class Participation, including answering the reading questions in the book: 20%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Please familiarize yourself with the topics and vocabulary by reading through assigned textbook chapters before class and answering the questions assigned.

Review: Be careful to review English vocabulary relating to each chapter.

履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English. Students are also expected to participate using only English. Lecture notes will be provided to aid review for quizzes. The quizzes will be in English and will emphasize English language vocabulary and ideas relating to American culture. Students are expected to read before class the English-language textbook chapter and any additional homework readings relating to each week's topic to gain historical background understanding and to better participate in class discussions.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

In this course, we will be learning about important historical events and trends across the history of the United States. Every week, you will be required to read two different texts relating to the topic of the week. You will need to purchase the following text: S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992. Additionally, there will be an online article that you must print and read each week before coming to class.

キーワード /Keywords

American Dream; Democracy; the wild west; Industry vs. Agriculture; Racial tensions; immigration; racism; Donald Trump.

アメリカ文学概論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ文学を概括的に理解する上で必要な基礎的な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文学概論	LIT230M
----------	---------

授業の概要 /Course Description

本講義で取り扱うのはアメリカ文学である。そのアメリカ文学全体を時代を越えて貫いている複数の特徴を確認することにより、アメリカ文学の全体像を理解してもらおう。さらには、アメリカ文学の特徴が、ハリウッド映画によっても共有されている事実も実際に映像を見ることにより明らかにする。次いで、そのような文学と映画との共通性が何ゆえに生じたのかを、アメリカの社会、歴史、文化の特質に目を向けることにより理解してもらおう。文学と映画という、一見すると全く異質に見える存在が、実は、共に特定の社会の下に誕生した以上、同根の存在とならざるを得ない事実を理解してもらえたら幸いである。また、アメリカ文学を文化的背景と絡めて分析する視点も身につけてもらえたらと考えている。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてアメリカ文学作品からの抜粋(日本語の翻訳)をプリントの形で配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
- 『アメリカ文学史 1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
- 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
- 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 アメリカ文学に関する基礎知識
- 3回 アメリカ文学におけるアメリカ人としての自意識のあり方について
- 4回 ハリウッド映画にみるアメリカ人としての自意識のあり方と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 5回 アメリカ文学における暴力描写について
- 6回 ハリウッド映画における暴力描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 7回 アメリカ文学における移動描写について
- 8回 ハリウッド映画における移動描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 9回 アメリカ文学における恋愛・結婚描写について
- 10回 ハリウッド映画における恋愛・結婚描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 11回 アメリカ文学における超常現象描写について
- 12回 ハリウッド映画における超常現象描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 13回 アメリカ文学における社会意識について
- 14回 ハリウッド映画における社会意識と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景について
- 15回 補足説明、総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100% 持ち込みは一切不可とする。

アメリカ文学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる作家と作品名は事前に知らせますので、参考書等を講義前に参照し、作者と作品に関する基礎的な情報を確認しておいてください。同様に、講義で取り上げる映画も事前に周知しますので、各自で事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義テーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの現代文学の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの現代文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの現代文学に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	アメリカの現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの現代文学

LIT232M

授業の概要 /Course Description

英米の現代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解する上で必要な専門的知識を習得する。また、英米の現代文学の基本的な研究方法に加え、この分野に関する課題発見力、解決力を身につける。

まず、現代の第一次世界大戦後の荒廃をロス・ジェネレーションの世代としてゴビリズムの虚無と闘ったE・Hemingwayの作品をはじめ、そしてユダヤ系文学、南部文学、第二次世界大戦後のポストモダニズム・マイノリティの文学を読んで、現代アメリカ文学を中心に、その背景と関連ある文化への理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature II』(英宝社) 早瀬博範・江頭理江 編著

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一他編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回: 授業のイントロダクション
 - 第2回: Ernest Hemingway: A Short Happy Life of Francis Macomber
 - 第3回: Ernest Hemingway: The Old Man and the Sea
 - 第4回: John Steinbeck: Of Mice and Men
 - 第5回: John Steinbeck: Of Mice and Men テーマは何か?
 - 第6回: F・S Fitzgerald: The Great Gatsby
 - 第7回: F・S Fitzgerald: The Great Gatsby テーマは何か?
 - 第8回: William Faulkner: A Rose for Emily
 - 第9回: William Faulkner: A Rose for Emily テーマは何か
 - 第10回: Saul Bellow: Seize the Day
 - 第11回: Saul Bellow: Seize the Day テーマを何か?
 - 第12回: Hisae Yamamoto: Seventeen Syllables
 - 第13回: Leslie Maron Silko: テキストから
 - 第14回: ポストモダニズムの文学をいかに読むべきか
 - 第15回: 授業全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% レポート 30% 日常の授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと (必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

アメリカの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの18-19世紀文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの18-19世紀文学の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの18-19世紀文学の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの18-19世紀文学に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカの18-19世紀文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの18-19世紀文学

LIT233M

授業の概要 /Course Description

英米の近代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解するうえで必要な専門的知識を習得する。同時に英米の近代文学の基本的な研究方法や課題発見力及び解決力を身につける。

特にアメリカ文学に注目し、アメリカ文学の古典であり、アメリカ植民地時代のピューリタニズムとアメリカの独立の時代を見事に描いた Nathaniel Hawthorne の文学、超絶主義(Transcendentalism)を唱え、アメリカの独自思想の構築に貢献した R.L. Emerson、民主主義の国アメリカの新しい、独立心の強い女を描いた Henry James の Daisy Miller、アメリカの国民的作家であり、Minorityの問題に真正面から取り組んだ Mark Twain などの小説の一節を読んで、アメリカ文学の特質とその背景にある文化、社会的状況への理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature I』 (英宝社) 早瀬博範・江頭理江 編著
適宜テキストの補充資料なども配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概要のとおり、授業ごとに作品をピックアップし、作品の特徴や背景について学ぶ。また、文学作品特有の英語表現についても触れていく。
(【 】はキーワードを表す)

- 第1回: 授業全体のイントロダクション
- 第2回: Nathaniel Hawthorne: Short Stories
- 第3回: Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letterをどう読むか?
- 第4回: Nathaniel Hawthorne: テーマは何なのか?
- 第5回: R・W・Emerson: 超絶主義とは?
- 第6回: R・W・Emerson: 超絶主義 Nature
- 第7回: Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn イン트로ダクション
- 第8回: Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn 31章をどう読むか
- 第9回: Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn 最終章をどう読むか?
- 第10回: Henry James: Daisy Miller イン트로ダクション
- 第11回: Henry James: Daisy Miller テーマは何なのか?
- 第12回: Edgar Allan Poe イン트로ダクション
- 第13回: Edgar Allan Poe The Black Cat
- 第14回: Edgar Allan Poe 他の作品の主題との関連
- 第15回: 授業全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% レポート 30% 日常の従業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習は必ず行ってください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

アメリカの18-19世紀文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの大衆文化【昼】

担当者名 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカの大衆文化の特質を理解する上で必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカの大衆文化の基本的な研究方法を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカの大衆文化に関する課題を見出し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	アメリカの大衆文化の特質に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの大衆文化

ARE221M

授業の概要 /Course Description

日本人も接する機会が多いハリウッド映画をアメリカ大衆文化の題材として取りあげ、映画の中にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。そのような分析を行うことによって、映画とアメリカ文化との関連性に対する理解を深めてもらう。講義では、アメリカ文化の特性を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。このプロセスを通して、アメリカ人の価値観や美意識の独自性への理解も深めてもらいたい。最終的には、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、授業を通して体得してもらうことができたら幸甚である。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『映画で学ぶアメリカ文化』、スクリーンプレイ出版 (映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から)
- 『映画で楽しむアメリカ文学』、金星堂、(アメリカ文学と映画の比較の視点から)
- 『映画で楽しむアメリカの歴史』、金星堂 (映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から)
- 『サーカスが来た!』、亀井俊介、岩波書店、(指定図書コーナー)(サーカス、オペラハウス、ターザン、ハリウッド)
- 『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介、研究社、クリーム色、(ランボー、ロッキー)
- 『アメリカの大衆文化』、明石書店、清水知久 (映画、音楽、スポーツ、広告)
- 『アメリカの大衆文化』、研究社、亀井俊介、(テレビ、漫画、音楽、映画など)
- 『アメリカが見えてくる』、サイマル出版会、越智道雄 (アメリカ社会の諸現象と映画の関連性)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『ビッグ』を鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 『A.I.』、『ターミネーター2』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の子供描写の概観
- 5回 アメリカ映画の子供描写の特徴とアメリカ史との関係
- 6回 『フェイス/オフ』、『ターミネーター2、3』、『マスク』、『ミッション・インポッシブル』の変身描写の特徴
- 7回 アメリカ映画に登場する変装描写の全体的特徴
- 8回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係
- 9回 『プラダを着た悪魔』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 10回 『フォレスト・ガンプ』、『チャーリーとチョコレート工場』に読み取れる金銭感覚の特徴
- 11回 アメリカ映画に読み取れる金銭感覚と、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『スター・ウォーズ:シスの復讐』、『ダーティハリー2』の銃描写の特徴
- 13回 アメリカ映画の銃描写と、アメリカ史との関係
- 14回 『アナと雪の女王』、『モンスターズ・インク』、『タイタニック』、『魔法にかけられて』に見る階級制の位置づけ
- 15回 アメリカ映画における階級制の位置づけと、アメリカ文化との関係

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100% 持ち込みは一切、不可とする。

アメリカの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカの都市文化【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ都市文化理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ都市文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカ都市文化に関する諸問題について、発見・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ都市文化に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカの都市文化

ARE224M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生まれる社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。授業を通して、アメリカの歴史や社会に関する知識を修得したうえで、現代のアメリカ社会の問題について考え、それを的確に表現する力を身につける。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000) ; 竹田有『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年) ; リチャード・プランツ『ニューヨーク 都市居住の社会史』(鹿島出版会、2005年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- はじめに(寺田)
- シカゴの近代建築1: スカイスクレーパーの誕生 (福田)
- シカゴの近代建築2: 世界の都市に影響を与えたシカゴの超高層建築(福田)
- ニューヨークの近代建築1: ネオゴシックからアールデコ超高層へ(福田)
- ニューヨークの近代建築2: モダニズムからポストモダニズム超高層へ(福田)
- アメリカの巨匠建築家: フランク・ロイド・ライト(福田)
- 歩き回れる都市の変容1: 20世紀初頭アメリカにおける産業化・都市化(寺田)
- 歩き回れる都市の変容2: 20世紀初頭アメリカにおける移民の流入(寺田)
- メトロポリスの形成1: エスニシティと階級(寺田)
- メトロポリスの形成2: 人種と階級(寺田)
- 都市における対立と隔離の発生1: 1919年シカゴ人種暴動(寺田)
- 郊外における中産階級の再生産: オークパーク(寺田)
- 都市における対立と隔離の発生2: 1992年ロサンゼルス暴動(寺田)
- 都市の変容: デトロイトの衰退と再生(寺田)
- 学生レポート講評とまとめ(福田/寺田)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、試験(福田・50%、寺田・50%)により、シラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業で紹介された参考文献等を積極的に読んだり見たりする。事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連したものを中心に、ニュースをチェックする。

アメリカの都市文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 山口ウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高度な英語運用に必要な専門的知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英語の論理構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行い、それを英語で発信することができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 英語に関する情報や知識を駆使し、英語学の諸問題を複眼的に思考することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語学概論

LIN232M

授業の概要 /Course Description

This course gives an overview of many different areas of linguistics including:

- ・Phonology
- ・Morphology
- ・Syntax
- ・Pragmatics
- ・Semantics
- ・Sociolinguistics
- ・First and second language acquisition
- ・Animal communication

It is meant to give students a taste of the many different areas of study that are contained within the umbrella term "linguistics".

英語の音声システム、英語の単語の形態の作り方、英語の文法の構文の3つの基本的な言語学の分野についての知識を習得する。このコースの目的は、英語の音声システム、英語の単語の形態の作り方、英語の文法の構文の3つの基本的な言語学の分野についての知識を習得することです。また、語用論や意味論、社会言語学、言語習得、動物のコミュニケーションなど、英語がどのように機能するかを理解するのに役立つ言語学の他の分野にも触れます。

教科書 /Textbooks

要求せず

There is no textbook for this class because I have not been able to find anything appropriate. Therefore, you will have to rely heavily on your notes for this class, making it even more important to come to class and to understand what we are doing. I will have readings available which may help you to understand better what I am saying in class, but the things covered in class may not always be exactly the same as the readings. Take a look at them and see if they are helpful for you for understanding each chapter.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『英語学基礎講義 英語学ってどんな学問?』 2011 高橋勝忠著 現代図書
- 『英語学へのファーストステップ』 2009 有村兼彬(他) 英宝社
- 『新英語学概論』 2007 八木克正 単行本
- 『英語学入門』 2001 安藤貞雄 単行本

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション(国際共通語としての英語)
- 第2回 音韻学(1)【IPA概論】
- 第3回 音韻学(2)【調音部位】
- 第4回 形態学(1)【接頭辞】
- 第5回 形態学(1)【言葉分析】
- 第6回 文法(1)【品詞】
- 第7回 文法(1)【語順】
- 第8回 中間テスト(音韻学、形態学、文法)
- 第9回 第一言語習得
- 第10回 第二言語習得
- 第11回 動物コミュニケーション
- 第12回 社会言語学
- 第13回 意味論
- 第14回 語用論
- 第15回 神経言語学

Week 1: Introduction
Week 2: International Phonetic Alphabet
Week 3: Sounds of the world
Week 4: Morphology: How words work
Week 5: Morphology: How to pull words apart
Week 6: Syntax and word order
Week 7: Syntax and structure
Week 8: Review for Midterm; First language acquisition
Week 9: Midterm exam
Week 10: Second language acquisition
Week 11: Review midterm
Week 12: Sociolinguistics
Week 13: Pragmatics
Week 14: Animal Communication
Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週のクイズ: 35%; 宿題: 45%; 中期テスト20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review your notes every week and rewrite them for best retention of the material. Do your homework every week and check answers in class or on the web in order to understand what we are doing.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

linguistics, introduction, phonetics, syntax, morphology, language acquisition, pragmatics, sociolinguistics

英語史 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 2単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な専門知識と、英米及び英語圏の文化・社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英語の理論構造を正しく理解し、英語による情報の収集や分析・研究を行い、それを英語で発信することができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語に関する情報や知識を駆使し、英語史の諸問題を複眼的に思考することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英語史

LIN330M

授業の概要 /Course Description

This class focuses on the history of English from the earliest times that we have writings about the language until the present day. It is an introduction to the topic of language change in general, but this topic is illustrated through the examination of specific changes in the English language from Old English to Middle English to contemporary English. In addition, we will discuss various other varieties of English spoken around the world, language change, and language death. Through this course you will understand how languages may change across time, geography, and culture.

このクラスは、英語の初期の時代から現代の英語への歴史に焦点を当てています。一般的な言語変化の話題を紹介しますが、このクラスでは特に古英語から中級英語、現代英語への英語の具体的な変化を説明します。このコースをとおして言語が時間、地理、文化にどのように変化するかを理解します。

教科書 /Textbooks

Schmitt, Norbert & Marsden, Richard. (2006). "Why is English like that?". Michigan Teacher Training.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 永野芳郎『英語学要説』英宝社。
Crystal, David and 西出, 公之. (2000). A History of the English Language [英語の歴史]. 単行本.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1Introduction: The World of Old English
 Week 2The history of English; The sounds of Old English
 Week 3Sound change: Major differences from Old to Early Modern
 Week 4Sound change 2: The implementation problem
 Week 5Sources of new vocabulary in Old and Middle English
 Week 6Morphological Change
 Week 7Syntactic Change
 Week 8Loss of cases in English
 Week 9Midterm Exam
 Week 10How language change occurs
 Week 11Language contact (Spanglish)
 Week 12Dialects of English (Many Englishes)
 Week 13Writing and written records
 Week 14Language death
 Week 15Review

授業計画

第1回 オリエンテーション (古英語の歴史)
 第2回 古英語の音
 第3回 音の変化: 古英語から初期近代英語への主な違い
 第4回 音の変化: 偉大な母音のシフト
 第5回 英語の語彙の起源
 第6回 形態学的変化: 古英語の名詞と言葉の変容
 第7回 構文の変更
 第8回 中間試験
 第9回 言語関係
 第10回 言語の変化の進化
 第11回 言語の連絡先
 第12回 世界中の英語の方言
 第13回 ライティングとライティングの記録
 第14回 言語の死
 第15回 復習: 最終試験準備

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework 50%; Midterm exam 25%; Final exam 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Student should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. I

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Linguistics, English language, history of English, historical linguistics

英文法I【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	● 英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力	
	其他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法I

LIN230M

授業の概要 /Course Description

英語の仕組みを平易な切り口で説明し、実践的な英文法の知識の習得を目標とする。この授業では、特に動詞句の用法について、具体例を多用しながら考察を進める。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』(David Crystal著 Longman)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著 南雲堂 1,400円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Types of sentences
- 3回 Clause types
- 4回 The verb element, The subject element
- 5回 The object element, The complement element
- 6回 The adverbial element
- 7回 Verb phrase structure
- 8回 Auxiliary verbs
- 9回 Modal meanings
- 10回 The moods of the verb phrase
- 11回 Verb tenses
- 12回 Future time
- 13回 Verb aspects
- 14回 Active and passive
- 15回 学習内容の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 授業への取り組み...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示された次回の学習予定項目を必ず読んでおき、授業後はテキストやノートを読み返しておくこと。(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

授業時に辞書を使用するので、辞書(紙または電子)を必ず持ってくる。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの欠席や遅刻が多い場合には単位の取得が難しくなることがあるので、留意するように。

キーワード /Keywords

「使える英文法」文の仕組み 動詞句の用法

英文法Ⅱ【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な英文法に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	英文法の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英文法Ⅱ

LIN231M

授業の概要 /Course Description

この授業では、単なる知識に留まらず、英語を使いこなすための根幹となる項目の習得を図り、主に名詞句・冠詞・形容詞等、特に英語を書く際に重要な項目を学習する。

教科書 /Textbooks

『Rediscover Grammar』David Crystal 著 Longman

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』(豊永 彰著) 南雲堂 ¥1,400

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容と成績評価の仕方に関する説明 今後の概説
- 2回 The noun phrase: outline of NP
- 3回 The noun phrase: common and proper nouns
- 4回 The noun phrase: count and noncount nouns
- 5回 The noun phrase: variable and invariable nouns
- 6回 The noun phrase: gender and case
- 7回 Determiners
- 8回 The articles
- 9回 Predeterminers, premodification
- 10回 Relative clauses
- 11回 Pronouns
- 12回 Adjectives
- 13回 Adverbs
- 14回 Prepositions
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...80%、日頃の授業への取り組み...20%で総合評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示された次回の学習予定項目を必ず読んでくること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

専門基礎教育科目の「英文法Ⅰ」とあわせて受講すればわかりやすい。また授業時に辞書を使用するので、辞書(紙または電子)を必ず持参すること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

無届けの欠席や遅刻が多い場合は単位の取得が難しくなることがあるので、留意すること。

キーワード /Keywords

名詞句の特徴、冠詞、形容詞・副詞、前置詞

英語音声学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 山口ウエイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2nd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な英語運用に必要な音声学に関して専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	音声学の論理体系を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力		
	其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) 英語学研究 I (音声学・音韻論)	LIN233M
(比文) 英語音声学	LIN233M

授業の概要 /Course Description

This course will have both a theoretical component and a practical component. You will learn in this course what a 'phoneme' is, as compared to a 'phone' or 'allophone'. You will learn more about what kind of sounds are possible to create with the human body, and practice making sounds that you have probably never made before! You will also learn how to read and write a new alphabet (although many of the letters will be familiar to you), the International Phonetic Alphabet (IPA). This skill will help you to understand better the relationship between your tongue, lips and lungs, and the sounds that come out of your mouth. A practical application of this course is looking at the link between English spelling and pronunciation. Most Japanese speakers have never studied how spelling systematically relates to the phones of English, and having a good grasp of this knowledge will allow you to improve your own pronunciation of English.

Put in more compact form, the goals of this course are:

- 1) To understand how English spelling relates to English sounds (phonemes)
- 2) To describe sounds (phones) with a formal system (called the International Phonetic Alphabet)
- 3) Identify the phonemes (sounds) of English
- 4) To understand allophonic patterns within English, such as the aspiration of voiceless stop consonants in certain positions in a word and not in others.

このコースの目標は次のとおりです。

- 1)英語の綴りが英語の音(音素)にどのように関係するかを理解する
- 2)正式な国際音韻のアルファベット(IPA)を学ぶ
- 3)英語の音素(音)を特定する
- 4)単語内の特定の位置での無声停止音の抱き込みなど、英語内のアロフォニックパターンを理解する このコースは、上記の到達目標を達成するために、音声学や音韻論について幅広く講義します。具体的には、学生たちは新しいアルファベット (IPA)を学んで、そのアルファベットをとおしてどのような言語でも発音できるようになります。英語の綴り字がIPAと繋がれば、英語の発音が上達するはずですが。

教科書 /Textbooks

Katz, William F. (2013). Phonetics for dummies. Wiley.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Catford, J. C., 竹林、滋, 等. (2006). 実践音声学入門. 大修館書店
 竹林、滋 と 斎藤、弘子(2008). 英語音声学入門. 大修館書店
 Carr, Philip (2002). Japanese translation of "English Phonetics and Phonology" by Shigeru Takebayashi and Atsuko Shimizu. 英語音声学・音韻論入門. 研究社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction, Vocal Tract
2. Manners of articulation for consonants
3. Manners of articulation for vowels
4. Review consonants and vowels
5. International Phonetic Alphabet
6. Spelling and pronunciation
7. Vowel pronunciations in American English
8. Midterm test
9. Review of IPA and vowels
10. Acoustic phonetics (how to read sound waves)
11. Acoustic phonetics (how to distinguish consonants) 12. Linking sounds
13. Accents
14. Intonation
15. Phonology & Review

授業計画

- 第1回 オリエンテーション(声道)
- 第2回 子音調音方法
- 第3回 母音調音方法
- 第4回 子音と母音の練習
- 第5回 国際的な表音アルファベット(IPA)の紹介
- 第6回 スペリングと発音の関係
- 第7回 アメリカ英語の母音発音
- 第8回 中間試験
- 第9回 IPAと母音の復習
- 第10回 音響音韻【音波の読み方】
- 第11回 音響音韻【子音の識別】
- 第12回 音のつながり
- 第13回 アクセントと訛り
- 第14回 イントネーション
- 第15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes and Homework: 50%; Midterm exam 25% & Final Test 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Student should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. If a student is absent, they should bring their homework to class the next time they are present. It is the student's responsibility to hand in late homework, and homework later than 2 weeks after its assigned date will not be accepted.

履修上の注意 /Remarks

You will be able to write in the International Phonetic Alphabet and understand the link between pronunciation and spelling in English after you finish this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This linguistics course focuses on language analysis, in this case, of the English sound system. If you like math, you will probably enjoy this class very much. If you don't like math, you will still find the practical application of the course very helpful in your study of the English language.

キーワード /Keywords

Phonetics, Phonology, English, Linguistics, Spelling, Pronunciation

イギリスの社会と文化【昼】

担当者名 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの文化と現代社会に関する幅広い知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	文化を社会の中に位置づけて理解するための研究方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化というものが抱える様々な矛盾を見出すための能力を身につける。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	現代イギリス社会と現代日本社会とを比較する視点を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの社会と文化

ARE232M

授業の概要 /Course Description

本講義では、イギリスの「社会」と「文化」についての理解を深めるとともに、「社会」と「文化」との関係についても検討します。「文化」というのは、基本的には「社会」の一部であり、「社会」の中で一定の役割を果たしていますが、そのはたは見えようでなかなかつかみづらいものです。そこで本講義では、それが比較的に見えやすいイギリスを材料にして、「文化」というものが、「社会」の他の部分とどのようにかかわってきたのか、そしてその結果として、現代においてはいかなる状態にあるのかを考えていきたいと思います。

その際、キーワードとなるのは「移動」です。しばしば「文化」も「社会」も固定的なものとして受け止められがちですが、実際には、人々が「移動」することによって、「文化」も「社会」も作られてきました。そこで本講義では、イギリス人がこれまでどのような移動をしながら暮らしを作り上げてきたのか、それぞれの場所で何を見て何を考えたのか、またそうした自分たちをどのように捉えてきたのか...といったことに着目しながら、様々な時代に生きるイギリス人、様々な「日常」に光をあて、そこに潜んでいる様々な「文化」現象を取り出していきます。

本講義の到達目標及びテーマは以下のとおりです。

- ・イギリス文化について、その社会的・歴史的背景を踏まえて理解する。
- ・イギリス近代史に関する基本的な知識を身につける。

教科書 /Textbooks

特になし(毎回、レジユメを配布します)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『イギリス帝国の歴史』(秋田茂)中公新書
- 『近代文化史入門』(高山宏)講談社現代文庫
- 『田舎と都会』(レイモンド・ウィリアムズ)、晶文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 イントロダクション～民族の移動と「イギリス」の誕生
- 第二回 近代都市と「移動の自由」
- 第三回 イギリス人の「上京」
- 第四回 航海するイギリス人
- 第五回 探検と紀行文学
- 第六回 「イギリス」に来る人、「イギリス」を去る人
- 第七回 帝国を動く人々
- 第八回 移動する「言葉」～出版が変える世界
- 第九回 都市を「歩く」という経験
- 第十回 観光と風景
- 第十一回 交通の産業革命
- 第十二回 戦地を「移動」する
- 第十三回 戦後の「移民」と現代イギリスに行ける「移民」問題
- 第十四回 グローバリゼーションの中の移動
- 第十五回 彼我の世界を移動する

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト100%。ただし、授業態度などの平常点により多少の増減あり。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習用・復習用のテキストを配布することがありますので、配布された際には指示に従ってテキストを自己学習の時間で読むようにしてください。また授業で配布するプリントも、当該授業の復習として、また次回授業の予習として何度も読み返してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義名に「歴史」は入っていませんが、どんな社会現象・文化現象を語るにも、その歴史を外すことはできませんので、歴史の話にも時間は割きます。ただし、歴史(世界史)は苦手、という人にもぜひ受講してほしいと思っています。

キーワード /Keywords

移民、階級意識、多文化主義、帝国主義、消費社会

イギリス文化論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高度な知識を得ることによってイギリス文化を理解することができる。	
技能	専門分野のスキル			
	英語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) イギリス研究	MCC217M
(比文) イギリス文化論	ARE234M

授業の概要 /Course Description

This course will be taught in English.

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalism. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, media, ideology, economy, sexuality, science, technology, nationalism and religion.

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

We will focus on 9 important era-defining figures from 18th century till today that shaped the times, some of which are listed not because they are important in British history but as significant keys to consider each period: William Shakespeare, John Bunyan, Oliver Cromwell, Daniel Defoe, Erasmus Darwin, Mary Shelley, Isambard Kingdom Brunel, Charles Darwin, William Morris, Conan Doyle, D. H. Lawrence, A. A. Milne and John Lennon.

Class 1: Introduction

Class 2: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (1) 【media, coffee house, luna society】

Class 3: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (2) 【industrial revolution, national roads, canal, network, Josiah Wedgewood】

Class 4: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (1) 【exploration, science and religion】

Class 5: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (2) 【romanticism, feminism】

Class 6: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (1) 【George & Robert Stevenson, railway and media】

Class 7: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (2) 【British Empire, globalization, colonialism】

Class 8: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (1) 【mechanism and organism, romanticism】

Class 9: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (2) 【leading spirit, survival of the fittest】

Class 10: William Morris and the British Style 【arts and crafts movement, socialism, romanticism】

Class 11: Conan Doyle's Sherlock Homes and the End of the Century: 19th Century Occultism and Science 【mystery and occultism, London, urbanism】

Class 12: D. H. Lawrence's Lady Chatterley's Lover and the Idea of Obscenity 【class, sex, violence, reason, instinct】

Class 13: A. A. Milne's Winnie the Pooh and the Age of Wars: What Exists Where There is Nothing? 【humour, comedy, the idea of nothingness, war】

Class 14: John Lennon and the Rock Music: Pop, Youth and Identity in the Postcolonial World 【subculture, counterculture, freedom, love and peace movement】

Class 15: General Overview

成績評価の方法 /Assessment Method

Examination 70%

Class Contribution 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Each student will read the given material before each class.

Each student will review the class.

履修上の注意 /Remarks

Students must prepare for the class by reading the suggested materials and doing some research in advance.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ文化論 【昼】

専門教育科目
 選択科目
 比較文化（地域系）科目
 欧米

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ドイツ語圏の多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	ドイツ語圏の多様な文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ドイツ語圏文化に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	ドイツ語圏文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ドイツ文化論

ARE241M

授業の概要 /Course Description

ドイツ語圏（主にドイツ、そしてオーストリアとスイス）の文化についてさまざまな視点から概観し、何が「ドイツ的」かを感じ分ける力を養います。

ドイツに何が在るのかを知識として暗記し、それをテストで吐き出して単位を得るような情報処理ではなく、「なぜそれがそのような仕方であるに至ったのか」推理し、論じる力をつけましょう。

〈知る / 知らない〉ではなく、知らないなりに精度の高い推測をする力、そして態度を身につければ、社会で自立して生きてゆくにあたって役に立つはずです。

教科書 /Textbooks

なし（毎回、プリントを配布します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校世界史で使用した副読本（図説）を手元に置くと便利です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ドイツ人とドイツとの成り立ち
- ②ドイツの地理
- ③ドイツの歴史
- ④ドイツの食
- ⑤ドイツの宗教
- ⑥ドイツの建築
- ⑦ドイツの芸術
- ⑧ドイツの言葉
- ⑨小まとめ
- ⑩オーストリア
- ⑪スイス
- ⑫ドイツと日本
- ⑬ドイツとフランス
- ⑭ドイツとアメリカ
- ⑮総まとめ

ドイツ文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

成績評価の方法 /Assessment Method

■小課題(毎回授業終わり)50% + 期末レポート50%

※小課題の提出は、出席確認も兼ねます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

何が「ドイツ的」で、何がドイツ的ではないかを嗅ぎ分けてやろうという意識で、周囲を見渡しながら生活し、気付いたことがあれば、毎回配布される演習シート内で報告してください。ヨーロッパに関する学術的な本を読むときにかぎらず、テレビや映画を観たり、洋食を食べたり、洋楽を聴いたり、留学生と会話したりしたときにもアンテナを張り、その感度を上げていくことこそ、立派な学びです。

履修上の注意 /Remarks

高校時の世界史履修や、ドイツ語履修は、前提にして「いません」ので、気軽に受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ オーストリア スイス 歴史 芸術 言語 文化

イギリス文学概論【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリス文学を理解するための基礎的な知識を習得している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリス文学の研究方法を身につけている。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	イギリス文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス文学概論

LIT231M

授業の概要 /Course Description

今日、文学というどうしてもかたいイメージを持つてしまう人がいるかもしれませんが、「おもしろくなければ文学じゃない」というイギリスの作家W.S.モームの言葉にもあるように、文学史上に残っている文学作品のほとんどすべては、古今東西の実に多くの人々の関心を集め、感動を与えてきた興味深いものばかりです。文学作品が敬遠されるようになったのは、読書感想文を書くための材料として扱われたり、画一的な解釈を強要されたりといった昨今の「読書」を取り巻く環境が変化してきたためであり、それが私たちから読書の本来の楽しさを奪っているのではないのでしょうか。人間同士のかかわり、絆が希薄になりつつあると言われる今、多くのすぐれた文学作品に触れ、人間とは何かを知ることは、他者に対する関心を今一度呼び起こしてくれることでしょうか。

本講義では、長い歴史の中で詩から劇、そして小説へと発展してきた伝統あるイギリス文学の始まりから説き起こし、今日に至るまでの流れを追います。代表的な作品群については原作の豊かな英語表現にも触れることで、作品のおもしろさを共に味わえればと思います。その際、作品に関わるジャンルや技法、また読み解き方や批評方法などの基礎的な説明を加え、更には作品を生み出したイギリスの時代背景、文化背景との関わりをも探っていくことで、作品のより深い読みを目指します。

同時に、作品との関連で、人間に関する様々なテーマ(生、死、愛、宗教、想像力.....)についても問題提起をします。一緒に考えていきましょう!!

授業の到達目標及びテーマ

- ①イギリス文学を理解するための基礎的な知識を習得していること。
- ②イギリス文学を読解し理解するための研究方法を身につけていること。
- ③イギリス文学に対する関心を高めること。

教科書 /Textbooks

- ・『イギリス小説入門』(川口喬一著)研究社出版
- ・その他、必要に応じて資料を配布します(An Outline of English Literature by G.C.Thornley and Gwyneth Robertsなど)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入： 評価方法などの説明 (文学の勤め、文学の面白さ) <イギリスについて>
- 2回 『ベオウルフ』(古英語、散文・韻文、頭韻、想像力) <アングロサクソン七王国>
- 3回 『キャンタベリー物語』 by チョーサー (中英語、脚韻、韻律分析) <巡礼>
- 4回 『エヴリマン』等 (道徳劇、中英語、アレゴリー) <教訓、死と人間>
- 5回 ダン、ジョンソン、ヘイコン等 (詩の形式、奇想、逆説、機知、誇張、随筆等) <王政>
- 6回 4大悲劇(『ハムレット』『リア王』『マクベス』『オセロ』) by シェイクスピア(演劇) <近代人の苦悩>
- 7回 『失楽園』等 by ミルトン (無韻詩) <キリスト教、宗教改革>
- 8回 ピープス、イヴリン等(散文、日記文学) <市民革命、自意識の芽生え>
- 9回 『ロビンソン・クルーソー』 by デフォー (小説の勃興) <コーヒーハウス>
- 10回 『ガリヴァー旅行記』 by スウィフト (風刺) <社会に対する怒り>
- 11回 『パメラ』 by リチャードソン、『シャメラ』 by フィールディング等(パロディ) <フェミニズムの先駆け>
- 12回 『高慢と偏見』 by オースティン、『テス』 by ハーディ (正統派小説) <結婚事情、セクシュアリティ>
- 13回 ロレンス、オプライエン、ドラブル、イシグロ (問題小説、伝統回帰) <社会の批判と受容>
- 14回 『不思議の国のアリス』 by キャロル(児童文学、ファンタジー、謎解き) <子供とイギリス社会>
- 15回 総括： イギリス文学の流れ、魅力等

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 or レポート(受講者数により決定します)・・・90%
平常点(課題、授業への参加度など)・・・10% (出席重視)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当箇所に通しておいください。また、授業の後は、ノートをもとに内容を整理し、配布資料にもしっかり目を通すことで、復習をしておいてください。

本講義で具体的に扱う作品はもちろん、触れるだけの作品についても積極的に読んで、文学作品の醍醐味を味わいましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文学の中でも現代に近い作品に関心を持っている人は「イギリスの現代文学」の受講をお勧めします。

キーワード /Keywords

「詩」「劇」「小説」「伝統」「文学のおもしろさ」「想像力」「風刺」「パロディ」「児童文学」「ファンタジー」

イギリスの現代文学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの現代文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスの現代文学の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	イギリスの現代文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの現代文学

LIT234M

授業の概要 /Course Description

「幸福」について共に考えよう！！

文学作品の面白さの一つは、主人公を中心とする人物たちの様々な生き様を読むことで、読者がいつのまにかその世界にすっかり引き込まれ、自分自身がまるでactor, actressになったかのように別の人生を生きることができるところにあります。人間はともすると、居心地のよい自分だけの小さな世界の中で安穩と生きること、井の中の蛙になりがちです。そのような中、独りよがりな独善から解放され、より広く深い人間観を持つためには、文学作品を読むことはうってつけの方法と言えるでしょう。更に、より広い世界観を得るためには、自国の文学だけに満足することなく、様々な国々の文学作品に接することも必要です。

現代文学の始まりがいつなのかについては、研究者の間でも諸説入り混じっていますが、イギリス文学史においては20世紀初頭に大きな変化が見られるため、本講義では便宜上、20世紀以降の作品を主に扱うことにします。

イギリスの20世紀以降は、伝統を重んじる保守派の中から、様々な領域において刷新を望む新しい力が台頭してきた、とても興味深い時代です。そのような変化が如実に反映されている文学作品の中でも、この授業ではいくつかの短篇小説を読むことで、様々な人間の「幸福」の問題について一緒に考えていきましょう。授業を通して複眼的な幸福についての視点を持ちつつ議論をすることで、自ら幸福論についての課題を設定し、問題解決ができるようになることを目指してもらえればと思います。

授業中にグループディスカッションを複数回実施します。

★到達目標

- ①イギリスの現代文学のいくつかの作品を理解すること。
- ②イギリスの現代文学の研究方法を身につけること。(「幸福」のテーマで作品を比較検討すること)
- ③イギリスの現代文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できること。
- ④イギリスの現代文学に対する関心を更に高めること。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(作品によっては英語で書かれた原作を用いることもありますが、原則として翻訳も準備します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入（テーマ、授業の勧め方、評価方法などについての説明）
- 2回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、内容確認と理解
- 3回 “The Happy Man” by W. S. Maugham、議論【地位やお金と幸福】
- 4回 “The Happy Prince” by O. Wilde、内容確認と理解
- 5回 “The Happy Prince” by O. Wilde、議論【自己犠牲と幸福】
- 6回 “A Little Cloud” by James Joyce、内容確認と理解
- 7回 “A Little Cloud” by James Joyce、議論【自由や束縛と幸福】
- 8回 “Miss Brill” by K. Mansfield、内容確認と理解
- 9回 “Miss Brill” by K. Mansfield、議論【孤独の不幸】
- 10回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、内容確認と理解
- 11回 August Is a Wicked Month by E. O'Brien、議論【男女の愛の不毛性】
- 12回 Lady Chatterley’s Lover by D.H. Lawrence、内容確認と理解
- 13回 Lady Chatterley’s Lover by D.H. Lawrence、議論【自然との関係にみる救い】
- 14回 幸福についての議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...40%、試験...60%（出席重視）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に扱う短編については、配布する資料をあらかじめ授業の前に読んでおいてください。特にグループディスカッションを実施する回については、議論に積極的に参加するためにも事前の読書が必要です。授業の理解に有益な読書等も積極的に行なってください。

それぞれの作品が終わる度に「幸福と * * *」というテーマで、自分なりの幸福感を更新していってもらい、最終的に自分独自の「幸福の格言」を作ってもらう予定です。

作品によっては原作（英語のオリジナル）のプリントも配布するので、英語を頑張りたい人は積極的にそれを活用して自分で訳す作業をすることをお勧めします。その作業をやった人については、評価に +α の配点をします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普遍的な「幸福」は果たしてあるのでしょうか。もしあるとすれば、それは一体何なのでしょう……。みんなで一緒に考えましょう！

キーワード /Keywords

【地位やお金と幸福】、【自己犠牲と幸福】、【自由や束縛と幸福】、【孤独の不幸】、【男女の愛の不毛性】、【自然との関係にみる救い】

イギリスの18-19世紀文学【昼】

担当者名 /Instructor 今川 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの18-19世紀文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスの18-19世紀文学の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	イギリスの18-19世紀文学に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	イギリスの18-19世紀文学に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの18-19世紀文学

LIT235M

授業の概要 /Course Description

イギリスの18-19世紀文学について、資料を元に講義する。
 まず、18世紀初めに始まったとされる近代小説発祥の時代背景として重要な産業革命について、その背景と歴史を説明し、それ以前の貴族や地主階級から市民階級の興隆から始めて、イギリスの社会背景の変化を論じ、市民階級に読まれる本として、近代小説が生まれたことを説明し、近代初期小説の特徴とその成り立ちを述べ、具体的作家と作品をいくつか取り上げ、粗筋と内容そして主題を解明し、それ以後に生まれた作家・作品に続ける。

教科書 /Textbooks

『イギリス小説入門』川口喬一 著 (研究社) ISBN: 978-4-327-37505-8

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『イギリス文学史入門』川崎寿彦 著 (研究社) ISBN: 978-4-327-37501-0

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. 18世紀のイギリス社会について
3. 18世紀イギリスの市民生活について
4. イギリスの近代初期小説について
5. 近代初期作家たちについて
6. ジェーン・オースティンとその作品について
7. メアリー・シェリーとその作品について
8. シャーロット・ブロンテとその作品について
9. チャールズ・ディケンズとその作品について
10. ヴィクトリア朝の児童文学について
11. オスカー・ワイルドとその作品について
12. トマス・ハーディーとその作品について
13. ジョウゼフ・コンラッドとその作品について
14. ジョージ・オーウェルとその作品について
15. 18-19世紀イギリス文学のまとめと現代イギリス小説について

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・貢献度・レポート 50%
 期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に予告された作家や詩人について自ら調べておくこと。

イギリスの18-19世紀文学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

履修上の注意 /Remarks

授業中の私語・携帯の閲覧や操作厳禁。
3回以上の欠席は、原則履修資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの大衆文化【昼】

担当者名 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの大衆文化、及びその歴史についての基本的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	大衆文化を理解するための独自の視点・方法論を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	大衆文化の領域においても深い社会的考察が出来ることを認識する。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	一つの社会の文化について幅広い関心を持ちうる態度を育成する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの大衆文化

ARE231M

授業の概要 /Course Description

「大衆文化」と聞くと、アニメやマンガ、ポップ音楽などを連想する人は多いかもしれませんが、しかし、そもそも「大衆文化」というものに学問的な興味向けられたのは、偉くもなく、お金も持っていないような、社会の中の普通の人々(民衆)が、どのような独自の「文化」を作ってきたのか/いるのか、について見なければ、「文化」を全体として捉えることはできない、という考えが生まれてきたからです。従って、「大衆文化」とは、普通の人々の日々の営みを幅広く含むものなのです。

本講義では、そのような考え方にに基づき、イギリスにおける「余暇」や「娯楽」を扱います。「余暇」や「娯楽」というと少し堅苦しいですが、簡単に言えば、「遊び」ということです。現在の私たちが、スポーツをしたりゲームをしたりしながら「遊ぶ」ように、どの時代のイギリス人も様々な「遊び」を開発して楽しんできました。そして、そうした「遊び」こそ、いつの時代ももっとも人気のあった「大衆文化」と言ってもよいでしょう。そうした「遊び」を見ることを通じて、「遊び」以外にも含めた、イギリス人の暮らしや仕事の様子を浮かび上がらせることが最終的な目的となります。

教科書 /Textbooks

特になし(毎回レジュメを配布します)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『空から女が降ってくる』(富山太佳夫)岩波書店
- 『英国社会の民衆娯楽』(ロバート・W・マーカムソン)、平凡社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 イントロダクション: 余暇と娯楽の社会史
- 第二回 「気晴らし」としての「スポーツ」
- 第三回 「暇つぶし」の社会史
- 第四回 娯楽の残酷さと暴力性をめぐって
- 第五回 フットボールと祝祭
- 第六回 「余暇」の誕生
- 第七回 「趣味」とはなにか
- 第八回 収集・陳列・消費
- 第九回 「余暇」の制度化/大衆化
- 第十回 動物との付き合い方
- 第十一回 ジェンダー関係の中の余暇と娯楽
- 第十二回 余暇と娯楽と商業主義
- 第十三回 娯楽と自己実現もしくは労働としての余暇
- 第十四回 統治される余暇と娯楽
- 第十五回 誰のための余暇?: まとめにかえて

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト 100%

イギリスの大衆文化 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習用・復習用のテキストを配布することがありますので、配布された際には指示に従ってテキストを自己学習の時間で読むようにしてください。また授業で配布するプリントも、当該授業の復習として、また次回授業の予習として何度も読み返してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「遊び」という観点から、イギリスの文化について幅広く扱う予定です。授業を「遊び」と思うのは難しいと思いますが、できるだけ楽しめる授業にしたいと思います。

キーワード /Keywords

スポーツ、共同体、祝祭、ゲーム、演芸、格闘技、階級

フランス文化論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	フランスの多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	フランスに軸足を置きながら、多様な文化領域の研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	フランス文化に関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	フランス文化をはじめとして、自国の文化や世界各国の異文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

フランス文化論

ARE240M

授業の概要 /Course Description

本講義では、有形及び無形の文化資源を題材に用いて、文化を考察するためのアプローチの方法を紹介しつつ、フランス文化を様々な側面から解説する。また、他の国・地域(特に日本)の文化にも適宜触れつつ、フランス文化の普遍性や特殊性を検討する。フランス文化に興味がない人にも、他の国・地域の文化について研究する際に参考になるような授業を展開したい。

教科書 /Textbooks

なし。教科書の代わりにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

杉本淑彦、竹中幸史編『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年(○)。
鈴木雅生、福島勲編(田村毅監修)『フランス文化読本 フランスを知るための16の窓』丸善出版、2014年(○)。
田村毅、塩川徹也、西本晃二、鈴木雅生編『フランス文化事典』丸善出版、2012年(○)。
上記以外の参考文献については、授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方の説明と基礎的な知識の確認
- 2回 建築でめぐるフランス① -中世の建築-
- 3回 建築でめぐるフランス② -近世の建築-
- 4回 建築でめぐるフランス③ -19世紀・20世紀における、建築とその管理-
- 5回 景観の保護
- 6回 都市と郊外
- 7回 移民文化
- 8回 コロニアリズムと文化財
- 9回 「モードの国」フランス
- 10回 ファッションと女性① -服装-
- 11回 ファッションと女性② -化粧、香水-
- 12回 「多言語国家」フランス
- 13回 「暗い過去」と映画① -占領期の歴史-
- 14回 「暗い過去」と映画② -占領期の表象-
- 15回 まとめと復習

以上は予定であり、変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度(授業中の発言や受講後に提出するコメント用紙)・・・30%、期末試験(論述式の試験)または期末レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業の導入として、新聞記事や文献のコピーを配布することがあるので、その場合は必ず読んでくること。授業後は、配布したプリントを復習するだけでなく、授業中に紹介した文献を積極的に読み、授業内容の理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の受講に際し、特別な知識は必要ない。高校で世界史を勉強しなかった学生も歓迎する。
また、本授業は、基本的に講義形式で行われるが、映画を中心とする映像資料の視聴や、ペアワークないしグループワークを伴う。特にこれらのワークにおいては、話しやすい雰囲気を作るよう心がけるので、間違いを恐れず積極的に発言してほしい。

キーワード /Keywords

西洋美術史【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋美術史の基礎知識を身に付ける。
技能	専門分野のスキル	●	西洋美術史の研究方法を理解する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋美術を考察する力を身に付ける。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	西洋美術に対する興味関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋美術史

PHR218M

授業の概要 /Course Description

西洋美術は、ヨーロッパの中でもイタリア(近代以前)とフランス(近代以降)を軸としながら展開してきた。本講義では、「西洋美術史」の核となっている14世紀から18世紀頃のヨーロッパの絵画を取り上げる。イタリアやフランス、ドイツ、オランダその他のヨーロッパの画家を紹介し、作品をプロジェクターで見ながら、その時代を形成している絵画の様式や思想、モチーフの特徴などを見ていく。全15回で長い時代を扱うため、個別の画家を詳しく取り上げるのではなく、西洋美術史全体の大枠をとらえることとする。西洋美術史についての基礎的知識を養うとともに、西洋美術史全体の流れを理解することを目標としたい。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ・ H.W. ジャンソン、A.F. ジャンソン著『西洋美術の歴史』(創元社、2001年)○
- ・ 高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』(美術出版社、2002年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「美術」を「みる」とは?
- 第3回 国際ゴシック様式について
- 第4回 イタリアの初期ルネサンス美術①【都市フィレンツェの勃興】
- 第5回 イタリアの初期ルネサンス美術②【その他の都市ヴェネツィア、ローマ】
- 第6回 イタリアの盛期ルネサンス美術①【天才芸術家の誕生】
- 第7回 イタリアの盛期ルネサンス美術②【ローマとフィレンツェ】
- 第8回 イタリアの盛期ルネサンス美術③【ヴェネツィア】
- 第9回 15世紀の北方美術-ネーデルラント絵画を中心に
- 第10回 16世紀の北方美術-「北方ルネサンス美術」について
- 第11回 マニエリスム-極度の洗練と凝った奇想
- 第12回 16世紀イタリア-マニエリスム以外の傾向
- 第13回 バロック美術のはじまり-イタリア・スペイン
- 第14回 バロック黄金期-フランドル・オランダ
- 第15回 まとめ

※変更が生じる場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(小レポート含む)...30%
試験...70%
※3分の2以上の出席がなければ定期試験は受けられません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

近隣の美術館で開催されている美術展覧会を可能な限り鑑賞し、美術に親しむこと。
授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

美術作品の画像を見ながらの授業となるので、講義開始時間を守って、教室内の見やすい席に座ること。
本授業は西洋美術史・博物館ゼミの基礎となるため、当該ゼミを考えている者は受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

作品を「見る」ということが最も大事な科目なため、日ごろから作品の細部に注目する習慣をつけてほしい。

キーワード /Keywords

西洋美術

アメリカ文化史【昼】

専門教育科目
 選択科目
 比較文化(地域系)科目
 欧米

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アメリカ文化理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	アメリカ文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	アメリカ文化に見られる諸問題について、発見・分析できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	アメリカ文化史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文化史

ARE227M

授業の概要 /Course Description

21世紀に入り20年が経過した現在でも、アメリカ社会は相変わらず、人種や民族の問題を抱えている。人種や民族をめぐる問題は、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な一面をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、日系人、ヒスパニックの歴史的背景に関する知識を修得したうえで、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考え、的確に表現する力を養成する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時及び授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
- 第3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会
- 第4回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立と黒人の抵抗運動
- 第5回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の否定
- 第6回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動の進展
- 第7回 アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
- 第8回 日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
- 第9回 日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
- 第10回 日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
- 第11回 日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
- 第12回 日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
- 第13回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：ブラセロ計画と1965年移民法
- 第14回 人種・民族をとりまく今日の状況
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連するものを中心にニュースに目を通す。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

アメリカ文化史 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化（地域系）科目
欧米

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリスの生活【昼】

担当者名 水井 万里子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	イギリスの生活文化の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	イギリスの生活文化の理解に関わる資料を活用した調査研究能力を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	イギリスの生活文化に関する諸問題について、発見・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	イギリスの生活文化に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリスの生活

ARE235M

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代のイギリスの生活文化を形づくっている歴史的なものごと、ことごらを認識し、イギリスの過去と現在を比べながら、異文化理解に役立つ知識や考え方を学んでいきます。

講義の前半では、イギリスの中に暮らす人々の地域性の多様さ、歴史的な身分、農村・都市の生活、日々の生活を取り巻く労働、宗教、政治、宗教、福祉といった社会的な制度や規範について、その成り立ちと人々の働きかけによる変化のダイナミズムを理解します。後半は「イギリス」をグローバルな観点からとらえるために、植民地との関係を中心に学びます。イギリス人のグローバルな移動や、国内への移民受け入れ、現代の多文化社会化とEU離脱の問題といった、現代イギリスが直面する状況を歴史的な学習を通して理解していきます。イギリスという異文化の理解を通して、今の私たちが生きている社会や文化を改めて見つめてほしいと思います。

教科書 /Textbooks

特になし。毎回の講義でレジュメを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指昭博編『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』(ミネルヴァ書房、2012年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス：イギリスの生活と文化について
2. イギリスの地域：ケルト系の人々の歴史と現在
3. 祈る：イギリス国教会と多様性
4. 貴族の文化と村の文化
5. ジェントルマン層と政治：議会制の成り立ち
6. 都市の人々：商工業と市民社会
7. 働く人々：工業化による労働の変化
8. 都市文化：コーヒーと紅茶、二つの国民
9. 福祉とイギリス
10. 労働：こどもの労働と貧困の問題から
11. 政治：政党政治と参政権
12. 移民：イギリス人のグローバルな移動
13. 植民地時代のイギリス：移民の受け入れ
14. 多文化社会イギリスとブリテンのゆくえ
15. まとめ：イギリスから見えるもの
(進度により多少変更が生じる場合があります)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(60%)・・・講義内容を踏まえて、講義の要約や自分の考えを明確に述べるか。

自由課題レポート(30%)...イギリスに関する課題の発見と探究、表現ができてるか。

日常の授業への取り組み(10%)

なお、5回以上、無断欠席・遅刻をした者は単位認定の対象外とします。

イギリスの生活【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、前回の授業レジュメを見直してください。
授業で視聴した教材について、ミニレポートの形で復習・提出してください。
大学図書館には多くの文献・資料があります。自由課題レポートの作成に利用してください。

履修上の注意 /Remarks

適当な理由のない欠席、遅刻、途中退室は厳禁。理由がある場合は事前申告してください。
他人の受講を妨げる迷惑行為や私語、居眠り、携帯電話やスマートフォンの使用は厳禁です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校世界史を選択していない人でも、イギリスに興味がある人は歓迎します。

キーワード /Keywords

イギリス文化史、イギリス社会史、イギリスの地域性、イギリスの生活文化

イギリス文化史【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位 / 2単位
学期 /Semester 1学期 / 1学期
授業形態 /Class Format 講義 / 講義
クラス /Class クラス 2年 / 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	英米文化(主にイギリス)の特性について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	英米文化(主にイギリス)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(国関) 英米文化概論 I	ARE130M
(比文) イギリス文化史	ARE233M

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、アメリカ等も含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

教科書 /Textbooks

指定しない。各回でレジユメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【イギリス文化】
 - 第2回 英米文化への接近方法【異文化理解】【コミュニケーション】
 - 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
 - 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主政】【マグナ・カルタ】
 - 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
 - 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
 - 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
 - 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
 - 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
 - 第10回 アイルランドはイギリスが作った(1)【アイルランド】【カソリック】
 - 第11回 アイルランドはイギリスが作った(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
 - 第12回 ホワイトハウスが白なのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
 - 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
 - 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【民主主義】
 - 第15回 まとめ【イギリス文化】
- 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

試験(小テスト含む)...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

イギリス文化史【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環大西洋の社会史【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 環大西洋地域の社会史に関する専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 環大西洋地域の社会史に関わる資料を活用した研究能力を修得する。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 環大西洋地域社会の歴史に見られる諸問題について、発見・分析できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)	
関心・意欲・態度	生涯学習力	● 環大西洋地域の社会史に対する関心を深めることができる。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環大西洋の社会史

HIS230M

授業の概要 /Course Description

21世に入って20年が経とうとしている現在、世界各地で民衆による大規模な抗議行動が頻発している。その行動は、ある地域では「革命」であり、ほかの地域では「異議申し立て」にとどまるが、いずれも権力や権威に対する抗議であることにおいては共通する。こうした抗議行動の原因や意義を考えるうえでのひとつの手掛かりとして、本講義では、環大西洋世界で生じた歴史的な「革命」を取り上げ、近代の欧米を中心とした政治的な流れを、経済・社会・文化と絡めて考察する。授業を通して、主にイギリス・アメリカ・フランスの歴史に関する知識を修得し、17世紀から18世紀の欧米に生じた問題や変化の原因を考え、それを的確に表現する力を養成する。

教科書 /Textbooks

特に指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：授業の狙い・テーマについてのガイダンス
- 2回 イギリス革命：ピューリタン革命(1)【イギリスの宗教改革】
- 3回 イギリス革命：ピューリタン革命(2)【ピューリタニズムと共和国】
- 4回 イギリス革命：名誉革命【王政復古体制】
- 5回 イギリス革命：産業革命【石炭の時代】
- 6回 小括【コモン・ローとイギリスの革命】
- 7回 アメリカ革命：反英抗争(1)【植民地建設】
- 8回 アメリカ革命：反英抗争(2)【植民地の発展】
- 9回 アメリカ革命：独立革命(1)【課税への反対】
- 10回 アメリカ革命：独立革命(2)【「コモン・センス」と「独立宣言」】
- 11回 小括【ジョン・ロックとアメリカの革命】
- 12回 フランス革命：アンシャン・レジーム【「社団」から「公衆」へ】
- 13回 フランス革命：1789~1792年【絶対王政から立憲君主制、そして共和政へ】
- 14回 フランス革命：1793~1794年【革命の急進化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連するものを中心にニュースに目を通す。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

環大西洋の社会史 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア歴史文化論【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ロシアの歴史、社会、文化について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	歴史的研究方法、社会学的研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ロシアの社会や文化に関して課題を自ら設定し、適切な研究方法を用いて考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	ロシアの歴史・文化をはじめ、幅広い領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ロシア歴史文化論

HIS231M

授業の概要 /Course Description

現代ロシアはソ連解体後に誕生した新体制の社会ではあるが、旧体制を引き継ぎ繋がっている点が多々ある、と言えよう。それをロシア的特性とすれば、それはいかに条件付けられ、歴史的に形成され、引き継がれ、変革してきたのだろうか？
本講義では、自然風土、歴史、精神文化、生活文化、ロシア人論など多面的テーマを取り上げ、ロシア的特性について考える。

教科書 /Textbooks

レジュメ配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○田中・倉持・和田編『ロシア史』全3巻(世界歴史体系シリーズ)山川出版社、1994 - 1997年
和田春樹編『ロシア史』山川出版社、2002
○藤沼貴著『ロシア その歴史と心』第三文明社、1995
三浦清美『ロシアの源流』講談社選書メチエ、2003
○中村喜和『聖なるロシアを求めて』平凡社、1990
○黒川知人『ロシア・キリスト教史』教文館、1999
○川端香男里『講座 スラブ世界 1 スラブの文化』、1996
クリュチエフスキー『ロシア史講話 1』恒文社、1992
森安達也編『スラブ民族と東欧ロシア』山川出版社、1986

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ロシアの自然風土、自然地理
- 2 ロシアの自然風土、経済地理
- 3 精神文化：宗教・信仰
- 4 生活文化：歳時記
- 5 社会文化：教育、結婚など
- 6 ロシアの歴史1：キエフ・ルーシ、モンゴルの支配
- 7 ロシアの歴史2：動乱時代、西欧化の波、モスクワ公国の発展
- 8 ロシアの歴史3：帝政ロシアの領土拡大、19世紀の改革と反動、ロシア革命
- 9 ロシアの歴史4：内戦、ソ連国家建設から崩壊まで
- 10 ソ連時代の人々の価値観と行動
- 11 ロシア人論
- 12 ロシア人の名前
- 13 転換期のロシア1：ロシア市民、新ロシア人、社会活動
- 14 転換期のロシア2：衣食住などの生活文化
- 15 世界のロシア語人

ロシア歴史文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70%、小レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ロシアは広大で地域によって自然条件が異なります。またロシア・ソ連史は複雑で、社会制度や文化も異質です。参考書や授業内容に関係した図書を読み、基本的な知識を得ておくため予習をしておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア史、ロシア文化

ユーラシアの多文化世界【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ロシア、カフカス、中央アジア、バルト地域などの多様な民族社会の存在を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	民族を結びつけている我々意識、言語、文化、宗教についての基本的アプローチ法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を自ら設定し、適切なアプローチ法を用いつつ、複眼的視野に基づいて考察し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	異なる民族文化の諸領域に対する関心を維持する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ユーラシアの多文化世界

ARE265M

授業の概要 /Course Description

民族を結びつけている言語・文化・宗教、アイデンティティなどについて、特に、文化の維持と継承・創造の視点から考察する。
事例研究では、主にロシア連邦のボルガ中流地域、北カフカス地域などの民族共和国、さらに中央アジア、ウクライナ、バルト諸国などを取り上げる。
到達目標は、文化の創造・維持についての理解を深め、多民族社会に関する知識を養い、日本の社会を多様な価値観で認識し直すことができるようになること。

教科書 /Textbooks

レジュメ配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 青木保『文化の否定性』中央公論社、1988
 - E.W.サイード『オリエンタリズム』上・下、平凡社、1993
 - 小泉武夫『食の墜落と日本人』東洋経済新報社、2001
 - 平田オリザ『わかりあえないことから』講談社現代新書、2012
 - アーネスト・ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店、2000
 - 宇山智彦編著『中央アジアを知るための60章』明石書店、2003年
 - 北川誠一ほか編著『コーカサスを知るための60章』明石書店、2006年
 - 田中・倉持・和田編『ロシア史』全3巻(世界歴史体系シリーズ)山川出版社、1994 - 1997
- 以上の他に指定図書も10冊ほどあります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族とは何か：民族籍と国籍、民族アイデンティティ、ナショナリズム
- 2回 民族社会と文化①文化の定義、人と文化、文化政策
- 3回 民族社会と文化②文化の創造と維持
- 4回 社会と宗教：世界の宗教意識調査、宗教の役割とは何か、宗教政策
- 5回 言語と社会①【母語とは】、人と言語、民族言語
- 6回 言語と社会② 近代化と言語政策・言語問題
- 7回 ロシアの諸民族総論
- 8回 ボルガ・ウラル地域の民族社会①タタール人
- 9回 ボルガ・ウラル地域の民族社会②ウドムルト人
- 10回 北カフカスの諸民族、【ダゲスタンの諸民族】
- 11回 シベリア・極北の民族社会：自然と産業、開発の歴史、少数民族社会の消長
- 12回 中央アジアの民族と社会：①自然風土、草原の民とオアシスの民
- 13回 中央アジアの民族と社会：②信仰と宗教、歴史・文化、新たな国造り
- 14回 ウクライナの民族・地域問題：歴史、言語、文化・宗教
- 15回 バルトの諸民族：エストニア、ラトビアの歴史と民族、文化

ユーラシアの多文化世界 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70%、小レポート30%
(欠席・遅刻が三分の一以上の者は受験資格を失います)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前にシラバス記載の参考書、授業計画・内容に関係した書物(文化論、民族論、社会言語学、さらにロシアの歴史や社会に関するもの)を読み基本的な知識を得ておくこと。また、毎回の授業でも参考文献を示すので、興味のあるテーマを選んで関連文献を読み理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族、ナショナリズム、文化、民族伝統文化維持、宗教、ことばと社会、ロシア、ウクライナ、タタルスタン、ウドムルト、カフカス、ダゲスタン、シベリア、中央アジア、バルト地域、

社会言語学【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会言語学研究に必要な基礎的・専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	● 社会と言語の関係を正しく理解し、分析・研究を行うことができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会と言語の諸問題を学際的、複眼的に思考し解決策を探索できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(英米) 社会言語学研究	LIN310M
(比文) 社会言語学	LIN310M

授業の概要 /Course Description

本講義は社会言語学の基礎知識を学び、日常における様々な言語現象を観察し理解する力を身につけることが目的です。ことばは様々な要因によって影響を受け、変化やバリエーションが生じます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはことばをどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。ことばと社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回社会言語学とは
- 2 回英語の地域変種
- 3 回標準英語と非標準英語
- 4 回ことばと社会階級
- 5 回ことばと性(1) コミュニケーションとジェンダー
- 6 回ことばと性(2) バリエーションとジェンダー
- 7 回ことばと年齢
- 8 回ことばと人種・民族
- 9 回ことばとソーシャルネットワーク
- 10 回ことばとスタイル
- 11 回ことばの変化
- 12 回方言接触
- 13 回言語接触
- 14 回特別講演会(未定)
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末テスト...100%(出席重視。欠席・遅刻は減点対象。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後に講義内容を復習し、関連する言語現象を観察してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会言語学 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米

キーワード /Keywords

スペイン語圏文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目
欧米・アジア

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スペインの歴史の基礎知識を学んだうえで、その専門的な文化の諸相を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	スペイン文化を理解するための方法論を理解している。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ文化の中のスペインの位置の理解、各国の文化との比較考察ができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	文化的混淆を含め、文化間の差異や共通性などを複眼的に学べる姿勢を維持する。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(27年度以降) スペイン語圏文化論 ARE242M

(25・26年度) スペイン文化論 ARE242M

授業の概要 /Course Description

ことなる出自を有する人々が行き交った、文化民族の十字路としてのイベリア半島スペインの社会とその文化について、一般的な視座を獲得することを目標とします。ときに共生を模索し、ときに失敗したそのいとなみを、スペインが内包する「複数性」をひとつのキーワードとして歴史的に概観します。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関哲行・立石博高・中塚次郎編、『スペイン史』山川出版社、2008。(2巻本)
- 清水憲男『ドン・キホーテの世紀』岩波書店、2010。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション、授業運営と成績評価について
- 第2回 旅するスペイン：地理と町の風景（イベリア半島、北と南）
- 第3回 スペインの言語、その来歴と変遷
- 第4回 古代史（単数形のスペインなんて存在しなかった）、イスラームスペイン（スペインはかつてイスラム教の国々だった）
- 第5回 中世のスペイン（レコンキスタの歴史）
- 第6回 武勲詩『エル・シードの歌』と映画『エル・シド』（部分）
- 第7回 アメリカ大陸との遭遇、ハプスブルグ帝国の栄華と没落
- 第8回 スペインの黄金時代とその芸術（ベラスケス、エル・グレコ）
- 第9回 ブルボン朝のスペイン、国家の立て直し、王朝の危機と新大陸の独立運動
- 第10回 映画『宮廷画家ゴヤ』
- 第11回 映画『宮廷画家ゴヤ』（つづき）、ゴヤの芸術
- 第12回 ロマン主義、国民主義、モデルニスモの芸術（文学、音楽、建築）
- 第13回 共和制への歩み、スペイン内戦と学問、芸術
- 第14回 映画『サルバドールの朝』
- 第15回 映画『サルバドールの朝』（つづき）、独裁の爪痕

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30% レポート課題 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、取り扱われる時代について参考書の該当部分に目を通しておくこと。授業後には、講義内容をレジュメを見直して復習すること。

履修上の注意 /Remarks

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

スペイン語圏文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米・アジア

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普段からスペインやスペイン語圏の国々についての情報やニュースに注意を払ってください。スペインを知るためのさまざまなヒントがそこに含まれているかもしれません。

キーワード /Keywords

スペイン 歴史 文化 共生

スペイン語圏地域論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米・アジア

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	スペインを中心にスペイン語圏の地域の成り立ちを理解している。
技能	専門分野のスキル	●	ヨーロッパの中のスペイン、あるいはスペイン語圏の位置を理解している。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	スペインとスペイン語圏の歴史的比較ができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本とスペインあるいはスペイン語圏との関係に関心を維持する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(27年度以降 比文) スペイン語圏地域論 ARE243M

イスパニア地域論 ARE243M

授業の概要 /Course Description

スペイン語を話している国や地域は世界中にたくさんあります。この授業では、そのスペイン語圏の様々な場所が有する文化資源が今日までにどのように保存・活用されているか、あるいは議論の対象となっているか、ということをご概観します。授業担当者による講義のほか、スペイン語圏の文化資源について、授業参加者である学生によるプレゼンテーションをしてもらいます。

教科書 /Textbooks

授業担当者が適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 永川玲二『ことばの政治学』筑摩書房、1979。/ 岩波同時代ライブラリー、1995。
- 永川玲二『アンダルシア風土記』岩波書店、1999。
- 増田義郎『インカ帝国探検記』中公文庫、2017(古いものでも同じです)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション：スペイン世界(エル・ムンド・イスパニコ)とは何か
2. スペイン美術館をめぐる
3. フラメンコと闘牛
4. 食と文学
5. スペインの世界遺産など
6. ペドロ・アルモバルの芸術(経歴と作風)
7. ペドロ・アルモバルの芸術(作品)
8. スペイン編、まとめと小テスト、プレゼンテーション
9. ラテンアメリカとの遭遇、文明のホライゾン
10. マヤ文明
11. アステカ文明
12. インカ文明
13. 映画『モーターサイクル・ダイアリーズ』
14. ラテンアメリカの独立、チェ・ゲバラ
15. ラテンアメリカ編、まとめと小テスト、プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30%、小テスト(2回) 30%、プレゼンテーション(1回) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、指定された書籍等の該当箇所を参照しておくこと。授業後には配布されたレジュメの内容をレビューすること。

履修上の注意 /Remarks

いかなる理由であっても遅刻、欠席が5回に及んだ場合は評価の対象としない。

スペイン語圏地域論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米・アジア

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン ラテンアメリカ 文明 文化

中国の社会と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米・アジア

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国文化と社会に関する専門知識を習得する。
技能	専門分野のスキル	●	中国の文化と社会に関する情報を収集・分析できる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国文化と社会に関する諸問題について分析・解決できる。
	プレゼンテーション力 実践力(チャレンジ力)		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	中国文化と社会に対する関心を高めることができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国の社会と文化	ARE210M
----------	---------

授業の概要 /Course Description

「アジア」と呼称される地域は、きわめて広範囲に及んでいるが、この授業で主として取り上げるのは、「東アジア」とよばれる地域である。当該地域について、中国の歴史の大枠としての流れを踏まえつつ、中国はもちろん、朝鮮半島・日本・ベトナムなど、その周辺地域における社会や文化について、相互に比較しつつ考えていくことが、この授業の主な課題となる。日本などの地域において、特に近代以前、中国の文明・文化というものは、圧倒的な影響力をもっていた。周辺地域の人々は、中国の「文明」という存在に対して、それに随順するにせよ反抗するにせよ、否応なく意識せざるを得なかったのである。しかし一方で、具体的な社会のありようを見ていくと、これらの諸地域は、それぞれに独自の様相を示しており、「同文同種」の名のもとに一括りできるようなものでは決してない。さらに、この地域における宗教の展開などにまで踏み込んでみていくと、われわれのよく知っている「日本文化」なるものも、今までとは異なる新たな姿のもとに立ち現れてくるのである。このように、日本の文化に対しても、それを東アジアの中における存在として改めてとらえなおすことによって、「アジアの中の日本」、ひいては「世界の中の日本」という、21世紀にふさわしい意識を形成していく糧とすることが、本授業のねらいである。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 西嶋定生『古代東アジア世界と日本』(岩波書店、岩波現代文庫)○
- 金文京『漢文と東アジア』(岩波書店、岩波新書)○
- 島田虔二『朱子学と陽明学』(岩波書店、岩波新書)○
- 三枝充憲『仏教入門』(岩波書店、岩波新書)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「アジア」とは何か 【アジア】【東洋】【オリエンタリズム】【岡倉天心】
- 2回 国名とアイデンティティ 【日本】【倭】【中国】【中華】【韓】【朝鮮】
- 3回 君主の称号と意味 【天皇】【大王(オオキミ)】【皇帝】【王】【冊封体制】
- 4回 封建制と郡県制 【封建制】【郡県制】【秦の始皇帝】【律令制】【幕藩体制】【廃藩置県】
- 5回 ことばと文字(1) 【漢字】【表意文字】【甲骨文字】【仮借】【反切】
- 6回 ことばと文字(2) 【仮借】【万葉仮名】【漢文訓読】【宣命体】【平仮名】【片仮名】【変体仮名】
- 7回 ことばと文字(3) 【吏読】【ハングル】【訓民正音】【世宗】
- 8回 「三教」の世界(1) 【仏教】【上座部仏教】【大乘仏教】
- 9回 「三教」の世界(2) 【孔子】【儒教】【老子】【太上老君】【道教】
- 10回 「三教」の世界(3) 【神道】【神仏習合】【本地垂迹】【廃仏毀釈】【国家神道】
- 11回 家族・親族のありかた 【宗族制】【父系】【母系】【養子相続】【同姓不婚】
- 12回 朱子学と近世東アジア 【朱子学】【陽明学】【新儒教】【理気二元論】
- 13回 「西洋の衝撃」と東アジア(1) 【尊王攘夷】【和魂洋才】【洋務運動】
- 14回 「西洋の衝撃」と東アジア(2) 【明治維新】【辛亥革命】【革新と復古】
- 15回 まとめ

中国の社会と文化【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米・アジア

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(レポートなど) ... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジアの歴史と社会 【昼】

専門教育科目
 選択科目
 比較文化 (地域系) 科目
 欧米・アジア

担当者名 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代日本社会の市民として必要な教養としての、アジアの歴史・社会についての理解を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	アジアのさまざまな文化領域での多様性を理解する視点と研究方法を身につけている。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代アジア社会の諸課題を発見し、歴史を踏まえた研究方法によって考究し解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	身近な異文化への関心を高め、自明の社会的枠組みの成り立ちを歴史的に再考する力を養う。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジアの歴史と社会

ANT214M

授業の概要 /Course Description

本講義ではアジアの中でも東南アジアを対象に、1.多民族多言語多宗教社会の現状とそこにいたる経緯、2. 日本との関わりを歴史的に考究する。
 主に取り上げるのは、1. 近代国民国家が成立する以前の東南アジアの「伝統的国家」の特徴と、それによる現代の「国民国家」の相対化。2. ナショナリズムと国境成立の歴史、および日本を含む植民地主義のかかわり、3.現在の途上国の首都の構造と象徴性、4.現代日本に流通する身近な「もの」の来歴と社会関係史。5. 多民族、多言語、多宗教社会の動態と国民統合における「文化」の役割、6. これと同時に進行する、国家の枠をこえた人、もの、情報の流通などである。
 さらにヨーロッパ覇権以前のアジアを中心とするもう一つの「グローバル化」や、西洋近代において体系化された知の枠組みの中で、「アジア」なる概念ないし範疇が形成される歴史的経緯を学ぶ。
 講義では随所で「日本 - アジア」の関係を省みる。全体を通して、これまで学んできた「世界史」や、アジアとの関係ないしアジアにおける日本の位置づけ、現代日本社会に暮らす限り相対的に意識に上る必然性に乏しい「国境」「民族」「宗教」などの諸事象を再考し、相対化する視座を養っていきたい。

教科書 /Textbooks

毎回でレジュメ、ワークシート、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：アジアを学ぶその前に
- 第2回 もう一つの世界史・1：アジアの基層文化と伝統的国家
- 第3回 もう一つの世界史・2：商業の時代～アジアの植民地化と日本
- 第4回 ナショナリズムの起源：「インドネシア人」の誕生から
- 第5回 歴史のはざまを生きる人々：日蘭混血児から見る終わらない戦争
- 第6回 日本の戦後賠償からODAへ：もう一人の「デヴィ夫人」
- 第7回 首都の地政学にみる東南アジアの歴史
- 第8回 身近な「もの」の流通と東南アジア・1：コーヒーの社会史
- 第9回 身近な「もの」の流通と東南アジア・2：染色の社会史
- 第10回 多民族国家の国民統合と文化・言語・宗教・1：東南アジア大陸部
- 第11回 多民族国家の国民統合と文化・言語・宗教・2：東南アジア島嶼部
- 第12回 せめぎあう中央と地方：文化的多様性をめぐる政治
- 第13回 アジアの民主化と「地域おこし」
- 第14回 見えない国境：森と海と民族の境界
- 第15回 日本 - アジア関係の一側面：国際的連携と「アジアのアイデンティティ」

アジアの歴史と社会 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米・アジア

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内の学習状況(ワークシート、小レポート含む)40%、試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講前にはそれ以前の講義内容をよく復習し、課題を事前に取り組んでおくこと。
受講後は、各講義で指示された参考文献を活用して理解の深化に努め、
講義内で出された課題にも積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから実社会で生起する事象に広く関心を持ち、講義で学んだことと相互参照させてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義では頻繁に皆さんに問いかけをし、そのリアクションに基づいて授業をさらに展開させていきます。
教員対学生の対話にとどまらず、他のクラスメートの意見にも耳を傾け学ぼう、主体的に臨んでください。
アジア、日本、そして世界について小さな(再)発見を重ねながら、理解を深めていきましょう。

キーワード /Keywords

アジア文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化 (地域系) 科目
欧米・アジア

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジアの多様な文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本に軸足を置きながら、アジアの多様な文化領域に接近する研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代アジア文化に関わる諸課題を自ら設定し、適切な研究方法によって複眼的視座から探求し、解決できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アジアの諸文化への関心を、日本との関係性を視野に入れながら高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア文化論

ARE211M

授業の概要 /Course Description

「アジア」とはどこだろうか。何かそこに共通し、他とは峻別される「アジア文化」はあるのだろうか。ぼんやりとイメージはできるが、改めてそれが何かと問われると案外と返答に困ってしまうかもしれないその「アジア文化」に対して、本講義では複数の時空間コンテキストを設定して多角的にアプローチする。具体的には①「アジア」内部の生態環境とその人間による多様な「資源化」の動態、②植民地化や現代のグローバルなモノや人、情報の移動にともなう「アジアの文化」の変容、③アジアの枠を越境し、アジア外部でいっそう花開く「アジア文化」などである。これらの具体的な事例に即して、文化的他者との相互交渉の中で多様に展開するアジア文化の動態を理解していく。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義内で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 アジアの多様性：自然と社会
- 第2回 オリエンタリズムとアジア成立の歴史
- 第3回 生態環境と生業・1：牧畜のワークスと近代
- 第4回 生態環境と生業・2：焼畑と自然観
- 第5回 生態環境と生業・3：狩猟採集民の衣食住
- 第6回 ウォーレシア：もうひとつの進化論のふるさと
- 第7回 アジアのコモンスの現在
- 第8回 鑑賞されるアジア文化：万国博覧会と博物館
- 第9回 植民地化とアジア文化の展開
- 第10回 観光化と「現地」の応答：バリ、トラジャの事例から
- 第11回 越境するアジア文化・1：更紗に見るもう一つのグローバリゼーション
- 第12回 越境するアジア文化・2：ヨーロッパのチベット仏教
- 第13回 越境するアジア文化・3：映画、文学
- 第14回 アジアの国際人口移動と日本の「移民政策」
- 第15回 遺産化するアジアの文化

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、ワークシート、小レポートを含む）40%、試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講前にはそれ以前の講義内容をよく復習しておくこと。
受講後は、各講義で指示された参考文献などを活用して理解の深化に努め、講義内で出された課題にも積極的に取り組むこと。

アジア文化論 【昼】

専門教育科目
選択科目
比較文化(地域系)科目
欧米・アジア

履修上の注意 /Remarks

日ごろから実社会で生起する事象に広く関心をもち、講義で学んだことと相互参照させてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義では頻繁に皆さんに問いかけをして、そのリアクションを基に議論をさらに展開させていきます。
主体的かつ積極的な受講態度で臨んでください。
アジア、日本、「世界」について、小さな発見と再発見を重ねながら理解を深めていきましょう。

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年(1-a)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 1

ENG171M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking.

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Writing in the present tense; Family
- 3 回 Writing in the past; school life
- 4 回 Writing in the future; future plans
- 5 回 Unit 6 - Health and Nutrition introduction
- 6 回 Listening for data
- 7 回 Presenting personal experiences
- 8 回 Marketing tactics; group discussions
- 9 回 Writing in the continuous tense
- 1 0 回 Writing in the perfect tense
- 1 1 回 Using modal auxiliaries
- 1 2 回 Unit 7 - Natural Disasters introduction
- 1 3 回 Listening for transitions and note taking
- 1 4 回 Discussing effects and preventative methods
- 1 5 回 Presentations and review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年(1-b)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 1

ENG171M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking.

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Writing in the present tense; Family
- 3 回 Writing in the past; school life
- 4 回 Writing in the future; future plans
- 5 回 Unit 6 - Health and Nutrition introduction
- 6 回 Listening for data
- 7 回 Presenting personal experiences
- 8 回 Marketing tactics; group discussions
- 9 回 Writing in the continuous tense
- 1 0 回 Writing in the perfect tense
- 1 1 回 Using modal auxiliaries
- 1 2 回 Unit 7 - Natural Disasters introduction
- 1 3 回 Listening for transitions and note taking
- 1 4 回 Discussing effects and preventative methods
- 1 5 回 Presentations and review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年(1-c)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 1

ENG171M

授業の概要 /Course Description

The aim of the course is improvement of practical speaking and writing skills. Course seeks to expand vocabulary and develop familiarity with basic sentence types enabling students to talk and write about a variety of topics. In-class exercises are conducted in pair and group formats.

教科書 /Textbooks

Milada Broukal "Check it out" Book 1 Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Unit 1 Classroom
- 3回 Unit 2 Family and Friends
- 4回 Unit 3 Breakfast
- 5回 Unit 4 Homes
- 6回 Unit 5 Animals
- 7回 Unit 6 The Body
- 8回 Mid-term test
- 9回 Unit 7 Clothes
- 10回 Unit 8 Sports Activities
- 11回 Unit 9 Legends
- 12回 Unit 10 Life in the Past
- 13回 Unit 11 Mummies
- 14回 Unit 12 Birthdays
- 15回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

50% In-class exercises and written work as assigned 25% Mid-term test 25% Final test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to review in-class activities and complete assigned written work. Students should bring dictionaries to class.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年 (1 - d)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 1

ENG171M

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must prepare a peer journal

履修上の注意 /Remarks

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

英会話・英作文 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年 (1 - e)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 1

ENG171M

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must prepare a peer journal

履修上の注意 /Remarks

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

英会話・英作文 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年(1-f)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 1

ENG171M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking.

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Writing in the present tense; Family
- 3 回 Writing in the past; school life
- 4 回 Writing in the future; future plans
- 5 回 Unit 6 - Health and Nutrition introduction
- 6 回 Listening for data
- 7 回 Presenting personal experiences
- 8 回 Marketing tactics; group discussions
- 9 回 Writing in the continuous tense
- 1 0 回 Writing in the perfect tense
- 1 1 回 Using modal auxiliaries
- 1 2 回 Unit 7 - Natural Disasters introduction
- 1 3 回 Listening for transitions and note taking
- 1 4 回 Discussing effects and preventative methods
- 1 5 回 Presentations and review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 演習
クラス /Class: 1年 (1 - g)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 1

ENG171M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書 /Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing. Please prepare black and red ball point pens.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Introduction: Basic writing. Self Introduction
2. Speaking basics: Conjugations and Questions
3. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Fiona the Dog
4. Speaking basics: Conjugation
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Think and Grow Rich
6. Speaking basics: Speed: One Idea, One Breath
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Age and Happiness
8. Speaking basics: Speed: Mean Length Runs
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Robots
10. Speaking basics: Communication: No Questions
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Food and Health
12. Speaking basics: Communication in Groups
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Test Anxiety
14. Speaking basics: Conversation Skills
15. Test Practice

成績評価の方法 /Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion. All content subject to change at instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英会話・英作文 1 【昼】

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 演習
クラス /Class: 1年 (1 - h)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 1

ENG171M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書 /Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing. Please prepare black and red ball point pens.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Introduction: Basic writing. Self Introduction
2. Speaking basics: Conjugations and Questions
3. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Fiona the Dog
4. Speaking basics: Conjugation
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Think and Grow Rich
6. Speaking basics: Speed: One Idea, One Breath
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Age and Happiness
8. Speaking basics: Speed: Mean Length Runs
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Robots
10. Speaking basics: Communication: No Questions
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Food and Health
12. Speaking basics: Communication in Groups
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Test Anxiety
14. Speaking basics: Conversation Skills
15. Test Practice

成績評価の方法 /Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion. All content subject to change at instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英会話・英作文 1 【昼】

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年(1-a)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文2

ENG172M

授業の概要 /Course Description

This course is a continuation of 英会話・英作文1. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking.

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Review of the first semester; course introduction
- 2 回 Writing paragraphs: topic sentences; using conjunctions
- 3 回 Writing paragraphs: supporting sentences; using more conjunctions
- 4 回 Writing paragraphs: concluding sentences; relative pronouns & relative adverbs
- 5 回 Unit 8 - Cultural History; tourism
- 6 回 Listening for examples; guided tours
- 7 回 Summarizing; regional attractions
- 8 回 Presenting a historical site
- 9 回 Writing essays: supporting paragraphs
- 1 0 回 Writing essays: introductory paragraph
- 1 1 回 Essay work
- 1 2 回 Writing essays: concluding paragraph
- 1 3 回 Unit 10 - Entrepreneurship; successful traits
- 1 4 回 Companies and Innovators; facts and opinions
- 1 5 回 New products; review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively in class activities.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年(1-b)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文2

ENG172M

授業の概要 /Course Description

This course is a continuation of 英会話・英作文1. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking.

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Review of the first semester; course introduction
- 2 回 Writing paragraphs: topic sentences; using conjunctions
- 3 回 Writing paragraphs: supporting sentences; using more conjunctions
- 4 回 Writing paragraphs: concluding sentences; relative pronouns & relative adverbs
- 5 回 Unit 8 - Cultural History; tourism
- 6 回 Listening for examples; guided tours
- 7 回 Summarizing; regional attractions
- 8 回 Presenting a historical site
- 9 回 Writing essays: supporting paragraphs
- 10 回 Writing essays: introductory paragraph
- 11 回 Essay work
- 12 回 Writing essays: concluding paragraph
- 13 回 Unit 10 - Entrepreneurship; successful traits
- 14 回 Companies and Innovators; facts and opinions
- 15 回 New products; review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively in class activities.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年 (1 - c)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 2

ENG172M

授業の概要 /Course Description

The aims of this course are further development of speaking and writing skills. Course seeks to increase vocabulary and enable students to use more complex sentence structures in order to speak and write on variety of topics. In-class exercises are conducted in pairs and groups.

教科書 /Textbooks

Milada Broukal "Check it out" Book 2 Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Greetings
- 3 回 Explorers
- 4 回 Inventions
- 5 回 Weather
- 6 回 Transportation
- 7 回 Places
- 8 回 Mid-term test
- 9 回 Sports
- 1 0 回 Health
- 1 1 回 Entertainment
- 1 2 回 Food
- 1 3 回 Communication
- 1 4 回 Fashion
- 1 5 回 Review and Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

50% In-class speaking and writing exercises 25% Mid-term test 25% Final examination

英会話・英作文 2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to review class activities and submit written work as assigned. Students should bring dictionaries to class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ガラフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年 (1 - d)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文2

ENG172M

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will have to use a variety of sources

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & First impressions
- 4 回 Tennis debate & Traffic jam
- 5 回 Tennis debate & Who needs the local language
- 6 回 Tennis debate & Getting ahead
- 7 回 Tennis debate & Forever single
- 8 回 Tennis debate & What are friends for
- 9 回 Tennis debate & What is for dinner
- 1 0 回 Tennis debate & Cyber Bullying
- 1 1 回 Tennis debate & Take care of mother
- 1 2 回 Tennis debate & Why go to school
- 1 3 回 Tennis debate & An international relationship
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ガラフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年 (1 - e)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 2

ENG172M

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will have to use a variety of sources

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & First impressions
- 4 回 Tennis debate & Traffic jam
- 5 回 Tennis debate & Who needs the local language
- 6 回 Tennis debate & Getting ahead
- 7 回 Tennis debate & Forever single
- 8 回 Tennis debate & What are friends for
- 9 回 Tennis debate & What is for dinner
- 1 0 回 Tennis debate & Cyber Bullying
- 1 1 回 Tennis debate & Take care of mother
- 1 2 回 Tennis debate & Why go to school
- 1 3 回 Tennis debate & An international relationship
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年 (1 - f)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文2

ENG172M

授業の概要 /Course Description

This course is a continuation of 英会話・英作文1. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking.

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Review of the first semester; course introduction
- 2 回 Writing paragraphs: topic sentences; using conjunctions
- 3 回 Writing paragraphs: supporting sentences; using more conjunctions
- 4 回 Writing paragraphs: concluding sentences; relative pronouns & relative adverbs
- 5 回 Unit 8 - Cultural History; tourism
- 6 回 Listening for examples; guided tours
- 7 回 Summarizing; regional attractions
- 8 回 Presenting a historical site
- 9 回 Writing essays: supporting paragraphs
- 10 回 Writing essays: introductory paragraph
- 11 回 Essay work
- 12 回 Writing essays: concluding paragraph
- 13 回 Unit 10 - Entrepreneurship; successful traits
- 14 回 Companies and Innovators; facts and opinions
- 15 回 New products; review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively in class activities.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 演習
クラス /Class: 1年 (1 - g)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文2

ENG172M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書 /Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing. Please prepare black and red ball point pens.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Review of the first semester; Course introduction. Writing assignment
2. Speaking basics: Conjugation with compound objects
3. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Politics)
4. Speaking basics: Conjugation and Questions
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Economics)
6. Speaking basics: Speed
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: History)
8. Speaking basics: Communication
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Environment)
10. Speaking basics: Communication: No Questions
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Modern Society)
12. Speaking basics: Advanced Conversation Skills
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Digital Age)
14. Speaking basics: Point-Counterpoint
15. Test Practice

成績評価の方法 /Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis. All class content is subject to change.

履修上の注意 /Remarks

Review the materials from the previous week for use in class.

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 演習
クラス /Class: 1年 (1 - h)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する基礎的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、身近な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 2

ENG172M

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

教科書 /Textbooks

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary to the class will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing. Please prepare black and red ball point pens.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Review of the first semester; Course introduction. Writing assignment
2. Speaking basics: Conjugation with compound objects
3. Writing on current issues. Corrections. Discussion. (topic: Politics)
4. Speaking basics: Conjugation and Questions
5. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Economics)
6. Speaking basics: Speed
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: History)
8. Speaking basics: Communication
9. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Environment)
10. Speaking basics: Communication: No Questions
11. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Modern Society)
12. Speaking basics: Advanced Conversation Skills
13. Writing on current issues. Corrections. Discussion (topic: Digital Age)
14. Speaking basics: Point-Counterpoint
15. Test Practice

成績評価の方法 /Assessment Method

Class writing: 25% Class participation 25%. Final speaking test 25%. Final writing test 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class.. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis. All class content is subject to change.

履修上の注意 /Remarks

Review the materials from the previous week for use in class.

英会話・英作文 2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年 (AES1)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文3

ENG271M

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Waiting in line
- 3回 Little White Lies
- 4回 I quit
- 5回 Whom should I hire
- 6回 One-eyed Monster
- 7回 Speaking Up
- 8回 They owe it to me
- 9回 Yes, sir.
- 10回 Don't forget to tip
- 11回 Smoking
- 12回 Who is the winner
- 13回 Which Job?
- 14回 Who gets the money
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

- The students will be evaluated on:
1. Class participation and positive attitude 40%
 2. In-class assignments 30%
 3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read material from previous lesson

履修上の注意 /Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

英会話・英作文 3 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 3 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better future.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 3 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ガラフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年(2-a)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文3

ENG271M

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of British cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

The heart of Britain J. Handle and A. Mukuhira Seibido (1semester)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English-Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation
- 2回 Daniel Radcliffe- star of Harry Potter; listening, conversation and reading
- 3回 Should Heathrow be allowed to expand; listening, conversation and reading
- 4回 The Olympic legacy; listening, conversation and reading
- 5回 Happy Birthday, London Underground; listening, conversation and reading
- 6回 A snapshot of Britain; listening, conversation and reading
- 7回 The King in the car park; listening, conversation and reading
- 8回 Charity shops; listening, conversation and reading
- 9回 Shipshape and Bristol fashion; listening, conversation and reading
- 10回 Boomerang kids; listening, conversation and reading
- 11回 Book clubs; listening, conversation and reading
- 12回 Let us get a pret; listening, conversation and reading
- 13回 Modern Scotland; listening, conversation and reading
- 14回 Exam
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should research each unit of the textbook, checking new English vocabulary and grammar forms

履修上の注意 /Remarks

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

英会話・英作文 3 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 3 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year
 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit
 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester
 授業形態 /Class Format 演習 / 演習
 クラス /Class 2年(2 - b)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文3

ENG271M

授業の概要 /Course Description

「自分自身を知り、自分の周りを理解し、そして自分が存在するこの地球を理解する」というコンセプトをもとに、21世紀に活躍するティーンズへ捧げる英語教材です。

「英語を学ぶ」ではなく、「英語で学ぶ」アプローチを徹底し、自律学習を促す演習を豊富に収録しています。自己表現力、自ら考えて行動する力を、英語という媒体を通して育みます。

Impact helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, Impact motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

教科書 /Textbooks

Impact 3, by L. Koustaff and K. Stanneff (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Course description, grading, content, explanation of writing themes and what the students can gain from this innovative course.
- Week 2: Unit 1: Who am I?
- Week 3: Teen identity and personality
- Week 4: Comparison and contrast essay
- Week 5: Unit 2: Misunderstood animals
- Week 6: Animals in popular culture
- Week 7: Process description essay
- Week 8: Mid-term exam based on units 1 and 2.
- Week 9: Unit 3: Everybody's doing it!
- Week 10: Human and animal group behavior
- Week 11: Descriptive essay
- Week 12: Unit 4: Fashion footprints
- Week 13: Making responsible fashion choices
- Week 14: Persuasive essay
- Week 15: まとめ - Final exam will be based on unit 3 and 4.

成績評価の方法 /Assessment Method

- Each essay: 10% (in total 40%)
- Mid-term exam: 30%
- Final exam: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

英会話・英作文 3 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better future.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 3 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年(2-c) /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文3

ENG271M

授業の概要 /Course Description

「自分自身を知り、自分の周りを理解し、そして自分が存在するこの地球を理解する」というコンセプトをもとに、21世紀に活躍するティーンズへ捧げる英語教材です。

「英語を学ぶ」ではなく、「英語で学ぶ」アプローチを徹底し、自律学習を促す演習を豊富に収録しています。自己表現力、自ら考えて行動する力を、英語という媒体を通して育みます。

Impact helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, Impact motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

教科書 /Textbooks

Impact 3, by L. Koustaff and K. Stanneff (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course description, grading, content, explanation of writing themes and what the students can gain from this innovative course.
 Week 2: Unit 1: Who am I?
 Week 3: Teen identity and personality
 Week 4: Comparison and contrast essay
 Week 5: Unit 2: Misunderstood animals
 Week 6: Animals in popular culture
 Week 7: Process description essay
 Week 8: Mid-term exam based on units 1 and 2.
 Week 9: Unit 3: Everybody's doing it!
 Week 10: Human and animal group behavior
 Week 11: Descriptive essay
 Week 12: Unit 4: Fashion footprints
 Week 13: Making responsible fashion choices
 Week 14: Persuasive essay
 Week 15: まとめ - Final exam will be based on unit 3 and 4.

成績評価の方法 /Assessment Method

Each essay: 10% (in total 40%)
 Mid-term exam: 30%
 Final exam: 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

英会話・英作文 3 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better future.

キーワード /Keywords

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年(2-d)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文3

ENG271M

授業の概要 /Course Description

By exploring the spirit of Japanese life and culture, students will gain valuable insight into their own unique way of thinking and behaving. While learning, sharing, and teaching about Japan, students will also have the opportunity to discuss some of the other unique and interesting cultures from around the world.

教科書 /Textbooks

This is Japan: Your Culture, Your Life, Simon Capper, Macmillan Language House, ISBN: 978-4-7773-6383-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 1: "Knowing Me, Knowing you"
- 2回 Unit 1: Expansion and Discussion
- 3回 Unit 1: "All About Me/My Partner" Presentation
- 4回 Unit 2: "My Hometown"
- 5回 Unit 2: Expansion and Discussion
- 6回 Unit 2: "Welcome to My Hometown!" Presentation
- 7回 Unit 3: "Japanese Food"
- 8回 Unit 3: Expansion and Discussion
- 9回 Unit 3: Preparing a Menu for International Friends
- 10回 Unit 4: "Mind Your Manners"
- 11回 Unit 4: Expansion and Discussion
- 12回 Unit 4: Cultural Behaviors: Teaching Opportunity
- 13回 Unit 5: "Explaining Japanese Things"
- 14回 Unit 5: Expansion and Discussion
- 15回 Unit 5: Host Family Gifts: Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

英会話・英作文 3 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build content specific vocabulary, reading comprehension and writing skills. Weekly preparation and review should take approximately 30 - 45 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年 (AES1)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文4

ENG272M

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Life likes
- 3回 Vocabulary development for likes
- 4回 Who gets the money
- 5回 What programs to eliminate
- 6回 Whcih sports are best
- 7回 Which place to recommend
- 8回 How to advise them
- 9回 Plan a college curriculum
- 10回 Which articles do I take
- 11回 Who is responsible
- 12回 Going to Med School
- 13回 Which items represent the US
- 14回 Getting Involved
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:
1. Class participation and positive attitude40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read material from previous lesson

履修上の注意 /Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

英会話・英作文 4 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年 (AES2)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文4

ENG272M

授業の概要 /Course Description

「自分自身を知り、自分の周りを理解し、そして自分が存在するこの地球を理解する」というコンセプトをもとに、21世紀に活躍するティーンズへ捧げる英語教材です。

「英語を学ぶ」ではなく、「英語で学ぶ」アプローチを徹底し、自律学習を促す演習を豊富に収録しています。自己表現力、自ら考えて行動する力を、英語という媒体を通して育みます。

Impact helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, Impact motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

教科書 /Textbooks

Impact 3, by L. Koustaff and K. Stanneff (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: My summer vacation. Write a short narrative about what you did during the summer vacation.

Week 2: Unit 5: Flying high

Week 3: Evolution of animal and human flight

Week 4: Classification essay

Week 5: Unit 6: New frontiers

Week 6: Space exploration

Week 7: Persuasive essay

Week 8: Mid-term exam

Week 9: Unit 7: Visual stories

Week 10: Telling visual stories

Week 11: Multi-paragraph narrative

Week 12: Unit 8: Perform and Create

Week 13: Art as expression

Week 14: Explanatory essay

Week 15: まとめ - final exam will be based on units 7 and 8.

成績評価の方法 /Assessment Method

Each essay: 10% (in total 40%)

Mid-term exam: 30%

Final exam: 30%

英会話・英作文 4 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better future.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ガラフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年(2-a)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文4

ENG272M

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of British cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

Britain at a Watershed J. Randle and A. Mukuhira Seibido 2nd semester

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English and Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 The Brexit referendum
- 3 回 The new Mayor of London; New vocabulary, reading and conversation
- 4 回 Brits on bikes; New vocabulary, reading and conversation
- 5 回 Oxford and Cambridge- looking to the future; New vocabulary, reading and conversation
- 6 回 A profile of Cornwall; New vocabulary, reading and conversation
- 7 回 The cost of being young today; New vocabulary, reading and conversation
- 8 回 It all began at Rugby school; New vocabulary, reading and conversation
- 9 回 Britain and the sea; New vocabulary, reading and conversation
- 1 0 回 Images of Scotland; New vocabulary, reading and conversation
- 1 1 回 The new look: Beards and Tattoos; New vocabulary, reading and conversation
- 1 2 回 The Japanese in Britain; New vocabulary, reading and conversation
- 1 3 回 Health matters; New vocabulary, reading and conversation
- 1 4 回 The house of Windsor: crises and continuity; New vocabulary, reading and conversation
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for each class by checking new vocabulary and grammar forms.

履修上の注意 /Remarks

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

英会話・英作文 4 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス 2年(2-b) /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文4

ENG272M

授業の概要 /Course Description

「自分自身を知り、自分の周りを理解し、そして自分が存在するこの地球を理解する」というコンセプトをもとに、21世紀に活躍するティーンズへ捧げる英語教材です。

「英語を学ぶ」ではなく、「英語で学ぶ」アプローチを徹底し、自律学習を促す演習を豊富に収録しています。自己表現力、自ら考えて行動する力を、英語という媒体を通して育みます。

Impact helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, Impact motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

教科書 /Textbooks

Impact 3, by L. Koustaff and K. Stanneff (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: My summer vacation. Write a short narrative about what you did during the summer vacation.

Week 2: Unit 5: Flying high

Week 3: Evolution of animal and human flight

Week 4: Classification essay

Week 5: Unit 6: New frontiers

Week 6: Space exploration

Week 7: Persuasive essay

Week 8: Mid-term exam

Week 9: Unit 7: Visual stories

Week 10: Telling visual stories

Week 11: Multi-paragraph narrative

Week 12: Unit 8: Perform and Create

Week 13: Art as expression

Week 14: Explanatory essay

Week 15: まとめ - final exam will be based on units 7 and 8.

成績評価の方法 /Assessment Method

Each essay: 10% (in total 40%)

Mid-term exam: 30%

Final exam: 30%

英会話・英作文 4 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better future.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年(2-c)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文4

ENG272M

授業の概要 /Course Description

「自分自身を知り、自分の周りを理解し、そして自分が存在するこの地球を理解する」というコンセプトをもとに、21世紀に活躍するティーンズへ捧げる英語教材です。

「英語を学ぶ」ではなく、「英語で学ぶ」アプローチを徹底し、自律学習を促す演習を豊富に収録しています。自己表現力、自ら考えて行動する力を、英語という媒体を通して育みます。

Impact helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, Impact motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

教科書 /Textbooks

Impact 3, by L. Koustaff and K. Stanneff (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: My summer vacation. Write a short narrative about what you did during the summer vacation.

Week 2: Unit 5: Flying high

Week 3: Evolution of animal and human flight

Week 4: Classification essay

Week 5: Unit 6: New frontiers

Week 6: Space exploration

Week 7: Persuasive essay

Week 8: Mid-term exam

Week 9: Unit 7: Visual stories

Week 10: Telling visual stories

Week 11: Multi-paragraph narrative

Week 12: Unit 8: Perform and Create

Week 13: Art as expression

Week 14: Explanatory essay

Week 15: まとめ - final exam will be based on units 7 and 8.

成績評価の方法 /Assessment Method

Each essay: 10% (in total 40%)

Mid-term exam: 30%

Final exam: 30%

英会話・英作文 4 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better future.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年(2-d)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を修得する。
	その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文4

ENG272M

授業の概要 /Course Description

By exploring the spirit of Japanese life and culture, students will gain valuable insight into their own unique way of thinking and behaving. While learning, sharing, and teaching about Japan, students will also have the opportunity to discuss some of the other unique and interesting cultures from around the world.

教科書 /Textbooks

This is Japan: Your Culture, Your Life, Simon Capper, Macmillan Language House, ISBN: 978-4-7773-6383-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 10: "School and College Life"
- 2回 Unit 10: Expansion and Discussion
- 3回 Unit 10: Higher Education Abroad: Presentation
- 4回 Unit 9: "Special Days and Events"
- 5回 Unit 9: Expansion and Discussion
- 6回 Unit 9: Traditional Holidays & Events: Teaching Opportunity
- 7回 Unit 8: "The Traditional Japanese House"
- 8回 Unit 8: Expansion and Discussion
- 9回 Unit 8: Traditional vs Modern Living Styles: Compare and Contrast
- 10回 Unit 7 "Visiting Temples and Shrines"
- 11回 Unit 7: Expansion and Discussion
- 12回 Unit 7: Buddhism and Shintoism Rituals Explained
- 13回 Unit 11: "Famous Japanese People"
- 14回 Unit 11: Expansion and Discussion
- 15回 Unit 11: Someone I Admire: Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build vocabulary, reading comprehension and writing skills. Weekly preparation and review should take approximately 30-45 minutes.

英会話・英作文 4 【昼】

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 5 【昼】

担当者名 /Instructor ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年 (AES1)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 5

ENG273M

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Waiting in line
- 3回 Little white lies
- 4回 I quit
- 5回 Whom do we hire
- 6回 One eyed monster
- 7回 Speaking up
- 8回 They owe it to me
- 9回 Yes, sir
- 10回 Tipping
- 11回 Smoking
- 12回 Who is the winner
- 13回 Which job
- 14回 Which programs get the money
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:
1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read material from previous lesson

履修上の注意 /Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

英会話・英作文 5 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 5 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better future.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 6 【昼】

担当者名 /Instructor ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年 (AES1)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文6

ENG274M

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

教科書 /Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Who will be the best teacher
- 3回 What will happen if
- 4回 Who gets the money
- 5回 Which school programs are eliminated
- 6回 Which sports are best
- 7回 Where do you recommend
- 8回 How do I advise them
- 9回 Plan a college curriculum
- 10回 What articles do I take
- 11回 Who is responsible
- 12回 Who goes to med school
- 13回 Which items represent the US
- 14回 Getting involved
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:
1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must review material from previous lesson

履修上の注意 /Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

英会話・英作文 6 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 6 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年 (A E S 2)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する応用的な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、広範な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文6

ENG274M

授業の概要 /Course Description

地球温暖化や再生エネルギーなど、人類が抱える世界共通の問題を概説したAFP通信の動画を素材にしている映像教材です。リスニング力とスピーキング力を有機的に養成し、動画とスピーキング活動を結びつけることで活気のある授業展開を実現します。

Earth Watch is a new video-based listening & speaking coursebook for intermediate learners. The videos provide the perfect springboard for a range of relevant and thought-provoking topics, including artificial intelligence, food waste, facial recognition technology and self-driving vehicles.

教科書 /Textbooks

Earth Watch by G. Todd, R. Palmer, M. Kano (Cengage Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Write a short narrative based on what you did during the summer vacation. Discussion.
 Week 2: Unit 7: Organic farming in Europe.
 Week 3: Communication focus: Stating intentions
 Week 4: Unit 8: Renewable energy
 Week 5: Communication focus: Stating preferences
 Week 6: Unit 9: Whaling
 Week 7: Communication focus: Checking understanding
 Week 8: Mid-term exam based on units 7-9.
 Week 9: Unit 10: Air pollution
 Week 10: Communication focus: Giving reasons
 Week 11: Unit 11: Facial recognition
 Week 12: Communication focus: Making suggestions
 Week 13: Unit 12: Food waste
 Week 14: Communication focus: Offering to do something
 Week 15: まとめ - Final exam will be based on units 10-12.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam: 50%
Final exam: 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

英会話・英作文 6 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Education is the key to a better future.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 7 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 7

ENG371M

授業の概要 /Course Description

この授業は、文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。授業では、テキストの各ユニットのテーマに即して学習を進めていきます。また、以下の到達目標を設定し、総合的な英語力を高めます。

- ① 語彙を増やす
- ② リスニング能力の向上
- ③ リーディングの力を高める
- ④ 速読のスキルを身につける
- ⑤ 基本的文法事項を学習する
- ⑥ パート別の攻略の力を習得する

教科書 /Textbooks

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST INTERMEDIATE, 金星堂, ¥2,052

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する。
- 第2回 Unit 1 Travel / 名詞
- 第3回 Unit 2 Dining Out / 形容詞
- 第4回 Unit 3 Media / 副詞
- 第5回 Unit 4 Entertainment / 時制
- 第6回 Unit 5 Purchasing / 主語と動詞の一致
- 第7回 Unit 6 Clients / 能動態・受動態
- 第8回 Unit 7 Recruiting / 動名詞・不定詞
- 第9回 Unit 8 Personnel / 現在分詞・過去分詞
- 第10回 Unit 9 Advertising / 代名詞
- 第11回 Unit 10 Meetings / 比較
- 第12回 Unit 11 Finance / 前置詞
- 第13回 Unit 12 Offices / 接続詞
- 第14回 Unit 13 Daily Life / 前置詞と接続詞の違い
- 第15回 Unit 14 Sales & Marketing / 関係代名詞

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%, 小テスト 30%, 平常点(課題を含む) 20%

英会話・英作文 7 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業範囲の問題を解く。
事後学習：学習内容の復習を行い、単語リスト、同意語リストを作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 7 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 7

ENG371M

授業の概要 /Course Description

Students will have the opportunity to explore carefully chosen topics with socially meaningful themes including education, equal rights, relationships, lifestyle choices and technology. Through targeted language building, information gathering and discussion activities, students will be exposed to a variety of opinions and ideas which will help them gain insight into their own unique way of thinking about themselves, others and the world around them. The ultimate goal for all students will be to express their final understanding of an issue through short, small group presentations.

教科書 /Textbooks

Impact Issues, Level 2, Third Edition: Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka, Pearson Education, ISBN: 978-4-7773-6383-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Topic 1: “The Good Language Learner” – Listening / Reading / Role-playing
- 2回 Topic 1: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions/ Video Model Presentation
- 3回 Topic 1: Small Group Presentations / Large Group Discussion
- 4回 Topic 2: “First Impressions” – Listening / Reading / Role-playing
- 5回 Topic 2: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions/ Video Model Presentation
- 6回 Topic 2: Small Group Presentations / Large Group Discussion
- 7回 Topic 3: “Big or Small” - Listening / Reading / Role-playing
- 8回 Topic 3: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions/ Video Model Presentation
- 9回 Topic 3: Small Group Presentations / Large Group Discussion
- 10回 Topic 4: “Forever Single” - Listening / Reading / Role-playing
- 11回 Topic 4: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions/ Video Model Presentation
- 12回 Topic 4: Small Group Presentations / Large Group Discussion
- 13回 Topic 5: “Your Online Past” - Listening / Reading / Role-playing
- 14回 Topic 5: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions/ Video Model Presentation
- 15回 Topic 5: Small Group Presentations / Large Group Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build targeted vocabulary and writing skills. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

英会話・英作文 7 【昼】

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students should bring enthusiasm, interest, and a strong willingness to share ideas in a warm, encouraging environment.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 7 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ガラフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 7

ENG371M

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of different cultures. Each week a different aspect of global culture will be examined through new and updated topics, video and visuals from National Geographic. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

World English 3 3rd edition Cengage Learning Lee, Johannsen and Tarver

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Where we live
- 3 回 Migration and factors leading to it
- 4 回 The mind's eyes
- 5 回 Cognitive milestones and personality characteristics
- 6 回 Changing planet
- 7 回 pollution extreme weather events
- 8 回 The good life
- 9 回 Life changing events
- 1 0 回 Survival and conditions of species
- 1 1 回 Natural disasters and fossils
- 1 2 回 Art matters
- 1 3 回 Types of art and public art
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80 % Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 7 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 7 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年 (AES)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 7

ENG371M

授業の概要 /Course Description

In this exciting course, students will learn how to give interesting presentations in English. All the fundamentals of presentation will be covered. Later, having completed the book, students will be expected to give their own presentations about topics of interest and topics related to comparative cultures. At the end of the course, students will have the knowledge and confidence to give a presentation about any topic for an international audience.

教科書 /Textbooks

English Presentations Today, by Christopher Pond. (Nan' Un-Do)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

English-Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 : Course explanation and objectives. How to use the book, how to study effectively, and what to expect.
 - 第 2回 : Units 1, 'getting started'.
 - 第 3回 : Review 'getting started', and unit 2 'getting started 2'.
 - 第 4回 : Unit 3, 'making a good impression'
 - 第 5回 : Units 4 'making a good impression 2'. Review.
 - 第 6回 : Unit 5 'making your point'.
 - 第 7回 : Unit 5 to continue, unit 6 'making your point 2'.
 - 第 8回 : Unit 6 to conclude, review.
 - 第 9回 : Unit 7, 'the visual story'.
 - 第 10回 : Unit 8, 'the visual story 2'.
 - 第 11回 : Unit 9, 'the visual story 3', and conclude/review.
 - 第 12回 : Unit 10, 'being understood'.
 - 第 13回 : Unit 11, 'being understood 2'.
 - 第 14回 : Review, verbally summarizing what we are doing and why.
 - 第 15回 : まとめ
- The textbook has a series of mini tasks to do for each unit.

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 50%, completed tasks done in class 50%.
More explanation will be given regarding grading at the beginning of the semester.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

It will be helpful to read ahead.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 7 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Presentation skills are necessary in today's work place.

キーワード /Keywords

tasks, presentation, effort

英会話・英作文 8 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 8

ENG372M

授業の概要 /Course Description

TOEICテストの問題演習を行い、各ユニットのテーマに即した学習を進めていく。また、以下の到達目標を設定し、総合的な英語力を高める。

- ①語彙を増やす
- ②リスニング能力の向上
- ③リーディングの力を高める
- ④速読のスキルを身につける
- ⑤基本的文法事項を学習する
- ⑥パート別の攻略のカギを習得する

教科書 /Textbooks

Perfect Practice for the TOEIC® L&R Test —Revised Edition - (SEIBIDO, 2019)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方、自宅学習の方法について説明する
- 第2回 Unit 1 Studying Abroad
- 第3回 Unit 2 International Conference
- 第4回 Unit 3 Holidays
- 第5回 Unit 4 Leisure
- 第6回 Unit 5 Restaurant
- 第7回 Unit 6 Online Shopping
- 第8回 Unit 7 Global Warming
- 第9回 Unit 8 Websites
- 第10回 Unit 9 Workplace
- 第11回 Unit 10 Nursing Care
- 第12回 Unit 11 Global Trading
- 第13回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
- 第14回 Unit 13 Business Trip
- 第15回 Unit 14 Hybrid Cars

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%, 小テスト 30%, 平常点 (課題含む) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業範囲の問題を解く。
- 事後学習：学習内容の復習を行い、単語リスト、同意語リストを作成する。

英会話・英作文 8 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 8 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 8

ENG372M

授業の概要 /Course Description

Students will have the opportunity to explore carefully chosen topics with socially meaningful themes including, equal rights, immigration, rising social issues, nationalism and environmental concerns. Through targeted language building, information gathering and discussion activities, students will be exposed to a variety of opinions and ideas which will help them gain insight into their own unique way of thinking about themselves, others and the world around them. The ultimate goal for all students will be to express their final understanding of an issue through short, small group presentations.

教科書 /Textbooks

Impact Issues, Level 2, Third Edition: Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka, Pearson Education, ISBN: 978-4-7773-6383-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Topic 1: “Create Another Future” – Listening / Reading / Role-playing
- 2回 Topic 1: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions/ Video Model Presentation
- 3回 Topic 1: Small Group Presentations / Large Group Discussion
- 4回 Topic 2: “Government Control” – Listening / Reading / Role-playing
- 5回 Topic 2: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions/ Video Model Presentation
- 6回 Topic 2: Small Group Presentations / Large Group Discussion
- 7回 Topic 3: “What Makes You Happy?” - Listening / Reading / Role-playing
- 8回 Topic 3: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions/ Video Model Presentation
- 9回 Topic 3: Small Group Presentations / Large Group Discussion
- 10回 Topic 4: “Who Will Help Them” - Listening / Reading / Role-playing
- 11回 Topic 4: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions/ Video Model Presentation
- 12回 Topic 4: Small Group Presentations / Large Group Discussion
- 13回 Topic 5: “Dress For Success” - Listening / Reading / Role-playing
- 14回 Topic 5: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions/ Video Model Presentation
- 15回 Topic 5: Small Group Presentations / Large Group Discussion

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build targeted vocabulary and writing skills. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

英会話・英作文 8 【昼】

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students should bring enthusiasm, interest, and a strong willingness to share ideas in a warm, encouraging environment.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 8 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ガラフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 8

ENG372M

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of global culture and history. Each week a different aspect of global cultures will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

教科書 /Textbooks

World English 3 3rd edition Cengage Learning by Lee, Johannsen and Chase

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Getting round
- 3 回 public transportation and self driving vehicles
- 4 回 Competition
- 5 回 Sports skills
- 6 回 Dangerous jobs and injuries
- 7 回 Common injuries and Stuntman
- 8 回 Mysteries
- 9 回 Historical figures and mystery
- 1 0 回 Learning and and educational choices
- 1 1 回 The experience of learning
- 1 2 回 Innovation and inventions
- 1 3 回 competition and innovation
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 8 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 8 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年 (AES)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する高度な技能を修得する。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 8

ENG372M

授業の概要 /Course Description

In this exciting course, students will learn how to give interesting presentations in English. All the fundamentals of presentation will be covered. Later, having completed the book, students will be expected to give their own presentations about topics of interest and topics related to comparative cultures. At the end of the course, students will have the knowledge and confidence to give a presentation about any topic for an international audience.

教科書 /Textbooks

English Presentations Today, by Christopher Pond. (Nan' Un-Do)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 : Course explanation and objectives. An outline of what we'll do this semester.
- 第 2回 : Unit 12, 'concluding your message'
- 第 3回 : Unit 13, 'concluding your message 2'.
- 第 4回 : Unit 14, 'taking questions'.
- 第 5回 : Unit 15, 'taking questions 2'.
- 第 6回 : Deciding on the first presentation topic, contents, brainstorming ideas, ways to improve.
- 第 7回 : Making your presentation
- 第 8回 : Presentation check, checking for meaning.
- 第 9回 : Presentation and feedback.
- 第 10回 : Second presentation, a different topic.
- 第 11回 : Sharing ideas, mind-mapping, planning the outline.
- 第 12回 : Presentation check, are there any mistakes?
- 第 13回 : Presentations and feedback.
- 第 14回 : Pecha-Kucha presentations
- 第 15回 : まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Exam 20%, completed tasks done in class 80%. More explanation will be given regarding grading at the beginning of the semester.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

It will be helpful to read ahead.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 8 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Presentation skills are necessary in today's work place.

キーワード /Keywords

tasks, presentation, effort

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する高度な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文 9

ENG373M

授業の概要 /Course Description

This course is an opportunity for students to further expand their language skills with topics of direct interest and relevance to them. A variety of social and cultural issues will be examined, and students will have a chance to develop their reading, speaking and writing abilities. Discussion, analysis, and presentation of personal research into selected issues will be the focus of course activities.

教科書 /Textbooks

Material will be provided by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to make full use of the library's resources.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course; Selection of topics for the semester
- 2回 Introduction of first topic
- 3回 Discussion of first topic
- 4回 Presentation and analysis of first topic
- 5回 Introduction of second topic
- 6回 Discussion of second topic
- 7回 Presentation and analysis of second topic
- 8回 Introduction of third topic
- 9回 Discussion of third topic
- 10回 Presentation and analysis of third topic
- 11回 Introduction of fourth topic
- 12回 Discussion of fourth topic
- 13回 Presentation and analysis of fourth topic
- 14回 Consolidation
- 15回 Feedback

成績評価の方法 /Assessment Method

70% classwork and assignments
30% final test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare the necessary materials for the class and be ready to fully participate in English.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 9 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Enjoyable discussion on variety of interesting topics.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 10 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● 英語の会話・作文に関する高度な技能を深める。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 英語を必要とする場面で、積極的に行動・貢献する意欲を持つ。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● 英語で、知的な話題についてコミュニケーションできる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

英会話・英作文10

ENG374M

授業の概要 /Course Description

This course is an opportunity for students to further expand their language skills with topics of direct interest and relevance to them. A variety of social and cultural issues will be examined with the aim of improving speaking, writing and reading abilities. Discussion, analysis, and presentation of personal research into selected issues will be the focus of course activities.

教科書 /Textbooks

Material will be provided by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to make active use of the university library.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the course; Selection of topics for the semester
- 2回 Introduction of first topic
- 3回 Discussion of first topic
- 4回 Presentation and analysis of first topic
- 5回 Introduction of second topic
- 6回 Discussion of second topic
- 7回 Presentation and analysis of second topic
- 8回 Introduction of third topic
- 9回 Discussion of third topic
- 10回 Presentation and analysis of third topic
- 11回 Introduction of fourth topic
- 12回 Discussion of fourth topic
- 13回 Presentation and analysis of fourth topic
- 14回 Consolidation
- 15回 Feedback

成績評価の方法 /Assessment Method

- 70% classwork and assignments
- 30% final test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare the necessary materials for the class and be ready to fully participate in English.

履修上の注意 /Remarks

英会話・英作文 10 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Enjoyable discussion of a variety of interesting topics.

キーワード /Keywords

アメリカ文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・他
クラス /Class 1年(1-2・1-3)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	アメリカ文化に関して英語で書かれた文献を読みこなせる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	アメリカ文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文化講読

ARE220M

授業の概要 /Course Description

Ads Speak American Culture 『広告から見たアメリカ文化』はユニークなアメリカ文化論だ。広告に表されるアメリカ人の生き方、考え方や日米文化の違いを平易な英語で書いたものだ。アメリカ研究入門として、比較文化論に関心のある人は是非読んで貰いたい。広告は、PR=Public Relationsというように国民と企業とのコミュニケーション・メディアでありPopular Culture大衆文化である。多人種の国アメリカで大衆の心を掴むにはシンプルでかつユーモアがなければならない。一方、日本の広告は、日本人の心を掴むものでなければならない。あけすけな非難や中傷は嫌われる。異文化間コミュニケーションを効果的に行うには、相手とのgapを知らねばならない。広告は雄弁だ。広告コピーは文化を語り時代を告げる。化粧品の広告が語るアメリカのキャリア・ウーマンと成功の代価。車の広告が語るアメリカのpragmatism。スニーカーの広告が語るアメリカの個人主義とmobilityなど23章。著者の豊富な異文化体験に基づいて書かれたユニークなアメリカ広告文化論。日米比較文化の深い洞察とヒューマニズムにあふれている。

教科書 /Textbooks

Ads Speak American Culture 『広告から見たアメリカ文化』（成美堂）
ラクトリン 井上 久美 著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

コウビルド英英辞典
ロングマン現代英英辞典 4訂増補版 CD-ROM2枚付
オックスフォード現代英英辞典 第7版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 You've Come a Long Way, Baby 女性の今まで歩いてきた辛い歴史とフェミニズム
- 第2回 The Art of Eye Contact 「目は口ほどにものを言う」
- 第3回 Basic Jeans, Nothing Superficial Added. ジーンズの歴史とアメリカ文化
- 第4回 The Price of Success キャリア・ウーマン "Super Woman"誕生
- 第5回 Be Wicked For a Week 快楽主義「旅の恥はかき捨て」
- 第6回 To 27 Million Americans, This Scene is a Fairy Tales 読み書きのできない人が2,700万人!?
- 第7回 If You Stick with the Herd 日:「みんな一緒」 vs . 米:「みんなと違う」
- 第8回 Beauty is in the Eye of the Beholder 「夢食う虫も好き好き」
- 第9回 Colt Firearms 「市民の権力への抵抗権」vs . 「銃規制」
- 第10回 Meet the Just in His Jockey Underwear Contest Winner 下着と日米交渉
- 第11回 Depend Fitted Briefs 老人用下着 介護
- 第12回 Would You Buy a Condom for This Man? 避妊・エイズ・性感感染症・近年梅毒が急増
- 第13回 Champion Sportswear 貧民街が生んだ不屈のヒロイン 金メダリストバスケット選手
- 第14回 Good as Gold 金・宝石・美術品の価値(永遠の美) vs. Fake Jewelry(今が綺麗なら)
- 第15回 Lunchables アメリカの学校給食 vs . 日本の給食

アメリカ文化講読【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表（30%）、課題レポート（20%）、学期末試験（50%）などで総合評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、1章ずつ英文を読み、分からない語彙を調べ、図書館でさらに調べる。

履修上の注意 /Remarks

1章ずつ予習して、図書館で調べて、授業で発表・質疑・応答する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【アメリカ広告文化】【日米文化比較】

アメリカ文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 吉津 京平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-1)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● アメリカ文化に関して英語で書かれた文献を読みこなせる。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● アメリカ文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ文化講読

ARE220M

授業の概要 /Course Description

ディズニーランドの中に、トム・ソーヤー島や蒸気船マーク・トウエイン号といったアトラクションが設置されていることから分かるように、小説『トム・ソーヤーの冒険』（1876年）から生まれたトム・ソーヤーというキャラクターや、作者マーク・トウエインは、ディズニーランドとともにアメリカの文化的アイコンとして今日まで愛されている。よって、『トム・ソーヤーの冒険』を、作品が書かれた当時の歴史的な文脈と結びつけながら読むとともに、作品がアメリカ社会の中でどのように受容されてきたかを辿ることで、トム・ソーヤーというキャラクターが誕生し、それがアメリカ的アイコンへととなっていく背景に、一体どのような歴史や文化があったのかを考察する。具体的には、アメリカにおける児童文学の成立と「子ども」へのまなざし、フロンティア精神、アメリカン・ヒーロー、アメリカン・ドリーム、ジェンダー、先住民表象、黒人問題と南部、階級、白人性、優生学、反知性主義といった現代のアメリカを考える上で重要な問題系に触れることになる。同時に、『トム・ソーヤーの冒険』（と、その続編『ハックルベリー・フィンの冒険』（1885年））の執筆時期（南北戦争後＝黒人奴隷解放後）と物語の舞台（南北戦争前）のズレについてや、アメリカという国家とマーク・トウエインという作家が歩んだ歴史的共通性についても考える。

また、本授業では、小説を深読みする文学的アプローチについても学んでいく。まずは『トム・ソーヤーの冒険』を通して、目の付け方や分析の仕方を繰り返し演習することで、後半の「まぬけのウィルソン」では、作品に描かれているアメリカの問題に自ら気づき、『トム・ソーヤーの冒険』で取り上げたテーマと絡ませながら分析や解釈ができるようになることが、本授業での到達目標である。

基本的には、それぞれの小説の全体のあらすじを把握した上で、毎回の授業での課題の箇所の一部を英語原文で味わいながら、英語の精読力を養うとともに、ディスカッションを通して内容について深く読み込んでいく。

『ハックルベリー・フィンの冒険』や『王子と乞食』（1881年）、『アーサー王宮廷のコネチカット・ヤンキー』（1889年）等の関連するトウエインの他の作品の内容についても、時間の許す限り紹介する予定である。

教科書 /Textbooks

トウエイン，マーク『トム・ソーヤーの冒険』柴田元幸訳，新潮社（新潮文庫），2012．

トウエイン，マーク『まぬけのウィルソンとかの異形の双生児』大久保博訳，彩流社（マーク・トウエインコレクション1），1994．

※英語で精読する箇所については、授業中にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Scharnhorst, Gary. Critical Essays on The Adventures of Tom Sawyer. Boston : G. K. Hall, 1993.

中垣恒太郎『マーク・トウエインと近代国家アメリカ』音羽書房鶴見書店，2012．

亀井俊介監修・朝日由紀子ほか著『マーク・トウエイン文学/文化事典』彩流社，2010．

松本昇・中垣恒太郎・馬場聡編著『アメリカン・ロードの物語学』金星堂，2015．

桂有子・成瀬俊一・高田賢一著『英米児童文学の黄金時代-子どもの本の万華鏡』ミネルヴァ書房，2005．

笹田直人・堀真理子・外岡尚美編著『概説 アメリカ文化史』ミネルヴァ書房，2002．

笹田直人・野田研一・山里勝己編著『アメリカ文化 55のキーワード』ミネルヴァ書房，2013．

有賀夏紀・油井大三郎編著『アメリカの歴史』有斐閣アルマ，2003．

それ以外の参考図書に関しては、必要に応じて授業中に紹介する。

アメリカ文化講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: ロード・ソングからみるアメリカ
2. The Adventures of Tom Sawyer分析① 第1～4章
境界（ボーダー）としての板塀と白漆喰塗り、清潔願望、見せびらかし
3. The Adventures of Tom Sawyer分析② 第5～10章
ハックルベリー・フィンというキャラクター、「カリブの黒き復讐者」となるトム、インジャン・ジョーというキャラクター
4. The Adventures of Tom Sawyer分析③ 第11～16章
病気になるトム、健康療法
5. The Adventures of Tom Sawyer分析④ 第17～23章
トムの生還、解剖学の本とベッキーの覗き見、信仰復興（リバイバル）
6. The Adventures of Tom Sawyer分析⑤ 第24～30章
英雄となるトム、交差しない視線、インジャン・ジョーの復讐
7. The Adventures of Tom Sawyer分析⑥ 第31章～結び
インジャン・ジョー／ハックルベリー・フィンの視点から見る
8. 冷戦期のハックルベリー・フィン～反社会的で個人主義的な英雄像
9. マーク・トウェインとアメリカ～帝国主義へのまなざし
10. Pudd'nhead Wilson分析① とりかえばやとパッシング（第1～5章）
11. Pudd'nhead Wilson分析② 19世紀アメリカの視覚文化と探偵小説（第6～10章）
12. Pudd'nhead Wilson分析③ 「血」と人種（「色」）（第11～15章）
13. Pudd'nhead Wilson分析④ 指紋と優生学（第16～結び）
14. Those Extraordinary Twins分析① 「文学的帝王切開」、優生学（第1～4章）
15. Those Extraordinary Twins分析② 南部とカラーライン（第5章～最後にひとこと）

※進度や状況により扱う内容・順番等変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%（授業への姿勢、毎週の課題、レスポンスシート等）、試験60%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（予習用のプリントを準備するので、毎回の英語での精読箇所を読んで、気になる点を挙げたり、自分なりの分析を行うこと。）
- ・ 授業の理解に有益な読書や映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 最初の授業で、授業の進め方や予習の仕方などについて説明する。
- ・ 授業で扱う英語の精読箇所は一部に限定されるので、物語のあらすじは、授業で取り扱う前に日本語（訳本）で読み通して把握しておくこと。
- ・ 第二回以降、毎回の範囲の予習をしてくること。
- ・ 授業には英語の辞書を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業は、講義形式というよりディスカッション中心で行いますので、みなさんの予習に期待しています！

キーワード /Keywords

日本文化文献講読A 【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・他
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文化に関する文献の基礎的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化に関する文献の基礎的な読解能力を身につけている。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化文献講読A

LIT210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、近代の日本文化に関する同時代文献や、その文献を扱うための基礎的知識や読解能力を身につけることを目的とする。
具体的には、明治開化期の種々の刊行物をテキストとして、文献読解の基礎となる「くずし字」（板本や活字本に記されたものに限定し、写本等は取り扱わない）読解能力の修得を目指しながら、明治10年頃までの出版文化を学ぶ。この時期は、近世と近代との端境期にあたり、日本の印刷・出版文化の変容を捉えるための重要な時期である。
講義前半は、明治開化期の新聞、浮世絵、草双紙などをテキストとし、講義後半には、明治10年代までに書かれた文学テキストを講読しながら、明治維新を期に大量に流れ込んできた西欧文化と日本文化の接点を見る。自国文化の理解を深め、異文化理解の足がかりとする。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山田俊治『大衆新聞がつくる明治の〈日本〉』（NHKブックス）
- 『明治文学全集 1 明治開化期文学集（1）』（筑摩書房）
- など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 明治開化期の新聞を知る
- 第3回 明治開化期の新聞を読む
- 第4回 錦絵新聞を読む
- 第5回 異種百人一首を知る・読む
- 第6回 明治期の浮世絵を知る
- 第7回 明治期の浮世絵を読む
- 第8回 小テスト
- 第9回 明治開化期の文学を知る
- 第10回 『安愚楽鍋』の時代背景を知る
- 第11回 『安愚楽鍋』を読む
- 第12回 『胡瓜遣』を読む
- 第13回 『かたわ娘』を読む
- 第14回 『学問のすすめ』を読む
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 = 40% 小テスト = 40% リアクション・ペーパーの評価 = 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「くずし字」練習本やアプリなどを活用し、「くずし字」の学習を行うこと。授業後はテキストの再読にチャレンジし、読めない文字は辞書で調べて読めるようにしておくこと。

日本文化文献講読 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

単位修得のためには、「小テスト」と「定期試験」の両方を必ず受ける必要がある。「小テスト」は「定期試験」と同様の点数配分であることに注意。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国語の教科書に載ることはないけれど、当時の人々には盛んに読まれた新聞や戯作や浮世絵を、原文（くずし字）で読んでみましょう。教科書の記述では説明不十分な明治初期の世界が、そこには広がっています。

キーワード /Keywords

文化、文学、メディア、出版、明治

日本文化文献講読B 【昼】

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文化（主に言語）に関する文献の基礎的専門的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化（主に言語）に関する文献の専門的な読解能力を身につけている。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化文献講読B

LIT211M

授業の概要 /Course Description

古代から現代までの日本語やことばについて書かれた文献を読んでいきます。
各文献ごとに担当者を決め、読解した内容を受講者がレジュメを用いて解説する形で進めていきます。

主な到達目標は、次の通りです。

- ①日本語やことばについて書かれた文献を読解する能力を養う。
- ②ことばと文化の関わりを理解する。

*** 授業は、受講者による文献内容の解説（レジュメ作成）とコメントカード作成により構成されます。***

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語学論説資料』（1964年版～毎年刊行、論説資料保存会、旧称『国語学論説資料』）○
この他は、図書館の「堀尾の指定図書コーナー」に設置。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 解説発表要領と担当文献の解説
- 第2回 担当文献の決定
- 第3回 近現代語の模擬発表
- 第4回 古代語の文献概説
- 第5回 古代語の模擬発表
- 第6回 語彙の文献を読む
- 第7回 語用論の文献を読む
- 第8回 役割語の文献を読む
- 第9回 方言の文献を読む
- 第10回 配慮表現の文献を読む
- 第11回 日本語史の文献を読む
- 第12回 文字・表記の文献を読む
- 第13回 比喩表現の文献を読む（前半）
- 第14回 比喩表現の文献を読む（後半）
- 第15回 まとめ

日本文化文献講読B 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レジユムを用いての担当文献の解説 (授業中での担当者以外はレポート) ...70% 日常の授業への取り組み...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を読んで予習をしてください。
解説発表のためのレジユムを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

担当する文献は初回授業で決めますので、必ず出席してください。
初回授業を欠席した場合は、受講できないことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化講読【昼】

担当者名 吉津 京平 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年(1-1・
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1-3)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	イギリス文化に関する英語の文献を読みこなし、また的確なコミュニケーションのできる英語力を身につけている。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	イギリス文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス文化講読

ARE230M

授業の概要 /Course Description

『ガリヴァー旅行記』といえば知らない人はいないほど有名な文学作品であるが、全体を読み通している人は意外に少ない。また、児童文学というイメージも強いが、子ども向け版では全4編のうちの最初の2編だけが収録される場合が多く、分かりやすく書き直されたことで原作の持つ風刺や毒はほとんど削ぎ落とされてしまっている。また、空想物語としてのイメージも強いいため、物語の背景にある歴史的コンテクストから切り離されてしまっている。小人国や大人国、空飛ぶラピュタ島や馬の国といった、奇想天外なガリヴァーの旅を綴った『ガリヴァー旅行記』が生まれた18世紀イギリスとは一体どのような時代だったのか。

本授業では、ジョナサン・スウィフト (Jonathan Swift) の『ガリヴァー旅行記』 (Gulliver's Travels) (1735)を原文と日本語翻訳版の両方を駆使して深く読み込んでいくことで、あらずじよりももっと深いところで、この物語に織り込まれている様々な問題系に耳を澄ませ、それらを当時の社会的文脈と重ね合わせながら明らかにしていく。

まずは手始めとして、しばしば『ガリヴァー旅行記』からの影響や共通性が指摘されるジョージ・オーウェルの『動物農場』について、様々な観点からの読解を試みて準備を整えた後、『ガリヴァー旅行記』から、特に注目すべき箇所を取り上げて、細かく読み込んでいくことで、英語で書かれた物語を精読するための基礎力を身に付けるとともに、イギリス文化への理解を深める。同時に、物語から浮かび上がるテーマをもとに、『ガリヴァー旅行記』を現代から読む意味についても考えていく。

教科書 /Textbooks

Swift, Jonathan. Gulliver's Travels. Oxford UP: New York, 2008 (Reissued).
スウィフト, ジョナサン. 『ガリバー旅行記』. 山田蘭訳. 角川書店, 2011 (角川文庫).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

指 昭博. 『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』. ミネルヴァ書房, 2012.
神山 妙子. 『はじめて学ぶイギリス文学史』. ミネルヴァ書房, 1989.
ステーブン, レズリー. 『スウィフト伝-「ガリヴァー旅行記」の政治学』. 高橋 孝太郎訳. 彩流社, 1999.
木下卓・清水明. 『ガリヴァー旅行記(シリーズ もっと知りたい名作の世界)』. ミネルヴァ書房, 2006.

イギリス文化講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: イギリス文化を読む / 社会的文脈から読む～オーウェルの「一杯のおいしい紅茶」
2. Gulliver's Travelsへの助走 (1) : 映画Animal Farmを観る / Animal Farm読解①寓話を歴史化する
3. Gulliver's Travelsへの助走 (2) : Animal Farm読解②政治と言葉
4. Gulliver's Travelsへの助走 (3) : Animal Farm読解③記憶と歴史
5. Gulliver's Travelsへの助走 (4) : Dracuraから見る19世紀末イギリス (帝国主義、「人種」問題、ジェンダー、セクシュアリティ、病気、メディアなど)
6. A Letter from Capt. Gulliver, to His Cousin Sympson なぜ最初に手紙をつけたのか、ガリヴァーという語り手
7. Gulliver's Travels, Part One ディスカッション編：『ガリヴァー旅行記』の時代、帝国主義、衛生思想、風刺の方法
8. Gulliver's Travels, Part One 精読編：異化作用
9. Gulliver's Travels, Part Two ディスカッション編：女性嫌悪？、視覚
10. Gulliver's Travels, Part Two 精読編：怪物と見世物
11. Gulliver's Travels, Part One&Two まとめ～『不思議の国のアリス』と『ガリヴァー旅行記』の接点
12. Gulliver's Travels, Part Three ディスカッション編：科学風刺、宗教風刺、狂人、ジャポニスム
13. Gulliver's Travels, Part Three 精読編：イングランド対アイルランド問題、歴史について
14. Gulliver's Travels, Part Four ディスカッション編：ガリヴァーはヤフーか、フウイヌムか
15. Gulliver's Travels, Part Four 精読編：優生思想、「ユートピア」とは～スウィフトはフウイヌムを理想として描いているのか、風刺しているのか

※進度や状況により扱う内容・順番等変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40% (授業への姿勢、毎週の課題、レスポンスシート等)、試験60%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(予習範囲については、毎回の授業で指摘する。予習は主にプリントを配布するので、気になる点を挙げたり、自分なりの分析を行うこと。)
- ・ 授業の理解に有益な読書や映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 最初の授業で、授業の進め方や予習の仕方などについて説明する。
- ・ 第二回以降、毎回の範囲の予習をしてこよう。
- ・ 授業には英語の辞書を持ってくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業は、講義形式というよりディスカッション中心で行いますので、みなさんの予習に期待しています！

キーワード /Keywords

イギリス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 今川 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 1年(1-2)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	
	英語力	● イギリス文化に関する英語の文献を読みこなし、また的確なコミュニケーションができる英語力を身につけている。
思考・判断・表現	その他言語力	
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● イギリス文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

イギリス文化講読

ARE230M

授業の概要 /Course Description

本講義では、英語で書かれた短編集を精読していく過程を通じてイギリスの文化や歴史、時代を特徴づけてきた思想や市民生活、社会事情に触れ、皆さん独自の作品解釈や分析を構築・展開していくことを目指します。
したがって「英文読解力」と自発的な解釈およびそれを言語化した他者に発信する「コミュニケーション力」に重点を置いて進めます。学生が主体となって、英文を丁寧に読み、ワークシートに取り組み、授業では各自が分析した結果読みとったことを他者に分かりやすくプレゼンテーションします。読者の数だけ「読み」の可能性、解釈の幅は広がります。その多様性を共に楽しみつつ、能動的にイギリスの文化や文学、思想を知っていきましょう。

教科書 /Textbooks

Oscar Wilde, "THE HAPPY PRINCE AND OTHER TALES" (ISBN: 978-4-523-15402-0) (NAN'UN-DO)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション：授業の進め方、イギリスの文化、Oscar Wildeについて
2. The Happy Prince (1)
3. The Happy Prince (2)
4. The Happy Prince (3)
5. The Nightingale and the Rose (1)
6. The Nightingale and the Rose (2)
7. The Nightingale and the Rose (3)
8. The Selfish Giant (1)
9. The Selfish Giant (2)
10. The Selfish Giant (3)
11. The Devoted Friend (1)
12. The Devoted Friend (2)
13. The Devoted Friend (3)
14. The Remarkable Rocket (1)・グループプレゼンテーション
15. The Remarkable Rocket (2)・グループプレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)
講義への取り組み・姿勢・予習 (30%)
プレゼンテーション (20%)

イギリス文化講読【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所を必ず予習してきてください。事前に配布されるワークシートも必ず一通り取り組み、予習の段階での解釈・分析を文章で記述してきてください。

履修上の注意 /Remarks

3回以上の欠席は原則単位認定の対象外とします。
他人の受講を妨げる迷惑行為や私語、居眠り、携帯電話やスマートフォンの使用は厳禁です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文化や文学に興味がある学生を歓迎します。また、英文読解力を磨きたい学生も歓迎します。
英文を読み、加えて関連する情報もできる限り調べるようにして下さい。地名、人物名、その他疑問に思った点はインターネットや図書館でリサーチする習慣を身につけてください。大学図書館を大いに利用すること。

キーワード /Keywords

イギリス文化・イギリス文学

日本文化英文講読【昼】

担当者名 吉津 京平 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 1年(1-1・
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 1-2)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	日本文化に関する英語の文献を読みこなし、また的確なコミュニケーションができる英語力を身につけている。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会において、日本文化の発信と異文化の理解を深める能力を持つ世界的な視野に立った人間として行動ができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化英文講読

JPS290M

授業の概要 /Course Description

川端康成の『雪国』のあまりにも有名すぎる冒頭「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。」とその英訳“The train came out the long tunnel into the snow country. The earth lay white under the night sky.”は同じなのか。宮沢賢治の『風の又三郎』の冒頭の「どっどどどどど どどどど どどど」は英語に翻訳するとどうなるのか。翻訳できるのか。村上春樹の短編「かえるくん、東京を救う」の英語版タイトルはなぜ“Super-Frog Saves Tokyo”なのか。「かえるくん」はSuper-Frogなのか、Mr. Frogなのか、ただ単にFrogなのか、あるいはFroggyなのか。そもそも英語で「かえるくん」と言えるのか。

本授業では、こうした日本語を英語に翻訳する際に生じる様々な問題点を切り口として、日本特有の文化的事象について見ていく。まずは、村上春樹の短編「象の消滅」とJay Rubinによる英訳“The Elephant Vanishes”を取り上げ、原文と英語版での表現の異なる箇所を探し出し、そこに浮かび上がる翻訳にくい日本的な考え方や価値観について突き止める力を養う。

また、小説出版当時の社会的文脈から小説を精読することで、欧米文化に対して日本の作家たちがどのように向き合ったのかについても考えを深める。芥川龍之介の「鼻」と志賀直哉の「小僧の神様」を経由し、歴史的な視点を導入することで、より深い観点から現代の日本社会を批判的に読む力を身に付けることを目標とする。

同時に、授業で取り上げる内容を考える上で参考になりそうな補足資料（身体表現、ことわざ、和製英語、漫画 etc...）についても紹介していく予定である。

授業では各回様々な文化的事象を扱うが、受講者自らが問題点を発見することを目標としているので、授業計画・内容には細かい内容については記していない。

教科書 /Textbooks

村上春樹、『パン屋再襲撃』、文藝春秋、2011（文春文庫新装版）。

この短編集には、本授業で扱う予定の村上春樹の作品2編が収録されている。英語翻訳版については授業中にプリントで配布する。他の作家の短編とその英語翻訳版についても同様である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ことばと文化』（鈴木孝夫、岩波新書、1973）
- 『翻訳教室』（柴田元幸、朝日文庫、2013）
- 『翻訳夜話』（村上春樹・柴田元幸、文春新書、2000）

それ以外の参考書に関しては必要に応じて授業中に紹介する。

日本文化英文講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction: 翻訳について / 村上春樹はアメリカ的か、日本的か～デビュー作『風の歌を聴け』を例に
2. The Elephant Vanishes (1) 「象の消滅」というタイトル、「臓物を抜かれて乾燥された巨大生物」
3. The Elephant Vanishes (2) 「古くからの郊外住宅地」、「長いつきあいですから」
4. The Elephant Vanishes (3) 「夜の七時のNHKニュース」、「台所じゃなくてキッチンです」
5. The Elephant Vanishes (4) 「とんとんと叩いたり」、「ホテルの入口」
6. 「象の消滅」精読：消滅した象について
7. 「パン屋再襲撃」精読：「空腹感」について
8. The Nose (1) 「膳」「粥」「鉤鼻」
9. The Nose (2) 「親切」「書写」「縁」
10. 「鼻」精読：「腸詰め」のような鼻について
11. 芥川龍之介と森鷗外の歴史小説
12. The Shopboy's God (1) 「小僧の神様」というタイトル
13. The Shopboy's God (2) 「秤屋」「名代の店」
14. 「小僧の神様」精読：秤屋の小僧について
15. 「羅生門」精読：「黒洞々たる夜」について

※進度や状況により扱う内容、順番等変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40% (授業への姿勢、予習や課題への取り組み、レスポンスシート等)、試験60%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(予習用のプリントを準備し、予習範囲については毎回の授業で示す。)
- ・ 授業の理解に有益な読書や映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 最初の授業で、授業の進め方や予習の仕方などについて説明する。
- ・ 第二回以降、毎回の範囲の予習をしてくること。
- ・ 授業には英語の辞書を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業は、講義形式というよりディスカッション中心で行いますので、みなさんの予習に期待しています！

キーワード /Keywords

日本文化英文講読【昼】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 1年(1-3)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	日本文化に関する英語の文献を読みこなし、また的確なコミュニケーションができる英語力を身につけている。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	国際社会において、日本文化の発信と異文化の理解を深める能力を持つ世界的な視野に立った人間として行動ができる。
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化英文講読

JPS290M

授業の概要 /Course Description

私たちは日本に生まれ日本で育ったにもかかわらず、「日本文化とは」と尋ねられて、どれほどのことが語れるでしょうか。それはむしろ仕方のないことなのかもしれません。というのも、それを意識するには、他文化のことを学んだり、自分が他文化圏と接触することにより両者の比較をしたり自己分析をしたり、といった努力が必要だからです。そこでこの授業では、英米圏あるいは台湾の人たちの日本での経験談を集めたテキストを扱うことで、日本文化の独自性を再認識したいと思います。

テキストの英語は非常にこなれたやさしいもので、15のユニットに分かれています。その中からいくつかのユニットを精読し、内容理解につとめます。ユニット毎に理解度等のチェックもできるように、問いが設けられているので、それらも利用する予定です。

また、それぞれのユニットの内容についてお互いに意見交換ができればと思っています。さらに余裕があれば（受講者数次第ですが）、英語の発音練習もしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

Surprises and Discoveries about Japan (朝日出版)
(コピーを配布します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

日本文化英文講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入、英語の学習の仕方について
- 2回 ユニット1 Eye-openers in the Station 訳読
- 3回 ユニット1 Exercises、解説
- 4回 ユニット2 Private Matters 訳読
- 5回 ユニット2 Exercises、解説
- 6回 日本文化についての討論
- 7回 ユニット3 Sea of Black 訳読
- 8回 ユニット3 Exercises、解説
- 9回 ユニット5 Affection in an Emotionless Society 訳読
- 10回 ユニット5 Exercises、解説
- 11回 日本文化についての討論
- 12回 ユニット10 Once a Child, Always a Child? 訳読、解説、Exercises
- 13回 ユニット10 Exercises、解説
- 14回 日本文化についての討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の英語の訳の担当など平常点... 20% 試験... 80%
(出席重視)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、テキストの該当ユニットを予習しておいてください。また、授業の後は、ノートをもとに内容を整理し、復習をしましょう。担当者は担当箇所の訳をしっかりと準備して授業に臨んでください。

『菊と刀』、『甘えの構造』など、有名な日本文化関係の書物も是非積極的に読んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語力をのばしたい人、発音に関心がある人、議論好きな人を歓迎します！

キーワード /Keywords

「英語の習熟」「議論」「文化比較」「自己分析」「日本文化の独自性」

日本文化文献講読C 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・他
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文化に関する文献の基礎的専門的知識を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化に関する文献の専門的な読解能力を身につけている。
	英語力		
	其他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化文献講読C

LIT212M

授業の概要 /Course Description

この授業ではくずし字の読解力を養うためのトレーニングを行う。
くずし字の読解は日本文学、日本史、宗教史、美術史など、近代を含む日本文化を専門的に学ぶ上に必須の能力である。
日本文化を学ぶことを希望する学生は、基礎的な読解力を身につけてもらいたい。
授業では筆写本のコピーを用いる。

教科書 /Textbooks

笠間影印業刊行会編『字典かな一出典明記一 改訂版』（笠間書院）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 児玉幸多編『くずし字解読辞典』（近藤出版社）
- 児玉幸多編『くずし字解読辞典 机上版』（東京堂出版）
- 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版）
- 東京手紙の会編『くずし字辞典』（思文閣出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要・成績評価について
- 2回 くずし字の読み方（仮名）
- 3回 くずし字の読み方（漢字）
- 4回 くずし字の読解（諸国一見聖物語p.5〈京都大学国語国文資料叢書29〉）
- 5回 くずし字の読解（諸国一見聖物語p.6）
- 6回 くずし字の読解（諸国一見聖物語p.7）
- 7回 くずし字の読解（諸国一見聖物語p.8）
- 8回 くずし字の読解（樹下乃御法1丁表〈早稲田大学教林文庫蔵本〉）
- 9回 くずし字の読解（樹下乃御法1丁裏）
- 10回 くずし字の読解（樹下乃御法2丁表）
- 11回 くずし字の読解（樹下乃御法2丁裏）
- 12回 くずし字の読解（樹下乃御法3丁表）
- 13回 くずし字の読解（樹下乃御法3丁裏）
- 14回 くずし字の読解（樹下乃御法4丁表）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 授業への取り組み 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回授業で読解する範囲の文章を事前に下調べしておくこと。
読めなかった字については復習して身につけておくこと。
予習・復習の繰り返しが大切な科目です。

日本文化文献講読C 【昼】

履修上の注意 /Remarks

教科書『字典かな一出典明記― 改訂版』は必ず購入しておいて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業では室町時代に著された『諸国一見聖物語』の江戸時代元禄年間の筆写本、および江戸時代の覚深著『樹下乃御法』をテキストとして取り上げる。いずれも比叡山延暦寺の僧侶の作である。授業の趣旨として内容については重点を置かないが、適宜説明を加えながら読んでいきたい。

キーワード /Keywords

くずし字

フランス文化講読【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・他 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	フランス文化に軸足を置きながら、多様な文化領域の研究方法を身に付ける。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力	●	フランス語の文献を必要に応じて読みこなすことができる。
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	フランス文化を出発点として、西欧の諸文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

フランス文化講読

ARE340M

授業の概要 /Course Description

この授業では、フランスの文化だけでなく、それに関連する政治、社会、歴史について学びつつ、フランス語の語彙力及び読解力の強化を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。Denis C. Meyer, Clés pour la France en 80 icônes culturelles (Paris, Hachette, 2016)、加藤晴久、ミシェル・サガズ『時事フランス語 2019年度版』（朝日出版社、2019年）、石井洋二郎、ミシェル・サガズ『時事フランス語 2020年度版』（朝日出版社、2020年）などをコピーし、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Apéritif
- 2回 La liberté d'expression
- 3回 Le Petit Prince
- 4回 Pôle emploi
- 5回 Le droit du sol
- 6回 Fromages
- 7回 Édith Piaf
- 8回 L'abolition de la peine de mort en France
- 9回 Marianne
- 10回 Tour Eiffel
- 11回 La devise de la France
- 12回 Discrimination raciale
- 13回 Les droits des homosexuelles
- 14回 Les Journées européennes du patrimoine
- 15回 まとめと復習

以上の授業計画は、受講者のフランス語の習熟度に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極性・・・30%、期末試験・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習の方法については、適宜指示する。復習を重点的に行うこと。

フランス文化講読【昼】

履修上の注意 /Remarks

フランス語を1、2年生で履修し、文法を習得している学生を対象とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ文化講読【昼】

担当者名 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語の文献を必要に応じて読みこなすことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	ドイツ文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	●	日独の文化の違いを踏まえたコミュニケーション能力を発揮できる。

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ドイツ文化講読

ARE341M

授業の概要 /Course Description

内容

●とりあえず手に入れたドイツ語という「道具」を、実際にどんと使ってみる授業です。外国語学習者向けに作られたドイツ語テキストではなく、ドイツ語話者がドイツ語話者に向けて書いたテキストだけを扱います。

受講条件について

●1年生で習ったドイツ語が錆びている、あるいはそもそも半端な理解だった、ということはおおいにあり得るでしょう。そのことを前提に、文法の復習を交えながら授業を進めます。現在の自分の実力を低く見積もって躊躇せず、今後もドイツ語と付き合う気概があるならぜひ受講してください。

発信力について

●テキストを正確に読む作業をベースとします。しかし、ドイツ語を読む中で、「この表現は、自分が書く・話すときに使える！」という発見があるものです。そういう表現を着々とストックしていきましょう。独作文は独借文の発想です。

教科書 /Textbooks

●独和辞典（スマートフォンの辞書アプリは、辞書持ち込み可形式のテストの際に（スマートフォン自体が）使用不可となるので、注意してください。）

●ドイツ語履修時に使用した教科書（あるいは、別途購入した文法書）

●随時、テキストを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介・指示します。

ドイツ文化講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ウォーミングアップ：独辞典でクイズ
- 第2回 事典類を読む(1)【小項目主義】
- 第3回 事典類を読む(2)【大項目主義】
- 第4回 写真・図版の説明文(キャプション)を読む
- 第5回 新聞を読む(1)【地方紙】
- 第6回 新聞を読む(2)【全国紙】
- 第7回 ウェブサイトを読む(1)【amazon.deなど】
- 第8回 ウェブサイトを読む(2)【大学の公式HPなど】
- 第9回 専門書・論文を読む(1)
- 第10回 専門書・論文を読む(2)【前回の続き】
- 第11回 専門書・論文を読む(3)【前回の続き】
- 第12回 文学作品を読む(1)【シュニツラーの短篇小説(予定)】
- 第13回 文学作品を読む(2)【前回の続き】
- 第14回 文学作品を読む(3)【前回の続き】
- 第15回 SNSやレビューを読む

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験…50% 日常の授業への取り組み…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習

●訳読がベースになるので、配布されたテキストをあらかじめ読んできてください。授業では、「読む(発音する)・訳す・文法的に説明する」の3点がセットです。すべての単語を片っ端から辞書で引くような状況がしばらく続くでしょうが、語学はそういうものなので、深く考えず、アスリートが心を無にして筋トレするように、淡々と辞書を引いてください。

復習

●苦労しながらどうにか読み進めたテキストを、授業後はすらすらと音読でき、意味を理解し、文法的に説明できるか、チェックしてください。こうして穴を一つ一つ潰していかないかぎり、上達のしようがありません。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語文法を一通り終えたことを前提にしています。ただし、本学の第二外国語でドイツ語を履修していないけれど、独学でドイツ語文法を学んできたという場合も、歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

言語は道具であり、道具は使うものです。

キーワード /Keywords

外国語 ドイツ語 原典講読 文学 学術論文 情報収集

ロシア文化講読【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・他 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ロシアの諸文化領域について理解している。
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力	●	ロシア語の文献を読むことができる。
	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	ロシア文化の諸領域に対する関心を深める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ロシア文化講読

ARE350M

授業の概要 /Course Description

ロシアの精神文化、生活文化、社会文化、歴史文化に関する論集を読み、ロシア文化の形成・変化プロセスや特性について考える。必要に応じてその他の文献や映像音声資料も活用し、様々な視点からの解釈によりロシア文化理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦清美『ロシアの源流 中心なき森と草原から第三のローマへ』講談社メチエ、2003
中村喜和『遠景のロシア 歴史と民俗の旅』彩流社、1996
ヴェルナッツキー著、松木栄三訳『モスクワ公国とリトアニア公国 東西ロシアの黎明』風行社、1999
ソルジェニーツィン著『廃墟の中のロシア』草思社、2000
○黒川知人『ロシア・キリスト教史』教文館、1999
○藤沼貴『ロシア その歴史と心』第三文明社、1995
○川端香里他編『講座 スラブの世界1 スラブの文化』弘文堂、1996
クリュチェフスキー『ロシア史講話1』恒文社、1992
森安達也編『スラブ民族と東欧ロシア』山川出版社、1986

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 授業方法、授業計画等について
- 2 ロシア精神文化論：愛国主義、民族意識喪失
- 3 昔のロシア人気質とその変容
- 4 ロシア人アイデンティティの継承
- 5 ロシア正教
- 6 ロシアの都市と歴史 モスクワ
- 7 ロシアの都市と歴史 ヤロスラブリ
- 8 ロシアの都市と歴史 ノボゴロド
- 9 ロシアの都市と歴史 トベリ
- 10 ロシア人にとっての森、自然
- 11 ロシア教会暦・民間暦1
- 12 ロシア教会暦・民間暦2
- 13 ロシアの食文化
- 14 ロシア人の名前
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わない。普段の下準備・学習状況50%、分担発表内容50%によって評価する。

ロシア文化講読【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修者には発表を複数回分担任してもらう予定です。その際、レジユメを作成して発表してもらうので、準備が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (40%) Presentation and Participation (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor 　　デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (40%) Presentation and Participation (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor DENIS・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (40%) Presentation and Participation (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor: デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 4年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 1学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I

ENG353M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
 Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction
- 2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
- 3.Philosophy/political theory: Textual/source study
- 4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
- 5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
- 6.International relations: Assignment of topics
- 7.International relations: Textual/source study
- 8.International relations: Preparing points for discussion
- 9.International relations: Argumentation and Debate
- 10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
- 11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
- 12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
- 13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
- 14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
- 15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Two 500-word written assignments (40%) Presentation and Participation (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意 /Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
- 2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
- 3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
- 4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
- 5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
- 6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
- 7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
- 8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
- 9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
- 10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
- 11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
- 12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
- 13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
- 14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
- 15.Closing Discussion:

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments: 40%; Debate preparation and debate performance: 60%

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor: デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 4年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
- 2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
- 3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
- 4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
- 5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
- 6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
- 7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
- 8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
- 9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
- 10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
- 11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
- 12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
- 13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
- 14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
- 15.Closing Discussion:

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments: 40%; Debate preparation and debate performance: 60%

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor: デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 4年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 講義
 クラス /Class: 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
- 2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
- 3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
- 4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
- 5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
- 6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
- 7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
- 8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
- 9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
- 10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
- 11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
- 12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
- 13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
- 14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
- 15.Closing Discussion:

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments: 40%; Debate preparation and debate performance: 60%

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English II

ENG354M

授業の概要 /Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書 /Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
- 2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
- 3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
- 4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
- 5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
- 6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
- 7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
- 8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
- 9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
- 10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
- 11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
- 12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
- 13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
- 14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
- 15.Closing Discussion:

成績評価の方法 /Assessment Method

2 X 500-word written assignments: 40%; Debate preparation and debate performance: 60%

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語圏文化講読【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・他 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
							○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 比較史の視点からスペイン文化の様々な側面を理解している。
	英語力	
思考・判断・表現	その他言語力	● スペイン語で文献をある程度読みこなせる。
	課題発見・分析・解決力	
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力	
	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● スペイン語圏の文化・社会への関心を持続させる。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

(27年度以降) スペイン語圏文化講読 HIS330M

(25・26年度) スペイン文化講読 HIS330M

授業の概要 /Course Description

さまざまな時代のスペイン語テキストを講読します。多岐にわたるトピックについて内容を理解するとともに、辞書で目にした単語の意味を並べて「なんとなく読む」のではなく、理詰めで文の意味が分かることを目指します。また発音についての指導もします。スペイン語のテキストを使用するので、原則としてスペイン語を二年間既に学んだ者に受講を限定します。

教科書 /Textbooks

授業担当者がプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)
- 『クラウン西和辞典』(三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン、授業運営と成績評価について
- 第2回 La boda de sangre (Lorca)
- 第3回 Abel Sanchez (Unamuno)前半
- 第4回 Abel Sanchez (Unamuno)後半
- 第5回 Rimas (Becquer)
- 第6回 "Vuelva usted mañana" (Larra)前半
- 第7回 "Vuelva usted mañana" (Larra)後半
- 第8回 Cartas marruecas (Cadalso)前半
- 第9回 Cartas marruecas (Cadalso)後半
- 第10回 Teatro critico universal (Feijoo)前半
- 第11回 Teatro critico universal (Feijoo)後半
- 第12回 La vida es sueno (Calderon)前半
- 第13回 La vida es sueno (Calderon)後半
- 第14回 Don Quijote de la Mancha (Cervantes)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% 小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。スペイン語既習者限定。授業にはかならず予習をして臨んでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

スペイン語圏文化講読【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

目標

●卒業論文を書き上げるために必要な、思考力を養い、調査方法を習得し、議論や意見表明の実践を積みましょう。素材は、ドイツ語圏の文物にかぎらず、幅広く選び、リクエストにも応じます。重要なのはあくまでも「方法」の習得にあります。

方針

●芸術作品や文化的・社会的な事象などを前にして、それに反応し、まとまった意見を形成・表明する能力は、学位論文の執筆のみならず、社会に出てからも必要なスキルである、という考えに基づいた演習です。例えば先輩や上司に誘われて芸術鑑賞した後のカフェで感想を聞かれ、「よかったです」としか言えなければ、次のお誘いはないでしょう。無知でも、素人でも、「知らないなら知らないなり」反応の仕方があるはずですから、それを模索しましょう。

進め方

●毎回、特定の芸術作品やテキストを鑑賞・精読した後、それについての意見を募り、書き出していきます。その際に、意見の切り口をどう見出し、ささいな疑問をさらなる研究調査にどう展開していくのかなど、思考のめぐらせ方やメモ・ノート術をレクチャーします。どういう場合にどういう資料を当たるべきかについても、随時紹介します。私の提案する技術だけでなく、周りの参加者の良いところにも注目し、技を真似し合ってください。

教科書 /Textbooks

●ノート（形式自由。自分が得た知識やアイデアを集約し、卒業論文まで繋げるための「ネタ帳」を用意してください。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介・指示します。

演習 A-1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション【自己紹介】
第2回	鑑賞・講読と議論(1) 【芸術篇】
第3回	鑑賞・講読と議論(2) 【芸術篇】
第4回	鑑賞・講読と議論(3) 【芸術篇】
第5回	鑑賞・講読と議論(4) 【芸術論篇】
第6回	鑑賞・講読と議論(5) 【芸術論篇】
第7回	鑑賞・講読と議論(6) 【歴史・文化篇】
第8回	鑑賞・講読と議論(7) 【歴史・文化篇】
第9回	鑑賞・講読と議論(8) 【歴史・文化篇】
第10回	鑑賞・講読と議論(9) 【歴史・文化論篇】
第11回	鑑賞・講読と議論(10) 【歴史・文化論篇】
第12回	鑑賞・講読と議論(11) 【哲学思想篇】
第13回	鑑賞・講読と議論(12) 【哲学思想篇】
第14回	鑑賞・講読と議論(13) 【哲学思想篇】
第15回	まとめ 今後のスケジュール

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み…40% 意見交換への参加・貢献…60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- あらかじめテキストを精読、映画などを鑑賞して来てもらうよう、お願いする場合があります。
- 個人で行った芸術鑑賞や旅などの経験も、貴重な議題として、ゼミに持ち込んでください。「今度のゼミで何を語ろうか」と想像しながら、待ち構えて読む・観る・聞くのがコツです。そのためには随時メモを取り、必要があれば予備調査し、話の段どりをシミュレーションする必要があるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

- ドイツ語の能力は問いません
- 鑑賞・講読の具体的な対象は、参加者の興味関心やリクエストに応じて柔軟に決めます。上記の予定【～篇】が変更される可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文 議論 芸術鑑賞 文化 歴史 地理 哲学思想

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

日本美術史においては、古くから研究され続けている著名な作品でありながら、未だに通説が存在しない考察点を内包している作品が数多く存在する。本演習では、それらの未だに通説が存在しない問題を考察して来た先行研究論文群を輪読する。

まずは、美術史学研究者らが一般向けに執筆した書籍である千野香織・著『フィクションとしての絵画』の「絵の中の時間」と「空を飛ぶ倉」を輪読し、絵画とスナップ写真との違いを確認する。

次に、先行研究論文群の輪読を行う。今年度は、奈良・朝護孫子寺所蔵「信貴山縁起絵巻」の制作年代に関する複数の論文が京都・高山寺所蔵「鳥獣人物戯画」甲巻の主題に関する複数の論文のどちらかを読む予定。ひと通り読み終わったら、各自の説に賛同できるかといったことをディスカッションする。さらには、夏休み期間を利用して、自分の説をレポートにまとめてもらう（そのレポートの評価は、演習 A - 2 に加える）。これによって、美術史的な研究方法の理解を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。輪読する論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業の手順の確認、大学図書館において美術史学関係書籍の種類・所在を確認、研究倫理教育について
- 2 回 『フィクションとしての絵画』の「絵の中の時間」を輪読
- 3 回 『フィクションとしての絵画』の「空を飛ぶ倉」を輪読、次回から輪読する論文の決定
- 4 回 先行研究論文の輪読①
- 5 回 先行研究論文の輪読②
- 6 回 先行研究論文の輪読③
- 7 回 先行研究論文の輪読④
- 8 回 先行研究論文の輪読⑤
- 9 回 先行研究論文の輪読⑥
- 10 回 先行研究論文の輪読⑦
- 11 回 先行研究論文の輪読⑧
- 12 回 4～11回を踏まえたディスカッション
- 13 回 博物館あるいは美術館見学
- 14 回 研修旅行の日程説明、研究旅行における解説担当作品の決定
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...90%
作品観覧カード...10%

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で輪読する論文には、事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べた上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

4年生の報告を参考に文献講読と割り当てられた課題についての報告を行います。それによって演習発表の基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文献リストを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 学内でのガイダンス
- 2回 4年生の報告①
- 3回 4年生の報告②
- 4回 4年生の報告③
- 5回 4年生の報告④
- 6回 4年生の報告⑤
- 7回 文献講読①
- 8回 文献講読②
- 9回 文献講読③
- 10回 4年生の卒論構想発表①
- 11回 4年生の卒論構想発表②
- 12回 4年生の卒論構想発表③
- 13回 課題報告①
- 14回 課題報告②
- 15回 7月24日 課題報告③

成績評価の方法 /Assessment Method

出席時の報告50%と質問50%で評価する。遅刻無届欠席は減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表のレジュメの準備や史料の下読みをしておくこと、授業後には発表についての指摘を踏まえてレジュメの手直しを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「古記録を読む」。日本の宗教文化の研究のためには、日本漢文を読解する基礎的能力を身につけなければならない。そのために平安時代から鎌倉時代をカバーする編年体の歴史書である『百練抄』を取り上げ、輪読していく。演習では平安時代の記事を読みながら、読解だけでなく当時の宗教や社会のあり方についても学んでいく。

教科書 /Textbooks

特になし。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の場で適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 古記録の読み方について・『百練抄』について
- 3回 受講生による研究発表
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表にあたっては事前にレジユメを作成・提出し、チェックをうけること。
次回発表者の担当するテキストを熟読して授業に臨むこと。
事後は授業の成果を踏まえて自分で課題を調べること。

演習 A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分で問題点を発見できる能力を養って下さい。

キーワード /Keywords

『百練抄』 日本宗教史

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化を研究するための基礎をかためることが目標となる。
1学期は、文献講読を通して、読む・レジュメをつくる・プレゼンテーションする・コメントする・議論するという一連の過程に自覚的に取り組み、人文学的な知的探求に取り組むための基礎の錬成を目指す。「論文」という文章形式についての理解を深める。なお授業では、合宿形式の演習（発表・議論・交流）あるいは野外実習が含まれることがある。全員参加のなかで、テーマを共有し、各自の問題意識のブラッシュアップを目指す。生協「学生が推薦する書籍のコーナー」のプロデュースを、「メディアをつくる」協働作業として昨年度に引き続きおこなっていく。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リサーチ入門(研究倫理教育含む)
- 3回 4年生との交流ワークショップ
- 4回 文献講読1
- 5回 文献講読2
- 6回 文献講読3
- 7回 文献講読4
- 8回 文献講読5
- 9回 文献講読6
- 10回 メディアをつくるワークショップ(準備)
- 11回 グループディスカッション1
- 12回 グループディスカッション2
- 13回 メディアをつくるワークショップ(発表)
- 14回 情報収集研修
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：前回の演習内容の確認
事後：発表者は、改善点の確認。それ以外の参加者は、どのような質問、コメントがよかったのかを反省的に振り返る。

演習 A - 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習では、チーム作業・全体討議を重視します。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。授業時間外において、グループ討議などの準備が随時必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的な内容は、ガイダンスで指示する。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

古典研究のための基本的な知識と調査方法を身につけ、古典の多様性に触れることを目標とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 橋本不美男『原典をめざして』笠間書院 1974年
- 池田亀鑑『古典学入門』岩波文庫 1991年
- 池田亀鑑『平安朝の生活と文学』ちくま学芸文庫 2012年

その他、必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究倫理について
- 3回 古典文学と「諸本」
- 4回 本と形態①
- 5回 本と形態②
- 6回 古典文学の特徴【素材・発想・構造】
- 7回 古典文学を読む【イントロダクション】
- 8回 同上【王朝物語①】
- 9回 同上【王朝物語②】
- 10回 同上【説話文学①】
- 11回 同上【説話文学②】
- 12回 同上【軍記物語①】
- 13回 同上【軍記物語②】
- 14回 同上【お伽草子の世界】
- 15回 1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%
平常の学習状況 50%

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

学習に際しては、予習として以下の作業をしておくこと。

- ・ くずし字の翻刻
- ・ 本文の現代語訳
- ・ 担当箇所に出てくる語句の意味調べ

また、参考文献について指示があった場合は、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

演習形式で授業を進めるため、積極的な態度で授業に臨むこと。

受講人数、受講者の興味・関心により、扱う作品を変更することがある。

場合によっては、通常のゼミの他、課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

この授業は、文学理論（批評理論）について幅広く学びます。筒井康隆『文学部唯野教授』で紹介されている文学理論について、自分なりに調べたこと、考えたことを担当者が発表し、発表を基にみんなで議論することで、理論の理解を豊かなものにすることが、授業のねらいです。

教科書 /Textbooks

筒井康隆『文学部唯野教授』（1990年1月 岩波書店）
2000年1月に文庫版も出ています。そちらでもかまいません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○テリー・イーグルトン『文学とは何か』（大橋洋一訳 1985年10月 岩波書店）
その他の参考書については、授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回～14回 各自、『文学部唯野教授』から1つ、文学理論を選択し、担当する理論について調べます。そして、資料等を基に、どういう点どのように解釈に役立つかなど、考えたことを発表。それを受けて、参加者みんなで自由に議論しましょう。
15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（50%）、レポート（50%）により評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習
次回学ぶことになる批評理論について、教科書を読んで予習しておいてください。
事後学習
学んだ批評理論について、教科書以外の本を手に取り読んで、理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

私語や教室の出入りなど、授業の邪魔になるようなことは慎んでください。
また、『文学部唯野教授』を読んでおいてください。

演習 A-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

『文学部唯野教授』でされている理論の解説に、どれだけプラスαをつけることができるかがポイントです。
積極的に、楽しくやっていきましょう。

キーワード /Keywords

文学理論 (批評理論)、新批評、ロシア・フォルマリズム、解釈学、受容理論、構造主義、ポスト構造主義

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

この演習では、国語学ならびに日本語学上の問題を取り扱った諸文献を読みます。その作業を通して、国語学・日本語学についての基礎的な知識や研究方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料は、受講者の興味や関心を考慮に入れて決定する予定です。発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、議論を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針
- 第2回 国語学・日本語学研究の諸分野（研究倫理教育含む）
- 第3回 先行研究の収集方法 文献資料の種類と扱い方
- 第4回 レジユメの作成要領 模擬発表
- 第5回 各人の発表（1）
- 第6回 各人の発表（2）
- 第7回 各人の発表（3）
- 第8回 各人の発表（4）
- 第9回 各人の発表（5）
- 第10回 各人の発表（6）
- 第11回 各人の発表（7）
- 第12回 各人の発表（8）
- 第13回 各人の発表（9）
- 第14回 各人の発表（10）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を精読し、疑問点や自身の意見を整理し、授業に臨んでください。

演習 A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習A-1では、日本語教育学の研究について、質的研究の専門書を輪読します。

また、同時に自分がこれまでの人生の中で経験したことを言葉にして表現できるようにするために、自己物語を学びます。自分自身の経験を言語化しようと試みることで、自己理解の度合いを推測することができ、そのことが内面的成長を促すと期待できます。そして、人にとって言葉がどのようなものであるのかの理解が深められます。これは、言語教育を学ぶものにとって必須のことです。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①実践的な学問としての日本語教育学について、その研究を知る。
- ②自らの関心を探求しながら自分の関心に適した研究分野を発見する。
- ③自分が日本語教育実践分野の何に関心を持っているのか言語化を試みる。
- ④研究について深く知ることに関心を持つ。

教科書 /Textbooks

館岡洋子編(2015)『日本語教育のための質的研究入門：学習・教師・教室をいかに描くか』ココ出版
榎本博明(2011)『<ほんとうの自分>のつくり方：自己物語の心理学』講談社現代新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 西條剛央(2009)『研究以前のモンダイ 看護研究で迷わないための超入門講座』医学書院
 - 秋田喜代美他編著(2005)『教育研究のメソドロジー』東京大学出版会
 - 秋田喜代美他(2007)『事例から学ぶはじめての質的研究法：教育・学習編』東京図書
- その他に日本語教育における先行研究例を適宜紹介します。

演習 A-1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----|--|
| 1回 | オリエンテーション、自己物語を書く |
| 2回 | 日本語教育における質的研究の可能性と挑戦【日本語教育学】【自律的な発展】 |
| 3回 | 質的研究の認識論【認識論】【信念対立】 |
| 4回 | 「実践研究」から考える質的研究の意義【観の可視化】 |
| 5回 | 実践者による「実践研究」に内在する当事者性の問題【共在者】 |
| 6回 | 「声」を聴くということ【ライフストーリー研究】 |
| 7回 | なぜ私は学習者のライフストーリーを聞き続けるのか【構えの記述】 |
| 8回 | 語りから得られる方法から人間のライフに関わる研究へ【物語】 |
| 9回 | 複数の当事者の視点から考える日本語学習支援実践の意味【ライフストーリー分析】 |
| 10回 | 子どもたちの学びを捉える方法をめぐって |
| 11回 | 比喩に込められた認識や信念、その変容を探求する【トライアングレーション】 |
| 12回 | 日本語を母語とする現職日本語教師Aの「いい日本語教師観」【PAC分析】 |
| 13回 | 日本語教室をいかに描くか【相互行為】 |
| 14回 | 教室という現場を読み解く【観察法】 |
| 15回 | 言語学習としての対話の分析【対話の分析】 |

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメを含む)...50% 参加者としての貢献度...30% レポート...20%
(主に発表を聞く時)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、テキストの内容理解と批判的考察によって成り立ちます。そのため、該当する章の予習は、必ず行ってください。
そして、授業後には、毎回授業報告を記録として残します。それをもとにして、復習を行います。

履修上の注意 /Remarks

助け合うことができるような人間関係を日頃から構築する努力をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習者オートノミーは、同僚性の中でこそ育つ。

キーワード /Keywords

日本語教育学 質的研究 自己物語 認識論

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんとついに語り合いたいと思います。前期は主に英米文学の中の短編（児童文学を含む）を数多く読み、それぞれの作品における様々な問題点やテーマ（生と死、愛、心の内奥の暗黒、人間の心理の不可思議さ、差別、女性の自由・自立、ピューリタニズム、自然と人間、人間の卑小性、グロテスクさ、機械と人間など）に関する討論を通じて、それぞれの作家の特徴や傾向をつかむと同時に、文学作品の鑑賞と討論の面白さをみんなと共有します。比較の視点も導入します。作品は主に翻訳を利用しようと考えています。

*ゼミの目的： 1. 自己発見 2. 議論のコツのマスター 3. 仲間作り

*ゼミ通信や4年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

*ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

演習 A - 1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、今後の流れの説明、その他
- 2回 「蠅」 by K. Mansfield (英)
- 3回 「オープンポート」 by S. Crane (米)
- 4回 「オープンポート」の続き
- 5回 「若いゲットマン・フアン」 by N.Hawthorne (米)
- 6回 「笑うサム」 by William Saroyan (米)
- 7回 「家族の絆」 by 渡邊浩式 (日本)
- 8回 「黒猫」 by E.A.Poe (米)
- 9回 「王女の誕生日」 by O. Wilde (英)
- 10回 「動物農場」 by G. Orwell (英)
- 11回 「動物農場」の続き
- 12回 「1時間の物語」 by K. Chopin (米)
- 13回 「アウルクリーク橋の出来事」 by A. Bierce (米)
- 14回 デイベートの説明と実施
- 15回 まとめ(合宿に備えて)

成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備...30% レポート...50% 平常点(発表、討論の参加など)...20% (出席重視)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者になった場合は、授業前に議論のための資料や参考文献などを読むなど、下準備をしっかりとした上で担当当日に臨んでください。配布資料の準備も必要です。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように作品をあらかじめ熟読し、問題意識を持って臨んでください。授業後は扱った作品に関して各自でテーマを決め、コメントを書いてもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記の授業の目的(1.自己発見 2.議論のコツのマスター 3.仲間作り)を達成するためにも、授業への皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究ゼミです。アメリカ映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考察します。さらにアメリカ映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ（人、文化、社会、歴史）の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。

ゼミのやり方としては、毎回、担当者を3名決め、B4のレジュメを個別に作成してもらった上で、レジュメの解説を行なってもらい、その発表内容をゼミ生全員で検討する形で進めていきます。発表する際の視点、レジュメ作成の要領、作品分析の方法、発表に必要な書籍については、最初の時間に詳しく説明します。発表に必要な資料の配置場所を知ってもらうため、図書館巡りも2回目のゼミの際に行ないます。

教科書 /Textbooks

取り上げる題材はゼミ生と相談し、できるだけゼミ生の意向が反映されるようにします。過去には、『プラダを着た悪魔』、『モンスターズ・インク』、『魔法にかけられて』、『チャーリーとチョコレート工場』、『トイ・ストーリー』、『アナと雪の女王』などの映画を取り上げ、内容を様々な文化的視点から議論しました。ゼミ生が卒論で取り上げることが決定した作品は最優先で題材として取り上げます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『早わかりアメリカ』 302.53 I32
 - 『そうだったのかアメリカ』 302.53 I33
 - 『読んで旅する世界の歴史と文化』 亀井俊介 290.8 Y82
 - 『異文化社会アメリカ』 示村陽一 302.53
 - 『アメリカ合衆国とは何か』 253. Ta45
 - 『アメリカ人の性格』 ゴーラー 書庫にしかない 361.6 G67
 - 『この一冊でアメリカの歴史がわかる』 253.01 Sa69
 - 『アメリカの大衆文化』 亀井俊介 253.07 H85
 - 『アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ』 302.53 B89
 - 『ヨーロッパ人のアメリカ論』(アメリカ古典文庫21) 253 A44 1-21
 - 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』(有賀夏紀) 253 A79
 - 『アメリカ人の思考法』 エドワード・スチュワート 361.42 St5
 - 『文明としてのアメリカ』(全5巻) 日本経済新聞社 302.53
 - 『アメリカの歴史を知るための60章』 富田虎男 253 To58
- (すべて図書館の蔵書です。)

演習 A - 1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 作品分析の方法やレジユメの作成要領の説明、参考文献などの紹介
- 2回 図書館めぐり、文献の検索方法の再確認
- 3回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論1
- 4回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論2
- 5回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論3
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論4
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論5
- 8回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論6
- 9回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論7
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論8
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論9
- 12回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論10
- 13回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論11
- 14回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論12
- 15回 まとめ、夏休みの課題レポートに関する説明

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミの参加への積極性...50% 発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、発表の担当が当たっている場合はB 4のレジユメを作成しておいて下さい。発表が当たっていない学生も、題材となる映画を文化的側面に注意しつつ、見ておいて下さい。授業後には、発表レジユメを再度読み直し、可能な限りレジユメのテーマと関連した書物を閲覧し、発表されたテーマに関する知識の拡充を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

この演習では、文献講読と個人研究報告を通じて、イギリス文化を中心的な対象としながら、文化研究の様々な方法について学んでいきます。「文化」を通じて「社会」全体を把握するという目標を念頭に置きながら、議論していきたいと思っています。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上、演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 インTRODクシヨン (研究の進め方・研究倫理について)
- 第二回 文献講読 (1)
- 第三回 文献講読 (2)
- 第四回 文献講読 (3)
- 第五回 文献講読 (4)
- 第六回 文献講読 (5)
- 第七回 文献講読 (6)
- 第八回 文献講読 (7)
- 第九回 文献講読 (8)
- 第十回 文献講読 (9)
- 第十一回 文献講読 (10)
- 第十二回 文献講読 (11)
- 第十三回 文献講読 (12)
- 第十四回 文献講読 (13)
- 第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加 60% ゼミ報告 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修人数にもよりますが、各人最低一回は、指定されたテキストについて報告を行うこととなります。報告者でなくても授業前には必ず指定されたテキストを熟読し、論点を考えてきてください。

履修上の注意 /Remarks

演習 A-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

幅広い興味を持って、討論に積極的に参加することを期待します。

キーワード /Keywords

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、まず、文献の読み方を理解する。次に、西洋（主にフランス）や日本を対象に、有形・無形の文化遺産、食、観光、アニメ、マンガ、ファッション、文化・社会における女性、性的マイノリティ、移民などのテーマについての基礎知識を習得する。また、これらのテーマを論じる上で重要な用語・概念や資料分析の方法を身につける。

教科書 /Textbooks

なし。プリントまたは文献のコピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の進め方
- 第2～4回 文献の読み方
- 第5～14回 文献講読・資料分析
- 第15回 まとめ

以上は予定であり、受講者の理解度や人数に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への積極性、発表・・・50%、期末レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、指示された通りに予習を行うこと。授業後は、授業の復習にとどまらず、紹介された文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には最低1度の発表が課される。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習の主役は学生である。議論に参加しやすい雰囲気を作るよう心がけるので、間違いを恐れず積極的に発言してほしい。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

歴史(政治・社会・文化)を中心としたアメリカ地域研究を行い、学問の方法に触れる。

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時および授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方、テキスト選定などについての話し合い
- 2回 レジユメの作り方、発表の仕方についての説明および研究倫理教育
- 3回 受講者による発表・討議
- 4回 受講者による発表・討議
- 5回 受講者による発表・討議
- 6回 受講者による発表・討議
- 7回 受講者による発表・討議
- 8回 受講者による発表・討議
- 9回 受講者による発表・討議
- 10回 受講者による発表・討議
- 11回 受講者による発表・討議
- 12回 受講者による発表・討議
- 13回 受講者による発表・討議
- 14回 受講者による発表・討議
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業への貢献度、発表内容)100%。ただし出席状況によって減点する場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読み、事後に授業中に興味を持ったことについて自分自身で調べ、知識を深める。また、日々のニュースに関心を持つ。

履修上の注意 /Remarks

受講生は全員、毎回テキストを読み込んで授業に出席すること。

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成にあたっては、自身の関心対象にまつわる知識を深めるだけではなく、研究としての方法論が必要となります。本演習では、批評理論の主だったものについて授業参加者がレジюмеを準備して報告を行い、それらについての理解を深めます。効果的で説得的な発表形式、資料の作り方を模索してください。

教科書 /Textbooks

ピーター・バリー『文学理論講義: 新しいスタンダード』ミネルヴァ書房、2014。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫。
- 土田ほか『現代文学理論』新曜社、1996。
- テリー・イーグルトン『文学とは何か』岩波文庫。
- ラマーン・セルデン『ガイドブック現代文学理論』大修館書店、1989。
- ウンベルト・エコ『論文作法』谷口勇訳、而立書房、1991。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN、授業運営と成績評価について
- 第2回 研究倫理教育
- 第3回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第4回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第5回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第6回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第7回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第8回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第9回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第10回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第11回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第12回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第13回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第14回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加60%、ゼミでの報告40%

演習 A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表・報告対象となっている章を入念に読むこと。授業後には議論の対象となった問題について、関連する文献を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

自分の意見を述べ、論理的に議論をすすめること。自分の関心領域につねにアンテナを張るとともに、隣接領域や自身の研究の参考になる可能性をもつものを貪欲に吸収すること。たくさん本を読み、色々な意見に耳を傾け、すばらしい作品や研究に数多くふれること。議論への積極的な参加が必須。議論を通じて卒業論文の構想を具体的なものにしていきましょう。合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン 文学 文化 批評

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A - 1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

西洋美術史研究における専門的知識と方法論を学ぶ。
美術史研究を行う上で、作品を丹念に観察することはもちろん、専門の研究書や論文を読破することは非常に重要である。そこで本授業では、西洋美術について書かれた翻訳テキスト『西洋美術の歴史』を教科書として受講者全員で分担して精読する。それぞれ担当箇所を決め、各自の担当内容について事前にパワーポイントとレジюмеを作成し、補足を交えながら発表してもらう。その後、受講者全員で研究史上の意義と問題点についてディスカッションを行い、検討を加える。
このようにして、さまざまな時代や地域の作品を精読することで美術史研究の基本を身に着けるのが本授業の目的である。また、こうした知識・方法論は、学芸員として働く際の基礎体力にもなる。

教科書 /Textbooks

H.W.ジャンソン、A.F.ジャンソン『西洋美術の歴史』（創元社、2001年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス及び研究倫理教育（授業の手順の確認と受講者の関心についての調査）
- 第2回 西洋美術史の文献の調べ方について
- 第3回 西洋美術史の方法論について
- 第4回 西洋美術史通史について
- 第5回 テキストの発表①
- 第6回 発表①についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
- 第7回 テキストの発表②
- 第8回 発表②についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
- 第9回 テキストの発表③
- 第10回 発表③についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
- 第11回 テキストの発表④
- 第12回 発表④についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
- 第13回 テキストの発表⑤
- 第14回 発表⑤についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み（レポート提出含む）...100%

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱うテキストについては受講者全員が事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べること。
発表担当者はいかなる質問にも答えられるよう、教科書以外の研究書をも読み込み、準備しておくこと。
発表担当者以外の者は、多角的な質問ができるように、内容を熟読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

西洋美術の中で関心のある作家や作品についていくつか考えておくこと。(1回目の授業時に調査)
パワーポイントを扱えるようになっておくこと。
授業開始前と終了後は、使用機材(ノートパソコン、プロジェクター、スクリーン等)の準備と片づけを行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

西洋美術 博物館学

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

東南アジア社会を対象に、主として文献講読に基づきながら、植民地化や観光化などを契機とする「他者」との相互作用の中で、文化がいかに持続、変容、展開しているのかを考察する。それにより、多民族多言語多宗教社会の現状を日本との関係性も視野に入れた歴史的な視座から理解していく。適宜オーディオビジュアル資料なども援用する。それらの資料を批判的に検討し、ゼミ生同士でディスカッションを重ねる。学外での見学調査実習も行う予定である。

教科書 /Textbooks

演習内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、研究倫理教育
- 第2回 文献講読とディスカッション(1)
- 第3回 文献講読とディスカッション(2)
- 第4回 文献講読とディスカッション(3)
- 第5回 文献講読とディスカッション(4)
- 第6回 文献講読とディスカッション(5)
- 第7回 文献講読とディスカッション(6)
- 第8回 中間討論と小活
- 第9回 文献講読とディスカッション(7)
- 第10回 文献講読とディスカッション(8)
- 第11回 文献講読とディスカッション(9)
- 第12回 文献講読とディスカッション(10)
- 第13回 文献講読とディスカッション(11)
- 第14回 文献講読とディスカッション(12)
- 第15回 総合討論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、発表60%

演習 A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回事前学習用の資料を指示するので、目を通してから参加すること。演習内での購読やディスカッションの内容を踏まえて、参考資料を指示するので活用して復習すること。

履修上の注意 /Remarks

演習内での議論への積極的な参加を重視するので、事前にテキストを熟読し、疑問点、議論したい点を考えてくること。
新聞、テレビ、インターネットなどを通して実社会で生起する事象に日ごろからよく目配りし、
演習で学んだことに照らして再考してほしい。扱うテーマを自身の関心にひきつけて主体的に取り組んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身近な他者の存在や、ちょっと新しい世界の見方など、小さな発見をともにしたいと思います。

キーワード /Keywords

演習 A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASASHIRO / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-1

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、テキストとの基本的な向き合い方を学ぶことを目標とする。

具体的にはまず、各自の興味と関心に基づきながら、日本の近代短編小説を1作品選ぶ。次に、本文を可能な限り細分化しながら、注を付ける作業を行う。この作業は、誤読を防ぐことはもちろん、恣意的な読みを抑制するために行うものだが、とはいえ注付けの作業もやはり恣意的なものであることを免れない。ある言葉に、どのような意味やイメージを重ねて読むかは、厳密には読者ひとりひとり異なるからである。

ならばいっそのこと、注付けの際には私的解釈もふんだんに盛り込みながら行ってみよう。こうした注釈の作業をとおしてテキストのことはと向き合った際に立ち上がってくる〈物語〉が、〈私の読み〉となる。

〈私の読み〉が研究の成果となるためには、先行論にはないオリジナリティが必要だが、先行論と対話を始める前に、荒削りであっても〈私の読み〉を獲得しておくことが重要だと考える。本演習では、それを可能とする一つの方法「注釈」を学ぶ。

なお、先行論との対話の仕方は、演習 A-2で学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自で取り上げる作品のマスターコピーを準備し、教員がそれを印刷して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○日本近代文学会編『日本近代文学研究の方法』（ひつじ書房、2016年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス
第2回	研究倫理教育
第3回	日本近代文学研究の基本①【注釈の方法】
第4回	日本近代文学研究の基本②【発表資料の作り方】
第5回～第14回	学生による演習発表
第15回	まとめ【演習A-2にむけて】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への取り組み... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予告された文学作品を必ず読んでから、演習に参加すること。授業後は、演習で学んだことや他の学生の解釈を踏まえて作品を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

演習担当者は責任を持って準備と発表を行うこと。他の学生は、本文についての疑問や読解に関する意見を述べるための事前準備をしておくこと。

演習 A - 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

目標

●前学期に引き続き、さまざまな対象を鑑賞・講読、分析し、意見交換をしつつ、それを経て得た知識を期末のプレゼンテーションへ収斂させましょう。

テーマ討論について

●前学期（演習A-1）を終えて、参加者各自の興味関心が見えてくるはずなので、それを踏まえて教員から討論テーマを提案します。それぞれが自分の得意分野にテーマを引き付けて意見し、みなが広い視野と知識を得て帰るのが目的です。

教科書 /Textbooks

ノート（前学期から継続の「ネタ帳」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介・指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 鑑賞・講読と討論（1）
- 第2回 鑑賞・講読と討論（2）
- 第3回 鑑賞・講読と討論（3）
- 第4回 鑑賞・講読と討論（4）
- 第5回 鑑賞・講読と討論（5）
- 第6回 対談・鼎談を読み、まねる（1）
- 第7回 対談・鼎談を読み、まねる（2）
- 第8回 テーマ討論（1）
- 第9回 テーマ討論（2）
- 第10回 プレゼンテーションの仕方（1）【話し手篇】
- 第11回 プレゼンテーションの仕方（2）【聞き手篇】
- 第12回 プレゼンテーションと質疑応答（1）【グループA】
- 第13回 プレゼンテーションと質疑応答（2）【グループB】
- 第14回 プレゼンテーションと質疑応答（3）【グループC】
- 第15回 プレゼンテーションと質疑応答（4）【グループD】 および、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み…50% プレゼンテーション…50%

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- あらかじめテキストを精読、映画などを鑑賞して来てもらうよう、お願いする場合があります。
- 前学期と異なり、プレゼンテーション用のレジюмеを準備するような作業も生じます。
- 30分間のプレゼンでどれくらいの内容を語れるものなのか、文字で書き起こせば何文字ぶんなのか、体内時計を作っておくことが重要です。就職のための面接や、就職後のプレゼンでも役に立つはずの能力です。
- 語り方やレジюмеを工夫するということは、聞き手の身になって想像するということです。そのためには聞き手である人たちが何者であるかを知っている必要があるでしょう。普段から、ゼミの仲間がどういうことに関心を持ち、どういう思考傾向をもった人たちなのか、観察して、把握しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

- 鑑賞・講読の具体的な対象は、参加者の興味関心やリクエストに応じて柔軟に決めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文 議論 プレゼンテーション 芸術鑑賞 文化 歴史 地理 哲学思想

演習 A-2 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習の前半は、先行研究論文の輪読を行う。本年度は、形や描写・画風などから制作地や制作年代・描き手を考察している論文（仏画・近世絵画など）か、絵画の主題を考察している論文（風俗画・絵巻など）のどちらかを読む予定。

本演習の後半は、各自、卒業論文で中心的に取り上げる予定の作品を決めてもらい、絵画の場合には、描法や画面内容・描写表現を、彫刻の場合には、材質・造法や造形を詳細に紹介する発表を行ってもらう。少なくとも発表の10日前までには、レジユメの下書きを提出し、チェックを受けて、発表当日までには改善したレジユメを準備しておくこと。これによって、卒業論文のテーマ設定に向けての準備と、美術史学においては必須の能力であるディスクリプションの能力の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。輪読する論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順の確認、輪読する論文の決定
- 2回 先行研究論文の輪読①
- 3回 先行研究論文の輪読②
- 4回 先行研究論文の輪読③
- 5回 先行研究論文の輪読④
- 6回 先行研究論文の輪読⑤
- 7回 2～6回を踏まえたディスカッション
- 8回 博物館あるいは美術館見学
- 9回 発表およびディスカッション①
- 10回 発表およびディスカッション②
- 11回 発表およびディスカッション③
- 12回 発表およびディスカッション④
- 13回 発表およびディスカッション⑤
- 14回 発表およびディスカッション⑥
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...35% 夏休みの課題レポート・研修旅行レポート...30% 授業への参加態度...25% 作品観覧カード...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で輪読する論文には、事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べた上で授業に臨むこと。
発表者は、事前にレジユメのチェックを受けること。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

テーマ課題の講読・調査・報告、自由課題の報告、4年生の卒論中間報告を行う。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献購読①
- 第3回 文献購読②
- 第4回 文献購読③
- 第5回 文献購読④
- 第6回 テーマ報告①
- 第7回 テーマ報告②
- 第8回 4年生の卒論中間報告①
- 第9回 4年生卒論中間報告②
- 第10回 4年生卒論中間報告③
- 第11回 4年生卒論中間報告④
- 第12回 4年生卒論中間報告⑤
- 第13回 自由報告①
- 第14回 自由報告②
- 第15回 1月24日 自由課題報告③

成績評価の方法 /Assessment Method

発表50%と質問内容50%で評価する。
遅刻・無届欠席は減点とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表のレジュメの準備や史料の下読みをしておくこと、授業後には発表についての指摘を踏まえてレジュメの手直しを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

テーマ：神話・説話を通して日本の宗教文化を学ぶ
古代・中世の神話・説話作品の中には、神道や仏教と関わりの深い宗教説話が含まれている。この授業ではその中からいくつかの説話を取り上げ、関連説話や説話のもととなった歴史的事件に関する資料などを合わせて読解し、相互比較 検討した上で問題点・疑問点を発見し考えてもらう。演習であるので参加者全員にそれぞれ興味のある説話を担当し発表を行ってもらう。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

発表内容に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 発表の具体的準備手順について
- 3回目 古代・中世の宗教について
- 4回目 受講生による研究発表
- 5回目 同上
- 6回目 同上
- 7回目 同上
- 8回目 同上
- 9回目 同上
- 10回目 同上
- 11回目 同上
- 12回目 同上
- 13回目 同上
- 14回目 同上
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表にむけて十分な準備をしておくこと。
次回発表者の担当するテキストを熟読して臨むこと。
発表後も、内容が不十分だった点は補足し、授業で指摘された課題を調べること。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

発表にあたっては事前にレジユメの下書きを提出し、指導を受けてもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分で問題点を発見できる能力を養って下さい。

キーワード /Keywords

神祇説話、仏教説話 日本神話

演習 A-2 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化・大衆文化をテーマとした演習をおこなう。前半は演習A-1をふまえて共有テーマの継続議論をおこなう。後半は、独自の研究対象を決めて、発表・コメント・討議に引き続き取り組む。特に資料調査の技術、プレゼンテーションの技術向上を目指す。本演習は、卒業論文執筆にむけての準備期間として位置づけており、4年生の卒論中間発表の積極的な聴講を求める。なお授業では、合宿形式の演習（発表・議論・交流）が含まれることがある。また、演習の内容を補完するために、学外施設の見学を取り入れる予定。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 グループ討議 1
- 3回 グループ討議 2
- 4回 グループ討議 3
- 5回 グループ討議 4
- 6回 グループ討議 5
- 7回 グループ討議 6
- 8回 個人発表 1
- 9回 個人発表 2
- 10回 個人発表 3
- 11回 個人発表 4
- 12回 個人発表 5
- 13回 個人発表 6
- 14回 個人発表 7
- 15回 まとめ(卒論ガイダンス)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...50% 発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：ワークショップ、個人発表のための素材を常時探しておくこと。
事後：プレゼンテーション、論文作成技術向上のために、演習内容を振り返る。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は個人発表が中心となるが、小グループのなかでの相談や意見交換も重要な要素として取り込む。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎する。授業外時間においてグループ討議などの準備が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

古典研究のための基本的な知識と調査方法を身につけ、古典の多様性に触れることを目標とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリント資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○見玉幸多『くずし字用例辞典』東京堂出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション テキスト配布・担当の振り分け
- 2回 くずし字の読み方
- 3回 発表の進め方等の解説
- 4回 発表と質疑応答
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%
平常の学習状況 50%

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として以下の作業をしておくこと。

- ・ くずし字の翻刻
- ・ 本文の現代語訳
- ・ 担当箇所に出てくる語句などの意味調べ

また、参考文献について事前・事後に指示があった場合は、かならず目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

演習形式で授業を進めるため、積極的な態度で授業に臨むこと。

受講人数、受講者の興味関心によって、取り扱う作品を変更することがある。

場合によっては、ゼミの他に課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭の確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

日本現代文学の研究方法を習得することが、この授業のねらいです。
具体的に近現代の短編小説を一つ取りあげ、その小説における問題点を指摘するなどしてもらいます。

教科書 /Textbooks

ゼミのガイダンス時に、参加者全員で作成します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回～14回 現代日本の短編小説から好きなものを1つ選び、40～50分程度の研究発表をしてもらいます。残りの時間は質疑応答の時間です。
15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（50%）、レポート（50%）により評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業前に演習で扱う小説を読んで予習しておいてください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

自分の扱う作品だけでなく、他のゼミ生の扱う作品もなるべく読んでくるようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最初の演習発表ですので、高度なことは要求しません。
文学研究の雰囲気を知ってもらえればと思います。

キーワード /Keywords

日本現代文学

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

この演習では、国語学ならびに日本語学上の問題を取り扱う諸文献を読みます。その作業を通して、国語学・日本語学についての基礎的な知識や研究方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。扱う言語資料は、受講者の興味や関心を考慮に入れつつ決定する予定です。発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、議論を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針
- 第2回 先行研究の探し方
- 第3回 先行研究の分析方法
- 第4回 先行研究の検証方法
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 各人の発表(5)
- 第10回 各人の発表(6)
- 第11回 各人の発表(7)
- 第12回 各人の発表(8)
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を精読し、疑問点や自身の意見を整理し、授業に臨んでください。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習A-2では、日本語教育という枠から離れて広く教育の研究にはどのようなものがあるのか、どんな方法で行われているのかを幅広く知ってもらいたい、学習者オートノミーの専門書を輪読します。

また、同時に自分がこれまでの人生の中で経験したことを言葉にして表現できるようにするために、TAEを学びます。TAEを用いて自分の内側から自己表現を試みることは、内面的成長を促すことが期待できます。そして、人にとって言葉がどのようなものであるのかの理解が深められます。これは、言語教育を学ぶものにとって必須のことです。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①日本語教育実践分野の研究を知る。
- ②自らの関心を探求しながら自分の関心に適した研究分野を発見する。
- ③自分が日本語教育実践分野の何に関心を持っているのか言語化を試みる。
- ④研究について深く知ることに関心を持つ。

教科書 /Textbooks

青木直子他(2011)『学習者オートノミー：日本語教育と外国語教育の未来のために』ひつじ書房
『ことばと文字』6号、2016年、くろしお出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 青木直子(2013)『外国語学習アドバイジング：プロのアドバイスであなただけの学習をデザインする』Kindle版
- 中田賀之(2015)『自分で学んでいける生徒を育てる：学習者オートノミーへの挑戦』ひつじ書房

その他に日本語教育における先行研究例を適宜紹介します。

演習 A-2 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 学習者オートノミー：初めての人のイントロダクション
- 3回 言語学習におけるオートノミー
- 4回 学習者オートノミーの実践
- 5回 即興の技
- 6回 セルフアクセス言語学習
- 7回 言語学習のためのアドバイジング
- 8回 そもそも誰の物語なのか？
- 9回 学校文脈における英語教師の同僚性とオートノミー
- 10回 教室を越えた言語学習の場の考察
- 11回 学習者オートノミーが第二言語ユーザーを裏切る時
- 12回 卒論の研究テーマにしたいこと(1)興味のあることが研究テーマとなるかどうか
- 13回 卒論の研究テーマにしたいこと(2)興味のあることが研究テーマとなるために
- 14回 卒業論文の研究計画を立てよう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメを含む)...50% 参加者としての貢献度...30% レポート...20%
(主に発表を聞く時)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、予習を前提として行います。テキストの内容理解と批判的考察を行ってください。
また、授業終了後には、授業内容をまとめた報告書を交代で作成してもらいます。復習は、それを使って行います。

履修上の注意 /Remarks

助け合うことができるような人間関係を日頃から構築する努力をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習者オートノミーは、同僚性の中でこそ育つ。

キーワード /Keywords

学習者オートノミー 教師オートノミー TAE フェルトセンス

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんとじっくり語り合いたいと思います。後期は、ゼミ生主体で一冊の長編作品を選んでもらい、その作品を、あるときは速読、またあるときは精読することで、十分に満喫します。問題点について討論をすると同時に、文学批評についても様々なアプローチ方法を取り入れることにより、各自、自分にあった方法を早く見出してもらいたいと思っています。最後に卒論についての説明をし、卒論を書くにあたって方向性をつかんでもらう予定です。作品は主に翻訳を利用しようと考えています。

*ゼミの目的： 1. 自己発見 2. 議論のコツのマスター 3. 仲間作り

*ゼミ通信や卒業論文集などを作成する予定。

*ゼミ通信や4年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、その他を通して3、4年生の交流を図ります。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 扱う長編作品の決定、担当者決め、その他、今後の流れの説明
- 2回 作品の第1パートの内容確認と議論
- 3回 作品の第2パートの内容確認と議論
- 4回 作品の第3パートの内容確認と議論
- 5回 作品の第4パートの内容確認と議論
- 6回 作品の第5パートの内容確認と議論
- 7回 作品の第6パートの内容確認と議論
- 8回 作品の第7パートの内容確認と議論
- 9回 作品の第8パートの内容確認と議論
- 10回 作品の第9パートの内容確認と議論
- 11回 作品の第10パートの内容確認と議論
- 12回 作品の第11パートの内容確認と議論
- 13回 作品の第12パートの内容確認と議論
- 14回 論文の書き方、ノート作りについて
- 15回 まとめ

演習 A-2 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

担当時の準備・・・30% レポート・・・50% 平常点（発表、討論の参加など）・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者になった場合は、授業前に議論のための資料や参考文献などを読むなど、下準備をしっかりとした上で担当当日に臨んでください。配布資料の準備も必要です。担当者でない場合も、自分の意見が述べられるように問題意識を持って臨んでください。授業後は扱った作品に関して各自でテーマを決め、コメントを書いてもらう予定です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記の授業の目的（1．自己発見 2．議論のコツのマスター 3．仲間作り）を達成するためにも、授業への皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究ゼミです。アメリカ文学・映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考察します。またアメリカ文学・映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ（人、文化、社会、歴史）の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。また、夏休み中に決定した研究テーマに関する発表も全員に行ってもらいます。最終回には、卒論執筆の要領に関する指導も行います。

教科書 /Textbooks

ゼミで取り上げる教材は、ゼミ生と相談し、できるだけ、ゼミ生の意向が反映されるようにします。ちなみに、過去において、映画は、『チャーリーとチョコレート工場』、『モンスターズ・インク』、『シュレック』、『ブラダを着た悪魔』、『アイ・ロボット』、『ホリデイ』などの内容を議論しました。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『早わかりアメリカ』 302.53 I32
 - 『そうだったのかアメリカ』 302.53 I33
 - 『読んで旅する世界の歴史と文化』 亀井俊介 290.8 Y82
 - 『異文化社会アメリカ』 示村陽一 302.53
 - 『アメリカ合衆国とは何か』 253. Ta45
 - 『アメリカ人の性格』 ゴーラー 書庫にしかない 361.6 G67
 - 『この一冊でアメリカの歴史がわかる』 253.01 Sa69
 - 『アメリカの大衆文化』 亀井俊介 253.07 H85
 - 『アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ』 302.53 B89
 - 『ヨーロッパ人のアメリカ論』(アメリカ古典文庫21) 253 A44 1-21
 - 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』(有賀夏紀) 253 A79
 - 『アメリカ人の思考法』 エドワード・スチュワート 361.42 St5
 - 『文明としてのアメリカ』(全5巻) 日本経済新聞社 302.53
 - 『アメリカの歴史を知るための60章』 富田虎男 253 To58
 - 『アメリカの文化』 現代文明を作った人たち 亀井俊介
 - 『アメリカの社会』 変貌する巨人 猿谷要
 - 『アメリカ文化事典』 亀井俊介 研究社
- (すべて図書館蔵書です。)

演習A-2 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏休みレポートの内容発表1
- 2回 夏休みレポートの内容発表2
- 3回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論1
- 4回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論2
- 5回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論3
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論4
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論5
- 8回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論6
- 9回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論7
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論8
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論9
- 12回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表1
- 13回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表2
- 14回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表3
- 15回 卒論執筆に関する指導

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...40% 夏休み明け提出のレポート...30% ゼミ参加への積極度...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、発表の担当が当たっている場合はB 4のレジユメを作成しておいて下さい。発表が当たっていない学生も、題材となる映画を文化的側面に注意しつつ、見ておいて下さい。授業後には、発表レジユメを再度読み直し、可能な限りレジユメのテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

この演習では、一学期に身につけた方法論をベースにして、ゼミ生個々が自分自身の興味関心に基づいた研究報告を行うことが中心となります。必要に応じて、共同での文献講読・作品批評も行います。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 インTRODクシヨン
- 第二回 個人研究報告(1)
- 第三回 個人研究報告(2)
- 第四回 個人研究報告(3)
- 第五回 個人研究報告(4)
- 第六回 個人研究報告(5)
- 第七回 文献講読・作品批評(1)
- 第八回 個人研究報告(6)
- 第九回 個人研究報告(7)
- 第十回 個人研究報告(8)
- 第十一回 個人研究報告(9)
- 第十二回 個人研究報告(10)
- 第十三回 個人研究報告(11)
- 第十四回 文献講読・作品批評(2)
- 第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各報告について、事前にレジユメを読んでおいてください。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

夏休みの間に、研究テーマをある程度絞り、報告に備えておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身の研究報告に責任を持つのはもちろんですが、他のゼミ生の報告に対しても真摯に耳を傾け、一緒になって考えるような態度を期待します。

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、演習A-1同様、西洋（主にフランス）や日本を対象に、有形・無形の文化遺産、食、観光、アニメ、マンガ、ファッション、文化・社会における女性、性的マイノリティ、移民などのテーマを扱う。引き続き多様な文献・資料を読解し批判しながら、意義のある問いをどのように発見し、その問いにどうすれば説得的に答えられるかを重点的に考え、卒業論文執筆の土台を作る。

教科書 /Textbooks

なし。プリントまたは文献のコピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習の進め方
第2～7回 文献の講読
第8回 プレゼンテーションの方法
第9～14回 研究発表
第15回 卒論に向けて

以上は予定であり、受講者の理解度や人数に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への積極性、発表・・・50%、期末レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、指示された通りに予習を行うこと。授業後は、授業の復習にとどまらず、紹介された文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には最低1度の発表が課される。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習の主役は学生である。議論に参加しやすい雰囲気を作るよう心がけるので、間違いを恐れず積極的に発言してほしい。

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

主として近現代アメリカ合衆国について各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。また、適宜ディベートを行い、批判的な思考力を養う。

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方などについての話し合い
- 2回 卒論の書き方などについての説明
- 3回 受講者による発表・討議
- 4回 受講者による発表・討議
- 5回 受講者による発表・討議
- 6回 受講者による発表・討議
- 7回 受講者による発表・討議
- 8回 受講者による発表・討議
- 9回 受講者による発表・討議
- 10回 受講者による発表・討議
- 11回 受講者による発表・討議
- 12回 受講者による発表・討議
- 13回 受講者による発表・討議
- 14回 受講者による発表・討議
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への貢献度、発表内容）100%。ただし出席状況によって減点する場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて参考文献を読み込み、事後に指摘されたことやさらに興味を持ったことについて各自で調べる。また、日々のニュースに関心を持つ。

履修上の注意 /Remarks

発表者は必ず、レジュメを作って発表にのぞむこと。

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成にあたって、自身の設定した研究テーマについてどのようなアプローチが可能か、ということ前期までに検討しています。夏休みを経て、授業参加者それぞれがどのように知識を深め、アイデアを練り、調査に着手したかを発表し、聴衆との議論を行います。また具体的な文学作品を取り上げて、それについて批評的なアプローチで発表してもらいます。

教科書 /Textbooks

ピーター・バリー『文学理論講義：新しいスタンダード』ミネルヴァ書房、2014。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫。
- 土田ほか『現代文学理論』新曜社、1996。
- テリー・イーグルトン『文学とは何か』岩波文庫。
- ラマーン・セルデン『ガイドブック現代文学理論』大修館書店、1989。
- ウンベルト・エコ『論文作法』谷口勇訳、而立書房、1991。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第3回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第4回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第5回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第6回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第7回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第8回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第9回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第10回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第11回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第12回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第13回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第14回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加60%、ゼミでの報告40%

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表・報告内容について入念な準備を行うこと。授業後には議論となった問題に関連する文献を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

自分の意見を述べ、論理的に議論をすすめること。自分の関心領域につねにアンテナを張るとともに、隣接領域や自身の研究の参考になる可能性をもつものを貪欲に吸収すること。たくさん本を読み、色々な意見に耳を傾け、すばらしい作品や研究に数多くふれること。議論への積極的な参加が必須。議論を通じて卒業論文の構想を具体的なものにしていきましょう。合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン 文学 文化 批評

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

前半は演習 A-1 での実践を踏まえ、東南アジア諸社会および日本との関係史を主題に資料を持ち寄って批判的に検討し意見交換をする。卒業論文のテーマ選定を視野に、資料収集の方法を実践的に学ぶ。学外施設への見学などのフィールドワークを通して視野を広げ思考を深化させたい。後半は卒業論文作成に向けて構想を発表し、ゼミ生同士で互いの関心を共有し、助言しあうとともに、プレゼンテーションの練習も行う。

教科書 /Textbooks

演習内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、資料収集の仕方
- 第2回 資料の検討とディスカッション(1)
- 第3回 資料の検討とディスカッション(2)
- 第4回 資料の検討とディスカッション(3)
- 第5回 資料の検討とディスカッション(4)
- 第6回 資料の検討とディスカッション(5)
- 第7回 資料の検討とディスカッション(6)
- 第8回 中間討論と卒論作成ガイダンス(1)
- 第9回 卒論構想発表(1)
- 第10回 卒論構想発表(2)
- 第11回 卒論構想発表(3)
- 第12回 卒論構想発表(4)
- 第13回 卒論構想発表(5)
- 第14回 卒論構想発表(6)
- 第15回 まとめと卒論作成ガイダンス(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、発表60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前期と同様、各回の事前に指示する資料に目をとおり、追加調査を行い、ゼミの仲間と議論したい点を挙げてくる。演習後は授業内で指示された資料を読み込み、ディスカッションの内容などをより深く理解するよう努める。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

前期と同様、演習内での議論への積極的な参加を重視するので、事前にテキストを熟読し、疑問点、議論したい点を考えてくること。
新聞、テレビ、インターネットなどを通して実社会で生起する事象に日ごろからよく目配りし、
演習で議論し、学んだことに照らして再考してほしい。扱うテーマを自身の関心にひきつけて主体的に取り組んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文作成を視野に、まずは視野広げ、次第に研究の焦点を絞っていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習は、優れた先行論文から日本近代文学研究の基礎的な方法を学び、さらに先行研究との対話の中で、演習 A-1 で発表した自分の論のオリジナリティを浮かび上がらせることを目標とする。

具体的にはまず、演習 A-1 で取り上げて精読した日本の近代短編小説（あるいは近代日本を描いた短編小説）に関する先行論文にあたる。先行論文にあれば、自分は気にもかけなかった部分に着目して疑問を提出し、詳細な分析を行った魅力ある論文に出会えるだろう。同じ作品を読んだはずなのに、なぜこの論者は私が気にも止めなかったこの部分に着目することができたのか。そして、どのようなアプローチの仕方、問題の解決に挑んでいるのか。

先行論文から、日本近代文学研究における問いの立て方と、様々なアプローチの方法を学び、その学びの成果を演習内で発表する。と同時に、演習 A-1 で発表した自分の〈読み〉がオリジナリティを維持できているのかの検討を行う。

発表者以外の者も、取り上げられる作品を必ず読んで演習に参加し、各担当者の発表を聴きながら、多種多様な作品アプローチの方法を学び、身につける。

教科書 /Textbooks

テキストは、各自が取り上げる作品と論文。それぞれに事前に連絡を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	日本近代文学研究の基本 1 【先行論文の集め方】
第 3 回	日本近代文学研究の基本 2 【先行論文の読み方】
第 4 回	日本近代文学研究の基本 3 【発表資料の作り方】
第 5 回～第 1 4 回	学生による演習発表
第 1 5 回	まとめ【演習 B-1 にむけて】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習発表内容... 50% 授業への取り組み... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予告された文学作品を必ず読んでから、演習に参加すること。授業後は、演習で学んだことや他の学生の解釈を踏まえて作品を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

演習担当者は責任を持って準備と発表を行うこと。他の学生は、本文についての疑問や読解に関する意見を述べるための事前準備をしておくこと。

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、基本的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、考察結果を小論文および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習 A-2

SEM312M

授業の概要 /Course Description

西洋美術史研究において必須となる文献（英語文献を含む）の精読を行い、専門性の基礎的体力を養ったのち、卒業論文制作に向けての準備に取り掛かる。

前半では、受講者の関心にしたがって、日本語で書かれたテキスト（文献）を選び精読し、その後、英語で書かれたテキスト（文献）を選び精読する。その際、数人のグループに分かれ、その内容について補足を交えながら発表してもらい、受講者全員で美術史上の意義と問題点についてディスカッションを行い、テキストの理解を深める。

後半では、各自、卒業論文で取り上げる予定の作品を決め、その先行研究について詳細にまとめ、発表を行う。発表者は、少なくとも発表の一週間前までにはレジュメの下書きを提出し、チェックを受けて、発表当日までに改善したレジュメを準備しておくこと。これにより、卒業論文のテーマ設定に向けての準備を行う。

（なお、前半と後半の授業回数割合は、受講者の人数によって変更する場合がある。）

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（授業の手順の確認と担当する論文の決定）
- 第2回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション①
- 第3回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション②
- 第4回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション③
- 第5回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション④
- 第6回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション⑤
- 第7回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション⑥
- 第8回 美術館見学
- 第9回 卒論に向けての発表①
- 第10回 卒論に向けての発表②
- 第11回 卒論に向けての発表③
- 第12回 卒論に向けての発表④
- 第13回 卒論に向けての発表⑤
- 第14回 卒論に向けての発表⑥
- 第15回 まとめ

演習 A - 2 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み (レポート提出を含む) ...40%
発表内容...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱う論文については受講者全員が事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べること。
後半について、発表者は少なくとも一週間前にはレジユメの下書きを提出し、チェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は「演習 A - 1」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

西洋美術 博物館学

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

目標

- 卒業論文のテーマを徐々に固め、本文執筆の下準備をしましょう。

方針

- 初回で、参加者が何に興味をもっているのかを聞き取り、それを踏まえて、テーマ設定上のコツや注意事項をレクチャーします。4月の演習開始時点で確固たるテーマが決まっている必要はありません。教員が思考の展開へ誘導していくので、焦る必要もありません。ただし、6月を目処に卒論の題目を決めにかかるという意識はもっててください。

中間報告について

- 中間報告では、提出前の論文題目を発表し合い、意見交換します。漠然とし過ぎていないか、唐突な比較論になっていないか、ちぐはぐな立論になっていないかなど、仲間からの率直な意見を聞き入れて、修正をかけましょう。意見・批判は「ギブ&テイク」を原則とします。おおいに発言して仲間へ貢献し、また、謙虚かつ真摯に意見を聞き入れて、今より良いモノを目指しましょう。

教科書 /Textbooks

- ノート（形式自由。卒論に関する事柄を集約するような「ネタ帳」を用意してください。すでにそのようなものがある場合は、それを継続して使ってください。ノートPCを持ち込んでも構いません。スマートフォンだと、頭の回転に入力が追いつかないはずなので、お勧めしません。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介・指示します。

演習B-1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【自己紹介 今後のスケジュール確認】
- 第2回 自分の関心を広げる
- 第3回 自分の関心を絞り込む
- 第4回 一次文献はどれか
- 第5回 論文題目(タイトル)の付け方
- 第6回 中間報告(1)【前半】
- 第7回 中間報告(2)【後半】
- 第8回 問題を立てる
- 第9回 問題解決の道筋を想像する
- 第10回 構想メモの作り方
- 第11回 情報の整理法
- 第12回 資料調査の仕方
- 第13回 資料調査の実践【二次文献のリストアップ】
- 第14回 構想メモの添削とアドバイス
- 第15回 まとめ 今後のスケジュールリング

成績評価の方法 /Assessment Method

中間報告…50% 構想メモの提出…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

家で考えてまとめてくる、調べてくる、教室で報告する、といった作業が常に伴うでしょう。卒論の執筆につながるような課題のみを出すので、演習が卒論執筆のペースメーカーであるという感覚で、課題をこなして行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

行き詰まりを感じたら、マメに相談してください。ダイレクトに答えを授けるような過保護にはしませんが、問題打開のきっかけを提案できます。みなさんがどのような状態なのか未知のまま時が流れ、極限になってから「実は…白紙です」と打ち明けられるのが、教員にとっては一番無念なことです。

キーワード /Keywords

卒業論文 アカデミック・スキル 調査方法 論文作法

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

各ゼミ生による具体的な卒論構想の報告を通じて、卒業論文の執筆を進めていきます。論文の執筆方法などについても、詳しい指導を行います。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 オリエンテーション
- 第二回 個人研究報告(1)
- 第三回 個人研究報告(2)
- 第四回 個人研究報告(3)
- 第五回 個人研究報告(4)
- 第六回 個人研究報告(5)
- 第七回 卒論指導(1)
- 第八回 個人研究報告(6)
- 第九回 個人研究報告(7)
- 第十回 個人研究報告(8)
- 第十一回 個人研究報告(9)
- 第十二回 個人研究報告(10)
- 第十三回 個人研究報告(11)
- 第十四回 卒論指導(2)
- 第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分がどのような卒論を書きたいと思っているのか、できるだけ具体的なイメージをふくらませた上で、ゼミで発表して下さい。また、各報告に際しては、報告担当者以外のメンバーも、事前に送付する原稿をきちんと読んできて下さい。

履修上の注意 /Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ここでの卒論構想の報告が、夏休み以降の勉強の土台となります。気を入れて取り組んで下さい。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文で考察するテーマを明確に設定し、その問題に関する先行研究論文の紹介と批判を発表形式で行ってもらおう。一回の発表につき、少なくとも三本以上の先行研究論文の紹介・批判を行い、それを各自に二回ずつ行なう。少なくとも発表の10日前までには、レジユメの下書を提出し、チェックを受けて、発表当日までに改善したレジユメを準備しておくこと。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順の確認
- 2回 発表準備の進展状況の確認
- 3回 発表およびディスカッション
- 4回 発表およびディスカッション
- 5回 発表およびディスカッション
- 6回 発表およびディスカッション
- 7回 発表およびディスカッション
- 8回 発表およびディスカッション
- 9回 発表およびディスカッション
- 10回 発表およびディスカッション
- 11回 発表およびディスカッション
- 12回 発表およびディスカッション
- 13回 博物館あるいは美術館見学
- 14回 研修旅行の日程説明、研修旅行における解説担当作品の決定
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...70% 授業への参加態度...20% 作品観覧カード...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は、事前にレジユメのチェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒論題目提出のための指導、先行研究の取りまとめと文献目録作成の指導を行います。曜日と時間は別に指示します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

卒論のテーマを決めるのには以下の文献の論文などの先行研究を参考にしてください

- 『岩波講座日本歴史』(新旧2種類)(岩波書店)
- 『岩波講座日本通史』(岩波書店)
- 『日本の近世』全18巻(中央公論社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自由報告と卒論題目指導①
- 第3回 自由報告と卒論題目指導②
- 第4回 自由報告と卒論題目指導③
- 第5回 自由報告と卒論題目指導④
- 第6回 自由報告と卒論題目指導⑤
- 第7回 卒論題目指導⑥
- 第8回 卒論題目指導⑦
- 第9回 先行研究のまとめと文献目録作成指導①
- 第10回 先行研究のまとめと文献目録作成指導②
- 第11回 先行研究のまとめと文献目録作成指導③
- 第12回 先行研究のまとめと文献目録作成指導④
- 第13回 先行研究のまとめと文献目録作成指導⑤
- 第14回 期末レポート指導
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表および質疑応答の内容・・・100%

事前もしくは事後(3日以内)に欠席の連絡がない無断欠席が3回以上の者は不可とする。

遅刻・無断欠席は減点します。就活で欠席する場合は証明する資料を見せてください。

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表のレジユメの準備や史料の下読みをしておくこと、授業後には発表についての指摘を踏まえてレジユメの手直しを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

1学期のまとめとして夏休み中にレポート（4000字以上、原稿用紙10枚分、A4用紙で3枚分）を課します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 日本の古代・中世文化を学び研究するにあたって
- 3回 研究発表に関する説明
- 4回 研究発表と討議
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。
発表内容の不十分な点、指摘された課題は後日勉強しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

日本文化、神道、仏教

演習B-1 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。
また1学期の終了時点で卒業論文の構想・進捗状況についてのレポートを提出してもらう。
3年生との研究上の交流にも積極的な参加が求められる。
なお本授業には、合宿形式の演習が含まれる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成にむけての準備
- 3回 3年生との交流会
- 4回 卒業論文作成にむけての発表①
- 5回 卒業論文作成にむけての発表②
- 6回 卒業論文作成にむけての発表③
- 7回 卒業論文作成にむけての発表④
- 8回 卒業論文作成にむけての発表⑤
- 9回 卒業論文作成にむけての発表⑥
- 10回 卒業論文作成にむけての発表⑦
- 11回 卒業論文作成にむけての発表⑧
- 12回 メディアをつくるワークショップ(事前討議)
- 13回 メディアをつくるワークショップ(総括討議)
- 14回 メディアをつくるワークショップ(2学期にむけて)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(参加態度、課題) ...50% 発表...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：発表者、コメンテータ、司会者の打ち合わせ
事後：次のステップ(進捗状況のレポート、構想発表)にむけて得られた課題をこなす

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業外の時間において、発表にむけての情報収集をまめにおこなってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文執筆にむけて、受講者自らの興味関心に基づき、古典文学の問題を追及する。作品に対する自らの解釈、意見などを演習形式で発表する。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究倫理について
- 3回 発表担当の割り振りと発表資料の作り方
- 4回～14回 受講者による課題の発表と質疑応答
- 15回 1学期のまとめと2学期への課題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の参加態度 50%
演習の内容 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習には、十分に担当の作品を読み込み、調査したうえで臨むこと。自らの発表の時だけでなく、他の受講者の発表であっても事前に内容をさらうなどの予習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

場合によっては、通常のゼミの他に課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

本演習は、日本近代文学の研究領域で卒業論文に取り組もうとする者が、論文の執筆に必要な知識を改めて学習し、卒業論文の準備を実際に行うことを目的とする。
扱う作品を決定した後、精読と共に行わなければいけないことは、先行論文の収集とまとめ、そして問題提起である。卒業論文の第一章に該当する準備を、本演習では行っていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。演習中に適宜資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究倫理教育
- 第3回 先行論文の収集
- 第4回 論文の表記（引用と注）
- 第5回 先行論文の整理
- 第6回 先行研究史のまとめ
- 第7回 問題点の抽出
- 第8回 問題提起の方法
- 第9～14回 卒論構想発表【学生発表】
- 第15回 まとめ【演習B-2にむけて】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への取り組み... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に与えられた課題に取り組む、演習に参加すること。演習後は、学んだ内容を踏まえて、それぞれの卒業論文準備に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

春休み期間中に卒業論文で取り扱う作品を決めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。

授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、議論を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

演習B-1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針と発表予定について
- 第2回 研究テーマの設定
- 第3回 研究論文の構成
- 第4回 研究の方法
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 各人の発表(5)
- 第10回 各人の発表(6)
- 第11回 各人の発表(7)
- 第12回 各人の発表(8)
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を精読し、疑問点や自身の意見を整理し、授業に臨んでください。
授業の後に、発表の場で出された意見等を踏まえ、研究内容をブラッシュアップして行ってください。

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習B-1では、前半に各自の卒業論文のテーマに沿った発表を行います。そして、後半に卒業論文の構想発表会を行います。卒業論文の研究課題と研究方法を決定することが目標になります。

教科書 /Textbooks

西條剛央(2007)『ライブ講義 質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』新曜社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『実践研究計画作成法 - 情報収集からプレゼンテーションまで』(北原保雄、凡人社)
- 『ライブ講義 質的研究とは何か：SCQRMアドバンス編』(西條剛央、新曜社)
- 『<ほんとうの自分>のつくり方 - 自己物語の心理学』(榎本博明、講談社現代新書)
- 『ステップ式質的研究法 - TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)
- 『日本語教育のための質的研究入門-学習・教師・教室をいかに描くか』(館岡洋子編、出版)
- 『混合研究法入門 - 質と量による統合のアート』(抱井尚子、医学書院)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、春休みの課題報告
- 2回 卒論テーマ：発表者(1)
- 3回 卒論テーマ：発表者(2)
- 4回 卒論テーマ：発表者(3)
- 5回 卒論テーマ：発表者(4)
- 6回 研究デザインとは何か
- 7回 研究目的の明確化
- 8回 概念枠組み
- 9回 研究課題の決定
- 10回 研究方法
- 11回 研究の評価
- 12回 卒論構想発表：発表者(1)
- 13回 卒論構想発表：発表者(2)
- 14回 今後の研究計画
- 15回 総括及び

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む) ... 70 % 授業への取り組み ... 30 %

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究方法を学ぶとともに、実際に自分自身の研究課題について、研究を実行していきます。
授業外での学習・研究がなければ、卒業論文は完成しません。

履修上の注意 /Remarks

参考文献は、適宜紹介します。
授業は、予習を前提として行います。授業終了後には、授業内容をまとめた報告書を交代で作成してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、本格的な卒論作成に取り掛かる前に、「質的研究とは何か」に対する理解を深めます。

キーワード /Keywords

研究動機 研究デザイン 研究方法 先行研究 レビュー

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合います。4年次では、大学4年間の総決算ともいべき卒論の指導をします。1学期は、9月の中間発表に備えて議論を煮詰める、卒論作成の予備段階です。原則としてグループ活動（個別指導も含む）をします。毎回、各自が発表をし、お互いに意見交換をすることで、扱いたいテーマ、作品を決定し、最終的に9月に行う中間発表のためのレポート作成を目指します。

*ゼミ通信や4年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、ビブリオバトル等を通して3、4年生の交流を図ります。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマや作家に応じて数名のグループ分けをし、前期の方針を確認。
(グループ毎に日程を調整して、毎週集合。)
- 2回 それぞれのグループのメンバー各自がテーマに沿って課題の成果を発表。
- 3回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 4回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 5回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 6回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 7回 グループ毎の活動を通して卒論題目を決定。
- 8回 各自、400字程度で論じたい内容をまとめる。
- 9回 各自コンテンションを考え、お互いに議論をしつつ決定。
- 10回 論を膨らますために必要な内容の議論。
- 11回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 12回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 13回 前回の議論を通じて出てきた新たな課題について報告。
- 14回 夏休み期間の過ごし方について、また中間発表の準備。
- 15回 6000字以上の中間発表用原稿を仕上げる。

演習B-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（発表、討論の参加など）...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、やるべきことを各自、自主的に決めてもらいます。それによって、授業前にはその準備を、また、授業後には、みんなからもらったコメントを踏まえて内容を整理し、次回の課題、報告につなげていってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

演習A-1、A-2を通して指示した必要文献、資料を読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒論テーマの設定に関する個別指導の後、卒論構想に対する個別指導を十分な時間をかけて行ないます。構想を十分に練った後に卒論の執筆を開始することが、能率的な卒論作成につながります。また、卒論の大まかな下書きを、早い時期から書き始めることにより、無理のない形で余裕をもって卒論を完成させます。4年次は、就職活動で多忙になるので、ゼミ生の都合に合わせた個別指導を行ないます。全員の卒論構想が確定した後、2回程度に分けて、卒論構想の発表会を行います。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。必要に応じて資料をコピーの形で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館2階の指定図書コーナーに、多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論のテーマの決定に関する個別指導1
- 2回 卒論のテーマの決定に関する個別指導2
- 3回 卒論のテーマの決定に関する個別指導3
- 4回 卒論のテーマの決定に関する個別指導4
- 5回 卒論のテーマの決定に関する個別指導5
- 6回 卒論のテーマの決定に関する個別指導6
- 7回 卒論のテーマの決定に関する個別指導7
- 8回 卒論の全体的構成に関する個別指導1
- 9回 卒論の全体的構成に関する個別指導2
- 10回 卒論の全体的構成に関する個別指導3
- 11回 卒論の全体的構成に関する個別指導4
- 12回 卒論の全体的構成に関する個別指導5
- 13回 卒論構想の発表会 1
- 14回 卒論構想の発表会 2
- 15回 夏休み中の課題に関する説明

成績評価の方法 /Assessment Method

春休み明けレポート(卒論構想)...50% 卒論指導の受講状況...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、卒論指導の日時に関してメールでアポを取ってください。また、卒論の構想や下書き等を作成し、指定された時間までに、そのファイルをメールで送付して下さい。授業後は、指導に従って関連書籍を閲覧し、卒論の構想や下書き等に加筆と改訂を加えてください。

履修上の注意 /Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

本演習では、前年度に行った報告をもとにして、卒業論文執筆のための発表を行う。卒業論文の構成方法、注の付け方、引用の仕方などの執筆方法を理解し、教員や他の受講者からの助言を踏まえて議論を深め、説得力のある主張を展開できるようになることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の進め方
- 第2～3回 卒業論文の執筆方法
- 第4～7回 研究発表
- 第8～15回 卒業論文の構想の発表

以上は予定であり、受講者の人数や理解度に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への積極性、発表・・・30%、卒論中間報告(期末レポート)・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の発表の前には入念な準備を行うこと。発表後は、教員や他の受講者の意見の中で適切だと思うものを自身の論に反映させ、次の発表や学期末の卒論中間報告(期末レポート)に備えること。

履修上の注意 /Remarks

春休みの期間中に卒業論文のテーマを決め、具体的な構成について考えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った報告を行う。

教科書 /Textbooks

各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方についての話し合い。卒論の書き方などについての確認。
- 2回 受講者による発表・質疑応答
- 3回 受講者による発表・質疑応答
- 4回 受講者による発表・質疑応答
- 5回 受講者による発表・質疑応答
- 6回 受講者による発表・質疑応答
- 7回 受講者による発表・質疑応答
- 8回 受講者による発表・質疑応答
- 9回 受講者による発表・質疑応答
- 10回 受講者による発表・質疑応答
- 11回 受講者による発表・質疑応答
- 12回 受講者による発表・質疑応答
- 13回 受講者による発表・質疑応答
- 14回 受講者による発表・質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への貢献度、発表内容）100%。ただし出席状況によって減点する場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて参考文献を読み込み、事後に指摘されたことやさらに興味を持ったことについて各自で調べる。また、日々のニュースに関心を持つ。

履修上の注意 /Remarks

発表者は、必ずレジュメを作成して発表にのぞむこと。

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

四年次までの学習、研究、読書、調査の成果を元に卒業論文のテーマを設定し、執筆してもらいます。

教科書 /Textbooks

○ウンベルト・エコ『論文作法』而立書房、1991。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

個別の学生の関心に併せて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 ガイダンス、授業運営について
第二回から第十四回 履修者による経過報告
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での議論への参加 50% 日常の研究活動 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、調査、執筆状況についての入念な報告準備をすること。授業後には、指摘された箇所の修正や指示された文献の内容を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

適宜必要なアドバイスや提案はしますが、あくまで勉強するのは自分です。計画的に調査・研究を進めてください。

キーワード /Keywords

スペイン 文学 文化 批評

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文を作成する上での第一歩目となる演習です。

扱う作品は何か、その作品における考えるべき問題は何か、問題に答える上で調べるべき資料は何かなどを、みんなで一緒に考えていきましょう。

教科書 /Textbooks

特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス

2回～14回 各自、扱う作品、作品における問題の所在、問題に答えるべく何を調査すべきかなどについて、現段階で考えていることを報告します。それを受けて、参加者みんなで、問いは妥当か、調査対象は妥当かなど、自由に議論しましょう。

15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（50%）、レポート（50%）により評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】

授業前に可能な限り他の参加者の扱う作品を読み、演習に参加してください。

授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

自分の扱う作品だけでなく、他のゼミ生の扱う作品もなるべく読むようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文学研究は、面白い問いをたてることができれば、8割がた終わったも同然です。

問いが固まれば自ずと作業も決まり、それを受けて結論も決まります。

最初で頭を大いに使って下さい。

キーワード /Keywords

日本現代文学

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文で考察するテーマを設定し、その問題に関する先行研究論文の紹介と批判を発表形式で行う。発表の際は、レジュメとともにパワーポイントで作成した視覚資料を用いること。発表後は、受講者全員で発表に関しての問題点などをディスカッションし、検討を加える。また、発表の一週間前までにはレジュメの下書きを提出し、チェックを受け、発表当日までに改善したレジュメを準備しておくこと。授業の後半では、各自の卒論の進捗状況を発表する。よって、少なくとも一人2回は発表の機会をもつ。また、毎回ディスカッションを行うことで、西洋美術史全体を概観できる力を養う。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業の手順の確認)
- 2回 美術関係資料検索システム的使用方法について
- 3回 発表準備の進捗状況の確認
- 4回 卒論へ向けての発表①
- 5回 発表①についてのディスカッション
- 6回 卒論へ向けての発表②
- 7回 発表②についてのディスカッション
- 8回 卒論へ向けての発表③
- 9回 発表③についてのディスカッション
- 10回 卒論へ向けての発表④
- 11回 発表④についてのディスカッション
- 12回 卒論へ向けての発表⑤
- 13回 発表⑤についてのディスカッション
- 14回 卒論構想発表会および質疑応答①
- 15回 卒論構想発表会および質疑応答②

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40%
発表内容...60%

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は、一週間前にはレジユメの下書きを提出し、事前にチェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

毎回ディスカッションがあるので必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

西洋美術

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-1

SEM313M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための研究と発表を行う。ゼミ生同士でピア・レビューを行い、関心を共有し、相互にアドバイスをしながら執筆を進める。なお本授業には、学外実習形式の演習が含まれる。

教科書 /Textbooks

各自の必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文作成に向けた研究発表①
- 第3回 卒業論文作成に向けた研究発表②
- 第4回 卒業論文作成に向けた研究発表③
- 第5回 卒業論文作成に向けた研究発表④
- 第6回 卒業論文作成に向けた研究発表⑤
- 第7回 卒業論文作成に向けた研究発表⑥
- 第8回 卒業論文作成に向けた研究発表⑦
- 第9回 卒業論文作成に向けた研究発表⑧
- 第10回 卒業論文中間発表①
- 第11回 卒業論文中間発表②
- 第12回 卒業論文中間発表③
- 第13回 卒業論文中間発表④
- 第14回 卒業論文中間発表⑤
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(参加態度・課題) 40% 発表内容 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回研究発表に向けて、調査と執筆を進める。演習の仲間の研究内容についてもコメントを用意する。演習後は演習内で教員や仲間から受けたコメントと、参照資料についての指示などに基づき、研究と論文の改稿を進める。

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

自分の卒論作成のみならず、ゼミの仲間と研究関心を共有し、刺激しあいながら卒論作成を進めていきたいので、演習前には発表者の草稿を熟読し、コメントで相互に助力してほしい。そのために、専門外の文献や、実社会で生起する出来事にも広く目配りし、演習で学んだことに照らして思考を深めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの仲間と助け合い、刺激しあいながら卒論を執筆し、「自分史上最も頑張った一年」にしましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

目標

- 卒業論文を完成させて提出し、卒業すること。

方針

- 卒業論文を仕上げるまでの手続きは、社会に出てから仕事と取り組む際にも応用し得る、汎用性のあるものです。また、論文には、良くも悪くも、いまの自分がどのような人であるのかが如実に反映されてしまいます。大学を出るためだけの「やっつけ仕事」と捉えるべきではないでしょう。自分が納得のできる論文を提出し、「自分はこれだけできる人間なのだ」という確信とともに社会へ旅立てるかどうかは、非常に大きな岐路です。本ゼミでは卒論をこのように位置づけます。就職活動との両立は大変ですが、悔いの残らない一本を完成させましょう。
- 学位論文は、提出期限が厳密に定められているため、時間とペースについては神経質になってください。もちろん、それが焦りの原因になってしまうわけですが、早めに相談してもらえれば、一緒に手を打つことができますし、それこそが問題の根本的解決です。

教科書 /Textbooks

ノート（前学期から継続の「ネタ帳」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介・指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文執筆状況の確認とアドヴァイス(1)
- 第2回 論の構成について
- 第3回 学術論文の文体について
- 第4回 参考文献とその表記について
- 第5回 論文執筆状況の確認とアドヴァイス(2)【暫定稿の提出】
- 第6回 論文執筆に際しての技術的なことについて: Wordの使い方など
- 第7回 目次について
- 第8回 序論の書き方について
- 第9回 論文執筆状況の確認とアドヴァイス(3)【暫定稿の提出】
- 第10回 論文を冊子化する際の注意
- 第11回 ゼミ内での原稿の回し読みと、意見交換・校正(1)
- 第12回 ゼミ内での原稿の回し読みと、意見交換・校正(2)
- 第13回 ゼミ内での原稿の回し読みと、意見交換・校正(3)
- 第14回 ゼミ内での原稿の回し読みと、意見交換・校正(4)
- 第15回 論文提出

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の提出・・・80%、定期報告・・・20%

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 調査し、考え悩み、言葉にして書き付け、(自己)批判し、赤ペンを加える…という作業の繰り返しになるでしょうが、ゼミ外でのそのような孤独な時間は、研究の重要な一部です。
- ゼミ内で仲間から得た意見を真摯に受け止め、それを原稿に反映させるという態度を大事にしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、ゼミの冒頭で、「順調？」と各自に問い掛け、妙に青ざめている人がいないか、確認させてください。「行き詰ったら早めに相談」を鉄則としましょう。

キーワード /Keywords

卒業論文 アカデミック・スキル 調査方法 論文作法

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒論の進行状況について、実際に執筆した原稿も含めて報告してもらいます。報告に対しては細かな指導を加え、仕上げを目指します。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 オリエンテーション
- 第二回 個人研究報告(1)
- 第三回 個人研究報告(2)
- 第四回 個人研究報告(3)
- 第五回 個人研究報告(4)
- 第六回 個人研究報告(5)
- 第七回 卒論指導(1)
- 第八回 個人研究報告(6)
- 第九回 個人研究報告(7)
- 第十回 個人研究報告(8)
- 第十一回 個人研究報告(9)
- 第十二回 個人研究報告(10)
- 第十三回 個人研究報告(11)
- 第十四回 卒論指導(2)
- 第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分が報告者の際に十分な準備をするのはもちろんですが、他のメンバーの報告に際しても、前もって送付する原稿をきちんと読んでおくことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよラストスパートです。お互いに問題点などを指摘しあって、より良い卒論を目指しましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

各自に卒業論文の構想発表・中間報告を行ってもらい、自分の発表の10日前までにはレジユメの下書を提出し、チェックを受けて、発表当日までに改善したレジユメを準備しておくこと。
また、卒業論文の書いた部分を随時提出し、その添削・コメントを踏まえながら、卒業論文の完成を目指してもらおう。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順の説明
- 2回 発表およびディスカッション
- 3回 発表およびディスカッション
- 4回 発表およびディスカッション
- 5回 発表およびディスカッション
- 6回 発表およびディスカッション
- 7回 発表およびディスカッション
- 8回 博物館あるいは美術館見学
- 9回 卒業論文進展状況の確認
- 10回 卒業論文進展状況の確認
- 11回 卒業論文進展状況の確認
- 12回 卒業論文進展状況の確認
- 13回 卒業論文進展状況の確認
- 14回 博物館あるいは美術館見学
- 15回 卒業論文執筆報告会

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...35% 添削・コメントを踏まえて論文の内容が改善されているかどうか...30% 授業への参加態度...20%
作品観覧カード・研修旅行レポート...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は、事前にレジユメのチェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

1学期に演習B-1で卒論の題目を決定した人が、卒論執筆の経過報告を行い、指導を受ける時間です。曜日と時間は別途指示します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究史と史料を各自で探して文献目録を作成してもらいます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンスと期末レポート講評
- 2回 卒論原稿添削指導A班①
- 3回 卒論原稿添削指導B班①
- 4回 卒論原稿添削指導A班②
- 5回 卒論原稿添削指導B班②
- 6回 卒論原稿添削指導A班③
- 7回 卒論原稿添削指導B班③
- 8回 卒論原稿添削指導A班④
- 9回 卒論原稿添削指導B班④
- 10回 卒論原稿添削指導A班⑤
- 11回 卒論原稿添削指導B班⑤
- 12回 卒論原稿添削最終指導
- 13回 卒論最終チェック
- 14回 卒論講評①
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・卒論原稿の提出状況で100%評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

2週間に1度原稿を添付ファイルで提出すること。添削授業後には指摘を踏まえて原稿の手直しを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究発表と討議
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。
発表後、不十分な点について後日補足しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

日本文化、神道、仏教

演習B-2 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。
各自のテーマを引き続き深めて卒業論文の作成のための準備をする。
演習A-2と連動したグループ討議もおこなう。
なお本講義には合宿形式の演習を含む。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成にむけての発表①
- 3回 卒業論文作成にむけての発表②
- 4回 卒業論文作成にむけての発表③
- 5回 卒業論文作成にむけての発表④
- 6回 卒業論文作成にむけての発表⑤
- 7回 卒業論文作成にむけての発表⑥
- 8回 卒業論文作成にむけての発表⑦
- 9回 卒業論文作成にむけての発表⑧
- 10回 卒業論文中間発表①
- 11回 卒業論文中間発表②
- 12回 卒業論文中間発表③
- 13回 卒業論文中間発表④
- 14回 卒業論文中間発表⑤
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...20% レポート・発表...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：発表者、コメンテーター、司会者の打ち合わせ
事後：卒論作成のために、得られた課題をこなす

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

特になし。授業前には、卒業論文のための資料、レジユメの作成を十分におこない、各自指示された作業をおこなってからのもむこと。授業後には、討議内容をふまえた課題に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文執筆にむけて、自らの興味関心に基づいて、古典文学の問題を追及する。
自らの設定した問題について、演習形式で発表する。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 1学期からの課題と取り組み方
- 2回 発表の担当割り振りと演習の進め方
- 3回～ 14回 演習 発表と質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の参加態度 50%
演習の内容 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習の際には十分に作品を読み込み、調査をしたうえで臨むこと。
自分の発表だけでなく、他の受講者の発表の場合も、事前に内容をさらうなど、予習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

場合によっては、ゼミの他に課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

本演習は、日本近代文学の研究領域で卒業論文に取り組もうとする者が、卒業論文の中間報告を行い、ゼミ内での議論のなかで自身の論を客観的に見直す機会を得ることを目的とする。

先行論文のまとめと問題提起を終えた後は、実際に文学作品の検討に移る。教員は具体的検討の際に必要な文献収集の方法や方法論についての助言や指導を適宜行う。学生は研究の途中成果をゼミ内で発表し、ゼミ生同士の討議を通して、自身の論を研ぎ澄ましていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。演習中に適宜資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2～8回 学生発表①【問題点を再検討するための方法と資料の検討】

第9～15回 学生発表②【再解釈の試み】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 50% 授業への取り組み... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に与えられた課題に取り組む、演習に参加すること。演習後は、学んだ内容・指摘事項をそれぞれの卒業論文に活かしながら執筆を進めること。

履修上の注意 /Remarks

夏休み期間中に準備を進めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文の執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。

授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、議論を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

演習B-2 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針と発表予定について
- 第2回 研究論文の書き方
- 第3回 仮説の検証
- 第4回 各人の発表(1)
- 第5回 各人の発表(2)
- 第6回 各人の発表(3)
- 第7回 各人の発表(4)
- 第8回 各人の発表(5)
- 第9回 各人の発表(6)
- 第10回 各人の発表(7)
- 第11回 各人の発表(8)
- 第12回 資料編の作成方法
- 第13回 各人の発表(9)
- 第14回 各人の発表(10)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を読んで予習をしてください。
授業の後に、発表の場で出された意見等を踏まえ、研究内容をブラッシュアップしてってください。

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら日本語教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習B-2では、前半に卒業論文の中間報告を行います。そして、後半に卒業論文の提出後、研究成果発表会を行います。

教科書 /Textbooks

○西條剛央(2008)『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMアドバンス編』新曜社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○西條剛央(2008)『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』新曜社
○二通信子他(2009)『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会
○館岡洋子編(2015)『日本語教育のための質的研究入門-学習・教師・教室をいかに描くか』ココ出版
過去の卒業論文

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、夏休みの経過報告
- 2回 中間発表：発表者(1)
- 3回 中間発表：発表者(2)
- 4回 論文の書き方(1)：全体
- 5回 論文の書き方(2)：序論と結論
- 6回 論文の書き方(3)：本論
- 7回 個別研究指導(1)
- 8回 個別研究指導(2)
- 9回 個別研究指導(3)
- 10回 個別研究指導(4)
- 11回 論文完成前の点検(1)論の展開、構成
- 12回 論文完成前の点検(2)校正
- 13回 卒論発表の準備
- 14回 卒論発表会
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む) ... 70 % 授業への取り組み ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

論文の書き方を学びながら、実際に執筆を行います。
指定された期日までに、原稿を書いてくることが必須の条件になります。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

参考文献は、適宜紹介します。
授業は、予習を前提として行います。授業終了後には、授業内容をまとめた報告書を交代で作成してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、実際に卒業論文が作成できるように促していきます。
自分のために行う研究が他者のためにもなり、それが面白いと思えるようになるといいですね。

キーワード /Keywords

研究デザイン 研究動機 研究意義 研究課題 研究方法 論文

演習B-2 【昼】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

この演習では、人間に関する様々な問題について考え、皆さんと一っしょに語り合います。4年次では、大学4年間の総決算ともいべき卒論の指導をします。9月の中間発表以降も、原則としてグループ活動になります。お互いに切磋琢磨しつつ、各自の論文をより良いものに仕上げていきます。2学期も、原則1学期に分けた各グループ毎に日程を調整して毎週集まり、中間発表の原稿をお互いに読み合い、コメントを出し合うことで、より客観的で論理的な文章、あるいは説得力のある表現方法を習得し、最終的には自分自身の中間発表原稿を、より完成度の高い卒論に仕上げていきます。

*ゼミ通信や4年生の卒論（中間）発表会、ゼミ合宿、ヒブリオバトル等を通して3、4年生の交流を図ります。

*卒業文集（卒論CD入り）を作成する予定です。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 後期の方針の確認。
- 2回 各グループの第1発表者のプレゼンと議論。
- 3回 各グループの第2発表者のプレゼンと議論。
- 4回 各グループの第3発表者のプレゼンと議論。
- 5回 各グループの第4発表者のプレゼンと議論。
- 6回 各グループの第5発表者のプレゼンと議論。
- 7回 各グループの第1発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 8回 各グループの第2発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 9回 各グループの第3発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 10回 各グループの第4発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 11回 各グループの第5発表者の修正原稿の読み合い、チェックと議論。
- 12回 卒論の内容要約の作成。
- 13回 文集作りについての議論（タイトル、内容、その他）。
- 14回 文集作りについての議論（具体的な段取り）。
- 15回 卒論最終発表会の準備。

演習B-2 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(発表、討論の参加など) ...50% 卒論の予備レポート...40% 活動への参加度...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、やるべきことを各自、自主的に決めてもらいます。それに従って、授業前にはその準備を、また、授業後には、みんなからもらったコメント等をもとに内容を整理し、次回の課題に繋げていってもらいます。

履修上の注意 /Remarks

授業中に提示する様々な文献、あるいは各自で調べた資料、文献など、どんどん読み進めて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「切磋琢磨」「議論」「グループ活動」「仲間づくり」「自己発見」

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

4年前期に確定した研究テーマを卒論の形に結実させるべく、卒論に関する個別指導を、時間をかけて繰り返し行います。具体的には、夏休み明けに提出してもらった卒論の下書きに対して、どこをどのように改訂すべきなのか、どのような加筆をさらに行わなければならないのか、どのような文献をさらに参照しなければならないのかといった、詳細な指導を行います。個別指導の日はゼミ生の都合に合わせて。指導に沿って卒論の下書きを継続的に改訂することにより、無理なく卒論が完成するよう工夫したいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。必要に応じて資料をコピーの形で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館2階の指定図書コーナーに多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。卒論執筆の際に必要なと思われる書物に関しては、個別指導の中で各人に具体的に教示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 章レベルでの個別指導1
- 2回 章レベルでの個別指導2
- 3回 章レベルでの個別指導3
- 4回 章レベルでの個別指導4
- 5回 章レベルでの個別指導5
- 6回 段落レベルでの個別指導1
- 7回 段落レベルでの個別指導2
- 8回 段落レベルでの個別指導3
- 9回 センテンスレベルでの個別指導1
- 10回 センテンスレベルでの個別指導2
- 11回 センテンスレベルでの個別指導3
- 12回 単語レベルでの個別指導1
- 13回 単語レベルでの個別指導2
- 14回 形式に関する個別指導
- 15回 提出前の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

夏休み明けレポート...50% 卒論指導の受講状況...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、卒論指導の日時に関してメールでアポを取ってください。また、卒論の下書きを指導に沿って改訂したのちに、指定された時間までに、そのファイルをメールで送付して下さい。授業後は指導に従って、卒論テーマの関連書籍を閲覧し、卒論の下書きに加筆と改訂を加えてください。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

本演習は、演習B-1に引き続き、卒業論文執筆のための発表を行う。発表では、卒論の進行状況を報告する。各自の問題関心を深めながら、質の高い卒業論文の執筆を目的とする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 演習の進め方
第2～5回 研究発表
第6回 中間討論
第7～14回 卒業論文の仕上げ
第15回 まとめ

以上は予定であり、受講者の人数や理解度に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への積極性・・・30%、発表・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の発表の前には、入念な準備を行うこと。発表後は、議論の中で出てきた疑問や助言を踏まえて発表内容を練り直し、卒論の執筆を進めること。

履修上の注意 /Remarks

夏休みの間に、十分準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った発表を行う。

教科書 /Textbooks

各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論の進捗状況についての確認
- 2回 受講者による発表・質疑応答
- 3回 受講者による発表・質疑応答
- 4回 受講者による発表・質疑応答
- 5回 受講者による発表・質疑応答
- 6回 受講者による発表・質疑応答
- 7回 受講者による発表・質疑応答
- 8回 受講者による発表・質疑応答
- 9回 受講者による発表・質疑応答
- 10回 受講者による発表・質疑応答
- 11回 受講者による発表・質疑応答
- 12回 受講者による発表・質疑応答
- 13回 受講者による発表・質疑応答
- 14回 受講者による発表・質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への貢献度、発表内容）100%。ただし出席状況によって減点する場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて参考文献を読み込み、事後に指摘されたことなどを反映しつつ各自で卒論の作成を進める。また、日々のニュースに関心を持つ。

履修上の注意 /Remarks

発表者は、必ずレジュメを作成して発表にのぞむこと。

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

四年次までの学習、研究、読書、調査の成果を元に卒業論文のテーマを設定し、執筆してもらいます。

教科書 /Textbooks

○ウンベルト・エコ『論文作法』而立書房、1991。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

個別の学生の関心に併せて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 ガイダンス、授業運営について
第二回から第十四回 履修者による経過報告
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における議論への参加 50% 日常の研究活動 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、調査、執筆状況についての入念な報告準備をすること。授業後には、指摘された箇所の修正や指示された文献の内容を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

適宜必要なアドバイスや提案はしますが、あくまで勉強するのは自分です。計画的に執筆しましょう。

キーワード /Keywords

スペイン 文学 文化 批評

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文を作成する上での最終確認をします。
たてた問いに答えるべく、調べるべき資料は何か、考えるべきことは何かなどを、再度みんなで一緒に考えていきましょう。
その上で、どのような結論が予想されるかを考えていきましょう。

教科書 /Textbooks

特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回～14回 各自、扱う作品における問題に答えるべく調査したこと・考えたことについて、現段階での報告します。また、すでに結論をも出している場合は、その結論についても報告してもらいます。それを受けて、参加者みんなで、調査対象は妥当か、調査に不備はないか、論理に矛盾はないか、どのような結論が予想されるかなど、自由に議論しましょう。
15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(50%)、レポート(50%)により評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業前に可能な限り他の参加者の扱う作品を読み、演習に参加してください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

自分の扱う作品だけでなく、他のゼミ生の扱う作品もなるべく読むようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよ大詰めですね。
卒業論文はぎりぎりに出すのではなく、12月中には出せるよう、余裕をもって取り組んでください。

キーワード /Keywords

日本現代文学

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

卒業論文完成に向けて、引き続き研究と発表を行い、ゼミ生同士でピア・レビューをしながら考察を深め、執筆を進めていく。
本授業には学外実習形式の演習も含む。

教科書 /Textbooks

各自の必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文の中間発表①
- 第3回 卒業論文の中間発表②
- 第4回 卒業論文の中間発表③
- 第5回 卒業論文の中間発表④
- 第6回 卒業論文の中間発表⑤
- 第7回 卒業論文の中間発表⑥
- 第8回 卒業論文の中間発表⑦
- 第9回 卒業論文の中間発表⑧
- 第10回 中間討論
- 第11回 卒業論文仕上げ①
- 第12回 卒業論文仕上げ②
- 第13回 卒業論文仕上げ④
- 第14回 卒業論文仕上げ⑤
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(参加態度、課題) 30% 発表内容 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回研究発表に向けて、調査と執筆を進める。演習の仲間の研究内容についてもコメントを用意する。
演習後は演習内で教員や仲間から受けたコメントと、参照資料についての指示などに基づき、研究と論文の改稿を進めて仕上げていく。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

前期に引き続き、ゼミの仲間と研究関心を共有し、刺激しあいながら卒論を完成させたいので、演習前には発表者の草稿を熟読し、コメントで相互に助力してほしい。そのために、専門外の文献や、実社会で生起する出来事にも広く目配りし、演習で学んだことに照らして思考を重ね執筆を進めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの仲間と助け合い、刺激しあいながら卒論を完成させ、「自分史上最も頑張った一年」にしましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	文化の諸領域に関する論文の執筆に必要な、専門的な研究方法と分析手法を修得する。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	先行研究を踏まえた上で、文化の諸領域に関する問題提起を行い、専門的知識と研究方法を駆使して、独自の結論に到達できる。
	プレゼンテーション力	●	文化に関わる諸問題について、独自の考察結果を論文形式で表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自文化と異文化に対する理解を深化させることにより、国際社会で活動するための素地を築く。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習B-2

SEM314M

授業の概要 /Course Description

各自が決めた卒業論文のテーマに従って、卒論構想発表・中間報告会を行う。発表の1週間前までにレジユメの下書きを提出し、チェックを受け、発表当日までに改善したレジユメを準備しておくこと。発表後は、受講者全員が参加して質疑応答を行い、改善点を探っていく。また、随時、中途段階の卒業論文を提出し、添削を行う。そのコメント等を踏まえて内容を精査・改善し、卒業論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順の説明
- 2回 卒論構想発表およびディスカッション①
- 3回 卒論構想発表およびディスカッション②
- 4回 卒論構想発表およびディスカッション③
- 5回 卒論構想発表およびディスカッション④
- 6回 卒論構想発表およびディスカッション⑤
- 7回 卒論構想発表およびディスカッション⑥
- 8回 美術館見学
- 9回 卒論進捗状況の確認①
- 10回 卒論進捗状況の確認②
- 11回 卒論進捗状況の確認③
- 12回 卒論進捗状況の確認④
- 13回 卒論進捗状況の確認⑤
- 14回 卒論発表会①
- 15回 卒論発表会②

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み（添削、コメントに対する改善態度を含める）...80%
発表内容...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は一週間前にはレジユメの下書きを提出し、事前にチェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は「演習B-1」を履修しておくこと。

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

西洋美術

比較文化入門 1 (日本) 【昼】

担当者名 門田 彩 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本文化の諸領域を学際的前提となる基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	日本文化の諸領域に関する研究方法の基礎を身に付ける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力	●	日本文化の諸領域に関する問題提起を行い、考察結果を小論文形式での確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較文化入門1 (日本)

SEM111M

授業の概要 /Course Description

比較文化入門では、文化資源と文化共生について学びます。

本授業は、講義形式の回と、少人数のクラスに分かれたクラスセミナーの回で構成されます。

講義形式の回では、文化資源について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。

クラスセミナーの回では、図書館研修やレポートの書き方の学習などを通して、大学生としての基礎的な能力を身につけるとともに、少人数の演習形式の授業の準備をします。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館の「比較文化入門・指定図書コーナー」に、各教員の推薦図書を設置しています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 文化資源・文化共生とは
- 第2回 クラスセミナー(大学生活について)
- 第3回 講義1
- 第4回 講義2
- 第5回 クラスセミナー(研究倫理教育)
- 第6回 講義3
- 第7回 講義4
- 第8回 クラスセミナー(図書館研修)
- 第9回 講義5
- 第10回 講義6
- 第11回 講義7
- 第12回 講義8
- 第13回 クラスセミナー(レポート講評)
- 第14回 講義9
- 第15回 クラスセミナー(レポート指導・学習指導)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%、授業の欠席は減点の対象になります。クラスセミナーでの参加態度を加味します。

・ レポートは2つ課されます。2つとも提出しなければ、評価の対象となりません。

・ 各学期5回以上欠席した場合、もしくはクラスセミナーを2回以上欠席した場合も、評価の対象となりません。遅刻の取り扱いなどを含め、詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に読むべき作品などを指定することがあるので、その予習を行うこと。
クラスセミナーで配布された資料は2学期の授業に必要なになるので、授業後もよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業計画は若干変更になる可能性があります。
初回の授業で詳細なスケジュールや成績評価の方法をお知らせしますので、必ず出席してください。
授業前に可能な限り各教員の推薦図書を読み、各領域に関する学習をしておいてください。
また、授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化、文化資源

比較文化入門 2 (欧米) 【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・実習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 欧米文化の諸領域を学ぶ際の前提となる基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 欧米文化の諸領域に関する研究方法の基礎を身に付ける。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	● 欧米文化の諸領域に関する問題提起を行い、考察結果を小論文形式および口頭で的確に表現できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較文化入門2 (欧米)

SEM112M

授業の概要 /Course Description

比較文化入門では、文化資源と文化共生について学びます。

本授業は、講義形式の回と少人数のクラスに分かれたクラスセミナーの回で構成されます。

講義形式の回では、文化共生について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。

クラスセミナーの回では、演習形式で全員が発表を行い、意見交換をします。その中で3年次からの演習（ゼミ）や卒業論文作成の基礎を身に付けます。

教科書 /Textbooks

授業ごとに適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない(ただし、図書館には各担当教員の推薦図書が設置してあるので、必要に応じて参考にする事)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 クラスセミナー (プレゼンテーションについて) 各クラス担当教員
- 2回 講義1
- 3回 講義2
- 4回 講義3
- 5回 講義4
- 6回 クラスセミナー (プレゼンテーション) 各クラス担当教員
- 7回 講義5
- 8回 講義6
- 9回 クラスセミナー (プレゼンテーション) 各クラス担当教員
- 10回 講義7
- 11回 クラスセミナー (プレゼンテーション) 各クラス担当教員
- 12回 講義8
- 13回 講義9
- 14回 クラスセミナー (プレゼンテーション) 各クラス担当教員
- 15回 まとめ 各クラス担当教員

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、プレゼンテーション50%。授業の欠席は減点の対象となります。クラスセミナーでの参加態度を加味します。

・ レポート提出と発表の両方を満たさなければ、評価の対象となりません。

・ 各学期5回以上欠席した場合、もしくはクラスセミナーを2回以上欠席した場合も、評価の対象となりません。

遅刻の取り扱いなどを含め、詳細は初回の授業で説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

クラスセミナーでは担当教員が進行状況に応じて指示を行うので、それに従うこと。

比較文化入門 2 (欧米) 【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
入門科目

履修上の注意 /Remarks

予定は若干変更される可能性があります。最初のクラスセミナーの際に詳細なスケジュールを告知しますので、それを参照してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前にスケジュール表と「比較文化学科案内」を確認しておくこと。授業後には配布された資料をよく読みなおしておくこと。

キーワード /Keywords

比較文化、文化共生

欧米文化概論 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABELI / 比較文化学科
門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 欧米文化を理解するための基礎知識を修得している。
技能	専門分野のスキル	● 欧米の多様な文化領域の研究方法の基本を身につけている。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 欧米文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

欧米文化概論

ARE161M

授業の概要 /Course Description

欧米文化を含めた欧米文化を理解するのに、避けては通れない「三種の神器」があります。ギリシア神話、キリスト教、マザーグース (Mother Goose or Nursery Rhymes) の3つです。これらは、映画や小説など、様々な欧米文化に登場し、日常生活の中でも誰もが知っている当然のこととして扱われています。これらは、欧米人にとっては強調するまでもなく当たり前のものである一方、日本での影響が極めて弱いため、見過ごしてしまいがちですが、実は「欧米文化」という「異文化」と交流する上での鍵でもあります。

例えば、ヨーロッパを代表する芸術作品である《ミロのヴィーナス》や《ヴィーナスの誕生》などの作品は、ギリシア神話に出てくる女神を描いたものです。そして、これらの作品を、その文化的な背景まで含めてきちんと理解して味わうためには、ギリシア神話の基礎知識が不可欠です。またキリスト教も西洋美術の理解には欠かせません。

もちろん、ギリシア神話もキリスト教も、美術の理解にだけ必要というわけではなく、生活の様々な場面に姿を見せます。とりわけ欧米人のほとんどが「神」を信じていた19世紀までは、生活や文化のあらゆる場面に「神」の影響があったため、現代にいたるまで、キリスト教信仰は欧米社会に大きな影響力を及ぼしており、その知識がないことは、異文化コミュニケーションの妨げにもなりかねません。

欧米社会における伝承童謡の重要性も無視できません。例えばイギリスの代表的な児童文学である『鏡の国のアリス』にはハンプティ・ダンプティが登場しますが、マザーグースでおなじみの卵としてのハンプティ・ダンプティを知らなくては物語の面白さは半減してしまうでしょう。伝承童謡はその他の英米文学作品にもしばしば顔を出し、英語圏の社会ではマザーグースは今も馴染み深いものです。

こうしたことをふまえ、本講義では過去から現在に至るまで、欧米社会において「三種の神器」がいかなる役割を果たしているかを学び、異文化理解の礎を築きます。具体的には、前半から中盤(第1回～第9回)ではギリシア神話もしくはキリスト教を題材に世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を、中盤から後半(第6回～第15回)ではキリスト教もしくはマザーグースを題材に英語圏の歴史、社会、文化について学びます。また、第11回、12回では、英語圏からの留学生を招待し、Mother Goose を題材として、文化の多様性及び異文化交流の意義をテーマに交流を行います。

この授業の主な到達目標は以下の通りです。

- ① 欧米文化の成り立ちを理解することで、日本文化と欧米文化の違いを理解する。
- ② 欧米文化の成り立ちを理解することで、日本文化と欧米文化の違いを理解する。
- ③ 欧米文化の理解を通じて、欧米の歴史・社会の理解を深める。

教科書 /Textbooks

プリントを適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- トマス・ブルフィンチ 『完訳 ギリシア・ローマ神話(上・下)』(角川文庫)
- オウイティウス 『変身物語』(岩波文庫)
- 三浦篤 『まなごしのレッスン ①西洋伝統絵画』(東京大学出版会)
- 池澤夏樹 『ぼくたちが聖書について知りたかったこと』(小学館文庫)
- The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes (Oxford)

欧米文化概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：導入、異文化理解のためのギリシア神話
- 第2回：ギリシア神話由来の世界の言葉
- 第3回：西洋美術から読み解くギリシア神話（ヴィーナスをめぐる）
- 第4回：西洋美術から読み解くギリシア神話（神々の王ゼウスをめぐる）
- 第5回：西洋美術から読み解くギリシア神話（さまざまな神々の表現）
- 第6回：キリストの誕生 / キリスト教の誕生（欧米社会とキリスト信仰）
- 第7回：マリア信仰とジェンダーの問題（女神信仰から『ダ・ヴィンチ・コード』まで）
- 第8回：科学と宗教の相克（ダーウィンの進化論からアメリカの宗教原理主義まで）
- 第9回：キリスト教と現代欧米社会（北アイルランド紛争から異文化コミュニケーションの現状と課題、宗教の意義を考える）
- 第10回：中間まとめ（小括と試験）
- 第11回：Mother Goose の成り立ちと概略
- 第12回：Let's play with Mother Goose! (Humpty Dumpty他) : 英語圏からの留学生との交流
- 第13回：Let's play with Mother Goose!! (Mary Had a Little Lamb他) 英語圏からの留学生との交流
- 第14回：Mother Goose の影響（『不思議の国のアリス』や萩尾望都などへの影響）
- 第15回：Mother Goose と日本の伝承童謡

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・65%
試験・・・・・・・・35%
(講義を三分の一以上欠席している受講者は、レポート・試験の採点の対象になりません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布する資料は、当該授業の復習、および次回授業の予習として、よく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「三種の神器」「ギリシア神話」「キリスト教」「ユダヤ教」「宗教紛争」「マザーグース」「伝承童謡」

比較文学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本及び欧米をはじめとする地域の文学について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本と欧米のいずれかに軸足を置きながら、文学の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文学と欧米文学をはじめとする異文化の諸領域に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較文学概論

LIT100M

授業の概要 /Course Description

本講義ではまず「文学」という言葉を広義に解釈し、いわゆる詩や劇、小説、散文はもちろんのこと、様々な人間の生き方を包括的に描いているものであれば、漫画や映画をも含めて論じていき、「文学」の堅いイメージを覆し、文学のおもしろさを共有します。学際的な文学は、多くの読者（鑑賞者）に感動を与えつつ、人間に関する様々な問題について考えさせてくれる、いわば生きる糧なのです。因みに、人類の様々な学問を一輪の花に譬えるならば、そして、根を心理学、花の部分を美学であるとするならば、文学はその花全体を研究する、総合的、かつ学際的なものであると言えるでしょう。

研究姿勢の基盤ともいうべき「疑うことの必要性」から説き起こし、研究に必要不可欠な2つの方法論—比較と分析—と、更にそれを総合へと展開させてゆくことの重要性についても説明します。

比較文学の実践については、まず、比較文学の歴史、「フランス派」（影響関係を調べる）と「アメリカ派」（対比する）の特徴を簡単に見、具体的に様々なテーマ毎（時代比較、国比較、ジャンル比較、その他いろいろ）に文学作品の比較をしていきます。

今、まさにポストモダンの時代。人間が断片的になり、人間同士もバラバラになり、様々な問題が生じています。このような時代にこそ、文学を通じて人間の在り方を問い、人間関係の問題を考え、また日本だけでなく外国の文学を通じて異文化をも理解することで、人間の在り方を問い直し、人間観を広げる一助になればと思います。

★本講義の主な到達目標は以下の通りです。

- ①日本及び英米を中心とした欧米の文学について理解すること。
- ②英米を中心とした欧米に軸足を置きながら、文学の研究方法を身につけること。
- ③日本文学と欧米をはじめとする異文化の諸領域に対する関心を高めること。

教科書 /Textbooks

コピーを利用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

比較文学概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究の方法論について(「絶対」の否定、比較と分析)
- 2回 文学とは:文学のおもしろさ、文学は感動、文学は倫理・・・
- 3回 文学とは:文学は想像力(The Missing Piece)、文学は鏡(『緋文字』)・・・
- 4回 文学の必要性: 無用の用(『星の王子様』)
- 5回 文学は反体制: 物質主義批判(『アメリカの悲劇』)、科学文明批判(「あざ」)、ルール批判
- 6回 文学は反体制: メディア批判(『トゥルーマンショー』)、教育批判(『女王の教室』)・・・
- 7回 文学の読み方、読みの多様性
- 8回 比較文学とは、目的と意義
- 9回 比較文学の方法:(「フランス派」と「アメリカ派」)(『七人の侍』と『荒野の七人』等)
- 10回 比較文学の実践:時代比較、国(地域)比較
- 11回 比較文学の実践:ジャンル比較: 小説と映画
- 12回 比較文学の実践:翻訳の問題:俳句とその訳(松尾芭蕉とその翻訳)
- 13回 比較文学の実践:テーマ比較:日米の集団主義と個人主義
(『わたしは貝になりたい』と『増埒』)
- 14回 比較文学の実践:テーマ比較:母性比較(『ピラヴド』『マザー&ラヴァー』)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・80%~85%
授業中の課題など・・・上記のレポートのパーセントに応じて、20%~15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、配布資料にざっと目を通しておいてください。また、授業後は、ノートをもとに内容を整理し、復習をしておいてください。

授業で紹介する様々な文学作品(小説、詩、映画等々)については、積極的に鑑賞し、作品の面白さを味わってください。その際、常にほかの作品との比較を念頭に置いて味わい進めることをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「学際的」「比較文学」「フランス派」「アメリカ派」「ポストモダン」「比較」「分析」「総合」「無用の用」

日本文化概論 【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科, 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本の文化について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	日本に軸足を置きながら、文化の研究方法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本文化に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本文化概論

JPS110M

授業の概要 /Course Description

前半の講義では日本の現代文化の研究の仕方について話します。一口に「文化」と言っても、漫画や映画、身体的な所作、考え方や価値観、そして障害や性別といった属性に関するものまで、様々です。それぞれの研究対象の性質や、おかれている状況等を考えた上で、説得力のある研究の仕方を検討するという、文化研究の手つきを学ぶことが、授業のねらいです。9回目からの後半の講義は日本の貴重な文化資源として神楽に焦点を当てて講義します。神楽は古代に源流がありながら、時代を通して多様な形態を生み出し地域に拡散していった文化です。芸能と宗教の結びつき、芸能の歴史的展開について理解を深めてもらいます。

教科書 /Textbooks

柄谷行人『日本近代文学の起源』他。必要に応じて資料を配布します。後半の講義では教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書については授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 「風景の発見」 1章解説
- 3回 「風景の発見」 2章解説
- 4回 「風景の発見」 3章解説
- 5回 「風景の発見」 4章解説
- 6回 「風景の発見」 5章解説
- 7回 「風景の発見」 6章解説
- 8回 「風景の発見」 全体のまとめ
- 9回 見学レポートの説明 後半の授業の概要説明
- 10回 神楽の分類をめぐって
- 11回 神楽の多様性①宮廷神楽・巫女神楽・湯立神楽
- 12回 神楽の多様性②出雲流神楽その他
- 13回 神楽の源流①天岩戸神話と神楽
- 14回 神楽の源流②鎮魂祭と神楽
- 15回 古代の神楽と現代の神楽

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員が課すレポート（50点×2）により評価します（後半のレポートは神楽の実地見学レポートになります。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】

授業前に講義で扱うテキストを読むことをお勧めします。また後半の授業では見学に向けて事前調査を進めて下さい。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

私語や教室の出入りなど、講義の邪魔になるようなことは慎んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向けの授業ですので、できるだけ分かりやすくお話ししたいと思います。

キーワード /Keywords

文化研究

文化交流史【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	高等学校までに修得した日本史と世界史（ヨーロッパ・イスラム・中国・朝鮮）の知識を確認する。
技能	専門分野のスキル	●	日本史と世界史の知識を連携して運用することができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

文化交流史

HIS100M

授業の概要 /Course Description

1. 「文化」と「交流」の意味を考える
2. 「日本史」「世界史」の枠を越えて歴史の知識がどのように結びつくのかを見る
3. 歴史を時間ではなく空間における変化として捉える
4. 「もの」が人間の歴史に果たした役割を理解する
5. 味覚・視覚・嗅覚などの感覚から歴史を見る

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- アンドレ・G・フランク『リオリエント』（藤原書店2000年）
- 生田滋『大航海時代とモルッカ諸島』（中公新書1998年）
- 山田憲太郎『香料の歴史』（紀伊国屋新書1994年）
- 村井章介『世界史の中の戦国日本』（ちくま学芸文庫2012年）
- トム・スタンデージ『世界を変えた6つの飲み物』（インターシフト2007年）
- W・シヴェルプシュ『楽園・味覚・理性』（法政大学出版局1988年）
- 白井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』（中公新書1992年）
- 武田尚子『チョコレートの世界史』（中公新書2010年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス 文化とは？交流とは？
- 2回 植民地支配は「交流」か？ 【社会革命】とは？
- 3回 文化交流としての「ルネサンスの三大発明」・・・火薬・羅針盤・活版印刷
- 4回 【香料革命】①香料とは
- 5回 【香料革命】②宋代中国の海外発展と【香料革命】
- 6回 【香料革命】③ヨーロッパの【香料革命】
- 7回 【香料革命】④14・15世紀におけるヨーロッパの食文化
- 8回 「地理上の発見」から大航海時代へ
- 9回 【価格革命】と【銀革命】
- 10回 大航海時代と【鉄砲革命】①鉄砲伝来史料の比較
- 11回 大航海時代と【鉄砲革命】②火薬の製造と塩硝年貢
- 12回 大航海時代と【鉄砲革命】③在村鉄砲
- 13回 ヨーロッパの【嗜好品革命】①コーヒーとプロテスタントイズム
- 14回 ヨーロッパの【嗜好品革命】②チョコレートの呪術
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回の授業で受講上の重要事項の説明と注意を行います。
情報量が多い授業なので欠席するといけなくなるので注意してください。
授業中の黒板やスクリーンを撮影しようとする者は見つけ次第成績を不可とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

世界の文化遺産【昼】

担当者名 門田 彩 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本を含めた多様な世界の文化遺産の価値を理解している。
技能	専門分野のスキル	●	文化遺産の歴史的意義と、今日的な問いかけを理解している。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	異文化の様々な形態を認識できるように関心を維持する。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

世界の文化遺産

ARE190M

授業の概要 /Course Description

人類の誕生以来、この地球上の各地で、さまざまな人間集団が独自の文明や文化を築いてきました。この授業では複数の教員がそれぞれの専門領域から、日本及び世界各地の文化遺産を取り上げます。教室にいながらの「旅」です。文化遺産を歴史の中に位置づけ、その意義や、それが今日の私たちに伝えるメッセージを読み解くことを目指します。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。必要に応じてそれぞれの担当者が資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館のAV資料に世界遺産などのDVDがあります。ぜひ利用してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 特別講義：世界遺産のある街 北九州市
- 第3回 アメリカ独立革命の歴史と世界遺産
- 第4回 多民族社会アメリカの歴史と世界遺産
- 第5回 特別講義：世界文化遺産で見るポルトガルの歴史と風土
- 第6回 東南アジアの歴史と宗教遺跡の文化遺産化
- 第7回 東南アジアの文化の資源化とナショナリズム
- 第8回 『ドン・キホーテ』の世界を行く
- 第9回 ガウディ建築をめぐる
- 第10回 「玄奘三蔵絵巻」をめぐる①【絵巻の内容を中心に】
- 第11回 「玄奘三蔵絵巻」をめぐる②【十一面観音像にも目を向けて】
- 第12回 負の遺産としての世界遺産—歴史から何を学ぶのか？
- 第13回 オランダの歴史と世界遺産
- 第14回 世界遺産の国、ヴァチカン市国
- 第15回 美術作品の修復—文化遺産の保護とは？

※授業内容は変更が生じる場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2本の内容によって50点+50点で評価します。ただし、出席状況により減点することがあります。5回以上欠席の場合は評価の対象とはしません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にそれぞれのテーマに関する基本的知識について事典の類やインターネットで調べておくとう理解が深まります。また授業後にはノートを整理し、講義内で指示された参考資料を活用して学んだ内容を復習しましょう。

履修上の注意 /Remarks

事前・事後学習をしっかりと行い、2回のレポート作成に向けて入念に準備をしてください。5回以上欠席すると評価の対象とはなりません。

世界の文化遺産【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
概論科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化遺産

比較文化概論 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科, 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科
 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	文化比較という方法の歴史、問題点などについて幅広い知識を得る。
技能	専門分野のスキル	●	文化を比較するための基本的な態度・方法論を習得する。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	文化を比較することを通じて世界の様々な文化に対する理解を深める。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較文化概論

ARE160M

授業の概要 /Course Description

本講義では、異なる文化がどのようにすれば共生することが可能なのかという視点から、「文化」を「比較」する方法を考えていく予定です。「文化」を「比較」というのは、単に、地域ごとに異なる習慣や決まりごとなどを見ていくというだけではありません。その違いは何を意味するのか、またその違いに対して、私たちはどのように振る舞えばよいのかまで考えなければ、「文化共生」を実現させることはできないからです。

そもそも、「文化」の「違い」というものも、それほど自明のものではありません。「比較」するそれぞれの「文化」のどこに、どのように光をあてるのかによって、「比較」を通じて見えるものは、全く異なってくるでしょう。ある角度からは深刻な違いに見えるものも、別な角度から見れば共通点の方が目立つということもあります。また、多様な「文化」が、それぞれ固有の価値を持つのはもちろんですが、それらの価値は歴史的・社会的な要因に規定されるため、それぞれを平等に「比較」することは容易いことではありません。ある「文化」が他の「文化」に優越するといったことが、現実には常に起こっているのです。そうしたことも考えなければ、異なる文化が本当の意味で「共生」することはできないでしょう。

以上のことをふまえ、この授業では、「文化」とは何かということから始まり、様々な地域や時代の「文化」について実例を提示しながら検討していきます。さらには、現代世界が抱えている「文化」をめぐる様々な問題にも、「共生」という観点からアプローチしていくつもりです。

教科書 /Textbooks

特になし（必要に応じてレジュメを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『文化とは何か』（テリー・イーグルトン）、松柏社
- 『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』（ガイ・ドイッチャー）、インターシフト
- 『オリエンタリズム 上・下』（エドワード・W・サイード）、平凡社

比較文化概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回：イントロダクション～「文化」とは何か
第二回：比較文化の前提① 人間は他の動物と何が違うか
第三回：比較文化の前提② 「イヌ」という動物は存在するか
第四回：比較文化の前提③ 「エスニック料理」って何料理？
- 第五回：比較文化の方法① フィールドワークの可能性
第六回：比較文化の方法② 文化の普遍性と多様性
第七回：比較文化の方法③ 通時的比較と共時的比較
第八回：比較文化の方法④ 文化相対主義の功罪
- 第九回：比較文化の実践① 翻訳：言語の純粋性を疑う
第十回：比較文化の実践② 旅行記：書くことと文化
第十一回：比較文化の実践③ 文化と記号：文化論の実践1
第十二回：比較文化の実践④ 編集としての文化：文化論の実践2
- 第十三回：比較文化の現代的課題① 「日本文化」は存在するか
第十四回：比較文化の現代的課題② 「異なる文化」は共存できるか
第十五回：比較文化の現代的課題③ 「フラット化」する世界、断片化する世界

成績評価の方法 /Assessment Method

試験：70% 授業への取り組み：30%
(講義を三分の一以上欠席している受講者は学期末試験を受けることはできません。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布された資料をよく読み、授業前後によく予習、復習をしてください。特に講義内で指示された参考資料にも積極的に目をとおして、講義の内容をより深く理解するよう努めてください。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門的な講義ではありますが、抽象的な事柄も多く含んだ「骨のある」内容となる予定です。心して受講して下さい。

キーワード /Keywords

多文化社会、グローバルゼーション、エスニシティ、フィールドワーク

メディア文化概論【昼】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	メディアについての基礎的な知識を身につける。
技能	専門分野のスキル	●	メディアを研究するうえでの基礎的な方法を身につける。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力	●	生活のなかのメディアに注意をむけて問題意識をもとうとする態度を身につける。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

メディア文化概論

MCC110M

授業の概要 /Course Description

我々の生活は、様々なモノや表現によって媒介されて成り立っている。この授業では、「メディア」という概念が含み込んでいる視点を、講義するなかでメディア論的思考を獲得することを目指す。個人の生活あるいは集団生活がどのようなメディアの仕掛けのもとに成立しているのかを批判的に見直すことが目標となる。以下の予定内容以外に、日常の生活環境を見つめ直すためのトピックを随時挿入する。そのため、スケジュールは便宜的であり、順序の変更もありうる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 ガイダンス メディアは「当たり前」をつくる
- 第2回 メディア論的思考①メディアは身体の拡張である【M.マクルーン】
- 第3回 メディア論的思考②メディアはメッセージである【メディア論】
- 第4回 メディア論的思考③メディアには「カタチ」がある【物質性】
- 第5回 メディア論的思考④メディアは「一体感」をつくる【メディアイベント】
- 第6回 メディア論的思考⑤メディアは理解 / 誤解を生む【エンコーディング・デコーディング】【S.ホール】
- 第7回 メディア論的思考⑥反応の構造と多様性【オーディエンス】
- 第8回 文化資源としてのメディア①メディアには「歴史」がある1【文明史】【声】【文字】【印刷】
- 第9回 文化資源としてのメディア②メディアには「歴史」がある2【初期映画】【トーキー】
- 第10回 文化資源としてのメディア③メディアには「歴史」がある3【電話】【携帯電話】【ラジオ】
- 第11回 文化資源としてのメディア④メディアには「歴史」がある4【聴き方の変遷】【ウォークマン】
- 第12回 文化資源としてのメディア⑤大衆文化のアーカイブ1【レコード】
- 第13回 文化資源としてのメディア⑥大衆文化のアーカイブ2【映画】
- 第14回 文化資源としてのメディア⑦大衆文化のアーカイブ3【紙芝居】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(コメントカード、課題など)...20% 学期末レポート80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回の受講準備として、それまでの講義内容のメモ・ノートを必ず見直しておくこと。

次の回の内容予告をするので、身の回りの関連事例について調べておくこと。

事後：授業内容を復習し、それをふまえて事前の調べを振り返る

メディア文化概論【昼】

専門教育科目
専門基礎教育科目
概論科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

書道【昼】

担当者名 大森 アユミ / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義・実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業のねらい：

毛筆とともに発展してきた文字文化について理解を深めるとともに、中学校における国語科書写の基礎的な内容の理解を図る。具体的には、国語科書写の教育目標・指導内容を理解し、基本的な見識を養うこととともに、実技力を高めることを目指す。実技での漢字は行書体を中心とする。

授業方法：

理論は、DVD視聴、グループ討議、プリン記入を通して理解を深めていく。
実技は、ポイントを確認しながら練習し、技能を高めていく。

到達目標：

- ① 中学校国語科書写の文字に関する基本的な知識が身についている。
- ② 教材研究及び授業研究の方法を理解し、行書指導に必要な実技力を習得する。

教科書 /Textbooks

「明解 書写教育」 萱原書房 全国大学書写書道教育学会編
プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校国語科学習指導要領
「学習指導要領準拠 漢字指導の手引き 第七版」 久米公編著 教育出版 1500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①第 1・ 2回 : オリエンテーション、日本語表記に用いる文字の知識と技能
- ②第 3・ 4回 : 筆順の原則とその指導、姿勢・執筆と用具の扱い方、記念作品を書く
- ③第 5・ 6回 : 基本点画の種類、基本点画の筆使い
- ④第 7・ 8回 : 文字を書くことの歴史と関連用語、片仮名の特徴と基本
- ⑤第 9・ 10回 : 左右からなる文字の構成、楷書の筆使いと字形
- ⑥第 11・ 12回 : 漢字指導と許容体、許容体と筆写体
- ⑦第 13・ 14回 : 書体の変遷と六書、行書の成立と特徴、行書の筆使いと字形【点画の変化・方向の変化】
- ⑧第 15・ 16回 : 常用漢字における字形と字体、行書の筆使いと字形II【点画の連続】
- ⑨第 17・ 18回 : 仮名の成立と平仮名の字源、行書の筆使いと字形III【点画の連続】
- ⑩第 19・ 20回 : 片仮名の字源と効果的な指導、行書の筆使いと字形IV【点画の連続と省略】
- ⑪第 21・ 22回 : 行書の筆使いと字形V【筆順の変化】、行書の筆使いと字形VI【点画の省略】
- ⑫第 23・ 24回 : 行書と仮名の調和I 【DVD「百人一首カレンダー」】、短冊・散らし書きの書き方
- ⑬第 25・ 26回 : 行書のまとめ、生活に生かす【のし袋】
- ⑭第 27・ 28回 : 評価と実際
- ⑮第 29・ 30回 : 生活に活かす実用書式、授業全般の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(全5回) : 70%
課題 : 20%
日常の授業の取り組み : 10%
授業開始20分以内に入室した場合を「遅刻」とし、遅刻回数3回を欠席回数1回とみなす。
単位を取得には2/3以上の出席が必要である。課題の提出は締め切り厳守のこと。

書道【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、授業終了後に「学習記録」の記入を課すため、授業内容と成果の振り返りを行い、プリントに記入すること。
毛筆の実技に関しては、経験の無い者・苦手意識の強い者は、授業終了後に復習を行うこと。
授業前に指示された参考書を読んでおくこと。
小テストを、第4・6・9・11・14回目に実施するため、自宅にて復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

書道用具一式は各自で持参【共有は不可】（筆4号サイズ,筆ペン,硯,文鎮,下敷,半紙,墨液）
指定された履修学年時に履修のこと。4年は再履修者のみとする。
大学が「出席扱い」とする欠席の場合は、「欠席届」及び「出席扱い確認書」を提出のこと。
「実習・課外活動」「病気・就職活動等」は欠席扱いとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

書写・書道 行書

第二言語習得論【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

第二言語 / 外国語の習得に関しては、とかく俗説や思い込みが多い。非専門家であっても、高い第二言語 / 外国語能力を身に付けた人の主張に説得力を感じてしまうが、やり方を真似したところで、必ずしも期待通りの成果を上げられないという経験を持つ人が少なくない。本授業では、第二言語習得研究の知見を利用して、外国語学習を批判的に考察する。担当者の専門は、英語教育ではなく、日本語教育ではあるが、多くの受講者と同様に英語学習の経験を持つので、本授業では、主に英語学習に焦点を当てることにする。しかし、第二言語習得研究の成果は、その全てが必ずしも個別言語に限定されるものではないので、どの語を学習する場合にでも応用できる内容と考える。ただし、第二言語習得研究は、歴史の浅い分野であり、かつ、第二言語習得という現象が多様な要因によって影響を受けるため、皆さんの疑問や困難の全てを研究が解決してくれるわけではありません。研究上、何が明確にわかっていて、何がそうではないかを理解することで、俗説や思い込みから解放され、自由に学習できるようになるでしょう。

教科書 /Textbooks

廣森友人 (2015) 『英語学習のメカニズム-第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』大修館書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『自律を目指すことばの学習』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)
- 『英語習得の「常識」「非常識」: 第二言語習得研究からの検証』(白畑知彦他、大修館書店)
- 『言語はどのように学ばれるか: 外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』(ライトバウン他、岩波書店)
- 『英語学習7つの誤解』(大津由紀雄、生活人新書(NHK))
- 『多言語多文化学習のすすめ』(西村淳子、朝日出版社)
- 『外国語の効果的な学び方』(ルービン他、大修館書店)
- 『「達人」の英語学習法』(竹内理、草思社)
- 『外国語学習アドバイジング: プロのアドバイスであなただけの学習プランをデザインする』(青木直子、Kindle版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「グローバル社会」の英語教育
- 第3回 仕事で使える第二言語力
- 第4回 第二言語習得のプロセス
- 第5回 第二言語学習と言語適性の関係
- 第6回 言語習得の第一歩: インプット
- 第7回 言語習得の臨界期
- 第8回 言語知識の自動化: アウトプット
- 第9回 言語技能
- 第10回 学習をサポートする原動力: 動機付け
- 第11回 動機減退
- 第12回 自律的な言語習得のために: 学習方略
- 第13回 学習方法と学習方略
- 第14回 個性に合った学びのあり方: 学習スタイル
- 第15回 学習者の個人要因

成績評価の方法 /Assessment Method

実践報告...50%
期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、課題の予習を前提として行います。事前学習として、テキストを読み込み、疑問点を明確にしてから臨んでほしい。事後学習としては、テキスト該当章の練習問題・復習編を行うこと。翌回の授業冒頭において、復習を行います。

履修上の注意 /Remarks

本授業では、受講者自身の持つこれまでの外国語学習を振り返り、学習上の問題点を特定しながら、同時に第二言語習得研究の知見によって改善策を考え、それを実際の学習に生かすことが期待されています。そのため、自分自身の第二言語学習に関する実践報告を作成してもらいます。

第二言語習得論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本来、いかなる学習も「楽しさ」を感じてこそ、意欲が自然と湧いてくるものです。「第二言語 / 外国語がうまくなりたいけれど、成果が出ているように思えない...」「やる気がないわけではないけれど、面白くないから段々やらなくなってしまう...」という皆さん、この授業をきっかけとして一緒に考えて、新しい学習をスタートしましょう！

キーワード /Keywords

第二言語習得研究 習得理論 習得プロセス 動機付け 学習方略 学習スタイル 学習者オートノミー

日本語教育カリキュラム論 【昼】

担当者名 /Instructor 家根橋 伸子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

日本語教育では、学習者の特質、教育機関の性質、教師側の考え方等により多様なコースデザインとそれに基づく多様な授業が構成される。しかし一方で、現行の学校教育機関でのコースデザインの方法や個々の日本語授業にはベーシックな構成がある。日本語授業に多様性・独自性を生み出せる教師になることの前提として、こうしたベーシックなコースデザインと教授法について理解しておくことも必要である。本授業では、ベーシックなコースデザインと授業の構成について主体的な学習を通して学んでいくとともに、それを批判的に検討し、発展させられる能力を養う。

主要な学習内容

- ・ コースデザインの構成要素と構成原理
 - ・ 第二言語授業の構成要素と構成原理
- ※マイクロティーチングを含む。

到達目標

- ・ 学校教育機関等のベーシックなコースデザインの原理を理解し自分でデザインできる。
- ・ ベーシックな日本語教授法を理解し実践できる。
- ・ ベーシックなコースデザイン、教授法を個々の日本語教育の状況に合わせてどう発展させるかを考えることができる。

教科書 /Textbooks

- 『日本語教育能力検定試験に合格するための教授法』(小林ミナ、アルク)
- 『日本語教師の役割 / コースデザイン』(国際交流基金、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本語教育学を学ぶ人のために』(青木直子他、世界思想社)
- 『日本語教育の理論と実際 - 学習支援システムの開発 -』(田中望他、大修館書店)
- 『アプローチ&メソッド 世界の言語教授・指導法』(リチャーズ&ロジャーズ、東京書籍)
- 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ』(全14巻)(国際交流基金、ひつじ書房)
- 『実践研究は何を目指すか 日本語教育における実践研究の意味と可能性』(細川英雄・三代純平、ココ出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション(ブレインストーミング)
- 2回 日本語教育の多様性と教師の役割
- 3回 コースデザインとは何か①:コースデザインの構成要素と原理
- 4回 コースデザインとは何か②:カリキュラム, 事前調査
- 5回 コースデザインとは何か③:目標言語行動調査
- 6回 コースデザインとは何か④:シラバス
- 7回 コースデザインとは何か⑤:教授法・評価
- 8回 授業のデザインと教材:基本的な授業構成、4技能、教材分析
- 9回 初級を教える:マイクロティーチング①:動詞文
- 10回 初級を教える:マイクロティーチング②:形容詞文
- 11回 初級を教える:マイクロティーチング③:存在・所在文
- 12回 初級を教える:マイクロティーチング④:テ形
- 13回 中・上級を教える:マイクロティーチング⑤:読解
- 14回 中・上級を教える:マイクロティーチング⑥:会話
- 15回 総括・リフレクション・自己評価

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(マイクロティーチング、自己評価を含む)...50% 期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習:テキストの次回授業内容に該当する部分の予習(授業時に講師が指示する)
 - 事後学習:授業内容振り返り課題(授業時に講師が配布する)
- ※以上に加え、マイクロティーチングを行う回では担当者は担当課の学習及び教案・教材作成を行う。

日本語教育カリキュラム論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 日本語教師養成課程における「日本語教育学I」「日本語教育学II」を履修しておくこと。
- ・ 事前学習をしていることを前提に授業を進めるので、授業時間外の準備とそれに基づく授業への積極的な参加が必要。
- ・ マイクロティーチングはグループで行う。授業時間外にグループで集まり、準備をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一人一人が自らの課題を持ち、主体的に参加することを求めます。

キーワード /Keywords

第二言語教育カリキュラム コースデザイン 授業デザイン 第二言語教室 マイクロティーチング

日本語教授法 【昼】

担当者名 /Instructor 矢野 花織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

在留外国人数は近年増加傾向にあり、国内での日本語学習者も、留学生、技能実習生、「生活者としての外国人」、「外国につながる子ども」など多様化している。それと同時に、日本語学習のニーズも、就学のためのみならず、子育てのため、就労のため、介護のためと多岐に渡っており、日本語教師には、教室内での指導を超えたコーディネーション力も求められるようになってきている。そこで本講義では、教授法の歴史を振り返りながら、どのように日本語教育が行われてきたのかを学ぶことによって、実践へとつなげていくと同時に、日本語教育に対する新たな期待や取り組みについても知り、新たに日本語教師に求められつつある必要な基本的スキルを習得することを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門(増補改訂版)』(高見澤孟、アスク出版) 予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語教授法ワークショップ(増補版)』(鎌田修他、凡人社)
『日本語教授法ワークショップ(増補版)DVD』(鎌田修他、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 日本語教師の役割
- 第3回 「日本語を教える」ということ
- 第4回 言語教育におけるシラバス
- 第5回 初級の教え方(1)発音/会話
- 第6回 初級の教え方(2)文字/読解
- 第7回 中上級の教え方
- 第8回 グループワーク
- 第9回 外国語としての日本語教授法
- 第10回 教授法の歴史と特徴①【オーディオ・リンガル・アプローチ】
- 第11回 教授法の歴史と特徴②【コミュニケーション・アプローチ】
- 第12回 教授法の歴史と特徴③【TPR】【サイレント・ウェイ】【CLL】
- 第13回 教授法の歴史と特徴④【ナチュラル・アプローチ】【サジェストペディア】
- 第14回 発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 60%
課題 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示します

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化間教育 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 3年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

世界がグローバル化することによって、異文化接触が限られた特定の人の経験ではなくなりました。言い換えれば、多様化が進む現代社会において、「いかに異なる他者と共存できるのか」が共通の課題になっているということです。この課題に向き合うためには、異なる文化を理解する知識と実践的な異文化コミュニケーション能力が必要不可欠ですが、いつ、どこで、このような知識や能力が身につくのでしょうか。皆さんにとって、異文化間教育という言葉は、聞きなれない言葉かもしれませんが、異文化間教育の分野では、「全ての教育は、異文化間教育である」という考えがあります。本授業では、教育において多様な文化接触が生じるものを全て「異文化間教育」と捉えることによって、包括的にこの現象を捉えたいと思います。その中でも、特に、外国語教育について批判的な考察をすることになります。また、本授業では、授業の場においても、「異文化間教育」を実践するために、講義に加えて、「ピア・ラーニング」という協働学習を取り入れます。これは、異文化間教育においては、どこかに正解があるのではなく、学習者が自ら学ぶことを重視するため、学習者一人ひとりの「異なり」を尊重します。必然的に、教師は、正解を与える立場になく、授業の場を「異文化コミュニケーション」の実践の場を作るコーディネーターや、異文化理解を促進するファシリテーターの役割を担います。

教科書 /Textbooks

原沢伊都夫 (2013) 『グローバルな時代を生きるための異文化理解入門』 研究者

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 八代京子ほか (2009) 『異文化トレーニング-ボーダレス社会を生きる[改訂版]』 三修社
- 八代京子ほか (2001) 『異文化コミュニケーションワークブック』 三修社
- 館岡洋子ほか (2015) 『協働で学ぶクリティカル・リーディング』 ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション【授業目的】【授業スタイル】【評価】
- 第2回 異文化を理解する【異文化交流の歴史】【異文化理解の意義】
- 第3回 文化とは(その1)【氷山モデル】【常識】
- 第4回 文化とは(その2)【トータルカルチャー】【サブカルチャー】【特徴】
- 第5回 異文化適応【カルチャーショック】【U字曲線】【W字曲線】
- 第6回 異文化の認識【固定概念】【ファイリング】【ステレオタイプ】
- 第8回 差別を考える【差別の種類】【背景】【差別と異文化理解】
- 第9回 世界の価値観【個人主義対集団主義】【性善説対性悪説】他
- 第10回 異文化トレーニング【ケーススタディ】【DIEメソッド】【カルチャー・アシミレーター】他
- 第11回 異文化受容【受容プロセス】【相対化】
- 第12回 自分を知る【ジョハリの窓】
- 第13回 非言語コミュニケーション【言語 / 非言語】【パラ言語】
- 第14回 アサーティブ・コミュニケーション【相互性】【尊重】
- 第15回 多文化共生社会の実現に向けて【多文化共生】【参画】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート4回 20×4 = 80%
 実践課題 20%

課題レポートを全て提出した場合にのみ、成績評価の対象となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、テキストの該当章を読み、「確認チェック」を済ませてから、授業に臨むようにしてください。
 事後学習として、ノートを一冊用意し、毎回授業で扱ったテーマについて、自分自身の過去の体験を振り返り、それを自分の言葉で表現するようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

この授業では、講義形式以外に、授業時間にやりとりを多用する「応答型」を採用します。そのため、授業内でペア・ワークやグループ・ワークを多用します(受講者数を見てから、その頻度や程度を判断します)。
 当該分野における予備知識の有無は、問いません。

異文化間教育【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

異文化間教育の分野では、「全ての教育は、異文化間教育である」という考えがあります。著者と読者、教師と学生、学生同士...など、大いに相互交流しながら、「学び」の実感を期待しています。

キーワード /Keywords

異文化間教育 外国語教育 異文化理解 異文化コミュニケーション

日本語教育方法論【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、日本国内における留学生への日本語教育について、ピア・ラーニングの教育観から学ぶ。具体的には、ジグソーリーディングや対話的問題提起学習、LTD学習法を体験する。様々な学習法を体験する中で仲間との学びの有効性を実感し、自らの実践へと生かす。また、日本語教育の文法について、多様な教材を参考にしながら、文法を分析する視点を養う。

教科書 /Textbooks

- 『ピア・ラーニング入門』(池田玲子他、ひつじ書房)
- 『日本人のための日本語文法入門』(原沢伊都夫、講談社現代新書)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『実践・LTD話し合い学習法』(安永悟、ナカニシヤ)
- 『学生参加型の大学授業一協同学習への実践ガイド』(ジョンソン,D.W他、玉川大学出版部)
- 『先生のためのアイデアブック』(ジョージ・ジェイコブス他、日本協同教育学会編)
- 『文法を教える』(国際交流基金、ひつじ書房)
- 『日本語教育文法講義ノート』(山下暁美編著、アルク)
- 『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』(原沢伊都夫、スリーエーネットワーク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【ピア・ラーニング】
- 2回 協働とは何か【対話的問題提起学習/参加型学習】
- 3回 対話的問題提起学習
- 4回 日本語教育における言語教育観の転換【仲間との相互作用】
- 5回 LTD話し合い学習法【LTD過程プラン/評価】
- 6回 LTDで論文を読む【ピア活動における意見交換】
- 7回 ピア・リーディング実践①【ジグソー・リーディング】
- 8回 ピア・リーディング実践②【プロセス・リーディング】
- 9回 日本語文の構造【格】
- 10回 主題化
- 11回 自動詞と他動詞
- 12回 ヴォイスとテンス【受身/使役/絶対/相対】
- 13回 アスペクトとムード
- 14回 複文の構造【節】
- 15回 総括【ピア・レスポンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への取り組み...30%
- 課題...30%
- 自己評価...20%
- ピア評価...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

2年次に異文化間教育、第二言語習得論を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少人数での学習形態が多いので、積極的に発言しグループの学びに貢献してください。

キーワード /Keywords

ピア・ラーニング 協働学習 ピア・リーディング 日本語教育文法

日本語教育実習【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

最も身近な学部留学生を対象とした正規の日本語科目に参加し、実習授業を行う。ティーチング・アシスタントとして授業に参加しながら、授業目的に対する理解を深め、学期期間に少なくとも2回の実習授業を行う。授業の成否に一喜一憂することなく、実習から何を学びえたのかを丁寧かつ詳細に振り返ることで、教師に不可欠な内省力の育成を目指す。同時に、日本語教師としての自分自身をイメージできるようになることを期待したい。

教科書 /Textbooks

○武田信子他『教員のためのリフレクション・ワークブック - 往還する理論と実践』学事出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジョージ・ジェイコブズ他『先生のためのアイデアブック - 協同学習の原則とテクニック - 』日本協同教育学会
- 青木直子他編『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社
- 春原憲一郎他『日本語教師の成長と自己研修』凡人社
- ジェア・プロフィ『やる気をひきだす教師：学習動機づけの心理学』金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション及び実習計画【コースデザイン】【評価】
- 2回 学習者について知る【学部留学生】【アカデミックジャパニーズ】【生活者としての外国人】【日本語教室】
- 3回 学習者主体と教師の成長【学習者オートノミー】【教師オートノミー】【同僚性】
- 4回 授業準備【教案】【リハーサル】
- 5回 実習(1)【授業準備】【実施】【リフレクション】【気づき】
- 6回 実習(2)
- 7回 実習(3)
- 8回 実習(4)
- 9回 実習(5)
- 10回 実習(6)
- 11回 実習(7)
- 12回 実習から学んだことをどう生かすか【評価】
- 13回 総括【教師の成長】【社会の変化】
- 14回 報告書の作成(1)役割分担の確認
- 15回 報告書の作成(2)原稿の完成

成績評価の方法 /Assessment Method

実習日記及び自己評価レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ティーチング・アシスタントとして授業に参加する際には、事前に授業内容の予習を行い、授業後にはその日の振り返りを行います。それをもとに実習日記を作成し、指導教員にコメントを求めます。
また、実習を行う回には、1か月前に担当する学習項目を決定し、2週間前に教案を作成します。そして、2回以上の教案指導を受けます。そして、実習授業のリハーサルも行います。また、実習後は、ビデオを見ながら振り返りを行い、実習日記を作成して指導教員にコメントを求めます。
最後に、実習成果の一つとして、報告書の作成を行う。

履修上の注意 /Remarks

「日本語教育学概論」「第二言語収録論」「日本語教育カリキュラム論」「日本語教授法」「異文化間教育」「日本語教育カリキュラム論」を履修しておくこと。その他の日本語教師養成課程科目についても、3年次までに履修可能な科目は、できるだけ多く履修しておくことが望ましい。

実習は、人数や適性を判断して、「日本語I」「日本語II」「日本語III」「日本語VII」「日本事情(社会)A」に振り分ける。

実習期間は、実習日に加えて授業準備のために大学に来ることができるようスケジュールを空けておくこと。

実習に関することは、早めに自主的に準備を始めること。わからないことや疑問に思うことがあれば、適宜質問しよう。また、ポートフォリオを作成して、学習及び実習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

日本語教育実習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習は、受け入れ先の事情が優先されるので、必ずしもシラバス通りにはいかないこともあることを承知しておいてください。

キーワード /Keywords

学習者主体 学習者オートノミー 体験学習 リフレクション(内省) 教師オートノミー

日本語教育実習【昼】

担当者名 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

最も身近な学部留学生を対象とした正規の日本語科目に参加し、実習授業を行う。ティーチング・アシスタントとして授業に参加しながら、授業目的に対する理解を深め、学期期間に少なくとも2回の実習授業を行う。授業の成否に一喜一憂することなく、実習から何を学びえたのかを丁寧かつ詳細に振り返ることで、教師に不可欠な内省力の育成を目指す。同時に、日本語教師としての自分自身をイメージできるようになることを期待したい。

教科書 /Textbooks

○武田信子他『教員のためのリフレクション・ワークブック - 往還する理論と実践』学事出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ジョージ・ジェイコブズ他『先生のためのアイデアブック - 協同学習の原則とテクニック - 』日本協同教育学会
- 青木直子他編『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社
- 春原憲一郎他『日本語教師の成長と自己研修』凡人社
- ジェア・プロフィ『やる気をひきだす教師：学習動機づけの心理学』金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション及び実習計画【コースデザイン】【評価】
- 2回 学習者について知る【学部留学生】【アカデミックジャパニーズ】【生活者としての外国人】【日本語教室】
- 3回 学習者主体と教師の成長【学習者オートノミー】【教師オートノミー】【同僚性】
- 4回 授業準備【教案】【リハーサル】
- 5回 実習(1)【授業準備】【実施】【リフレクション】【気づき】
- 6回 実習(2)
- 7回 実習(3)
- 8回 実習(4)
- 9回 実習(5)
- 10回 実習(6)
- 11回 実習(7)
- 12回 実習から学んだことをどう生かすか【評価】
- 13回 総括【教師の成長】【社会の変化】
- 14回 報告書の作成(1)役割分担の確認
- 15回 報告書の作成(2)原稿の完成

成績評価の方法 /Assessment Method

実習日記及び自己評価レポート ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ティーチング・アシスタントとして授業に参加する際には、事前に授業内容の予習を行い、授業後にはその日の振り返りを行います。それをもとに実習日記を作成し、指導教員にコメントを求めます。
また、実習を行う回には、1か月前に担当する学習項目を決定し、2週間前に教案を作成します。そして、2回以上の教案指導を受けます。そして、実習授業のリハーサルも行います。また、実習後は、ビデオを見ながら振り返りを行い、実習日記を作成して指導教員にコメントを求めます。
最後に、実習成果の一つとして、報告書の作成を行う。

履修上の注意 /Remarks

「日本語教育学概論」「第二言語収録論」「日本語教育カリキュラム論」「日本語教授法」「異文化間教育」「日本語教育カリキュラム論」を履修しておくこと。その他の日本語教師養成課程科目についても、3年次までに履修可能な科目は、できるだけ多く履修しておくことが望ましい。

実習は、人数や適性を判断して、「日本語I」「日本語II」「日本語III」「日本語VII」「日本事情(社会)A」に振り分ける。

実習期間は、実習日に加えて授業準備のために大学に来ることができるようスケジュールを空けておくこと。

実習に関することは、早めに自主的に準備を始めること。わからないことや疑問に思うことがあれば、適宜質問しよう。また、ポートフォリオを作成して、学習及び実習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

日本語教育実習【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習は、受け入れ先の事情が優先されるので、必ずしもシラバス通りにはいかないこともあることを承知しておいてください。

キーワード /Keywords

学習者主体 学習者オートノミー 体験学習 リフレクション(内省) 教師オートノミー

博物館概論【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

博物館に関する基礎的な知識全般を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。
具体的には、最新の博物館の動向をふまえながら、博物館の定義、種別、目的、機能、歴史、関係法規、また学芸員の役割や社会で求められている博物館像について学ぶ。実際の博物館での事象を具体例として検証することで、博物館の現状や課題について理解することを目指す。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・『博物館関係法令規則集』(日本博物館協会、1969年)
- ・『月刊 博物館研究』(日本博物館協会、1951年～)
- ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)○
- ・大堀哲・水嶋英治編『博物館学! 博物館概論*博物館資料論』(学文社、2012年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業の手順と内容について)
- 2回 博物館の定義(意義と理念)
- 3回 博物館の歴史
- 4回 博物館の種別について
- 5回 博物館における収集
- 6回 博物館資料の取り扱いについて
- 7回 学芸員の役割
- 8回 博物館における展示について①(展示の種別)
- 9回 博物館における展示について②(展示の企画・運営)
- 10回 博物館における展示について③(展示の技法)
- 11回 博物館資料の活用と保存環境
- 12回 博物館と文化遺産
- 13回 博物館における教育プログラム
- 14回 博物館を取り巻く諸問題について
- 15回 まとめと確認

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30%
試験...70%

※4回以上の欠席は不可、15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
※評価方法については変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。
授業後に、授業内で扱った展覧会や博物館について、インターネット等で詳細を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

博物館などの文化施設を訪問する際の基本的事項を学ぶ授業です。授業内容は聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモしてください。
この科目は、「学芸員」資格取得のために必要な科目です。「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。
新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、なるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでください。

博物館概論 【昼】

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館経営論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。具体的には、博物館施設の管理と事業目的に即した運営の在り方を理解し、博物館の総合的経営に関する基礎的知識と能力、コスト意識を学ぶ。あわせて市民参画の在り方や、関連施設・組織との連携方法を考える。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、受講者各自に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『博物館学講座』全10巻（雄山閣）
網干善教編『博物館学概論』（関西大学出版）
『月刊 博物館学研究』（日本博物館協会）
伊藤寿朗・森田恒之編『博物館概論』（学苑社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会教育施設としての「博物館」
- 2回 「博物館法」の理念と事業
- 3回 博物館の世代と推移（機能と変遷）
- 4回 博物館の設置及び経営方針の策定
- 5回 博物館運営状況の点検と評価
- 6回 博物館資料の収集と保管
- 7回 博物館資料の展示と調査研究
- 8回 利用者への学習機会と情報の提供
- 9回 学校・家庭及び社会との連携
- 10回 博物館の組織（職員配置と研修）
- 11回 施設及び設備と危機管理
- 12回 事業計画と予算編成
- 13回 博物館経費の運用
- 14回 費用対効果の点検（コストの効率化）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

博物館法を熟読し、社会教育施設としての役割を考える。ついで、新聞などで報じられる博物館に関する情報から、博物館経営の課題を検討する。

履修上の注意 /Remarks

聞き流すことなく、講義のポイントをしっかりとメモすること。
授業前に前講義の概要を見直しておくこと。
授業後は筆記したノートの要点を確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」資格を取得するという強い意志をもって出席してほしい。

キーワード /Keywords

地域社会への貢献とコスト意識。

博物館情報・メディア論【昼】

担当者名 /Instructor 須 孝幸 / Takayuki Nasu / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
			○		○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

博物館の仕組みや芸術と日常との接点について洞察しながら、現代社会における博物館メディアの現状と今後を考える。
 事例として世界最初の万博である1851年のロンドン万博の頃から現代までの約150年間をめぐる国内外の芸術表現、メディア思想を幅広く概観することで、社会や日常生活へ反映されていくメディアの実態を探る。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』ぎょうせい
 森山朋絵監修『映像体験ミュージアム』工作舎

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 メディアとは何か ~メディア社会の博物館
- 2回 メディアとしての博物館(1) 展覧会と教育普及活動
- 3回 メディアとしての博物館(2) 博物館の役割とコレクション
- 4回 「院展」「コレクション展」視察(北九州市立美術館本館で現地研修)
- 5回 メディアとしての博物館(3) 本の仕事
- 6回 「フジフィルムコレクション展」視察(北九州市立美術館分館で現地研修)
- 7回 メディアとしての博物館(4) 展覧会企画(レポート作成)
- 8回 視覚メディアの歴史(1) 視覚メディアの歴史(映像装置)
- 9回 視覚メディアの歴史(2) 19世紀における絵画と写真の関係1
- 10回 視覚メディアの歴史(3) 19世紀における絵画と写真の関係2
- 11回 視覚メディアの歴史(4) 20世紀前半の絵画と写真(レポート作成)
- 12回 芸術・メディア・社会(1) 1960年代の芸術動向を事例に
- 13回 芸術・メディア・社会(2) 芸術メディアの社会性(レポート作成)
- 14回 「ランス美術館展」視察(北九州市立美術館本館で現地研修)
- 15回 著作権とメディア ~アーティストとアート作品の関係

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50パーセント
 定期試験 30パーセント
 日常の授業への取り組み 20パーセント

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業当日までに各自前回の復習を行っておくこと

履修上の注意 /Remarks

出席は大前提、理由のある欠席の場合は事前に申し出ること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義を通じて、博物館にまつわるメディアの知識だけでなく、メディア社会の実態と構図を多角的に洞察する姿勢や力を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

博物館 展覧会 視覚メディア オリジナリティ 写真と絵画 社会と法律

博物館展示論 【昼】

担当者名 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

博物館の展示の基本理念と具体的方法についての基礎的な知識を養う。
様々な分野の博物館における様々な展示形態・展示方法・機材の使用方法について学ぶとともに、実際の展示の現状・課題について習得する。

第6回～第15回は外部講師として、北九州市漫画ミュージアム、北九州市立文学館、北九州市立美術館の学芸員をお招きして学内で行う。ただし第8回の授業は、漫画ミュージアムにて行う予定。(詳細な予定については、第1回目の授業のときに説明する。)

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)○
- ・ 表智之・金澤韻・村田麻里子『マンガとミュージアムが会おうとき』(臨川書店、2009年)○
- ・ 難波祐子『現代美術キュレーター・ハンドブック』(青弓社、2015年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「展示」の意味について
- 第3回 人文系博物館の展示と自然系博物館の展示
- 第4回 展覧会企画と展示の方法
- 第5回 良い「展示」をつくる-展示作業の事例
- 第6回 マンガ資料の特性と展示手法
- 第7回 展示設計と企画展マネジメント
- 第8回 地域の文化としてのマンガ / 北九州ゆかりのマンガ家たち
- 第9回 マンガ展示は誰のために
- 第10回 文学館の展示概論
- 第11回 文学館の展示パネル・キャプション
- 第12回 文学館の図録
- 第13回 美術館の展示作業 1
- 第14回 美術館の展示作業 2
- 第15回 現代アートの展示の特徴

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10%
課題レポート...90%

※4回以上の欠席は不可、15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
※変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。
学芸員の方による授業前には、その方が勤務されている博物館についてインターネットなどで情報を得ておくこと。
講師の学芸員の方が勤務されている博物館を訪れる際は、授業内容を確認の上、観覧すること。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を訪ね、展示の仕方について観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在、博物館で勤務されている学芸員の方の話を聞ける貴重な科目です。内容を聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモするようにしてください。
「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。

博物館展示論 【昼】

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館資料保存論【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 浩司 / SATO KOJI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

遺跡の発掘調査で出土する遺構や遺物は埋蔵文化財と呼ばれ、埋没した環境や使用された状況、また人為的な改変などにより、様々な態様を示して土中から掘り出される。その現状を克明に観察・記録することで、詳細な分類や分析が可能となり、それらを通して当時の生活、生産、消費活動の復元や精神的行為のあり方、さらには当時の人々、家族や組織などの社会形態をも知ることができる。

考古学的調査研究の対象となる遺構や遺物資料の歴史性を重視しつつ、個々の持つ多面的な情報を把握するとともに、それらが土中に埋もれながら今まで守られてきたことの意味を考えること、またこうした埋蔵文化財を保存し後世に伝えていくための技術や方法などを学ぶことで、過去から現在、未来へと受け継がれていく歴史と文化への理解を深めることを目的としたい。

通常の博物館資料保存論は、博物館資料＝「もの」の保存に関する基本的な知識や技術の習得、さらには日常的な管理と非日常的な危機管理を見据えた総合的な維持・管理のなかから、学芸員の役割や責務を理解することを主たる目的にしているため、この講座はやや異例ともいえる内容になる。

博物館に収納される以前の、いわば発見の原点に立ち、資料が残存する現状と限界を見極めることで、保存のあり方を考える講義をめざす。

教科書 /Textbooks

なし
適宜、配布資料を用意する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 本田光子・森田稔『博物館資料保存論(放送大学教材)』放送大学教育振興会 2012
- デビッド・ワトキンソン『出土遺物の応急処置マニュアル』柏書房 2002
- 藤本強『考古学の方法 調査と分析』東京大学出版会 2000
- 文化庁文化財部記念物課(編)『発掘調査のてびき-整理・報告書編-』2010
- 国立歴史民俗博物館『考古資料と歴史学』吉川弘文館 1999

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 埋蔵文化財.....もうひとつの資料保存論
2. 総論1 先史・原史時代(旧石器～古墳時代)の遺構と遺物
3. 総論2 歴史時代(古代、中世、近世、近現代)の遺構と遺物
4. 資料保存各論1 (土器・土製品の種類と保存)
5. 資料保存各論2 (石器・石製品の種類と保存)
6. 資料保存各論3 (金属器・ガラス製品の種類と保存)
7. 資料保存各論4 (木製品・繊維製品の種類と保存)
8. 資料保存各論5 (骨・骨製品・動物製品の種類と保存)
9. 遺跡と遺構調査1 (地形、土壌、遺構確認、掘削)
10. 遺跡と遺構調査2 (記録と情報)
11. 遺物調査1 (接合、復元、実測、トレースの内容)
12. 遺物調査2 (科学分析と保存)
13. 発掘調査報告書の作成とアフターケア(資料の活用と公開)
14. 文化財関連施設における資料保存と展示
15. まとめ (発見・取り上げ・保管・収納・保存処理・歴史叙述・公開・活用...博物館に受け渡すために)

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験を課す。ただし受験資格は3分の2以上の出席とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書、新聞、ウェブなどを通して各回の授業テーマについて事前に情報収集したり、前回の授業内容の復習を行うこと。

(目安の時間 予習60分、復習30分)

考古資料の取り扱いという視点では、近隣で行われている遺跡の発掘調査情報を取得して、現地説明会などの機会で見学したり、保存整備され公開されている遺跡を訪れて、どのような点を工夫して施設を作っているのかを考えてほしい。

また資料保存という視点で、実際に近くの博物館、資料館の展示を展覧すること。(目安の展覧時間 40分×3回)

履修上の注意 /Remarks

講義の14回は、関連施設あるいは遺跡公園などの見学を行うので、昼休みを利用して各自移動すること。(現地集合)

また、途中、急遽発掘現場の見学を行う場合もある。その際は直前の講義の中で知らせることとする。

博物館資料保存論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

博物館資料を構成する考古資料がどんな手順で発見・保存され、守られて来たのか、また今後どう守り伝えていけばいいのかを念頭に講義に臨んでほしい。

キーワード /Keywords

考古学 埋蔵文化財 遺構 遺物 発掘調査報告書 保存 公開と活用

博物館教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 史緒 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

美術館・博物館には「調査・研究」「保存・保管」「展示」「教育・普及」といった役割があります。近年ではそこに「社会包摂」「地域との関わり」「観光」といった役割・機能が加わり、求められる美術館の機能・役割は大きく変化しつつあります。

この授業では美術館・博物館の役割のうち、外に向かって開かれている部分＝人や地域と関わる部分を広く美術館の教育的機能ととらえます。そして美術館・博物館の教育的機能の考え方がどのように移り変わってきたかを踏まえつつ、近年の特徴的な試みについて国内外の事例から学びます。

美術館・博物館の教育的役割について考えることは、地域と文化、社会と文化、そしてひとりひとりの暮らしと文化の関わりについて考えることにつながります。例えば高齢化や産業構造の変化に対峙する地方自治体において、あるいは自然災害や公害で破壊されたコミュニティにおいて、美術館・博物館はどのような役割を担っていくことができるのでしょうか？また多文化社会を生きていく子どもたち、障害や言語的・設備的ハードルによって施設に足を運びにくい人々に対し、どのように美術館・博物館の資料やノウハウを活用し、豊かな文化的体験を提供することができるのでしょうか？

本講義を通し、既存の美術館・博物館のイメージや現在の美術館・博物館のあり方を受講者それぞれの視点で問い直し、これからの美術館・博物館の役割について具体的に考えることができると思います。

教科書 /Textbooks

ありません。レジュメ、資料を必要に応じて配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 博物館教育の歴史的・理論的背景
3. 博物館と教育：様々な鑑賞プログラム
4. ワークショップ体験演習
5. 博物館と高齢者
6. 博物館と障害者
7. 博物館と社会の多様化
8. 博物館と災害
9. 博物館と観光
10. 博物館と地域（地域の記憶と向き合う）
11. 博物館と地域（地域の課題と向き合う）
- 12-15. 教育プログラム演習

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：20% WS課題：10% 最終課題：30% 授業への取り組み：40%

- ・ 対話・演習による授業のため、出席と参加態度、議論への貢献を求めます。
- ・ 実地研修はこちらで候補を提示し、受講者が各自日程を調整の上参加するものとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の内容は随時小テストで振り返りを行います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学芸員資格を持つ学生の進路も多様化しつつあります。この講義でカバーする内容は、美術館・博物館に勤めることを目指す方だけではなく、地方自治体や政府機関、劇場・音楽堂といった文化施設、まちづくりに関わる企業やNPOなどを目指す方にも有効な視点を多く含みます。自分の中の「問い」を大切にしながら参加してもらえればと思います。

キーワード /Keywords

美術館、博物館、教育、ワークショップ、まちづくり、記憶、地域、文化

博物館資料論 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

博物館資料についての基礎知識を養う。

具体的には、博物館資料の種類や意味からはじめ、その収集・整理・保管等に関する理論や方法について学ぶ。また、博物館における調査・研究活動と、博物館資料の取り扱い、資料の活用に関する手順などを知り、博物館資料についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『月刊 文化財』 (文化庁、1963年～)
- ・ 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『新時代の博物館学』 (芙蓉書房出版、2012年) ○
- ・ 大堀哲・水嶋英治編 『博物館学I 博物館概論 * 博物館資料論』 (学文社、2012年) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび博物館資料について
- 第2回 博物館法と博物館資料
- 第3回 博物館資料の分類
- 第4回 博物館資料収集の方法と理念
- 第5回 博物館資料の調査・研究
- 第6回 博物館資料の取り扱い
- 第7回 博物館の展示について
- 第8回 博物館資料の保全について
- 第9回 博物館の保存・修復
- 第10回 博物館資料の損壊因子
- 第11回 博物館資料の生物被害からの防除
- 第12回 博物館資料と天災・人災からの保全
- 第13回 美術館資料の展示について
- 第14回 博物館資料の保険制度について
- 第15回 まとめと確認

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30%
試験...70%

※4回以上の欠席は不可。15分以上の遅刻は欠席とみなします。
※変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は「博物館概論」を受講しておくこと、理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。
新聞などに取り上げられる博物館や文化財の情報に気を配るとともに、日常生活においても「物」を大切に、丁寧に扱う習慣を身につけてもらえればと思います。

博物館資料論 【昼】

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館実習I【昼】

担当者名 門田 彩 他
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業では、実際の博物館相当施設での館園実習の事前教育として、北九州市内の博物館相当施設の見学実習と学内での実務実習を行う。見学実習では、学芸員の方から専門的な話を伺う予定。
見学実習の日程などの詳細は第1回目の授業時に指示する。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は原則として金曜日1,2限に行う予定であるが、博物館・美術館の展示スケジュールや学芸員の勤務予定との関係で、学外見学を土曜日や日曜日・休暇期間中などに変更することもある。

- 第1回 事前学習
- 第2回 見学実習もしくは実務実習①
- 第3回 見学実習もしくは実務実習②
- 第4回 見学実習もしくは実務実習③
- 第5回 見学実習もしくは実務実習④
- 第6回 見学実習もしくは実務実習⑤
- 第7回 見学実習もしくは実務実習⑥
- 第8回 見学実習もしくは実務実習⑦
- 第9回 見学実習もしくは実務実習⑧
- 第10回 見学実習もしくは実務実習⑨
- 第11回 実習II報告会(予定)
- 第12回 見学実習もしくは実務実習⑩
- 第13回 見学実習もしくは実務実習⑪
- 第14回 見学実習もしくは実務実習⑫
- 第15回 事後学習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度と実習日誌で100%評価する。
施設見学を欠席した場合は各自で見学して実習日誌に記入すること。
理由如何を問わず3回以上欠席は不可。15分以上の遅刻は欠席扱いとする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には、次に行く施設についてインターネット等で基本情報を調べておくこと。
授業後は、説明内容、見学内容について、授業中に作成したメモに基づいて、博物館実習日誌に消えない筆記具(ボールペン、万年筆等)を用いて記録すること。鉛筆、シャープペンでの記録は認めない。ただし、施設見学時のメモは鉛筆で取ること。

履修上の注意 /Remarks

「博物館実習I」は、「博物館実習II」と2学期連続して取らなければならない。
最初の授業の折におよその授業計画を説明するので、必ず出席のこと。
実習科目なので欠席は原則として認めない。万が一欠席した場合は、見学を各自でおこない日誌を書くこと。
事後学習外の諸施設や展示品の見学に際しては、学芸員の直接の指導を依頼することもあり、遅刻・欠席は許されないので要注意。
見学に際しての交通費・入館費は各自の負担である。
事前に、生協などの損害賠償保険に加入しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。授業は聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモすること。
新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、なるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでほしい。

博物館実習I【昼】

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館実習II【昼】

担当者名 門田 彩 他
/Instructor

履修年次 4年次 単位 1単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業は、博物館学芸員資格履修の仕上げの意味を持った館園実習である。博物館相当施設において45時間以上(5日間以上)の実習を行うが、その内容は施設によって異なる。

実習は本学が博物館・美術館に依頼して実施されるが、担当学芸員はじめ館員の方すべてが、業務の傍らで時間を割いて機会を作ってください初めて実現しているものであるため、決して迷惑を掛けるようなことがあってはならない。

取り扱うものは、金銭に換えがたい貴重な資料や作品である。当然、慎重な取り扱いや真摯な研究態度が望まれる。そうしたことに十分に気をつけ学芸員の方のお話を真摯に聞く態度が求められる。

また、2学期開講の「地域文化資源演習」の授業に1回以上参加し、実習で得た知識や経験をもとに「地域文化資源演習」履修生にアドバイスをすること。

教科書 /Textbooks

「博物館実習日誌」(生協にて販売)
「博物館学芸員資格取得についての手引き」(配付プリント)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「博物館実習II」の受講申告者には5月頃に直前説明会を行う。
第2回以降は、各施設の指定する実習期間と12月に予定している実習報告会とする。

「博物館実習II」は4年次履修で、期間は2単位分、5~10日間(合計45時間以上)を、原則として大学が指定した博物館・美術館で夏休み期間中に行う。

「博物館実習II」を履修するためには、その前年度に「博物館実習I」を履修合格しておくとともに、次の諸学科の単位をすべて修得していなければならない。

- 博物館概論、博物館展示論、博物館経営論、博物館情報・メディア論、博物館資料論、博物館資料保存論、博物館教育論
- 選択科目2科目以上(2系列以上からそれぞれ1科目以上)

直前説明会に欠席した場合は履修できない。また申込者であっても、実習生としてふさわしくないと判断した時は、履修を中止させる事がある。

実習報告会に欠席した場合は履修できない。

「地域文化資源演習」の時間割や内容等については、直前説明会で指示する。

館務実習費・交通費などの諸費用は履修生が負担するものとする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習日誌に記載された担当学芸員の評価、実習報告会での報告内容、「地域文化資源演習」への参加態度により、100%評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、実習を行う博物館についてインターネットなどで調べておくこと。また、当該館が扱う分野(たとえば、歴史、自然史)についての基礎的知識を学んでおくこと。

毎日の実習内容を、当日のメモをもとに十分に練られた文書を作成した上で、博物館実習日誌に丁寧に記録すること。記録の際には、消えない筆記具(ボールペン、万年筆等)で行うこと。シャーペン、鉛筆等は認めない。

履修上の注意 /Remarks

真摯な姿勢をもって実習を行うこと。
各自で損害賠償保険に加入しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講すること。
新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、実習を行う館以外にもなるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでほしい。

博物館実習II【昼】

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力と教員研修の意義(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その1 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その2 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その3 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。それが無い場合には公欠であっても減点になるので留意すること。

教職論【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原則
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 教育課程の編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は中学校・高等学校の英語科教員になるための基礎的な知識と技能を身につける。特に、中学校の英語教育に中心をおき、学習指導案の書き方および基本的な指導技術を学ぶ。

教科書 /Textbooks

【改訂版】『新しい英語科授業の実践』石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄 著 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 英語教育の目的
3. 英語の指導法(1) コミュニカティブ・アプローチ以前
4. 英語の指導法(2) コミュニカティブ・アプローチとその後
5. より良い指導のために(1) 音声指導
6. より良い指導のために(2) コミュニケーションにつながる文法指導の基本
7. より良い指導のために(3) コミュニケーションにつながる文法指導(コミュニケーション活動)
8. 評価の方法と学習指導案の書き方
9. 学習指導案の書き方(1)
10. 学習指導案の書き方(2)
 11. 模擬授業の準備
 12. 模擬授業(中学校1年生)
 13. 模擬授業(中学校2年生)
 14. 模擬授業(中学校3年生)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、提出物20%、模擬授業10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定ページを読んでくる。

事後学習 課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は中学校・高等学校の英語教員になるための、基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。特に高等学校の英語教育を中心に、学習指導案の書き方と基礎的な指導技術を学ぶ。

教科書 /Textbooks

【改訂版】『新しい英語科授業の実践』石田雅近・小泉仁・古谷貴雄・加納幹雄・斎藤嘉則著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
 松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II開隆堂 2012年、630円
 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
 南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円
 Onstage English Course I・II池田書店
 EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂
 田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II東京書籍、2012年、630円
 山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円
 Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II"開隆堂
 田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II啓林館 2013年、650円
 Voyager English Course NEW EDITION I・II第一学習社
 市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II"文英堂
 Genius English Course Revised I・II大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および評価について
2. 第二言語習得と英語教育
3. 4技能統合の理念とタスクの意義 (PCPPモデル)
4. リーディングの理論と実践
5. ライティングの理論と実践
6. 4技能統合の実践方法
7. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の考え方
8. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
9. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
10. モデル授業準備
11. モデル授業準備
12. モデル授業(1)
13. モデル授業(2)
14. モデル授業(3)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70%、提出物20%、模擬授業10% 「

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定箇所を読んでくる。
 事後学習 学習課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法C【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として、実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には、それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように、(1) 英語教育の施策に関する知識の習得、(2) 各言語技能の指導技術や教室運営の基礎知識、(3) 今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また、実際に模擬授業(中学校)を行い相互に評価・批判しあうことで、授業実践の力をつけさせる。模擬授業は一人1回を予定しているが、他の受講生の発表も真摯に聞き、自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお、森千鶴先生担当の「英語科教育法A」(1学期)は、主に2年生を対象としている。そのため、3年生以上は原則として「英語科教育法C」を受講することを強く勧める。

また、「Second Language Acquisition」(1学期)や「Language Teaching(英語学研究II(英語教育))」(2学期)では、言語習得や教授法に関する内容を扱う。英語教育に携わるうえで必須の知識となるため、それらの科目も併せて受講することを推奨する。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- (1) 『新編New Horizon English Course 3』(中学検定教科書)(東京書籍)※生協の指定書店で購入
- (2) 『中学校学習指導要領解説(外国語編)』(文部科学省)(開隆堂)
- (3) 『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著,2018年)(大修館)2640円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

- 『英語教育』(大修館、月刊雑誌)

その他の文献は授業で紹介する。また、各出版社の検定教科書は教職資料室(本館12階)で閲覧することができる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション
2. 日本における英語教育政策、英語教育の目的、英語教育課程
3. 多様な学習者・学びのユニバーサルデザイン
4. 言語習得と教授法
5. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
6. 中学学習指導要領の解説及び指導案作成法(細案の書き方)
7. 模擬授業(中学校、導入の実践 Unit1, 3, 5)
8. 模擬授業(中学校、会話文指導の実践①教科書Unit1,2,3)
9. 模擬授業(中学校、会話文指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
10. 模擬授業(中学校、リーディング指導の実践①教科書Unit1,2,3)
11. 模擬授業(中学校、リーディング指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
12. 模擬授業(中学校、文法指導の実践①教科書Unit1, 2, 3)
13. 模擬授業(中学校、文法指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
14. 模擬授業(中学校、タスク指導の実践)
15. まとめ(英語科教員としての責任と課題, 質疑応答)

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 指導案 20%
- (2) 模擬授業 20%
- (3) 模擬授業の振り返り報告書 25%
- (4) 学び報告書 25%
- (5) 授業に対する積極性 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業の準備をする。

<事後学習> 授業内容の復習を行う。また、模擬授業担当者は、授業の様子を録画したDVDを視聴し「振り返り報告書」をMoodleで提出する。模擬授業を担当していない者は、模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめ、Moodleで提出する。

英語科教育法C 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1) 教員免許状を取得し、将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き、無断欠席は履修放棄とみなす。また、4回以上欠席した者は、成績評価の対象外とする。
- (2) 模擬授業を行う際は、服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う(発表者はスーツ着用)。
- (3) 模擬授業のスケジュール等、詳細については初回授業で説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

検定教科書の購入方法については、生協で確認すること。

キーワード /Keywords

英語科教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本講義は、中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として、実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には、それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように、(1) 英語教育の施策に関する知識の習得、(2) 各言語技能の指導技術や教室運営の基礎知識、(3) 今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また、実際に模擬授業(高等学校英語)を行い相互に評価・批判しあうことで、授業実践の力をつけさせる。一人につき最低1回の模擬授業を課す。他の受講生の発表も真摯に聞き、自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお、森千鶴先生担当の「英語科教育法B」(2学期)は、主に2年生を対象としている。そのため、3年生以上は原則として「英語科教育法D」を受講することを強く勧める。

また、「Second Language Acquisition」(1学期)や「英語学研究II(英語教育)(Language Teaching)」(2学期)では、言語習得や教授法、教材やテストの作成に関する内容を扱う。英語教育に携わるうえで必須の知識となるため、それらの科目も併せて受講することを推奨する。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類-3」に分類される。

教科書 /Textbooks

- (1) 『改訂新版 CROWN English Communication I』(高校検定教科書)(三省堂)※生協の指定書店で購入
- (2) 『高等学校学習指導要領解説(外国語編・英語編)』(文部科学省)(開隆堂)
- (3) 『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(大修館)2600円 ※前期に購入した場合は不要

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『英語教育』(大修館、月刊雑誌)

その他の文献は授業で紹介する。また、各出版社の検定教科書は教職資料室(本館12階)で閲覧することができる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション
2. 英語教育におけるユニバーサルデザイン
3. 測定と診断
4. 高等学校学習指導要領の解説及び指導案作成法(細案の書き方)
5. 模擬授業(高校、導入指導の実践)
6. 模擬授業(高校、導入指導の実践)
7. 模擬授業(高校、リーディング指導の実践①教科書Lesson 4,6)
8. 模擬授業(高校、リーディング指導の実践②教科書Lesson 4,6)
9. 模擬授業(高校、ライティング指導の実践②教科書Lesson 6,10)
10. 模擬授業(高校、文法指導の実践①教科書Lesson 4,6)
11. 模擬授業(高校、文法指導の実践②教科書Lesson 6,10)
12. 模擬授業(高校、アクティブラーニングの実践①教科書Lesson 6,10)
13. 模擬授業(高校、アクティブラーニングの実践②教科書Lesson 6,10)
14. 模擬授業(高校、タスク指導の実践)
15. まとめ(英語科教員としての成長、質疑応答)

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 指導案作成 25%
- (2) 模擬授業 20%
- (3) 模擬授業の振り返り報告書 25%
- (4) 学び報告書 20%
- (5) 授業に対する積極性 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業の準備をする。

<事後学習> 模擬授業の担当者は、授業の様子を録画したDVDを視聴し「振り返り報告書」を作成し、Moodleで提出する。模擬授業を担当していない者は、模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめ、Moodleで提出する。

英語科教育法D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- (1) 教員免許状を取得し、将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き、無断欠席は履修放棄とみなす。4回以上欠席した者は、成績評価の対象外とする。
- (2) 模擬授業を行う際は、服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う（発表者はスーツ着用）。
- (3) 模擬授業等の詳細については、初回授業で説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

検定教科書の購入方法については、生協で確認すること。

キーワード /Keywords

国語科教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 坂東 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

国語科教育実践の基盤である、目標、学力、内容、評価、授業を行う際に留意すべき事柄について史的展開を含めて理解した後、新学習指導要領の特徴と課題を捉え、現在の国語科教育実践の諸問題の改善について検討していく。また、受講生の能動的学習を促すため、グループ活動、自由討議、まとめと発表に重点を置く。

< 授業の到達目標 >

- ・ 国語科教育実践の基盤である、目標、学力、内容、評価、授業を行う際に留意すべき事柄について、史的な展開を含めて理解し説明することができる。
- ・ 新学習指導要領の特徴や課題を理解しあらましを説明することができる。
- ・ 国語科教育実践の諸問題を多角的に捉え、問題の改善に向けて主体的に考察して意見を述べるができる。
- ・ 国語科教育実践の諸問題について様々な視点から意欲的に考察し、改善を図ろうとする態度を養う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

『新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究』 全国大学国語教育学会編 (東洋館出版社 2019)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 文部科学省 (東洋館出版 2018)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション(授業方法・内容の紹介)
- 第2回 : 国語科教育の教科目標
- 第3回 : 国語科教育の制度(学習指導要領と教科書)
- 第4回 : 国語科の授業について(発問・指示・板書・ワークシートなど)
- 第5回 : 国語科教育における評価
- 第6回 : 国語科の内容1 - 「話すこと・聞くこと」-
- 第7回 : 国語科の内容2 - 「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」-
- 第8回 : 国語科の内容3 - 「読むこと」-
- 第9回 : 単元的展開の実践例1-大村はまの実践から-
- 第10回 : 単元的展開の実践例2-1980年代以降の実践から-
- 第11回 : 「書くこと」の実践(校内スケッチを書く)
- 第12回 : 「読むこと」の実践(グループで校内スケッチを読み合いアドバイスをする)
- 第13回 : 「話す」「聞く」「話し合う」の実践(情報機器を活用した文集の編集)
- 第14回 : スクリーンに投影して文集の表紙・編集案の発表を行う
- 第15回 : まとめ

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 定期試験(期末試験) 50%
- ・ 授業内レポート、授業外レポート 20%
- ・ 授業態度・授業への参加度 10%
- ・ 受講者の発表、授業内での制作作品 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 指定されたテキストの範囲を読んでおくこと。
- ・ 次回までの課題を授業中に指示するので、準備すること。
- ・ 授業の理解に有益な文献を適宜紹介するので読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業までにテキストを読んでおくこと。
- ・ 授業のあとにポイントをまとめておくこと。

国語科教育法 A 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国語科授業実践の基礎知識を身に付け、国語科の授業づくりについて楽しく学んでいきましょう。

キーワード /Keywords

国語科教育 国語科の授業づくり

国語科教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 坂東 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

国語科の領域「読むこと」の指導の歴史的展開と様々な指導法、今日的課題について理解した後、教科の背景となる学問領域と関連付けた教材分析の方法、授業設計の方法、学習指導案の作成方法を身につけ、模擬授業を行う。

< 授業の到達目標 >

- ・ 「読むこと」「伝統的な言語文化」の指導の歴史的変遷と様々な指導法、今日的課題を理解し説明することができる。
- ・ 「読むこと」「伝統的な言語文化」の目標、様々な指導法、教科の背景となる学問領域と関連付けた教材分析法、授業を構想する際の留意点について説明することができる。
- ・ 意欲的に「読むこと」「伝統的な言語文化」の授業を設計することができる。
- ・ 学習指導案を作成して、模擬授業を行うことができる。
- ・ 様々な視点から国語科教育について考察を加えることができ、グループ活動、自由討議などに参加することができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

『新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究』 全国大学国語教育学会編 (東洋館出版社 2019)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 文部科学省 (東洋館出版 2018)
『教育科学国語教育』 (明治図書 月刊誌 2018~2020)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション
- 第2回 : 「読むこと」の指導について1(歴史的展開と今日的課題)
- 第3回 : 「読むこと」の指導について2(授業実践例、様々な指導法)
- 第4回 : 「読むこと」の指導について3(文学的文章教材の教材分析について)
- 第5回 : 「読むこと」の指導について4(説明的文章教材の教材分析について)
- 第6回 : 学習指導計画、学習指導案の作成
- 第7回 : 学習指導案の検討
- 第8回 : 学習指導案の検討
- 第9回 : 情報機器を活用した文学的文章教材の教材分析と授業案の発表
- 第10回 : 情報機器を活用した説明的文章教材の教材分析と授業案の発表
- 第11回 : 「読むこと」(文学的文章)の模擬授業と検討
- 第12回 : 「読むこと」(説明的文章)の模擬授業と検討
- 第13回 : 「伝統的な言語文化」の模擬授業と検討
- 第14回 : 国語科教育の今日的課題
- 第15回 : まとめ

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 定期試験(期末試験) 50%
- ・ 授業内レポート、授業外レポート 20%
- ・ 授業態度・授業への参加度 10%
- ・ 受講者の発表、授業内での制作作品 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 指定されたテキストの範囲を読んでおくこと。
- ・ 次回までの課題を授業中に指示するので、準備すること。
- ・ 教育実習や採用試験に関する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業までにテキストを読んでおくこと。
- ・ 授業のあとポイントをまとめておくこと。

国語科教育法B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の授業実践力をつけていきましょう。

キーワード /Keywords

国語科教育の理論と実践、授業作り、模擬授業

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：道徳教育の変遷①～戦前
- 第3回：道徳教育の変遷②～戦後
- 第4回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第5回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第6回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
- 第7回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
- 第8回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
- 第9回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
- 第10回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第11回：道徳科における評価
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：シテイズンシップ教育と道徳教育
- 第15回：対話への道徳教育

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案35%
コメントシート15%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのミニレポート 20%
定期試験 80%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション —教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 —初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 —中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 —少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 —家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 —学校教育
- 第7回諸外国の教育 —青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 —家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 —孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 —メディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 —社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 —地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 石嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他者の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。③人権教育の指導計画などプログラムの作成や発表、ロールプレイなど参加型の学習を取り入れる。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通した人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 14回 「私の人権教育のプログラム」(発表)
- 15回 「私の人権教育のプログラム」(発表)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度、課題、テストなど、総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(60%)、授業への参加度(10%)、課題(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示をされた文献や資料について読んでおくこと。
「私の人権教育のプログラム」発表のためにパワーポイントを作成する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

体験学習を取り入れています。受講生の皆さんの積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

明治維新（1868年）から敗戦（1945年）までの日本近代史を概説していきます。明治憲法の下でなぜ、政党政治が発展できたのか。それにもかかわらず、なぜ、昭和期に入ると軍部が台頭したのか。この二つの問題を中心に講義を進めていきます。日本のことを知らなくて、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『近代日本と軍部 1868 - 1945』講談社現代新書、2020年、税別1300円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 「文明国」をめざして - 憲法制定・自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第3回 明治憲法体制の成立【伊藤博文】【山県有朋】【児玉源太郎】【統帥権】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 憲法改革の頓挫【伊藤博文】【児玉源太郎】【韓国併合】
- 第8回 大正政変【桂太郎】【尾崎行雄】【21カ条要求】
- 第9回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【加藤高明】
- 第10回 二大政党の時代【浜口雄幸】【田中義一】【統帥権干犯問題】
- 第11回 軍部の台頭【満州事変】【皇道派】【統制派】
- 第12回 2・26事件【高橋是清】【永田鉄山】【「満州国」】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】【西園寺公望】【近衛新体制】
- 第14回 太平洋戦争 - 明治憲法体制の崩壊【昭和天皇】【日独伊三国軍事同盟】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。授業終了後はノートを読み直し、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。各自積極的に受講して下さい。

履修上の注意 /Remarks

歴史と政治 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では歴史的事項の暗記は重視しません。歴史の流れを史料に即して論理的に理解することが大切です。ノートをしっかりとって下さい。最新の研究成果を用いて講義を進めます。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 杉原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

講義中に何回か指定するトピック（次回のテーマに関するもの）についての記述を求め、次回の講義の冒頭で、提出された内容から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容と近代

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 中間テスト

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 宗教とコミュニティ

第12回 さまざまな信仰心

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 中間テストの解説

第15回 政教分離と世俗化

※出張などの理由で休講が入った場合、内容を変更することがある。具体的なスケジュールについては初回の講義で説明する。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト+課題など40%、期末テスト60%を基本に、各自の授業貢献を適宜加点する。

※中間テストを予定しているが、受講者の数によってはレポートにすることがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。

・ Moodleで適宜ミニ課題を出します。締め切りまでに提出してください。

・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

・ 評価方法やテキストとなる電子ブックや講義資料の閲覧方法など重要事項は第一回の講義で説明しますので、第一回目の講義は必ず出席してください。

・ 中間テストの無断欠席者や、提出課題の不正、授業態度が目に見える受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

・ 講義に出席していても、テストやレポートの評価が悪ければ、結果として単位を落とすこともあります。講義中に指示した関連文献を読むなど、復習にも真剣に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

〇〇人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、全く役に立たないわけではないですが、そのような情報は必要になった時に努力すればすぐ入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs 不平等をなくす

ことばの科学 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
- ステューヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生まだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

ことばの科学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促す。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 安全保障(1)
安全保障を学ぶことの重要性、
- 第3回 安全保障(2)
安全保障とは何か、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム
- 第4回 安全保障(3)
脅威とは何か、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第5回 日本の安全保障(1)
安全保障の非軍事的側面 (エネルギー、資源、食糧、備蓄をめぐる安全保障)
- 第6回 日本の安全保障(2)
安全保障の軍事的側面 (国防、日米同盟、国際貢献)
- 第7回 日本の防衛(1)
防衛出動、個別的自衛権と集団的自衛権
- 第8回 日本の防衛(2)
海上警備、対領空侵犯措置、BMD対処、機雷除去、対外邦人輸送等
- 第9回 日本の防衛(3)
平和安全法制の概要
- 第10回 日本の防衛(4)
平和安全法制の論点
- 第11回 日本の脅威(1)
北朝鮮の脅威① 兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処
- 第12回 日本の脅威(2)
北朝鮮の脅威② 弾道ミサイル及び大量破壊兵器
- 第13回 日本の脅威(3)
中国海空軍の脅威① 中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向
- 第14回 日本の脅威(4)
中国海空軍の脅威② 中国軍の戦略と行動
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読み、安全保障・防衛関連の記事をチェックする習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

併せて世界 (地球) 特講 (テロリズム論) を履修すると、より体系的に理解できる。

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- ・ 生命と環境に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめ、表現できる。
- ・ 身近な課題に関して積極的に調べ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和編 2012年(数研出版)1890円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)903円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------------|-----------------|
| 1回 | ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 | 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 | 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 | 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 | 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 | 生物の多様性(2)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 7回 | 生物の多様性(3)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 8回 | 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 9回 | 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 10回 | 遺伝子の多様性(3)多様な生命の紹介(外部講師) | |
| 11回 | 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 12回 | 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 13回 | 科学的な方法とは(3)人類の起源を調べるには(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 14回 | 関連ビデオ鑑賞(日高) | |
| 15回 | 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。

事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に配布した課題プリントを持ち帰って、次回の授業時に提出したり、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分、復習60分)。

その他、ICTに関するニュースを視聴するなど、日常的、能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナシップ

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。
また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑩山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第9回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第10回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第11回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第12回 「農業」と SATOYAMA イニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第13回 復習
- 第14回 レポート試験の実施 (※レポート試験は日程が前後する可能性があります)
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容：50%
レポート試験：50%

環境問題概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
可能性としての歴史 HIS200F				

授業の概要 /Course Description

歴史の転換点において、ありえた別の政策的選択肢を選んでいたら、日本は、そして世界はどうなっていたらだろうか。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかの政策選択上のイフを導入して、第二次世界大戦史の諸相を提示していきます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 学説の整理【15年戦争】【ファシズム】【ナチズム】【共産主義】【軍国主義】
- 3回 政党内閣と満州事変【「満州国」】【関東軍】【五・一五事件】
- 4回 軍部の台頭【二・二六事件】【国体明徴運動】【高橋是清】
- 5回 日中戦争【近衛文麿】【大政翼賛会】
- 6回 ヒトラーの台頭【暴力】【国民社会主義ドイツ労働者党】
- 7回 日独伊ソの体制比較【政軍関係】【全体主義】
- 8回 ヒトラーと第二次世界大戦1【オーストリア併合】【ミュンヘン会談】【独ソ不可侵条約】
- 9回 ヒトラーと第二次世界大戦2【独ソ戦】【「最終的解決」】
- 10回 日独伊三国軍事同盟の成立【ノモンハン事件】【ユーラシア大陸ブロック構想】【日ソ中立条約】
- 11回 日米戦争は不可避だったのか【北進論】【南進論】【日米交渉】
- 12回 太平洋戦争1【東条英機】【戦時体制】
- 13回 太平洋戦争2【「戦後秩序構想」】
- 14回 敗戦【「本土決戦」】【日ソ戦争】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに高校教科書（「日本史」「世界史」）レベルの文献の該当箇所に目を通して置いて下さい。授業終了後にはその日のノートをもう一度読み返して下さい。参考文献は講義の中で指示いたします。
ノートはしっかりとって下さい。

履修上の注意 /Remarks

可能性としての歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論 SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げながら、この問題に迫っていききたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

戦争論 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「日本の防衛」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ホモサピエンスと戦争の起源(1)サルからヒトへ
- 第3回 ホモサピエンスと戦争の起源(2)ヒトの組織的戦争と定住の始まり
- 第4回 戦争概論～戦争の定義
- 第5回 戦争の経歴(1)絶対主義時代の戦争
- 第6回 戦争の経歴(2)革命戦争
- 第7回 戦争の経歴(3)近代戦争
- 第8回 両大戦の特徴(1)総力化
- 第9回 両大戦の特徴(2)イデオロギー化、(3)全面化
- 第10回 日本と原爆～原爆の開発過程、完成、投下
- 第11回 核兵器の構造
- 第12回 核兵器出現に伴う変化(1)時間的文脈における変化
- 第13回 核兵器出現に伴う変化(2)空間的文脈における変化
- 第14回 核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画に沿って時系列的に講義を進めるので、該当する時代の高校世界史について再度確認しておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代を生きるわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」がわかるわけでもありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるのではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、嘔むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので、心理学では人の行動を観察することから始めます。観察するためには、行動を観察するだけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から見た「こころ」がこんなにも違って見えるのかについて考えていきます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 福田恭介 (2018) ベアレントトレーニング実践ガイドブック - きつとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版 ○○行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法 北大路書房
- 丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- やまだようこ (1987) ことばの前のことば 新曜社
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。 ミネルヴァ書房
- 神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>

現代人のこころ【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1：ものが見えるとは？
- 3: 知覚2：色はなぜ見える？
- 4: 知覚3：形はなぜ見える？
- 5: 知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
- 6: 目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
- 9: 注意2：意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
- 13: 発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
- 14: 発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
- 15: まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント：30点
レポート：30点
期末試験：40点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

こちらからのコメントへの回答を参考にしながら、もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで、所定の書式のレポートに要約し、200字程度のコメントを書いてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます。
2. 次の時間、コメントにはできるだけ回答したいと思います。
3. 回答内容には、関連する本やウェブサイトを紹介しますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようにいろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ，心の発達，発達障害

人間と生命【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- ・ 生命科学に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 授業で学んだことを自分の言葉でまとめて表現できる。
- ・ 関連テーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書 /Textbooks

なし。毎回資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2015年(羊土社)3024円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1890円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子発現	【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【胚】
8回	細胞の社会(1)細胞の増殖	【細胞周期】【細胞死】
9回	細胞の社会(2)シグナル伝達	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【染色体】【テロメア】
12回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
13回	体を守るしくみ(3)私たちと細菌	【細菌】【腸内細菌】
14回	関連ビデオ鑑賞	
15回	質疑応答・まとめ	

人間と生命【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（毎回のMoodle課題提出を含む）100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle（e-learningシステム）で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

市民活動論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 工藤 一成 / マネジメント研究科 専門職学位課程
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自立的に探求する姿勢が身についている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション – グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 国内都市間競争とグローバル化【人口減少社会】【インバウンド】
- 9回 社会インフラの国際技術移転【外部効果】【公共ガバナンス】
- 10回 地域政策と国際化(1)【交流人口】【インバウンド振興】
- 11回 地域政策と国際化(2)【越境する地域問題】【政策手法の変化】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントは北方Moodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

近現代の世界史のなかに東アジア三国(日本、清国・中国、朝鮮・韓国)の発展を位置づけ、国際関係史と地域研究への理解を深める。歴史は「過去と現在との対話」と言われるが、実は「過去と将来との対話」でもある。したがって、過去と現在の「東アジアの中の日本」を考えることや、将来の「東アジア地域秩序の構築・構築」に有意義な観点を見出すことを目指す。

教科書 /Textbooks

ガイダンスの時にあらためて紹介する。
第1回～第8回については、五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)[本体価格2,000円]を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。
後半部分の朝鮮半島にかんする記述では、長田彰文『世界史の中の近代日韓関係』(慶応義塾大学出版会 2013)が役立つ。その他、後半で使う参考書として、図書館所蔵のものをあらかじめ示すと、
日中韓3国共通歴史教材委員会編『未来をひらく歴史 東アジア3国の近現代史』(高文研、2005)
日中韓3国共通歴史教材委員会編『新しい東アジア近現代史』上・下(日本評論社、2012)がある。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス、
- 2回 占領下日本の外交 【占領政策】【日本国憲法制定】【封じ込め戦略】
- 3回 日米同盟の形成 【中ソ同盟】【朝鮮戦争】【サンフランシスコ講和条約】【日米安全保障条約】
- 4回 岸信介政権の外交 【1955年の政治体制】【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 5回 池田勇人政権の外交 【高度経済成長】
- 6回 佐藤栄作政権の外交 【沖縄復帰】【非核三原則】【核密約】
- 7回 田中角栄の時代と中曽根康弘の外交 【石油危機】
- 8回 冷戦の終結と21世紀の世界 【軍縮】【湾岸戦争】【テロとの戦い】
- 9回 中国、日本、朝鮮の開国と当時の国際情勢 【東アジア国際秩序】【自由貿易】【朝鮮問題】
- 10回 日清・日露戦争と朝鮮(韓国) 【大韓帝国】【日英同盟】【日露交渉】
- 11回 日本の韓国侵略と列国 【保護国化】【統監政治】【韓国併合】
- 12回 日本の朝鮮統治と国際関係 【武断政治】【三・一運動】【文化政治】
- 13回 国際情勢の緊迫と朝鮮統治 【満州事変】【大陸兵站基地】【日中戦争】
- 14回 日本の敗戦と朝鮮の南北分断 【皇民化政策】【太平洋戦争】【朝鮮問題】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

前半レポート 50% 後半レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
				○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

近代では倫理は「倫理学」として独立した分野になっていますが、洋の東西を問わず、倫理・道徳は宗教（聖）、政治的共同体と密接な関係をもっています。また西欧においては、道徳的なものは美をもつとされ、「美しき魂」「美しき国家」の理想がとくにドイツ思想において重視されてきました。

この講義では、倫理・道徳と宗教（聖）、倫理・道徳と自然法、倫理・道徳と美（芸術作品）との分裂や融合のせめぎ合いの歴史を、近代の思想をたどることによって、明らかにします。そのことによって、現代において、法や社会を見る目が涵養され、自分がどのように行動し、判断すればよいかの「判断力」を養成する一助となることをめざします。

教科書 /Textbooks

各講義でレジメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 インTRODクシヨN：カール・シュミットと「中立性の時代」
- 第2講 第1部 聖と善の分離
(1) ルター：宗教の内面化
- 第3講 (2) ホッブズ：宗教と国家の分離、「暗黒の王国」と宗教的権威に変わる「主権」=「可死の神」
- 第4講 (3) スピノザ：民衆の道徳としての宗教、『神学・政治論』
- 第5講 (4) カント：理論を超え理性宗教、『理性の限界内における宗教』
- 第6講 (5) フィヒテ：理性宗教の確立「生きた道徳法則が宗教」
- 第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい
(1) ルソー：自律道徳のための法としての『社会契約論』
- 第8講 (2) カント：自由と法、「理論と実践」
- 第9講 (3) フィヒテ：フランス革命の哲学と『自然法の基礎』
- 第10講 (4) カール・シュミット：主権の不可侵性、「政治神学」
- 第11講 第3部 美と人倫、「美しき共同体」を求めて
(1) カント：美と目的論、『判断力批判』
- 第12講 (2) シラー：美と人倫、『カリアス書簡』と『美的教育書簡』
- 第13講 (3) ヘルダーリン：精神の詩学、『ヒュペーリオン』と『エンペドクレス』
- 第14講 (4) マルクス：物象化とコミュニケーション主義としてのコミュニズム
- 第15講 (5) ウィリアム・モリス：美と工芸のコミュニズム

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート60パーセント。講義の中でのリフレクション・カード40パーセント。

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、参考文献を挙げるので、取捨選択して読んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

交通機関の遅れなどやむをえない場合（要証明書）を除いて、30分を超えての遅刻入室は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい授業を心がけます。質問、議論を歓迎します。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール
- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
 - 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
 - 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
 - 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
 - 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
 - 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
 - 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
 - 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
 - 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
 - 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
 - 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
 - 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
 - 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
 - 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
 - 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験(60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身及び社会的健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルスII
			PSY002F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、自己分析を通して、自らのを客観的に理解し、自己肯定感を高めるための方法について考えていきます。また、実際の事例を通し、メンタルヘルスが不調とはどういう事なのかを考えていきます。

教科書 /Textbooks

なし。適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 自己分析①【心理テスト】
- 第3回 自己分析②【リフレーミング、ストレングス・パースペクティブ】
- 第4回 精神病理の紹介①【精神疾患、うつ、統合失調症】
- 第5回 精神病理の紹介②【人格障害】
- 第6回 自己覚知①【自己のイメージ、他者のイメージ】
- 第7回 自己覚知②【ライフストーリー】
- 第8回 自己覚知③【ジェノグラム、エコマップ】
- 第9回 リフレッシュ【感動、感謝】
- 第10回 事例検討①【非行】
- 第11回 事例検討②【虐待】
- 第12回 事例検討③【ホームレス】
- 第13回 事例検討④【孤立、社会的排除】
- 第14回 事例検討⑤【障害】
- 第15回 受援力、援助力

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 日常の授業への取り組み 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、自身の心の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。
メンタルヘルスIを未受講でも、履修することは可能です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【夜】

担当者名 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description
健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。
そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

教科書 /Textbooks
必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じて紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 (講義) 運動と身体の健康
 - 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
 - 4回 (実習) 運動強度測定
 - 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
 - 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
 - 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
 - 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
 - 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
 - 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
 - 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
 - 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
 - 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
 - 14回 これからのスポーツ
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review
授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関する諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報システムの利用について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【Moodle】【タイピング】
- 2回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】
- 3回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 4回 関数を活用した計算【セルの参照】【合計】【平均】
- 5回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 6回 グラフ作成の応用【複合グラフ】
- 7回 情報倫理とセキュリティの知識【著作権】【個人情報保護】
- 8回 電子メールの送受信方法【電子メール】【ネットワークマナー】
- 9回 簡易データベース機能の利用【並べ替え】【抽出】
- 10回 データ処理演習1（実データの解析，他のソフト等との連携）
- 11回 データ処理演習2（実データの解析，データの可視化）
- 12回 データ処理演習3（実データの解析，相関，散布図）
- 13回 少し高度なExcelの活用法【Vlookup】【ピボットテーブル】
- 14回 データ処理総合演習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提出する課題 ... 50%、
授業中に提示する課題 ... 50%

データ処理【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodleに掲載されている資料等を事前に参照しておくこと。
タイピングなどのコンピュータ操作については、各自で日頃からの確にできるように努力すること。
授業中に出された課題に事後学習として取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によって「授業計画・内容」を変更することがある。その際は授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	生涯学習・社会教育に関する専門的知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	社会や人間の課題に対して教育的課題として発見できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	生涯学習・社会教育の視点から問題意識を持ち、主体的に学習できる。

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生涯学習学

EDU220M

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第 2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第 3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第 4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第 5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第 6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第 7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第 8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第 9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

生涯学習学【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる基礎的な資質・能力と教員研修の意義(中教審の答申を踏まえて)
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その1 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その2 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その3 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 30点、レポート試験70点
なお、欠席した場合には一回につき5点の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席してもらうことを前提にして進めます。
公欠や体調不良などのやむを得ない事情で欠席した場合には授業のレジュメやビデオ補講を受けるなどして、できるだけその内容を補ってください。それが無い場合には公欠であっても減点になるので留意すること。

教職論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

目標

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODククション：教育とは何か
- 2回 教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 4回 発達段階と発達課題：思春期・青年期
- 5回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 6回 教育思想②：日本の教育思想
- 7回 教育史①：西洋の教育史
- 8回 教育史②：日本の教育史
- 9回 学ぶ意欲と教育指導
- 10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2700

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」 ¥298

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 乳児は世界をどのように感じるのか【知覚、認知、言語の発達】
- 第3回 ヒトの発達の特徴とは【発達のメカニズム】
- 第4回 ヒトは他者との関係をどのように築くのか【愛着、共同注意】
- 第5回 イメージと言葉の世界【知能の発達、表象能力】
- 第6回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【心の理論】
- 第7回 自己・他者を理解する【自己概念・自己意識】
- 第8回 学習の過程【学習理論、論理的思考】
- 第9回 友人とのかかわりと社会性の発達【ギャング・エイジ、道徳性】
- 第10回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第11回 他者を通して見る自己【友人関係、問題行動】
- 第12回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第13回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第14回 発達障害をもつ児童生徒の心身の発達と学習の過程
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

今回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくる。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。
なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、義務教育
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 中等教育、学校体系
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 就学・懲戒
- 6回 教科書に関する制度
- 7回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制
- 8回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 9回 教員制度の基本的事項(3) 公務員としての教師、教員の待遇
- 10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 12回 学校関係者による協力支援の制度
- 13回 地域社会の変容と学校
- 14回 教育制度改革の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

目標

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 教育課程編成の基本原理
- 第2回 日本の教育課程の変遷
- 第3回 学習指導要領と教育課程編成
- 第4回 学力と教育課程
- 第5回 教育課程の編成
- 第6回 「カリキュラム・マネジメント」と学校改善
- 第7回 教育課程の評価
- 第8回 諸外国の教育課程・カリキュラム(1) 東アジアを中心に
- 第9回 諸外国の教育課程・カリキュラム(2) 英語文化圏を中心に
- 第10回 諸外国の教育課程・カリキュラム(3) 欧州を中心に
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 今日の課題と教育課程(1) アクティブラーニング
- 第13回 今日の課題と教育課程(2) 国際移動と教育
- 第14回 今日の課題と教育課程(3) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は中学校・高等学校の英語科教員になるための基礎的な知識と技能を身につける。特に、中学校の英語教育に中心をおき、学習指導案の書き方および基本的な指導技術を学ぶ。

教科書 /Textbooks

【改訂版】『新しい英語科授業の実践』石田雅近・小泉仁・古家貴雄・加納幹雄 著 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 英語教育の目的
3. 英語の指導法(1) コミュニカティブ・アプローチ以前
4. 英語の指導法(2) コミュニカティブ・アプローチとその後
5. より良い指導のために(1) 音声指導
6. より良い指導のために(2) コミュニケーションにつながる文法指導の基本
7. より良い指導のために(3) コミュニケーションにつながる文法指導(コミュニケーション活動)
8. 評価の方法と学習指導案の書き方
9. 学習指導案の書き方(1)
10. 学習指導案の書き方(2)
 11. 模擬授業の準備
 12. 模擬授業(中学校1年生)
 13. 模擬授業(中学校2年生)
 14. 模擬授業(中学校3年生)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 70%、提出物20%、模擬授業10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定ページを読んでくる。

事後学習 課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法B【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

この授業は中学校・高等学校の英語教員になるための、基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。特に高等学校の英語教育を中心に、学習指導案の書き方と基礎的な指導技術を学ぶ。

教科書 /Textbooks

【改訂版】『新しい英語科授業の実践』石田雅近・小泉仁・古谷貴雄・加納幹雄・斎藤嘉則著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。
 松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 2012年、630円
 NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社
 南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION 第一学習社、2007年、765円
 Onstage English Course I・II 池田書店
 EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂
 田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II 東京書籍、2012年、630円
 山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円
 Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂
 田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II 啓林館 2013年、650円
 Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社
 市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II" 文英堂
 Genius English Course Revised I・II 大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II 三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および評価について
2. 第二言語習得と英語教育
3. 4技能統合の理念とタスクの意義 (PCPPモデル)
4. リーディングの理論と実践
5. ライティングの理論と実践
6. 4技能統合の実践方法
7. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の考え方
8. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
9. 「コミュニケーション英語I,II」指導案の書き方
10. モデル授業準備
11. モデル授業準備
12. モデル授業(1)
13. モデル授業(2)
14. モデル授業(3)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験70%、提出物20%、模擬授業10% 「

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定箇所を読んでくる。
 事後学習 学習課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する教材研究を行うとともに、実際に指導する場面を想定して学習指導案の作成などを行うことにより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、資料を配布しながら授業を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：道徳教育の変遷①～戦前
- 第3回：道徳教育の変遷②～戦後
- 第4回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第5回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第6回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
- 第7回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
- 第8回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
- 第9回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
- 第10回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第11回：道徳科における評価
- 第12回：「道徳の時間」の教材研究①
- 第13回：「道徳の時間」の教材研究②
- 第14回：シテイズンシップ教育と道徳教育
- 第15回：対話への道徳教育

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案35%
コメントシート15%
期末レポート(又は期末試験)50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に適宜説明を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブラーニングといった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 (有斐閣) 2019 田中 耕治 (著), 鶴田 清司 (著), 橋本 美保 (著), 藤村 宣之 (著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：教育と学習・理論と方法・実践
- 第3回：授業の歴史（欧米）
- 第4回：授業の歴史（日本）
- 第5回：学習の理論・協同的な学び
- 第6回：授業のデザイン・学校・家庭・社会
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：授業の過程・デザイン-実践-評価
- 第9回：情報機器・メディア活用の授業
- 第10回：「学力」について考える
- 第11回：授業の研究1・学習指導案
- 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
- 第13回：教師の専門性・専門職性
- 第14回：教材研究・教材開発
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力について論じる。11~14回は、実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
発表・レジュメ作成・・・ 20%
最終試験・課題レポート・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていきましょう

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい
○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き
○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店
○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要ト第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【夜】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業でのミニレポート 20%
定期試験 80%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の出前講演)
- 6回 特別活動の学習指導案と模擬授業について
- 7回 授業観察の方法と模擬授業の指導案について
- 8回 特別活動の模擬授業 その1
- 9回 特別活動の模擬授業 その2
- 10回 教科の模擬授業 その1
- 11回 教科の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりと学級経営案
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の出前講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全出席が原則です。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。

皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
- 2回 教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
- 4回 教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
- 5回 地域・保護者との連携に関するグループワーク
- 6回 教科の模擬授業 その1 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(中学校)
- 7回 教科の模擬授業 その2 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(高等学校)
- 8回 教科の模擬授業 その3 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 9回 教科の模擬授業 その4 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 10回 学級経営案の報告と検討
- 11回 生徒指導に関するケーススタディ(グループ討論)
- 12回 保護者理解に関するグループワーク
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に)
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物(教育実践演習ワークシート、学級経営案) 20% 平常点30% 期末レポート 50% で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

教職実践演習(中・高)【夜】

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第6回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第7回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第8回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第9回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。
- 第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史の変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。
- 第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

講義でのミニレポート・・・ 30%
最終試験・・・ 70%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 姿勢・運動の障害について
- 第8回 知的障害について
- 第9回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第10回 自閉スペクトラム症について
- 第11回 注意欠如多動症について
- 第12回 限局性学習症について
- 第13回 家族支援について
- 第14回 障害児・者への地域支援の在り方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○		

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション —教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 —初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 —中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ~少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ~家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ~学校教育
- 第7回諸外国の教育 ~青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ~家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ~孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ~メディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ~社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ~地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全